

海外の果樹産業ニュース

2020年度上期版

2020年9月

公益財団法人 中央果実協会
[JAPAN FRUIT ASSOCIATION]

本書の内容について、ご質問やお気づきの点がありましたら、
下記あてにご連絡下さるようお願いいたします。

公益財団法人 中央果実協会 情報部

〒107-0052 東京都港区赤坂 1-9-13 三会堂ビル

【電 話】 03-3586-1381（代）

【F A X】 03-5570-1852

は し が き

果樹農業を取り巻く国際化の進展に伴い、我が国の果樹産業は外国産果実及びその加工品等との競争が激化しており、一方で果実の輸出促進の努力が行われています。このような我が国の果樹産業を取り巻く環境の変化に対応して、当協会では関係機関・団体等からの海外果樹関係の情報ニーズを踏まえ、農林水産省補助事業「果樹農業生産力増強総合対策」における調査研究等事業の一環として、海外における果実及びその加工品等の生産・流通事情等に関する情報の収集・提供を行うことにより、我が国果樹産業の活性化・振興及び果実の需給・価格の安定、輸出の振興に資することとしております。

具体的には、特定のテーマを対象とした調査報告書および果樹全般についてのFAO（国連食糧農業機関）の生産統計データをもととした報告書を取りまとめて刊行するほか、海外の果樹産業を扱う雑誌、新聞、ウェブサイトから我が国果樹産業に密接に関係する記事や公表資料を翻訳し関係者に提供しています。

この度は 2020 年度上期に翻訳・提供したニュースを取りまとめ刊行することといたしました。また、本書は当協会ウェブサイトにもカラー版を掲載しています。

本書が最近の世界の果樹産業事情を理解する上で少しでもお役に立てれば幸いです。

なお、本書の翻訳責任は当協会にあることを申し添えます。

2020 年 9 月

公益財団法人 中央果実協会

理事長 村 上 秀 徳

目 次

1. 世界のキウイフルーツ市場	1
2. 英国で2万6千人以上が果物・野菜の収穫部隊に参加 ほかに	4
3. カリフォルニア州のサクランボ 出荷が早まる	5
4. オーストラリアのブドウ 今期はこれまでのところ順調	6
5. イタリアのNGOは移民労働者の滞在許可を要望 ほかに	7
6. 米国 生鮮果実の販売動向	8
7. 日本における外国人農業労働者の役割が拡大(米国大使館の見方)	11
8. フィリピン バナナの供給に懸念	14
9. 米国 日本のすべての県からのナシの輸入を解禁	15
10. 世界のアボカド市場	16
11. タイ政府 果実の輸出困難で国内販売を重視	19
12. 南アフリカ 柑橘類をめぐる状況と輸出の見通し	20
13. 米国北西部のサクランボ 課題はあるも十分な収穫を見込む	22
14. メキシコのアボカド輸出業者はコロンビアに注目	23
15. 米国北西部のサクランボ 出荷量は控えめ、輸出市場に期待	24
16. 日本 第一四半期は果実・野菜の輸入が減少	25
17. 南アフリカ産柑橘類 日本と中国へのブレイクバルク船が出発	26
18. 欧州の核果類産地は予測できないシーズンに備える	27
19. 世界のパイナップル市場	28
20. 米国農務省 農家から家庭への食料提供事業で12億ドルの契約を承認	30
21. フィリピンのバナナ輸出 日本向け等スタートは順調	31
22. ブラジル 2020-21年のオレンジ生産量は前年比25.6%減の予測	32
23. 世界のレモン市場	33
24. チリの落葉果樹事情(リンゴ、生食用ブドウ、ナシ)	35
25. ニュージーランドの落葉果樹事情(リンゴ、ナシ)	41
26. 南アフリカ グレープフルーツの輸出見通しが下方修正	45
27. 日本の果実輸入 コロナ禍を乗り切る(外国人記者の目)	46
28. 米国の青果物国内販売額 17%増で引き続き好調	47
29. フィリピン 台風で果実等30億円以上の作物被害	48
30. ベトナムの米農家 水不足のため果物や野菜に転換	48
31. メキシコのアボカド輸出額が第1四半期に3割近く急増	49
32. 米国カリフォルニア州のブドウ 昨年より出荷が早く、量が多い	49
33. 世界の核果類市場(アプリコット、ネクタリン、モモ)	50
34. トルコ 日本等アジアへの果実輸出拡大の取り組みを強化	53
35. 南半球の柑橘類輸出は12%増加の予測	53
36. ベトナム ライチの輸出検査のため日本の専門家が到着	54
37. フィリピン 世界第2位のパイナップル輸出国の地位を維持	54
38. 南アフリカの柑橘類事情(グレープフルーツ、オレンジ、ソフト柑橘類)	55
39. 南アフリカのグレープフルーツ輸出 全力でスタートの後に減速	65
40. ニュージーランド 日本向け等3月、4月のキウイ輸出が増加	66
41. オレンジが米国の果実輸出の伸びを牽引	68
42. メキシコ アボカドの輸出額が引き続き増大	69
43. コロンビア ハス・アボカドを日本に発送	69
44. 米国の果実生産見通し(柑橘類、サクランボ)	70
45. 世界の落葉果樹市場と貿易動向(リンゴ、ブドウ、ナシ)	74
46. 世界のブルーベリー市場	80
47. 南アフリカのグレープフルーツ輸出はまだ模様 日本向けは不調	83
48. 米国 COVID-19の影響(青果物輸入の減少と梱包施設の懸念)	84

49. エクアドル産バナナ COVID-19で価格が下落	85
50. ベトナム産ライチ 日本に初上陸	85
51. ブラジルの柑橘類事情(オレンジ、オレンジ果汁)	86
52. 中国 ウンシュウミカンの生産量が減少	90
53. インド 今シーズン初の日本向けマンゴーを航空便で輸出	90
54. 世界のアボカド市場	91
55. 日本の果実輸入は力強い伸び	95
56. 米国 中国産柑橘類解禁に押し戻しの動き	95
57. EUの柑橘類事情(生産動向と政策)	96
58. 日本 米国産果実の輸入検査を強化	107
59. 日本 パキスタン産マンゴーの初荷が到着	107
60. 世界の生食用ブドウ市場	108
61. 世界のサクランボ市場	111
62. 南半球から日本等アジア向けの果実輸出が記録を更新	114
63. 世界のオレンジ市場	115
64. インドネシア 日本とのEPA再交渉を望む	118
65. ブラジル産オレンジ果汁輸出 2019/20年度*は107万トン	118
66. タイ 輸入生鮮青果物の残留農薬検査ガイドラインを改訂	119
67. 世界の柑橘類事情と市場動向	120
68. 世界のバナナ市場	126
69. 米国北西部産サクランボの最終見込みは19万トン	128
70. ペルー 日本でアボカドの販売促進	128
71. 日本の今年前半の生鮮果実輸入が増加	129
72. 米国カリフォルニア州 生食用ブドウの収穫が本格化	129
73. 欧州の生産予測 リンゴはわずかに減少、ナシは2桁増加	130
74. 米国ワシントン州のリンゴ生産見通しは2019年と同程度	133
75. 米国の果実生産見通し(リンゴ、ブドウ、モモ、ナシ、クランベリー)	134
76. 世界のライム市場	137
77. チリ 生食用ブドウの栽培面積が減少	138
78. ペルーの果実輸出 アジアでの成長の地固めを目指す	139
79. トルコ 日本品種のプラムに堅調な需要	140
80. 世界のプラム市場	141
81. 米国 2020年のリンゴ生産見通しは楽観的	144
82. 南米のリンゴ生産見通し	147
83. 米国 サルモネラ菌汚染でモモの廃棄を勧告	149
84. 冷蔵コンテナ内の冷気の流れを改善してクレームを減らす	150
85. パキスタン大使 日本へのマンゴー輸入50%以上増を期待	152
86. 台湾 20年ぶりに日本へのザボン輸出を再開	152
(令和元年度3月分)	
155. コロナウイルスと闘うヨーロッパの果物・野菜貿易	153
156. コロナウイルス 中南米の輸出業者は困惑	155
157. 米国 コロナウイルスは輸出業者にボディブロー	157
158. 南アフリカ政府 干ばつのため全土に災害事態宣言	159
159. 世界のグレープフルーツ市場	160
160. 柑橘類のフラボノイドが肥満をカット	162
161. ニュージーランドの5+ A Day キャンペーン 朝食をターゲットに	163
162. ニュージーランド産キウイフルーツの輸出シーズン始まる	164
163. 世界の青果物市場 コロナウイルスの影響	165
164. 世界のオレンジ市場	170
165. オーストラリアの園芸作物 過去最高の生産額を記録	173

1. 世界のキウイフルーツ市場

FreshPlazaウェブサイト(2020年4月3日)

ヨーロッパ市場では、コロナウイルスのために柑橘類とともにキウイフルーツの需要が増大している。現時点では、イタリア産とギリシャ産がヨーロッパ市場の大部分を占めている。ギリシャ産の出荷量は今年、記録を破る可能性があり、イタリア産は生産量が少ないにもかかわらず、この手ごわい競争相手のために市場の価格が上がっていない。ギリシャ産の出荷が終わったので、需要の増大により今期末の市場価格が上がる可能性がある。北米では、学校やケータリングの需要減少により、カリフォルニア産の出荷期間が延長され、これはチリ産の輸出の妨げとなった。ニュージーランド産の初荷は現在海上輸送中であり、4月には入荷してくる。



ニュージーランド: 今期の初荷が出航

今期47隻予定されているキウイフルーツの船便輸出のうち最初の船がタウランガ港を離れ、日本に向かっている。3月末には、100万箱以上のサンゴールド・キウイが東京と神戸の市場に出荷され、その中には国内初の同品種生産地域の1つとなったギズボーン産のサンゴールド33万箱が含まれている。輸出業者には課題もあるが、日本、韓国、ヨーロッパの港湾は依然として稼働している。ゼスプリは、世界市場で約1億5千5百万箱(60万トン)のプレミアム・キウイを販売できると予測している。最新の推計では、今期はサンゴールド8千万箱とグリーンキウイ7千万箱を見込んでいる。ゼスプリは47隻の船で18,500コンテナのキウイフルーツを出荷する予定だ。そのうち4隻がヨーロッパ向け、11隻が地中海地域向け、32隻がアジア市場向けである。

オーストラリア: 昨シーズンは出荷量が減少

ホートイノベーション社の園芸統計ハンドブックの最新のデータによると、2019年6月までの1年間では、前年に比べて生産量が26%減の7,134トン、生産額が28%減の1,900万豪ドルであった。輸出は36%減の660トンで、ニュージーランド産が中心の輸入は増加した。

オランダ: キウイフルーツはスーパーで最も売れている果物

ビタミンCの多い果物の需要が増加しており、これにはキウイフルーツが含まれている。実際、オランダ最大の小売業者であるアルバートハインは、長年首位であったバナナを抑えてキウイフルーツが突然ベストセラ

一の果物になったと伝えた。同社の幹部は、これはおそらくビタミンC含有量が高いためだと述べている。これから販売が始まるニュージーランド産キウイフルーツにとっては良いニュースだ。

ベルギー: 最初のサンゴールドは4月20日の週に

ゼスプリは、5月4日の週までグリーンキウイの一定量の在庫があると見込んでいる。最初のサンゴールド・キウイは、4月20日の週にニュージーランドから到着する。ゼスプリはベネルクス(ベルギー、オランダ、ルクセンブルグ)の市場の状況が昨年と同様に好調であると見ている。COVID-19のため課題はあるが、需要は安定している。衛生上の懸念から事前梱包された商品の需要が多く、梱包施設では作業員が一定の距離を空けるソーシャル・ディスタンスの予防ガイドラインへの対応と合わせて、事前梱包への対応を迫られた。

ドイツ: 南半球産に切り替わる前の不確実性

ドイツは、伝統的にイタリア産キウイフルーツの最大の輸入国の一つであり、またドイツの卸売市場ではギリシャ、フランス等他のヨーロッパ産は少なく、イタリア産が大きな割合を占めている。南半球への切り替えが起ころにはしばらく時間がかかる。今週、最初のニュージーランド産キウイフルーツがヨーロッパに向かってしていると報じられた。コロナウイルスの影響を受けているこの時期にヨーロッパにどれだけ輸出できるか、4週間後に明確な答えが出るだろう。

フランス: キウイフルーツの需要が多い

健康的な食品としての評判のため、最近のフランス市場でのキウイフルーツの売り上げは非常に好調だ。残念ながら、フランス産の出荷時期はほぼ終わり、残された在庫は少ない。市場はまもなく輸入物に切り替わる。

イタリア: 2つの難敵はギリシャとコロナウイルス

2019/20年度のイタリア産キウイフルーツは、収穫量が少なかったことから高値への期待で始まった。しかし、生産コストを削減しながら、品質の面で毎年改善しているギリシャが立ちふさがった。COVID-19も市場に影響を与え、高値への期待を取り去った。価格は概して安定している。

イタリア産キウイフルーツを世界中に販売している主要業者の話

キウイフルーツの状況は、3月には完全に昨年と異なるものに変化した。国内外の需要がいずれもかなり上昇している。ギリシャ産キウイフルーツの出荷はほぼ終わり、国内産の在庫は8万トン(昨シーズンより37%少ない)を下回っている。したがって、イタリア産の出荷期間は短くなるが、今期の最初の4ヶ月に比べて最後は価格が上昇すると見ている。現在チリで収穫が進んでおり、5月上旬には最初の黄色系のキウイフルーツがチリから到着する見込みだが、品質と量に関しては以前の予測と変わらない。

全国生産者協同組合の話

今シーズンは、ヘイワードグリーンキウイが30%少ない出荷量と最適な品質で始まった。市場はこれにポジティブに反応する(値が上がる)と思ったが、ギリシャ産がこれほど競争力を有しているとは2月中旬まで気が付かなかった。今年は、ギリシャ産キウイフルーツのサイズが主に中〜大玉だったので、イタリア産は小玉の価格がよかった。今はギリシャ産の入荷が終わったので、コロナウイルス、特に輸送面での対応に当たっている。今後、市場での競争が激化すると予想しており、特にイランに注目している。

スペイン: シーズンは早く終了 小売用の小玉が不足

キウイフルーツは現在、市場で最も需要のある品目の一つだ。ビタミンCが豊富で、日持ちがよいという消費者が今求めている2つの特徴を兼ね備えているため、売り上げが急増した。スペイン産の出荷終了は、最初のチリ産が入荷する約20日前と、通常より早くなりそうだ。収量は20%少なく、大玉が多い。小売業者が透明な小売りパックに詰める小さいサイズが不足しているため、小売業者は通常の1箱42玉の代わりに33玉という大きなサイズを詰めている。

ギリシャ: 今期のキウイフルーツ輸出は記録更新か

今年のキウイフルーツ輸出は史上最高となる可能性がある。3月20日時点の輸出量は、昨年同時期の111,210トンに対し、約149,019トンに達した。ギリシャ産キウイフルーツは今期、生産量が増加しただけでなく、生産額も増加した。

チリ: カリフォルニア産の出荷延長が輸出の妨げ

チリでは、ヘイワード、ゴールドデン、グリーンキウイフルーツなどの様々な品種が栽培されている。緑色系のキウイフルーツは3月から6月まで出荷され、4月の出荷量が一番多い。果実は世界中に輸出されている。重要な市場は米国だが、コロナウイルスによる需要の減少のためカリフォルニア産の出荷が長引いているので、米国向けの出荷は少なくなっている。カリフォルニア産の出荷は4月下旬頃に終了する見込みだ。

米国: 学校やケータリングの閉鎖による需要の減少

現時点では、米国のキウイフルーツ市場はカリフォルニア産が独占している。ある業者は「ニュージーランドとチリから輸入しているが、これは主に夏の間だ。取引先の業者は、欧州の在庫量を考えると、品不足が起きるかもしれないと言っているが、米国内の供給があるので影響はほとんどない」と言う。米国市場の課題は主に需要にある。ケータリング業界、学校、クルーズ船からの需要がコロナウイルスのために失速した。前出の業者は、現在の市場の状況により米国向けの出荷の遅れや減少が起きるかもしれない、またチリ産の収穫量が昨シーズンよりも15%少ないと予想していると言う。

欧州でも収量が少なく、コロナウイルスによって物流が減速している。価格は上昇すると予想されていたが、需要の落ち込みにより上昇していない。カリフォルニア産の来年の収穫量は5~10%少なくなると予想されている。カリフォルニア産の収穫終了の前に、黄色系と赤色系の2つの新しい品種が収穫されており、これらの品種がキウイフルーツの需要を高めることが期待される。

中国: 5月までは国内産、その後はニュージーランドからの輸入

中国の2019/20年産キウイフルーツの出荷は終わりに近づいている。今期最後の国産キウイフルーツは5月に出荷され、次期の早生品種は8月に入荷する。その間はニュージーランドからの輸入が多い。ニュージーランド産の今シーズンは始まったばかりで、最初の発注は4月にも行われると見られる。チリからの輸入もある。

2. 英国で2万6千人以上が果物・野菜の収穫部隊に参加 ほか

FreshPlazaウェブサイト(2020年4月7日)

以下は、4月7日付FreshPlazaウェブサイト「今日の青果物関係COVID-19重要ニュース」からの抜粋です。

ドイツ：収穫のための季節労働者を運ぶ特別便を運航

ルフトハンザグループ傘下の航空会社ユーロウィングスは、ドイツ農民協会と連携して何万人もの収穫労働者をドイツに運ぼうとしている。緊急に必要な季節労働者をできるだけ早く現場に連れて行くために、特別に設置された収穫労働者向けウェブサイトの運用を開始しており、ドイツのデュッセルドルフからルーマニアのブカレストへ往復する最初の特別便は、今週中にも飛び立つ予定だ。

この目的は、非常に困難な状況にあるドイツの農家に可能な限り最善の援助を提供することと、果物や野菜の供給のボトルネックを解消することだ。

米国：青果物業者は国境検査官がCOVIDを広めることを懸念

アリゾナ州ノガレスを通じてメキシコから果物や野菜を運び込むことは、数十億ドルの価値がある産業だ。業界のリーダー達は、新しい検査要件が、農産物を通じてではなく、人々を通じてCOVIDを広めるリスクを高めるかもしれないと懸念している。出荷業者は、ウイルスの脅威が沈静化するまで、健康と安全に関係しない検査は中断してほしいと望んでいる。

英国：26,000人以上が果物や野菜を収穫する農作業部隊に参加

コロナウイルスによる旅行凍結のため英国に来られない外国人労働者の不足を埋めるため、多くの人々が農場での収穫作業に応募した。果物や野菜が腐ってしまう前に収穫するのに十分な労働者を確保することで「国民を食わせる助けになろう」という呼びかけに、26,000人以上が応えた。

十分な労働力を緊急に集めるために協力した3つの労働者派遣会社は、「非常に大きな反応に圧倒された。一部の希望者は断らなければならなかった。」としている。

ドイツ：4万人の季節労働者を規制から除外

ホルスト・ゼーホーファー連邦内務大臣とジュリア・クレックナー連邦農業大臣は、4月と5月の2か月間に4万人の外国人季節労働者を、コロナウイルス蔓延による入国制限から除外することに合意した。これは、ドイツの多くの企業が国外からの収穫ヘルパーに依存しているため、果物や野菜の生産分野で働く季節労働者の入国制限を免除することを目的としている。

ドイツ内務省のウェブサイトは、5月末までに農業分野で約10万人の季節労働者が必要だが、今年の初めから入国制限の導入までにドイツに入国した労働者は約2万人であるとしている。

香港：地元の農業生産者にブーム到来

コロナウイルスが火をつけスーパーマーケットの棚を空にしたパニック買いの後、生鮮食品をほぼ完全に輸入に依存しているこの都市の住民は地元の生産者に目を向けている。

COVID-19による各国の都市封鎖と国境制限が世界的なサプライチェーンを脅かしているが、香港の衰退する農業コミュニティにとって、このパンデミックは突然のビジネスブームを引き起こしている。香港北東部郊外のマボポ・コミュニティファームの週2回の市場では、2月に COVID-19が公衆衛生上の大きな問題になって以来、売り上げが倍増した。

地元の農産物の販売促進によって市内の農民を支援するグループの主宰者は、香港で何が生産できるのか、パンデミックが多くの人々に再考を促したと述べた。

3. カリフォルニア州のサクランボ 出荷が早まる

ASIAFRUIT電子版(2020年4月7日)

業界関係者は、2020年は約6百万～7百万箱と中程度の出荷量を見込んでいる。



カリフォルニア州のサクランボの生産者は、2020年の収穫シーズンが近づくにつれて、息を押し殺してその時を待っている。

昨年、州史上最大と思われる1千万箱(8.2kg/箱)をはるかに超える最高品質のサクランボは、5月中旬の雨と雹を伴う嵐の連続によって突然壊滅した。雲がようやく晴れた時、木々に残った果物は品質と日持ちが悪く、業界関係者はもう一年心を痛める季節を過ごすこととなった。

サンホアキン・バレー地域でなんらかの春の果物を栽培することは常にギャンブルだ。しかし、2010年代の最初の数年間、カリフォルニア州のサクランボ生産はかなり順調で、2010年から2013年の間には毎年平均770万箱を出荷した。しかし、2010年代の残りの期間、状況は全く違った。2017年の記録的な960万箱を除いて、残りの年の平均はわずか470万箱であった。カリフォルニア州の不安定な天候による干ばつと洪水が組み合わさって、定期的に被害をもたらした。

2020年はこれまで天候がよく、約6百万～7百万箱の中程度の収穫量が見込まれる。カリフォルニア州のセントラルバレーでは、11月と12月に比較的気温が低い日が多く、サクランボの果樹園を早期に休眠させるために十分な低温時間があつた。1月と2月は非常に乾燥したが、冬の期間を通じてみれば土壌に水分を与えるのに十分な雨が降った。いずれにしても、冬の半ばが比較的暖かかったことから、2020年のカリフォルニア州のサクランボの出荷は早まった。

同州最大のサクランボの生産・出荷業者のひとつであるプリマベラ・マーケティング社のマーク・カルダー氏は、「おそらく4月19日の週には収穫が始まるだろう。しかし、我々は今シーズンの端緒を開くだけだ。今年の収穫量はそれほど多くないようなので、収穫は長くても6月の第1週までだろう。北部の巨人達に道をあける必要があるのでそれで十分だ。」という。氏は、今年やはり生育が早い北西部(ワシントン州等)のサクランボのことを言っている。

ステミルト生産者組合のデブ・マーティン氏は3月下旬に、「カリフォルニアのサクランボはほとんどが5月に販売されるだろう。今年の収穫量は中程度で約7百万箱程度だろう。」と予測していた。

もし春の間よい天気が続いたとしても、カリフォルニアの果樹業界にはコロナウイルス(COVID-19)という雲がかかっている。パンデミックの発生以来、通常は高級品の販売先として業界が頼りにしている主要なアジア市場のほとんどが閉鎖した。「最大の懸念は、果物を販売する市場と、その市場に果物を飛ばすのに十分な航空便があるかどうかだ。ウイルスの流行により状況は毎週変化している。」とマーティン氏は言う。

4. オーストラリアのブドウ 今期はこれまでのところ順調

FreshPlazaウェブサイト(2020年4月8日)

オーストラリアの今期のブドウの出荷は、昨年10月に通常より数週間遅れて始まった。クイーンズランド州と北西部が12月まで出荷し、1月中旬以降他の地域がこれに続いた。

オーストラリア生食用ブドウ協会(ATGA)のジェフ・スコット最高経営責任者(CEO)は、「今シーズンはこれまでのところ順調だ。途中でいろいろあったが、それはどの業界でも同じだ」と説明する。以下、同CEOの話。



現在は天候の影響で出荷が2〜3週間遅れている。昼の気温が高く夜の気温が低いことが望ましいが、昼夜ともに気温が高く、これは普通ではない。

COVID-19 が中国を襲った旧正月の前後の輸出に関してはかなり運がよかった。というのは、我々の出荷が2週間遅れていたため、通常なら荷を積むはずだった航空便や船便をいくつか逃し、結果として旧正月前後の中国への出荷を避けることとなった。

現在は航空貨物、船便ともに順調に動いており、多くの国でオーストラリア産果実の需要がある。しかし明日には大きく変わるかも知れず、何が起こるか予想できない。今の状況は総じていえば問題なく、特によいわけではないが、懸念された悪いケースよりはうまくいっている。

オーストラリアの貿易大臣は、航空貨物市場を再開するために懸命に取り組んでおり、追加のチャーター便が手配されているが、海産物や冷凍肉など高い運賃を払える他の品目と競争することは難しい。ただし、この時期に輸出するブドウの大部分は海上輸送だ。

我々の最大の市場は中国だが、日本、韓国、フィリピン、タイ、シンガポール、マレーシア、台湾、香港など、出荷先を非常にうまく多様化しており、これは業界にとって大きなプラスとなっている。これらの市場はそれぞれ異なるタイミングと方法でコロナウイルスに対処しているが、我々は幸運にもこれまでのところ大きな影響を受けていない。

国内市場には需要を満たすのに十分な果物があるので、パニック買いの必要はない。ブドウは今が盛期だが、国内市場も特に目立ったことはなく、通常どおりだ。



収穫シーズンの前には労働力の確保に懸念があったが、オーストラリア政府が周辺の島国から来る季節労働者のビザの扱い等に変更を加えたので大いに助かった。

オーストラリアドルが先週下落したが、これは輸出にとってプラスである。果実業界に関係のない白物家電や車は多く輸入しているが、出荷箱やその他業界で必要な資材は国内でかなり自給している。

今は、国内や輸出市場で大きな変化が無く、今シーズンを乗り切ることができるように祈るばかりだ。これまでのところは運に恵まれている。

5. イタリアのNGOは移民労働者の滞在許可を要望 ほか

FreshPlazaウェブサイト(2020年4月9日)

以下は、4月7日付FreshPlazaウェブサイト「今日の青果物関係COVID-19重要ニュース」からの抜粋です。

ドイツがルーマニア人農場労働者を引き寄せる

ルーマニアのヴェラ内相は4月4日、コロナウイルスパンデミックの懸念はあるが、収穫作業のための季節労働者がドイツに直接飛ぶことを許可すると発表した。ドイツからの呼び込みはこれを受けて行われた。

ドイツの農業部門では、2020年の収穫には約30万人の季節労働者が必要だとされている。しかし、ドイツ政府は最近まで、ほとんどの外国人労働者の入国を禁止していたため、農家は既にドイツにいる人々を雇って人手不足を埋めようとしていた。食品農業省は民間と協力し、農家が労働者を募集するためのオンラインプラットフォームを構築した。

オーストラリア政府はスーパーマーケットを支援

オーストラリア政府は、COVID-19危機の間も輸入青果物の国境クリアランスを迅速に行うためにスーパーマーケットやその取引業者と協力している。農業・水・環境省は、厳格なバイオセキュリティと輸入食品規制から逸脱することなく、重要な物資を迅速にクリアできるように、輸入品の評価、登録、検査に専念する職員を配置している。この仕組みは、オーストラリア政府のスーパーマーケット・タスクフォースの一環として、大手小売業者との緊密な協議を通じて開発された。

イタリアのNGOは移民労働者の滞在許可を要望

イタリアの移民権利キャンペーン「私は外国人だった」に属する多数の市長や多くの組織は、ラモルゲーゼ内相とカタルフォ労働大臣に対し、イタリアで働いているすべての外国人に滞在許可証を発行するよう求めている。彼らは、賄賂や反社会的勢力の関りや搾取なしに、収穫作業に必要な農業労働者を確保するためだとしており、農業部門および介護サービス等その他の分野での労働契約を条件に政府が滞在許可証を発行することによって、すでにイタリアにいる非EU外国人を合法化することを望んでいる。

アルゼンチンの輸出は打撃を受ける

国連は、アルゼンチンなどの主要輸出国が農産物を販売することがますます困難になっているため、コロナウイルスのパンデミックによる食糧不足が差し迫っていると警告している。アルゼンチンは豊富な土地で、穀物、野菜、肉、果物、その他の食料を生産している。しかし、その輸出産業は、ウイルスによって引き起こされた世界的なロックダウンによって大きな影響を受けており、国連は世界的な輸出制限につながる可能性があるとしている。アルゼンチンの農産物輸出は、主要な貿易相手国である中国で新型コロナウイルスが広がり始めた1月に落ち込み始めた。

ロサンゼルス港の第1四半期の取扱い数量は18.5%減少

ロサンゼルス港の3月のコンテナ取扱量は449,568TEU(20フィートコンテナ換算台数)で、昨年に比べて30.9%減少した。これは、ひと月のコンテナ取扱量として2009年2月以来の最低であった。2020年第1四半期の数量は、2019年と比較して18.5%減少した。

ロサンゼルス港の幹部は、「米中貿易戦争とCOVID-19パンデミックという二つの深刻なショックがあった。この先数ヶ月の見通しは不透明だ。」と述べた。一方、港湾管理者は、関係者が安全で清潔な職場環境を維持できるよう、ターミナル事業者、港湾労働組合、その他の関係者と定期的に連絡を取っている。

6. 米国 生鮮果実の販売動向

FreshPlazaウェブサイト(2020年4月14日)

The Packer 電子版(2020年4月14日)

売上高は急増鎮静化の後やや反発 (訳注: 記事中、野菜に関する記述等一部省略しています。)

COVID-19騒ぎの中、4月5日までの1週間の青果物の小売り売上高は、引き続き生鮮、冷凍、保存食品で動向が分かれた。

民間の調査会社である210アナリティクス社、IRI社と青果物販売協会(PMA)は連携して、パンデミックの期間中の青果物の売上高と販売量を調査した。

- 生鮮青果物売上高は、2019年の同じ週に比べて14.2%増加した。
- 冷凍青果物は47.4%増加
- 青果物の保存食品は48.1%増加

(出典: IRI, Total US, MULO 2020年4月5日までの1週間)

生鮮青果物

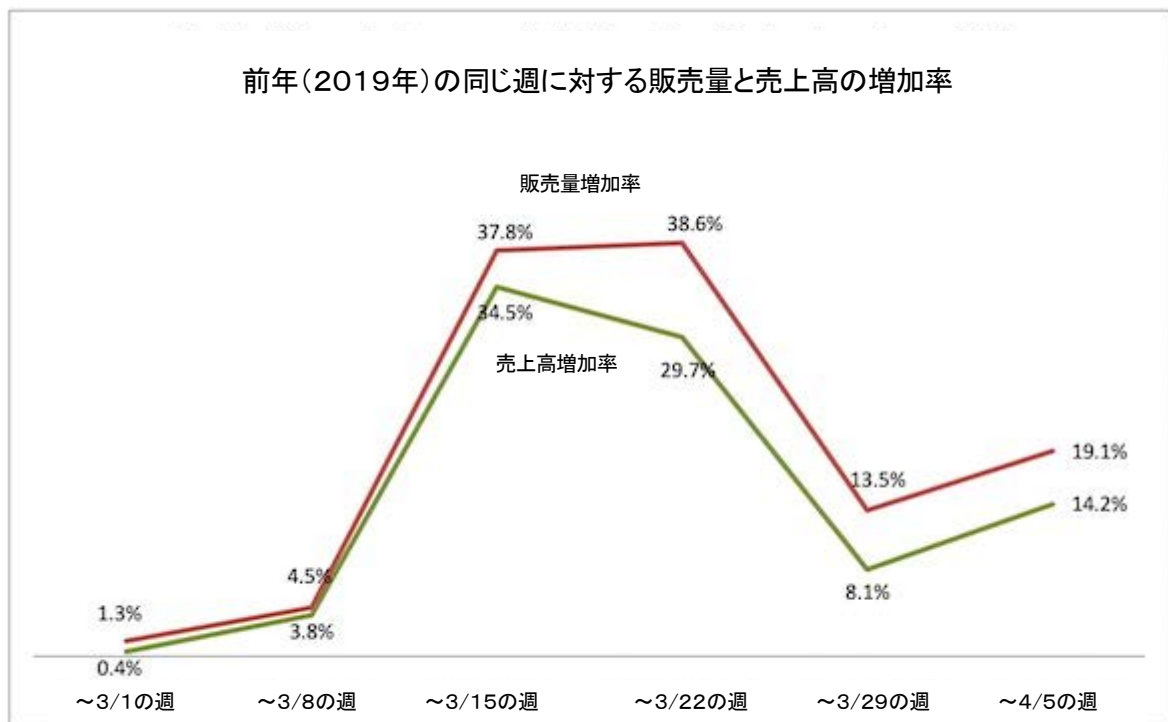
生鮮果実の売上高は、3月15日までの週と3月22日までの週に対前年比で大きく増加した。その後の2週間は、特に生鮮野菜の売り上げが伸び続けた(下図)。2019年の同じ週と比較して、生鮮青果物の売上高は1億7千万ドル増加し、そのうち1億2,900万ドルは野菜によるものだった。



出典: IRI, Total U.S., MULO, 対前年同週比増加率%

米国におけるコロナウイルス蔓延の当初には、青果物全体の売上高と販売量の増加は、それぞれ0.4%と1.3%で大きく違わなかった(下図)。3月22日までの週から、販売量の増加は売上高の増加を大きく上回り、一部の地域での小売価格のデフレ傾向を示唆した。4月5日までの週の販売量の増加率は、売上高の増加率を5ポイント近く上回った。

このギャップは野菜で大きく、最後の2週間で特に大きかった。4月5日までの1週間の野菜の販売量の増加率は、売上高の増加率よりも10ポイント以上高かった。



出典: IRI, Total U.S., MULO, 対前年同週比増加率%

前年の対応する週に対する増加率

	~3/1	~3/8	~3/15	~3/22	~3/29	~4/5
野菜合計						
売上高	1.4%	5.0%	40.9%	39.2%	15.2%	21.4%
販売量	0.0%	5.5%	46.7%	56.9%	25.8%	31.8%
果実合計						
売上高	-0.7%	2.6%	28.4%	21.1%	1.5%	7.4%
販売量	2.6%	3.9%	29.7%	23.3%	3.6%	8.5%

出典: IRI, Total U.S., MULO, 対前年同週比増加率%

生鮮果実

生鮮果実の売上額の対前年増加率は、前の週から反発して7.4%であった。アボカド(+900万ドル、+19.6%)、バナナ(+650万ドル、+10.4%)およびレモン(+600万ドル、+42.2%)の増加が大きく、その他ベリー類、リンゴ、バナナの伸びが大きかった。

生鮮野菜

生鮮野菜ではジャガイモが66.9%と極めて大きな増加を示した。その他、タマネギ、ニンジン、キノコ類が大きく増加した。

青果物の保存食品

冷凍野菜及び野菜缶詰の売上高は、3月前半のコロナウイルス騒ぎの当初から現在まで対前年増加率が大きく、販売を牽引している。

販売量は引き続き多いが価格は伴わず（訳注：図は前2ページと同じなので省略しています。）

生鮮青果物の売上に関する米国の民間調査会社（IRI社および210Analytics社）の最新データは、販売金額と販売量の間のギャップを示している。

ハイライト

- 生鮮青果物は、再び2019年の同じ週を大きく上回る売上げを示した。
- COVID-19の拡散を阻止するための措置およびウイルスへの対応によって引き起こされる問題が販売を妨げる可能性がある。これには、在庫切れ、店舗営業時間の短縮、店舗の入店人数の制限、サービス部門の閉鎖などが含まれる。
- 引き続き販売量と販売金額の動向に差が見られ、一部の地域でのデフレーションを示している。

コロナウイルス危機が2ヶ月めに入中、生鮮青果物の売り上げは依然として昨年の同時期よりも著しく高いままだ。IRI社によると、4月5日までの1週間の売上高は、2019年の同週より14.2%増加した。3月29日までの1週間の売上高は8.1%増であった。3月22日までの1週間には前年比29.7%、3月15日までの1週間には同34.5%跳ね上がったのに比べて、ここ2週間はある程度需要の正常化を示している。

同社の幹部は、「4月の最初の週の売り上げが高いのは、復活祭の前であることと、日々の需要の高まりがこれまでの正常値をはるかに上回る新しいベースラインの形成を推進しているためである可能性が高い。また、販売結果を見る際には、多くの店舗での営業時間の短縮、サービス部門の閉鎖、買い物客の入店人数制限、人気商品の購入制限や在庫切れが続いているといった背景を考慮する必要がある。さらに、3月の全米大学バスケットボール・トーナメントから復活祭のお祝いまで、キャンセルされたイベントの効果も考慮する必要がある。」と述べている。

210アナリティクス社の幹部は、売上高と販売量の増加率の違いは一部の地域でのデフレを示唆していると指摘した。この食い違いは、生鮮野菜で最も顕著で、4月5日までの週の販売量が前年比31.8%増、売上高が21.4%増であった。生鮮果実では販売量は8.5%増、売上高は7.4%増だった。

コロナウイルスの拡散を遅らせる措置によって大きな打撃を受けたフードサービス部門の需要の枯渇は、多くの品目の価格を圧迫している。一方、需要全体の増加により、野菜は果物よりも多くの恩恵を受けている。

IRI社の生鮮チームのリーダーは、「消費者の現在の食品購買パターンに対応する一方で、生鮮果実の需要を生み出すことは非常に重要だ。果物は通常、目を引くディスプレイや衝動買いを誘発するような販売方法の恩恵を受けているが、先行指標は来店者の減少とオンライン注文の増加を示している。小売業者がビタミンCを前面に出してオレンジを販売したり、消費者の安心と買い物のスピードアップ化のために袋詰め商品を増やしたりしていることに勇気づけられる。保健当局は生鮮青果物が（ウイルスに汚染されることはなく）消費者にとって安全であることを保証しているが、小売業はこの認識を現実のものとする現場で対処している。」と語った。

青果物販売協会（PMA）のジョイ・オブ・フレッシュ キャンペーンは、消費者に生鮮果実や野菜の安全性を重ねて保証するとともに、消費者が一般的な食品安全のために常に行うべき習慣について知らせるよう仕組みられている。

7. 日本における外国人農業労働者の役割が拡大(米国大使館の見方)

米国農務省GAINレポート(2020年4月15日)

これは、米国農務省海外情報局東京事務所(在京米国大使館内)が作成した報告書です。野菜関係の図は省略しました。

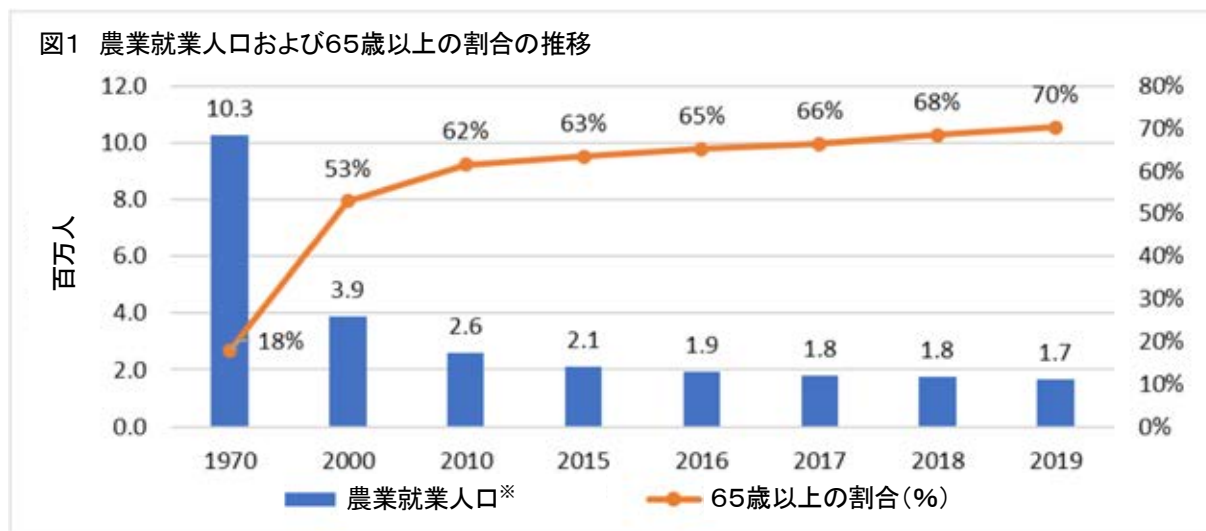
要旨

農業労働力が数十年にわたり減少を続ける中、日本の農業者は外国人を含む外部の労働力をますます求めている。過去10年間で、農業就業人口に占める外国人労働者の割合は0.5%から2%と4倍に増加した。これらの労働者のほとんどは、5年間に制限されている技能実習制度を通じて職を得ている。最近、新たな在留資格制度が設けられたが、使い勝手が悪く利用が進んでいない。外国人労働者が農業労働力全体に占めるシェアは依然として比較的小さいが、COVID-19による渡航制限により多くの外国人労働者が入国できなかったことで、依存度が高まっていることが明らかとなった。

農業は人口動態的な課題に直面している

少子化と長寿命の結果、日本の総人口は年々減少し、高齢化してきている。2019年の総人口は前年から27万6千人(0.2%)減少し、1億2,620万人となった。これは9年連続の減少であった。日本人の数が48万7千人減少した一方、外国人居住者数が21万1千人増加して244万人となった。65歳以上の人の割合は28.4%に達し、史上最高を記録した。

同様の傾向は、都市化により就業人口が急激に減少している農業部門でも見られる。1970年以降、日本の農業人口は80%以上減少し、同年の1,030万人から2019年には170万人に減少した。一方、高齢の農業者の割合は着実に増加している。1970年には農業従事者のうち65歳以上は18%であったが、2019年には70パーセントに達した(図1)。



※農業就業人口とは、農家世帯員のうち、農業のみに従事した者または農業以外の仕事にも従事するが、農業に従事する日数が前年よりも(訳注:正しくは「他の仕事よりも」)多い者をいう。これには、農業での恒久的または一時的な雇用労働者は含まない。2019年には、契約期間が7ヶ月以上の雇用労働者は236,100人であった。

出典: 農林水産省

こうした人口動態的な課題にもかかわらず、農業生産は比較的安定している。2018年の日本の農業生産額は、その期間に農業人口が半減したにもかかわらず、2000年と同じ9.1兆円(830億ドル)と推計される(図2)。スマートテクノロジーの導入を含む生産性の向上は、農業生産効率を向上させるのに役立っている。しかし、この安定性の多くの部分は、農業就業人口データに含まれていない外国人農業労働者の増加に帰することができる。

図2 日本の農業総生産額



出典：農林水産省

外国人農業労働者への依存の増大

農林水産省によると、2018年には31,072人の外国人が農林水産業で働き、その数はわずか7年間で2倍となった。当事務所としては、農業労働力全体(雇用労働者を含む)に占める外国人労働者の割合は、10年前にはわずか0.5%であったが、2018年には約2%を占めるものと推定している。外国人労働者の雇用は、手作業が多い果物や野菜の生産で特に重要である。農林水産省は、果樹農業では千平方メートル(10アール)当たり249時間、露地野菜では190時間の労働が必要であると推計している。対照的に稲作では40時間しか必要としない。その結果、北海道、茨城、千葉など野菜を大量に生産する地域は、外国人労働者の雇用が多い傾向にある(図3 省略)。

技能実習制度

外国人農業労働者の約90%が、技能実習制度を通じて一時的に職を得ている。このプログラムは、国際協力を促進し、外国人が身に着けたスキルを自国に持ち帰ることを目的として1993年に導入された。しかし、実際には、このプログラムは日本の農業にとって安価な労働力の重要な供給元となっており、実習生の数は年々増加している(図4)。

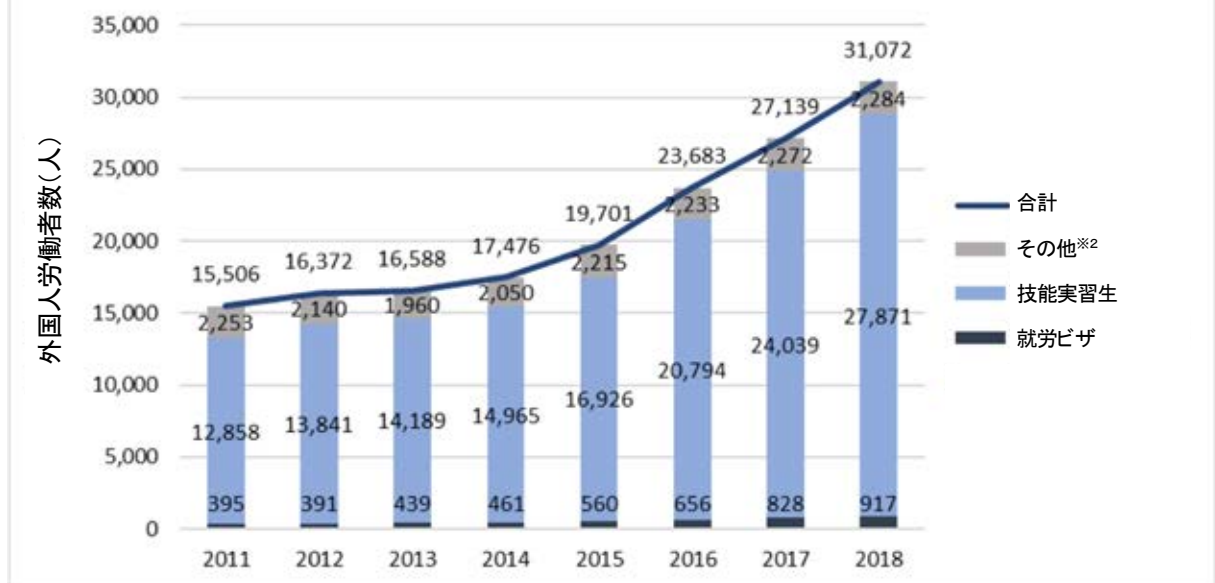
実習生は、日本に5年間まで滞在することができる。5年を超える延長は認められないが、2019年に導入された新たな在留資格制度の下で就労ビザを申請することができる。

新たな在留資格制度

2019年4月、日本政府は、14の指定産業部門の「相当程度の知識または経験」を必要とする仕事について、外国人が働くことを許可する新たな在留資格制度を導入した。食料・農業関連の分野は、「農業」、「漁業」、「飲食料品製造業」、「外食業」の4つである。農業では、一般的な耕種農業や家畜の飼育だけでなく、出荷作業などの付加的な業務に従事することが期待されている。資格を得るには、技能試験と日本語試験に合格するか、少なくとも3年間技能実習制度に参加している必要がある。これらの分野の労働者は日本に5年間まで滞在することができるが、ビザは更新できず、永住権を取得する道もない。

新たな在留資格制度の実施後、政府は5年間で34万5千人の外国人労働者を受け入れ、そのうち農業36,500人、漁業9千人、飲食料品製造業3万4千人、外食業5万3千人を受け入れる計画であった。しかし、大量の書類作成、低賃金および関連して発生する費用が障害となって、この制度の登録労働者の数は政府の期待をはるかに下回っている。2019年12月現在、食料と農業に関連する4つの分野で雇用された労働者はわずか970人であった。

図4 ビザの種類別 外国人農業労働者数※¹



※¹ 林業及び漁業で働く労働者を含まない。

※² 「その他」には永住者およびその配偶者、ワーキングホリデー等が含まれる。

出典：農林水産省

新たな労働リスクへの適応: COVID-19に対する日本の対応

4月14日、農林水産大臣は、COVID-19関連の制限により、農業分野で約1,900人、漁業分野で約300人の技能実習生が日本に入国できないと発表した。これには、中国からの1,240人、ベトナムからの280人、ミャンマーからの140人、フィリピンからの110人、インドネシアからの80人が含まれていた。当事務所としては、日本に入国できない技能実習生の数が外国人農業労働力の約6%を占めていると推計している。

外国人農業労働者の不足の可能性を受けて、日本政府は COVID-19経済刺激策の一環として生産者や加工業者の労働力対策に60億円(5,500万ドル)を計上した。この資金は、農業高校や農業大学校の学生の活用を支援し、水産加工場での雇用を促進し、スマート農業技術の利用を推進する。政府はまた、雇用された農業労働者の賃金を1時間あたり500円(\$4.60)の割合で補助することを検討している。

外国人労働者への日本の依存度は、他の先進国に比べれば依然として小さいが、COVID-19をめぐる状況の中で、特定のセクター、特に果物や野菜の生産者は、労働力の突然の不足に対する準備ができていないことが明らかになった。旅行制限の影響と政府の対応措置の有効性が適切に評価されるまでには数ヶ月かかる。しかし、長期的な人口動態は、日本の農業が生産を安定させるために外国人労働者に頼り続けることを示唆している。政府と生産者は、そこでの潜在的なリスクに適応する最善の方法を見出す必要がある。

8. フィリピン バナナの供給に懸念

ASIAFRUIT電子版(2020年4月16日)

生産者グループは、フィリピンのバナナ輸出がコロナウイルスの影響のために今年40%減少する可能性を示唆している



フィリピンのバナナ生産者は、コロナウイルスの拡散を抑制するために現在実施されているソーシャル・ディスタンスやロックダウンといった措置の結果、今年の輸出が40%近く減少する可能性があるかと懸念している。これらの措置により、通常であればバナナの収穫や輸送に従事している労働力が制限を受けている。

フィリピンはエクアドルに次いで世界第2位のバナナ輸出国であり、2019年の世界のバナナ出荷量の20%を占めたと推計される。国連食糧農業機関(FAO)が今年発表した報告書によると、フィリピンはアジアの総輸出量の約90%を占めており、主要な輸出先は中国と日本であった。

フィリピン・バナナ生産輸出協会の幹部はブルームバーグ・ニュースに対し、「ユニフルッティ・フィリピン社等一部の生産者が操業を完全に停止しており、フィリピンからのバナナ輸出は昨年の4百万トンに対して今年は約250万トンとほぼ半分に減少すると見込まれる。一部の制限が解除された後も労働者の数を制限するソーシャル・ディスタンスが維持されると予想され、輸出への影響は続くものと考えられる。」と語った。

ユニフルッティ・フィリピン社の幹部は、コロナウイルスの制限が解除され、労働者が職場に戻れるようになるまでに、多くのバナナが駄目になってしまうだろうと述べた。

同国の最も主要な島であるルソン島は3月中旬からロックダウンされており、制限は4月末まで続く見込まれる。多くのバナナ農園があるフィリピン南部の複数の州も検疫措置を課している。

同国中央政府のダル農業長官は以前、地方政府、特に多くのバナナ農場や梱包施設があるブキドノン州の政府に対し、人為的な食料品不足や価格急騰を避けるために、農場や食品加工・製造施設の従業員が職場に戻ることを許可するよう強く求めている。

ブキドノン州のロックダウンは4月13日から26日まで続く予定だが、上記協会幹部は、制限が緩和されればバナナの輸出を増やせる可能性があると考えている。

日本バナナ輸入協会の広報担当者は、日本はフィリピンからの輸入に大きく依存しているが、品不足や価格の上昇、またはフィリピンの輸出業者からの出荷削減の通知について承知していないと述べた。

9. 米国 日本のすべての県からのナシの輸入を解禁

FreshPlazaウェブサイト(2020年4月17日)

米国農務省(USDA)は、日本からの生鮮ナシの輸入を許可する。

同省の動植物検疫局(APHIS)は、日本のすべての県からの米国への生鮮ナシの輸入を許可する。APHISの科学者たちは、日本のすべての生産地域(奄美諸島、小笠原諸島、琉球諸島、トカラ列島及び火山列島を除く)のナシを、現在の輸入条件の下で安全に輸入できると判断した。



現在、日本産のナシは許可された特定の生産地域からのみ輸入することができる。米国が1985年に市場アクセスを許可して以来、輸入港で検査された日本産ナシから検疫害虫は見つかっていない。APHISの専門家は、輸入評価レポートを作成し、パブリックコメントに供し、受け取ったすべてのコメントを慎重に検討した。その結果APHISは、指定された植物衛生措置を適用することにより、この品目の輸入を通じて植物害虫または有害雑草を導入または拡散するリスクを効果的に軽減できると判断した。対策には、害虫を排除するためにすべてのナシは樹上で袋掛けされること及び日本の植物検疫当局が発行した植物検疫証明書を添付することが含まれる。商業的に輸入される貨物のみが許可される。

この措置は2020年4月16日から有効となる。改訂された条件は、果物・野菜輸入条件データベースに掲載される。通知文、害虫リスト、輸入評価レポート、経済評価、及び受け取ったコメントはウェブサイトから閲覧できる。

詳細については <https://www.aphis.usda.gov/aphis/home>

10. 世界のアボカド市場

FreshPlazaウェブサイト(2020年4月17日)

アボカド・バー*はコロナウイルスのために閉店を余儀なくされたかもしれないが、アボカドの需要が減少していないことは明らかだ。北半球の出荷シーズンは終わりに近づいていて、ペルーや南アフリカなど南半球の国々からの入荷が着実に増加している。特にペルー産と南アフリカ産は、4月20日の週から5月25日の週ないしはその次の週にかけて市場で激しく競合する可能性がある。(訳注*:欧米で見られる飲食店の名称)



オランダ：アボカドの販売は順調 短期的には大玉が不足か

コロナウイルス危機は、アボカドの需要を押し上げているようだ。オランダの輸入業者は、アボカドは柑橘類や夏の果物と並んで最も人気のあるカテゴリの一つであると言う。近々ペルー産と南アフリカ産に切り替わるが、輸入業者は今のところはこれらの輸入量は少ないと言う。短期的には、大きいサイズの不足が見込まれる。シーズンの後半には状況が変わる可能性があるが、今はハスアボカドの需要が特に強い。販売価格は、サイズ14-20の場合は12~14ユーロ(4kg 当たり)、これよりも小さいサイズでは11~12ユーロの範囲だ。

ベルギー：取引は順調

現在、アボカドを含む贅沢な商品に対する大きな需要がある。価格はこの時期の通常のレベルにある。ベルギーのある業者は、アボカドの品質と外観に満足していると言う。

ドイツ：国産イチゴの出盛りのためアボカドの需要は少ない

ドイツの卸売市場でアボカドの取引は静かだ。現在は、大量に取引されているイチゴやアスパラガスなど地産の季節の品目に焦点が当たっている。カールスルーエ市のある業者によると「この時期には国産が多いので輸入果実は目立たない。最近までスペイン産のよいアボカドが残っており、顧客の間で非常に人気があったが、今はオランダの大規模輸入業者から仕入れる域外産に切り替った。輸入先は、出回り量や品質によって変わってくる。」としている。

フランス：スーパーマーケットは物流が課題

フランス政府は国民に国産の果物や野菜を買うよう求めているが、アボカドは影響を受けていない。しかしながら、この数週間で需要が変わった。現在スーパーマーケットでは消費者はパックされたアボカドを購入するようになっており、バラのものは買わなくなった。収穫や輸送のための労働者が少ないため、スーパーマーケットへの供給が懸念されている。

スペイン：需要が高いため出荷シーズンは早期に終了か

今年は総収穫量(80,000トン)が昨シーズンよりも多いにもかかわらず、すべてのサイズで驚くほど需要が高いため、スペイン産アボカドの出荷は、昨年より約15日早く終了する。コロナウイルスにもかかわらず、ケニ

ア産、メキシコ産、チリ産との強い競争に直面することが多い最小サイズでさえも、価格は高止まりしている。現時点では、1箱あたり14～15ユーロで、これは大量のペルー産アボカドがヨーロッパ市場に入荷する5月の初めまで安定的に続く予想される。

イタリア：グリーンスキニアボカドからハス種へシフト

アボカド市場に危機はない。北イタリアの大手卸売業者は、コロナウイルスにもかかわらず需要は安定していると言う。ケータリング業界は休業しており、小売業者や専門店が現在の販売チャネルである。グリーンスキニアボカドからハス種への一層のシフトが見られる。グリーンスキニアボカドは南アフリカ、ケニア、ペルーから供給され、ハス種は主にペルーとメキシコから供給されている。スペインとモロッコの出荷シーズンは終わりに近づいている。卸売価格は現在、グリーンスキニアボカドが一箱(4キロ)8～12ユーロであり、熟成済みのハス種は一箱13～20ユーロの間で変動している。

南アフリカ：今年は収穫量が多い ヨーロッパ市場ではペルーが手ごわい競争相手に

現時点では、市場へのアボカドの入荷は少ない。降雨とイースターの週末のため収穫が遅れたが、在庫は今後数週間で増加すると予想される。現地市場の平均価格は約8.23南アフリカランド(0.40ユーロ)で、先週よりも低くなっている。入荷量が増えれば、価格はさらに下がると見込まれる。

南アフリカでのロックダウンの最初の週には、ケータリング業界の閉鎖のためにアボカドの販売数量は少なくなった。民間バイヤーはまた、現在は取り下げられた法律のために、市場でアボカドを購入することができなかった。輸出業者は、英国ではグリーンスキンの需要は低い、ハス種の市場は安定していると言う。今年は収穫量が多い(30%増)ため、4月20日の週から5月25日の週末までの期間に、やはり今年の生産量が多いペルー産と激しく競合することが予想されている。

これまでも生産量の尖ったピークが見られたことがあり、2018年の記録的な収穫量に続いて2019年に40%減少した後、2020年には30%の増加が見込まれる。生産者は収穫を操作することによってこれらのピークを避けたいと思っている。今年はアボカドのサイズが小さいが、輸出業者にとっては問題ではない。ほとんどの南アフリカ産アボカドは、欧州市場と英国向けである。今後の新しい市場について、輸出業者は日本が最も有望と見ている。

メキシコ：通常よりも高価格

メキシコには、ミチョアカン州とハリスコ州の2つの主要なアボカド産地がある。ミチョアカン州のアボカドは主に米国に輸出され、生産者は継続的な供給を目指している。ハリスコ州はカナダ市場のほか日本とヨーロッパに焦点を当てている。5月には収穫量が再び増加するが、3月と4月はアボカドがあまり収穫されないため、この2ヶ月間の価格は他の月よりも高くなる。今年はコロナウイルスのために需要が増加し、価格が高くなっている。通常、この時期の価格は30%上昇するが、今年は40～45%上昇している。

コロンビア：アボカド栽培は引き続き拡大

コロンビアでは近年、アボカドの生産が拡大し続けている。多くの土地に、今後数年で生産が始まる若い木が植えられている。この国では一年のうち46～48週間アボカドを収穫することができ、9月から2月に出荷量が多く、3月から7月の出荷量が少ない。ピークは、他の国との競争がほとんどない時期に当たっている。コロンビア産アボカドの主要な輸出先はヨーロッパだが、生産量の拡大を考慮すると他の輸出先を探すことも重要になっている。

米国：カリフォルニア州は生産過剰

今年のカリフォルニア州のアボカド生産は好調に推移した。前年同期の2,300トンに対し、今年はすでに21,200トン収穫しており、通常収穫が期待される。米国のアボカド関係者は過去2週間、アボカドの過剰生産を恐れて様子を見ていたが、降雨による一時的な収穫の停止とメキシコの祝日期間中の出荷の減少により、在庫の過剰な蓄積を免れた。

需要は小売りにシフトした。これは、コロナウイルスの影響ばかりでなく、今シーズン初めに入荷量が多く需要も強かったためである。米国のアボカド市場はいつのまにか大きく変化した。まず、入荷量が急増し、その後外食産業の閉鎖とスーパーマーケットでの買いだめにより状況が根本的に変化した。今後数週間で何が

起こるかはまだ分からないが、外食産業への販売は非常に少なくなると見られる。カリフォルニアのアボカド関係者の間では、この業界で心配していない人はいないとの声が聞かれる。また、今後数週間のうちに価格がどのように動いていくかも不明だ。人々が買いだめに走ると価格は急騰したが、その後に急落し、今はやや安定しているようだ。

中国：アボカド市場は徐々に持ち直し ペルーとフィリピンから輸入

中国のアボカド市場は主に輸入が中心となっている。現在はペルーからの供給が多いが、フィリピンからの初めての輸入も始まった。現時点ではアボカドを購入する人は少ないので、アボカド市場は非常に厳しい。通常、レストランやバーで多く使用されているが、それらが閉鎖されたため、アボカドの購入量は少なくなった。その結果、売れ足が非常に鈍く、賞味期限があまり長くない商品にとっては難しい状況だ。主要都市でレストラン、バー、ビジネス活動がすべて再開されたので、アボカドの需要が徐々に増加することが期待される。

オーストラリアとニュージーランド：地元産品を販売促進

コロナウイルスによる外食産業の閉鎖のため、オーストラリア市場ではアボカドの売上げが10～20%失われた。アボカドの需要を維持するために、オーストラリアとニュージーランドでは、地元産品の購入を継続するよう促すプロモーションが開始された。オーストラリアではシェパードアボカド(グリーンスキン)から、より有名なハス種へシフトしようとしている。今年のシェパードの収穫期間は昨年よりもやや短かった。そのような中、オーストラリアのある企業はViaviブランドの下、3月から4月まで出回るアボカドの販売で売上げ増加を目論んでいる。

2018/19年には、アボカドの生産量は11%増加して85,546トンとなったが、出荷額は4億4,400万豪ドル(2億5,720万ユーロ)と18%減少した。輸出は3,202トンで79%もの増加となった。ニュージーランドでは、3,795ヘクタールで31,424トンのアボカドが収穫され、220万箱は国内市場へ、290万箱は輸出に仕向けられた。

(関連記事)

メキシコのアボカドの輸出先トップ10

FreshPlazaウェブサイト(2020年4月17日)

メキシコは、世界のアボカド輸出量のほぼ半分を占める世界最大のアボカド輸出国である。2019年の輸出額は前年比13.5%増で、史上最高の31億4千万ドルに達した。

経済省のデータによると、米国、カナダ、日本が、2019年のメキシコのアボカド輸出先トップ10の上位に並ぶ。米国は、シェア76.9%、輸出額23億8800万ドルでメキシコの輸出業者にとって引き続き重要な市場である。カナダへの輸出額は2億2,500万ドル、日本へは1億8100万ドルであった。

スペインは7,100万ドルで4番めの輸出市場にランクされた。次いでオランダが6,500万ドル、フランスが4,100万ドルであった。

ホンジュラスは2,300万ドルで7番めに大きなアボカド輸出先であった。これに次いで中国とエルサルバドルがそれぞれ1,900万ドルで並び、最後にイギリスが1,700万ドルで10位にランクされた。

ペルー、チリ、メキシコ、コロンビア、ブラジル、ドミニカ共和国からの輸出により、ラテンアメリカ全体としても、EUへのアボカドの供給に重要な役割を果たしている。

アボカドの健康上の利点、特に健康的な脂肪の含有量の高さと、その風味の良さから、中国と日本を中心に輸入市場での需要が急速に拡大している。

11. タイ政府 果実の輸出困難で国内販売を重視

首都圏を走り回る移動果物店を支援

FreshPlazaウェブサイト(2020年4月20日)

タイ商務省は最近、収穫シーズンの豊富な果物を売りさばくことを目的に、ピックアップトラックによる移動店舗を支援し安価販売を行うトンプァー*果物店事業を導入するための入札を行った。

(訳注: タイ政府が支援する低所得者向けの安価な食堂がトンプァー・レストラン(青旗食堂)と呼ばれている。)

ジュリン商務大臣は、タラアド・タイ卸売市場と提携し、バンコク首都圏の路地や住宅街で果物を売り歩く移動式果物店事業が、350の移動店舗が参加して開始されると述べた。移動店舗では、果物のほか野菜や日用品を販売する。

タラアド・タイ卸売市場では、毎日約500の移動店舗が新鮮な食品、果物、食料品を仕入れている。これらの移動店舗は、バンコク郊外及びパトンターニー、サムットプラカン、ノンタブリなど近郊の人々に商品を販売している。



同市場の運営会社であるタイ・アグロ・エクスチェンジ社の役員は、「パンデミックのため家にいる人が増えるにつれて、生鮮食品の需要が急増したことに対応するため、移動店舗を運営する人を失業者や一般市民から募集している。移動店舗を増やすことは、自宅で調理する人の増加に対応するだけでなく、この困難な時期に失業者を支援し、農家や消費者を支援することになる。」と述べた。

スーパーマーケットが果物の販売を引き受け

FreshPlazaウェブサイト(2020年4月21日)

タイ政府は、この収穫期に、7億6,200万バーツ(2,130万ユーロ)相当の果物合計16,700トン、5つの近代的な事業者*を介して販売する計画だ。(訳注: タイの小売業は、スーパーマーケット等の近代的な事業者と家族経営による伝統的な形態に大別される。)

ジュリン商務大臣は、ビッグC、テスコロータス、ザモール、マクロ及びトップスマーケットの各社が、今後3〜4ヶ月の間に収穫される果物の流通チャネルとして機能する旨の同省との覚書に、3月9日に署名したと述べた。

覚書の下で参加する近代的事業者は、チェンマイ、ランブーン、ナン、スコタイ、トラット、チャンタブリの各地域の生産者、生産者組織、地元企業と9つの果物(タンジェリン、ロンガン、ライチ、ランブータン、ドリアン、マンゴスティン、ロンコン、ザラッカ、パイナップル)に関する40件の購入契約を結んだ。

ジュリアン大臣は、「パンデミック発生のため、今年の果実管理計画は緊急に調整が必要だ。昨年度は生産量の60%を輸出した。今年は、輸出の減少を相殺するために、国内市場のオンラインおよびオフラインの販売にもっと焦点を当てる必要がある。当省の地方の担当者は、できるだけ多くの果物を販売する任務を負っている。」と述べた。

この計画の下で政府は、農場労働者や果実の収穫作業には移動制限をある程度緩和し、公正な販売競争を確保するために物品・役務価格法を行使し、契約栽培及び生産者、加工業者、販売業者、スーパーマーケット間の連携を促進するとしている。

12. 南アフリカ 柑橘類をめぐる状況と輸出の見通し

世界的な需要の増加は良好な輸出シーズンの前兆

FreshPlazaウェブサイト(2020年4月20日)

南アフリカ柑橘類生産者協会(CGA)は2020年の輸出シーズンに向けて、以下のとおりチャドウィック会長の声明を発表した。

「南アフリカが全国的なロックダウンの第4週に入中、柑橘類産業は、労働者の健康を守りながら、消費者に新鮮な柑橘類を届けることに引き続き努めている。

この点に関しては、幸いなことに海外市場のレモンの需要が増加し、これまでに2019年の同時期(180万箱)の2倍に当たる450万箱が出荷された。この大部分(64%)は中東に出荷され、ロシア向けのシェアは9%から12%に増加した。ソフト柑橘(現在までに42万4千箱)とグレープフルーツ(同41万1千箱)の出荷量は、これまでのところ前年と同様である。



しかし、我々は、この前例のない事態が事業の継続性を脅かす可能性があることを認識し、柑橘類生産者協会COVID-19対策委員会(CRC)を設立した。委員会は、パンデミックと国全体のロックダウンから生じるリスクと機会を特定し、これらの問題に今後対処するための計画を策定する。

CRCは先週初めての会合を開き、港湾の運用及び効率の問題、労働者の健康と安全の確保、労働者や生産物の輸送、関連産業の事業継続の確保、輸出に必要な書類(植物検疫証明書、貨物受領証等)の取得、果実の検疫業務の継続、輸送船舶の確保とコストの問題等、現在の輸出シーズンに影響を及ぼす可能性のある多くのリスクを特定した。

CGAはこれらのリスクを軽減するため、政府の関係部署、農業団体、国の合同対策本部など、さまざまな利害関係者と緊密に協力している。しかし、一部の港での課題は、今季の最大の脅威だ。ここ数週間、ケープタウン港とダーバン港での人手不足と労働争議が港湾の運用に影響を及ぼしている。また、移動・開梱されていないコンテナも、港湾での渋滞の元となった。

これらの問題は、輸送会社の経営陣と国の合同対策本部に提起されており、我々は、すべての港での作業能力を高めるための措置と、港湾での貨物の移動を可能にする災害管理法の規制の最近の改正を歓迎する。CGAは引き続き状況を監視し、港での障害を解除するため運送会社や政府と協力する。

こうしたリスクにもかかわらず、今季の輸出に関しては慎重ながらも引き続き楽観的に見ている。CGAは、その責任を果たすようすべての利害関係者と協力し、全国的なロックダウンの状況の中、必要不可欠な食品の生産者としての特権的地位を賢明に活用することを引き続き約束する。」

今年の柑橘類生産は有望だが出荷面の課題が多い

FreshPlazaウェブサイト(2020年4月21日)

ヴァンガード社(米国の海運会社)南アフリカ本部で品質保証と生産者関係を管理するトルター氏は、「COVID-19による未知の領域を進む中、今月始まる2020年の南アフリカ産柑橘類の出荷シーズンは興味深いものになるだろう。国はロックダウンされているが、幸いなことに南アフリカでは、栽培や農産物の梱包などの農業活動は、物流も含めて不可欠な活動とみなされている。その結果、農作業は進んでいるが、一方、多くの船舶の欠航、貨物の積み込みの遅延、航行の遅れが見られる。混乱は短期的には続く予想され、このような不確実な時期にはその状況を監視しなくてはならない。」と語った。

物流について見ると、港湾の稼働状況は低い水準で、空のコンテナの回送が問題となっている。多くの岸壁が再開したため、いくらかの緩和が期待できるが、空のリーファーコンテナの不足と一部の貨物の渋滞は依然として懸念材料となっている。

出荷が終盤のブドウ、晩生のプラム、出始めのリンゴ、ナシ、柑橘類、アボカド、ライチなど、南アフリカ産の新鮮な農産物の出荷は、これまでのところ途切れていない。これは、南アフリカの生鮮青果物業界の12万人以上の従業員の安全で効率的な職場環境を確保するため、農場と梱包施設が対策を講じた結果である。

COVID-19による市場の制約

輸出検査を行う韓国の植物検疫官が南アフリカに来ることができないため、韓国は当面米国産グレープフルーツの輸入期間を延長すると見られる。欧州市場がロックダウンされれば、中国向けに出荷を振り替えることを余儀なくされ、南アフリカの生産者に大きな影響を与えるのではないかと懸念される。以下に述べるように、すでに南アフリカの港を離れ輸出先へ向けて輸送中の柑橘類もある。

果実の品質と状態

レモンとソフト柑橘は今季の出荷が始まった。前出のトルター氏は、「果実や良品率を一見したところ、全体的に品質が優れている。大豊作は期待していないが、昨年より出荷量が多くなることは間違いない。」としている。昨年の出荷量が約1億2,670万箱であったのに対し、今季は1億4,330万箱が見込まれる。この増加は、今シーズンの良好な気象条件に帰することができる。昨年は一部の主要生産地域で干ばつと雹害があった。また、レモンとソフト柑橘の新植が多いことも影響している。リンポボ地方(最も北部の生産地域)は、2019年の干ばつの後、完全には回復しておらず、未だシーズン後半の水の確保が懸念されている。

レモン

トルター氏によると、レモンは梱包作業が順調に進んでいる。同社が扱った最初の200万箱はすでに輸出された。レモンは、過去10年間にかなり新植され、上向きの生産曲線上にある。今季のレモン出荷量は、約2,640万箱(昨年は2,200万箱)と推計される。南アフリカのレモン果樹の約半分は5年生未満であり、これは未だ生産量が最大に達しておらず、今後5年間で約5000万箱に倍増することを意味している。

4月20日の週末までのレモンの輸出先は、中東が64%、ロシアが15%、東南アジアが12%であった。これらの3つの市場でこの期間の輸出の91%を占めている。

ソフト柑橘(手で簡単に皮がむける柑橘類)

ソフト柑橘の出荷も進行中で、同社は今季すでに93,000箱を輸出した。これまでに梱包・輸出された主な品種はサツマ(ウンシュウミカン)である。今年、南アフリカは約2,200万~2,400万箱のソフト柑橘を輸出するものと見込まれる。この数字は、昨年の1,820万箱からの増加を示している。ソフト柑橘の生産は増加傾向にあり、今後数年間で大きな成長が見込まれる。11,000ヘクタールがNadorcott、Orri、Leandriなどの新しい品種であり、1ヘクタール当たりの収量が高く、まだ最大の生産に達していない。これらの地域では今後5年間でさらに2,800万箱が生産されると見込まれている。

オレンジよりもソフト柑橘を好む家庭が多いので、ソフト柑橘の出回り量の増加は、現在及び将来のオレンジの販売に影響を与える可能性がある。4月20日の週末までのソフト柑橘の輸出先は、英国が44%、ロシアが30%、EUが24%であった。

グレープフルーツ

同社が扱うグレープフルーツの最初の76,000箱はすでに輸出された。行先は東南アジアとロシアで、続いてEUである。今季の生産量は1,470万箱(昨年は1,350万箱)と見込まれる。南アフリカ産は高品質でクリーンなことから、1級の品質レベルに達していることが期待される。

オレンジ

今季最初のネーブルオレンジは今週梱包され、南アフリカの国内市場に仕向けられる。ネーブルオレンジの生産量は、約2,650万箱(昨年は2,420万箱)と見込まれる。これは、2018年の数字とほぼ同じで、大豊作という訳ではない。

生産者は、果実の品質が昨年と比較して非常に良いと見ている。ネーブルオレンジのサイズは通常、56、64、48など非常に大きい玉が多く、今年も同程度のサイズが期待される。南アフリカの今シーズンの全品種のオレンジの生産量は約5,030万箱で、2018年に5,400万箱に達したことを考えれば、控えめな数字である。オレンジの予測をするにはまだ早く、今後数週間で多くのことが変わる可能性がある。

13. 米国北西部のサクランボ 課題はあるも十分な収穫を見込む

FreshPlazaウェブサイト(2020年4月21日)

ワシントン州等北西部のサクランボの収穫は5月の最後の週に始まる見込みで、生産者は力強いスタートを切ることを期待している。天候に恵まれ、サクランボは甘さが乗っており、出荷も少し早まった。

北西部サクランボ生産者組合のジェームズ・マイケル氏は、「1月と2月は非常に暖かかったので、収穫が早まると考えていた。その後、春の低温がありサクランボの品質が向上したので、リピーターの購入が期待できる。収穫シーズンの最初から、高品質な果実で力強いスタートを切ることができると見ている。」と語る。



写真：北西部サクランボ生産者組合

収穫量は十分な見込み

天候には概して恵まれたが、生産量に影響する寒波が数回あった。「2月と3月に寒波があり、収穫初期と収穫期半ばの出荷量を少しだけ奪ったと考えられるが、被害は地域によって非常に異なるため、その影響を推計することは困難である。幸いなことに、北西部の2千人以上の生産者全体で見れば、需要を満たすだけの十分な出荷量がある」とマイケル氏は言う。

リトルチェリー病

リトルチェリー病(LCL)もまた収穫量に影響を与えた。マイケル氏は、「リトルチェリー病によって、出荷量は250万～300万箱減少したと推定されており、これが今期の問題であった。用心深く警戒することが重要だ。今季は冷害と病害で収穫量が減少したが、約6万3千エーカー(約2万5千ヘクタール)の栽培面積全体では、十分な出荷量がある。最も作期の遅い地域ではまだ開花している。1回目の収穫量推計値はまだ出ていないが、現時点では『十分な収穫量』を見込んでいる」と述べた。

高まる需要

マイケル氏は「長年にわたりサクランボ(甘果オウトウ)の需要は増加し続けている。香りの良さや季節性のほか、特に健康上の利点が見出されていることも影響している。今年、小売業者やプロモーターは、サクランボのプロモーションに戦略的に取り組まなければならない。サクランボの売上の72%は衝動買いなので、販売業者が北西部のサクランボを販売計画に組み込んでくれることが重要だ。世界中で店舗販売が減少する中、サクランボは出回り時期が短いので、販売の可能性を現実の販売に結び付けるためには、消費者がどこでどのように買い物をしているかを把握することが重要だ。」とマイケル氏は結論づけた。

14. メキシコのアボカド輸出業者はコロンビアに注目

FreshPlazaウェブサイト(2020年4月27日)

メキシコは世界最大のアボカド生産国であり、年間輸出量は218万4千トンに上る。しかし近年、メキシコの実業家達は、米国、ヨーロッパ、アジア向けのアボカドの生産・輸出に関し、コロンビアの利点に注目している。

コロンビアのアボカド輸出は2013年に正式に始まり、それ以来順調に成長してきた。輸出量は毎年約50%増加している。プロコロンビア(コロンビア貿易投資観光促進機構)の分析によると、2019年には、コロンビアのアボカド輸出は9千万ドルに達した。

メキシコ系アメリカ企業グリーン・フルーツ・アボカド社のブシオ最高経営責任者(CEO)は、「コロンビアで事業を展開することは非常に魅力的だ。私の見たところコロンビアは、果実、中でもアボカドに関して、他の生産国よりも重要な自然条件に恵まれている。」と語る。

同社は、2016年に、コロンビア西部に位置するバジェ・デル・カウカ県とアンティオキア県への探索を含む現地調査を行った。この調査の結果同社の幹部らは、メキシコでの事業の補完として、ハス種アボカドの生産と輸出のためにコロンビアで直接事業を起こすことに大きな関心を持った。

同様に、95%メキシコ資本だがコロンビアで技術的な決定を下しているコロミッヒ社は、キンディオ県、バジェ・デル・カウカ県、リサルダ県で1千ヘクタールのアボカド専用園を有している。

生産工程管理と認証

コロンビアのアボカド生産農場のうち1千ヘクタール以上は、環境と社会慣行の両面で生産工程管理の国際的な認証を取得している。メキシコにはレインフォレスト・アライアンス(米国に本部を置く環境NGO)の認証を取得したアボカド生産農場が11しかなく(すべてハリスコ州で、ミチョアカン州では皆無)、一方コロンビアの認証取得数はわずか1年で315%増加したため、これは考慮すべき要素である。

長期的な取り組み

コロンビアに設立されたハス種アボカドの生産組織は、その多くがメキシコ資本で、米国や他の市場への輸出を増やすことを目的としている。植物防疫や品質面での規制を遵守することにより、既に輸出が認められている日本市場への新規参入や中国市場へ参入後の地盤固めを行うことができる。

出典: altonivel.com.mx

15. 米国北西部のサクランボ 出荷量は控えめ、輸出市場に期待

ワシントン州産 今季の出荷は少ない見込み

FreshPlazaウェブサイト(2020年4月27日)

今季のワシントン州産サクランボの出荷量は、ここ数年よりもやや少ないようだ。

ワシントン州ヤキマの青果物業者は、「確かなことがわかるにはまだ早いですが、業界関係者は晩秋、冬場及び開花期頃の低温と霜害を踏まえ、1,800万～2,000万箱と見込んでいる。これは平年の2,200万～2,400万箱に比べて少ない。今年の収穫は例年よりも早く、おそらく5月25日から28日の間に始まりそうだ。産地とサクランボの品種が程よく分散している。開始は早いですが、収穫が遅い産地ほど平年に近づく。6月6日から10日の間に販促活動ができる出荷量になり、それから7～10日以内に出荷の最盛期になるだろう。」と言う。

カリフォルニア州産との競合

この業者はさらに、「6月の第1週にはまだカリフォルニア州産が入荷しているのでいくらか競合するが、その時期から一定の量を出荷するべきだ。一方、サクランボの需要は少し疑問だ。店舗での販売の減少により需要は少し落ち込むと予想している。サクランボは衝動買いする品目だ。カリフォルニア州産の展開を見て、学ぶしかない。どう落ち着くのか本当に分からない。価格に関しても不透明で、出荷シーズンが始まったときに需給方程式がどうなるかまだ分からない。」と述べた。

中国、台湾、韓国、ベトナムに輸出機会

FreshPlazaウェブサイト(2020年4月29日)

世界的なコロナウイルス禍の中、ワシントン州等米国北西部のサクランボ(甘果アウトウ)生産者の出荷方法にもいくらか変化が生じているが、生産者団体は、課題はあるものの今年も海外への輸出の機会は大いにあるものと見ている。近年、生産物の35%以上は輸出市場に仕向けられている。

北西部サクランボ生産者協会の国際事業部長として生産者を代表するキース・フー氏の話

「いくつかの重要な市場がすぐに正常化すると考えている。主要市場である中国、台湾、韓国、ベトナムはパンデミックを非常にうまく処理しており、ビジネス活動が再開しつつある。パンデミックにより収益を失った小売業者は、北西部産のサクランボの到着を待ちわびており、今年の夏にこれらの市場で積極的なプロモーションキャンペーンを実行するつもりである。

海外市場への輸出果実は95%が空輸される。ここ数週間は便数が少なくなったが、燃料の価格低下により、今年の夏には競争力のある価格で輸入業者に果実を届けることができるはずである。4つの主要市場のうち3つ(ソウル、台北、上海)は、北東アジアの主要な航空会社の拠点である。したがって、中国、台湾、韓国への直行便の確保は問題ない。韓国、台湾、米国、日本等の大手航空会社や貨物便専門会社が、6月までにはシアトル、サンフランシスコ及びロスアンゼルスから北東アジアの都市へ定期便を飛ばすと聞いている。ベトナムについては、韓国と台湾からホーチミンとハノイの両方へ毎日貨物便が飛んでいる。」

北西部サクランボ生産者協会のB.J.サービー会長の話

「2020年の輸出市場では予想以上に良い成果が期待できると考えている。確かに、オーストラリア、ブラジル、フィリピンのような一部の市場では米ドルが強く、これらの国々での販売を減速させるだろう。しかし、幸いなことに、量的に主体となる中国、韓国、台湾、ベトナムの市場が COVID-19 の流行をうまく治めた模様で、回復に向かうことが期待できる。

生産者にとって大きな問題は、現在のパンデミック・シナリオを考えると、輸出市場にどれだけ販売できるかだ。これを見通すことは非常に難しいが、今年の夏の航空便数の回復と燃料費の低下について現在聞いていることに基づけば、20ポンド(9キロ)箱で600万箱の出荷が現実的だと思われる。2020年の出荷期間は、最近数年よりも短いため、600万箱は全体の3割を占めるだろう。2017年には、カナダ、中国、台湾、韓国を合わせて700万箱以上のサクランボを北西部から出荷した。」

16. 日本 第一四半期は果実・野菜の輸入が減少

FreshPlazaウェブサイト(2020年5月1日)

日本は遠い国かもしれないが、生鮮果実等の市場はグローバルだ。日本が毎年輸入している生鮮果実・野菜250万トンのうち、40%はアジア以外から来ている。例えば、北米からは年間35万~40万トン、オセアニアからは24万トンの果物や野菜が輸入されている。アフリカからの輸入は、ヨーロッパ経由のものを除けば少ない。日本の輸入量250万トン(32億ドル相当)は、世界的に見るとぎりぎりトップ10に入らない。

今年の輸入は全体に少ない

今年初めの日本の輸入は、この時期既にアジアで蔓延していたコロナウイルスの影響を受けたと見られる。今年最初の3ヶ月間、南アジアと東アジアの国々から日本への輸入は、昨年より20%以上減少した。2018年の第1四半期と比較すると、減少幅はより大きい。今年最初の3ヶ月間、青果物の輸入量はすべての月で2019年の同じ月を下回った。その後、野菜が不足したために輸入が増加した。

ニュージーランドとチリからの輸入は増加

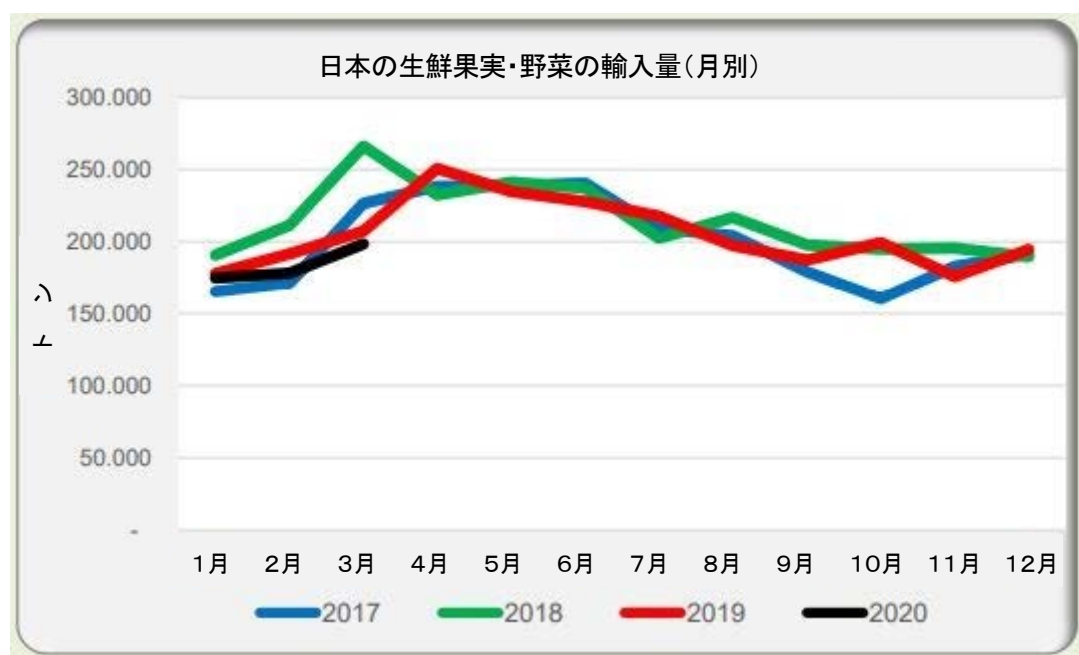
中国は日本にとって、フィリピンに次いでこの地域の最も重要な青果物輸入先である(訳注:中国からの輸入は大部分が野菜)が、第1四半期の輸入は昨年に比べて20%以上減少した。韓国、台湾、ベトナム、タイからの青果物輸入も減少した。

第1四半期の北米(メキシコを含む)からの輸入は、2019年の同期よりわずかに少なかった(-4%:米国-7%、メキシコ-1%)。他方、ニュージーランド(+28%)とチリ(+20%)は、同じ期間に日本での売り上げを大幅に伸ばした。

フィリピンからのバナナ輸入は安定

品目別に見ると、日本はフィリピンから毎年数百万トン(訳注:実際は80万トン程度)ものバナナを輸入しており、その流れは維持されている。その他は品目によって異なり、パイナップル、カボチャ、レモンの輸入は前年よりも増加し、オレンジ、ニンジン、アボカド、グレープフルーツ及びネギの輸入は減少した。

出典: www.fruitandvegetablefacts.com



17. 南アフリカ産柑橘類 日本と中国へのブレイクバルク船が出発

FreshPlazaウェブサイト(2020年5月4日)

訳注: ブレイクバルクとは、段ボール箱等の包装容器を用いるが、リーファーコンテナを使用しない荷姿。下の写真参照

(農地改革・農村開発省の発表)

COVID-19が蔓延する中、中国と日本へ向けた柑橘類ブレイクバルク冷蔵船の出発について発表することを嬉しく思う。船は本日中に出港する予定である。これは、2020年の輸出シーズン最初のブレイクバルク船で、2019年に出港した4便に続く第5便である。2019年は、南アフリカの柑橘類業界として初めて、日本と中国へ特殊な冷蔵船を用いて柑橘類のブレイクバルク出荷を行った歴史的な年であった。



バルティック・パトリオット号は、日本と中国の輸出市場向けのグレープフルーツとレモン合わせて4,521トン積み、南アフリカを出発する。日本への到着は5月18日、中国へは5月26日の予定である。ダーバン港メイドン埠頭の果実専用ターミナルで、徹底的な検査の下、4月25日に始まった船への積載作業は昨日終了した。果物の収穫、仕分け、洗浄、輸送、検査、積み込み及び関連する作業は、ロックダウン中のため必要最小限の作業員によって行われた。当省は、これを成功させたすべての人に感謝し、特に地域及び世界の食料安全保障を追求するため、困難な状況の下でたゆまぬ努力を続けた作業員に感謝する。

柑橘類産業は引き続き、16万人の直接雇用を創出し、輸出だけでも約200億ランド(約1,200億円)を稼ぎ出す重要な産業の一つである。南アフリカは、柑橘類(オレンジ、レモン、グレープフルーツ及びソフト柑橘類)を年間200万トン輸出し、世界第二の柑橘類輸出国となっている。

COVID-19がもたらす課題を踏まえ、輸出プログラムが可能な限り計画通りに進むよう、当省は貿易相手国と協力を続ける。

当省は、すべての農家、農場労働者、梱包施設の作業員、検査官、運転手、農業及び食品バリューチェーンの関係者全員に対し、経済を成長させ、国内外の人々に食料を供給するため、COVID-19にかかる衛生措置とソーシャル・ディスタンスを遵守することを願っている。

18. 欧州の核果類産地は予測できないシーズンに備える

EUROFRUIT電子版(2020年5月7日)

欧州のモモ・ネクタリン部門は、労働力確保に関する大きな懸念があるため、何が起こるか予測不可能なシーズンに向けて準備を進めている。

早期の予測は常に難しいが、COVID-19の影響で労働力確保の見通しが立たないことが予測をより難しくしている。毎年ペルピニャン市(フランス南部、東ピレネー県の県都)で開催される恒例の Europêch' の集会(欧州核果類大会)は取り止めになったが、東ピレネー県農業会議所のエリック・オスタルヌ氏が、今年もヨーロッパの主要生産国の現地の見方を取りまとめた。



ギリシャ

モモとネクタリンの生産量は、2019年と同様に平年並みと予測されている。雨の少ない暖冬の後、雨、霜、低温の組み合わせに見舞われたことにより、収穫は昨年より7～8日遅く始まる見込みである。

今年の大きな問題は、アルバニアからの労働者がCOVID-19危機のためにギリシャに戻ることができないという季節労働者に関するものである。今シーズン、これは深刻な問題になる恐れがある。

価格低下の結果、ギリシャではモモの園地面積が減少傾向にあり、他方ネクタリンの栽培面積はわずかに増加している。以前の気象災害に対する保険金の支払いの遅れも、生産者の資金繰りに打撃を与えている。

スペイン

アラゴン州やカタルーニャ州などでは、通常は多数の外国人労働者に依存しているが、現在はそうした労働者が使用できない状況にあり、労働力確保は引き続きスペインの生産者が直面する一番の問題だ。一部の人々は、ドイツなど他のヨーロッパ諸国が行ったように、シェンゲン条約加盟国の労働者が農場や梱包施設に戻ることを認める措置を採用するよう政府に求めている。このような労働力問題は、追加のセキュリティ対策と合わせて、果樹園や梱包施設での生産コストを20～30%引き上げると予測されている。

カタルーニャ州では、春先の霜が一部の果実に直接的な損傷を与えたほか、その他の果実の生育にも影響を与えた。同州のリエイダ県では、影響は不均一であり、川沿いの地域や低地で影響が大きく、ネクタリンやフラットピーチ(バントウ)が最も被害を受けた。出荷量は昨年に比べて減少するものと見込まれる。

イタリア

3月までの暖冬と好天の後、3月下旬と4月上旬に繰り返し霜が降り、イタリア北部、特にエミリア・ロマーニャ州の作物に大きな影響を与えた。ヴェネト州とピエモンテ州では被害が少なかった。カンパニア州等南部の産地でも霜害が報告されているが、中部・南部では概して被害が少ない。南部の州では、2020年の生産量は2019年に比べてやや少なくなると予想されている。一方、北部の州では、栽培面積の減少と霜による減収により、生産量は大きく減少するものと見込まれる。北部では、収穫は予定より数日早い。

フランス

昨冬の低温不足と高温に対し、モモとネクタリンはアプリコットよりもよく耐えたようだ。またローヌ渓谷やヴォクリューズ県等での降雪でも、モモとネクタリンが少ない地域のためアプリコットに比べて被害が少なかった。

モモとネクタリンの着花数は概して平均的で、摘花(果)は少なくなりそうだ。初期の兆候は、果物のサイズが通常よりも大きくなる可能性を示している。生産者は、6月中旬の収穫の開始から標準的な量とサイズの果実を提供し、昨シーズンのように出荷の終わり頃に供給過剰となることを避けたいと考えている。

生産力の継続的な低下に伴い、モモとネクタリンのPDO品種(地域限定品種)の果樹園は、過去2～3年間、7～8%の割合で更新されてきた。

19. 世界のパイナップル市場

FreshPlazaウェブサイト(2020年5月8日)

ドイツの業者は最近のパイナップル取引は非常に不安定であったと振り返えるが、これは世界の市場に言えることだ。一部の人々は需要の落ち込みと価格の下落に、また別の人々は品不足と価格の上昇に直面している。欧州市場は、現在回復してきている。南アフリカでは今、アルコール飲料の販売が禁止されているため、パイナップルはビール醸造という特異な用途を与えられている。



コスタリカ：市場はバランスを回復

過去4～6週間は、パイナップル栽培に適した天候であった。1月と2月には品質に大きな影響を与える激しい降雨があったが、この2ヶ月で状況はかなり改善された。冬の間、通常は多くの果実がケータリング業界に販売されるが、世界中のロックダウンのためにそれらの販売がキャンセルされた結果、在庫が増大し、価格は下落し、輸出は減少した。果実の価格が物流コストをカバーできないケースも見られた。ここ数日、主に米国のケータリング業界の再開により、価格はある程度バランスを取り戻した模様である。

生産については、出荷量は通常どおりであり、品質は良い。通常ケータリング業界に売られるサイズ8が多くなっている。

リーファーコンテナの不足の影響は小さい。全国パイナップル生産輸出協会(CANAPEP)は4月、米国への輸出は30%、ヨーロッパへの輸出は40%減少したと報告した。これらの数字は、週に130万箱、650万米ドル(約7億円)の損失に相当する。

オランダ：パイナップルの購入は現時点の優先事項ではない

コロナウイルスに対する措置がヨーロッパで実施された最初の数週間で、消費者はいくつかの特定の果物や野菜を買いだめしたが、パイナップルはその対象ではなかった。輸入業者は、「1月から4月までの期間は通常パイナップルの販売が好調だが、今年はよくなかった。その後市場は回復している。ほとんどの輸入業者は計画どおりに輸入しており、余分なものは持ち込まないので、市場は現在非常に良好だ。価格は10～11ユーロ前後で、うまく行けばこの価格がしばらくの間続くだろう。ケータリング業界が慎重ながら再開してきていることは好ましい。パイナップルはケータリングやレストランで広く使用されており、その再開が需要をいくらかでも押し上げることを願っている。」と言う。

ベルギー：2ヶ月間パイナップルはほとんどない

過去2ヶ月間、コスタリカとドミニカ共和国からのパイナップルの航空貨物はなかった。その結果、価格は約30%上昇した。この1週間で状況は改善したが、航空貨物料金はまだ高い。船で輸入されたパイナップルもあるが価格が高い。

ドイツ：価格変動が大きい

従来から、ドイツの広い地域で春の天候が良いと、輸入果実の需要が減少し、これはパイナップルの需要にも反映される。現在市場に出回っているのは、主に夏の果物(核果類とメロン)である。

今季のパイナップルは、総じて言えば比較的低価格で需給が不安定であった。価格変動が大きく、利益が少ないため、一時的に取り扱いをやめた業者も多い。現在ほとんどのパイナップルがコスタリカ産である。業者は、価格は軒並み下がっていると言う。

フランス：入荷量が少ない

フランス人はパイナップルに高い金を払っている。通常のサイズが一箱あたり12～13ユーロすることも珍しくない。この高価格は、コロナウイルスによる労働者の不足と出荷量の減少により、この2～3週間品薄なため

である。入荷量が少ないため、完全に熟していないパイナップルまでも買われている。

イタリア：ドミニカ共和国からの航空貨物が停止

ドミニカ共和国産パイナップルを扱うイタリアの輸入業者は、2ヶ月前に航空貨物による輸入を停止した。航空機の定期運航がなく、まれに出発する便の運賃は高騰した。コロナウイルス渦の前の航空貨物運賃は0.9ユーロ/kgであったが今では2.5ユーロ/kgとなっている。観光客がいないため、中米からヨーロッパに飛ぶ便はほとんどない。20日前、コロンビアのボゴタとヨーロッパを結ぶ航空機は1日に1便しかなかった。

イタリアの国内市場では、通常は大量のパイナップルを消費するケータリング業界の閉鎖により、パイナップルの需要が減少している。今では専門店と特売品を探しているスーパーマーケットだけがパイナップルを買い付けている。

南アフリカ：パイナップルビール

3月26日に実施されたロックダウン措置の一環としてアルコール飲料の販売が禁止されるとすぐに、パイナップルビールのレシピがシェアされた。一部の店舗では、パイナップルビールの製造に必要な砂糖や酵母とパイナップルを一緒に並べて販売している。

パイナップルの生産者にとってははかばかしく困難なシーズンであった。夏は非常に乾燥して暑く、日焼けした果実も多かった。あられに見舞われた地域もあった。このため、市場の入荷量が少なく、夏の終わりまで状況は改善されなかった。国内外の加工業者からの需要と欧州市場での関心の高まりは需要を押し上げたが、南アフリカからヨーロッパへの航空便の急激な減少によって状況が著しく悪化した。現在はまだ、輸出に使える航空便の数が増えるのを待たなければならない。

南アフリカ国内での価格は現在18.54ランド(0.92ユーロ)/kgで、前週の平均価格16.33ランド(0.81ユーロ)よりも高くなっている。それ以前の週には0.73ユーロであったので、価格は上昇し続けている。ロックダウンの前と比較すると、パイナップルの需要は38%増加した。



自家製パイナップルビールの製造に必要なパイナップル、砂糖、イースト菌を販売

中国：市場は持ち直すも、昨年水準に届かず

市場には現在、中国国内産のパイナップルが多く入荷している。広東省、海南省、台湾からの出荷が本格化しており、4月の最盛期の出荷量は多かった。コロナウイルスにもかかわらず販売は順調で、時折売れ足が鈍ったものの、その後持ち直した。需要は昨年より少ないが、オンラインでの需要は多い。価格はものにより大きく異なり、有名ブランドのものは、未知のブランドよりも容易に高い価格で販売されている。

米国：今後の数週間については楽観的

米国のパイナップルの需要は、今後数日で持ち直す見込みである。現時点では在庫は限られているが、産地によって大きく異なる。例えばコスタリカ産の在庫は豊富であるが、メキシコ産が不足している。メキシコは、前シーズンの販売が不調であったため、昨年に比べて作付けが少ない。現在、米国市場に入荷している最も一般的なサイズは5と6である。サイズ4は国内市場向けである。ハワイ産のパイナップルも入荷しており、プレミアム価格で販売されている。

米国市場でのパイナップルの需要は、ケータリング業界と学校の閉鎖により急激に減少した。米国の輸入業者らは、供給が少ないために需要の減少にもかかわらず価格が安定しているが、今後数週間のうちに需要が幾分増加すると見ている。

訳注(参考):パイナップルは、日本の果実輸入のうち品目別でバナナに次いで第2位である。ほとんどがフィリピン産であり、コスタリカが第2位の輸入先である。

20. 米国農務省 農家から家庭への食料提供事業で12億ドルの契約を承認

FreshPlazaウェブサイト(2020年5月11日)

米国農務省は5月8日、「農家から家庭へのフードボックス事業」を通じて米国の農業生産者と食料を必要とする人々を支援するため、12億ドル(約13百億円)の契約を承認した。

承認された全事業者のリストは、同事業のウェブサイトに掲載されている。承認された供給事業者は、その営業地域内で提供対象となる非営利団体や政府機関(学校給食部門、先住民組織等)の数を増やすことができるが、非営利団体は免税対象の団体に限られる。

米国青果物販売協会(PMA)のオーウェン副会長は、フードボックス事業に関する農務省の最近の発表について以下の声明を発表した。

「生鮮果実や野菜の購入に4億6,100万ドルを提供することを約束した農家から家庭へ事業が、家庭第一のコロナウイルス対策法(FFCRA)に基づき創設された。この事業で農務省は、申請者(販売事業者等)が、自ら特定した非営利団体に対し、相互に合意した複数回のスケジュールに基づいて商品箱を提供する事業提案を募った。農務省は、農産物の購入、商品箱の作成、及び食品を受け取り、保管し、配布することができる特定の非営利団体への配達に関する契約を結んだ。

PMAはこの新しい事業の迅速な実施に拍手を送るが、この事業が行き届く事業者と市民の数を増やすため追加資金の提供を農務省にお願いしたい。食料供給の不安定は世界的なパンデミックから始まったものでもなく、パンデミックとともに終わるものでもない。

農家から家庭へのフードボックス事業は、新鮮で健康的な我々の青果物を最も必要とする人々に提供するために、我々の業界が重要な役割を果たすのに必要なインフラの整備計画の作成に向けた大きな一歩である。PMAは、農家から家庭へのフードボックス事業や、リスクの高い地域のフードバンクや地域センターに余剰農産物を提供するための長期的で持続可能なモデルを提供する生鮮食品基金のような事業に対し、引き続き支援を行う。」



(参考記事)米国農務省ウェブサイトより

米国農務省 農家から家庭へのフードボックス

コロナウイルス農業支援事業の一環として、パーデュー農務長官は4月17日、農務省が「家庭第一のコロナウイルス対策法」に基づき、最大30億ドルの農産物を購入し、それを必要としている人々に配布する権限を行使すると発表した。農務省は、多くのレストラン、ホテル、その他のフードサービス施設の閉鎖によって従業員が大きな影響を受けている中小の販売事業者と提携し、青果物、乳製品及び肉製品を調達する。

農務省は、申請者が自ら特定した非営利団体に対し、相互に合意した複数回のスケジュールに基づいて商品箱を提供する事業提案を募集する。農務省は、農産物の購入、商品箱の作成、及び食品を受け取り、保管し、配布することができる特定の非営利団体への配達に関する契約を結ぶ。

農務省農産物流通局の商品調達事業により、推計月額1億ドルの生鮮果実と野菜、1億ドルの乳製品、及び1億ドルの肉製品を調達する。その後、卸売業者及び販売事業者は、フードバンク、地域の団体や宗教団体、及び困窮する米国民を支援するその他の非営利団体に対し、事前に承認された青果物、乳製品、肉製品の箱を提供する。

21. フィリピンのバナナ輸出 日本向け等スタートは順調

ASIAFRUIT電子版(2020年5月12日)

第1四半期は輸出が伸びたが、年間を通じてこれが続く可能性は低い。



2020年第1四半期のフィリピンのバナナ輸出は、前年の106万トンから10.71%増の118万トンとなった。これはフィリピン統計局(PSA)が発表したデータで、この期間の輸出額は1.73%増加し、4億8,915万米ドルとなった。

ビジネスミラー紙(フィリピン)によると、フィリピン農業省は、バナナ輸出額の増加は中国の輸入業者による買値の上昇の結果だとしている。しかし、PSAのデータは、フィリピンの最大の輸出市場である中国へのこの期間のバナナ輸出は312,008トンで、20%減少したことを示している。

フィリピン・バナナ生産輸出協会(PBGEA)のステファン・アンティグ事務局長は、スポット市場の価格が不安定なことと、COVID-19による中国市場の一時的な閉鎖が、中国への輸出が減少した原因であると述べた。

同事務局長は、序盤の成長の背景には日本と中東への輸出の増加があると指摘した。日本への輸出は27%増加して40万トン(2億米ドル)近くとなり、少なくとも第1四半期については、日本が中国を抜いてフィリピン産バナナのトップバイヤーとなった。同じ期間の中東への輸出量は66%増加し、276,794トンが出荷された。

しかし、経済専門家のパブリト・ヴィルガス氏はビジネスミラー紙に対し、早い時期の輸出の増加はこれから起こることの予兆ではなく、通年のバナナ輸出は干ばつ、新パナマ病及び新型コロナウイルスのために減少するだろうと語った。これは、PBGEAが4月に、輸出は最大40%減少する可能性があるかと予測したことと一致している。

アンティグ事務局長は、ベストシナリオでも輸出量が20~23%減少すると見込まれるが、これは今日業界に影響を与えているすべての要因を考慮すれば‘悪くない’と述べ、他のバナナ輸出国、特にエクアドル等中南米諸国もCOVID-19による貿易の課題に直面していると付け加えた。

22. ブラジル 2020-21年のオレンジ生産量は前年比25.6%減の予測

FreshPlazaウェブサイト(2020年5月12日)

Fundecitrus(サンパウロ州柑橘栽培保護基金)が5月11日にオンラインで行った発表によると、シトラス・ベルト地帯(サンパウロ州及びミナスジェライス州西部から南西部にかけての地域)における2020-21年のオレンジ生産量は、2億8,776万箱(40.8kg/箱)と推定される。これは、前年の3億8,679万箱よりも25.6%少なく、過去10年間の平均を12.5%下回っている。トリアングロ・ミネイロ地域(ミナスジェライス州西部)では約2,056万箱が生産される見込みである。単収は、前年の1ヘクタール当たり1,045箱に対し、790箱と見込まれる。

Fundecitrus幹部のジュリアーノ・アイレス氏は、「園地の潜在的生産力から見ると少ない生産量であるが、これは隔年結果によるものだ。前年の生産量が多かったので、今年は樹体の栄養素の蓄積が少なくなっている。さらに、着果期から果実の肥大の初期にかけて気象条件が良くなかった。」と述べている。



気象の影響

生産量の減少は、着果数の減少によるものである。前年の大豊作により、樹体に蓄積された栄養素が消費されて少なくなり、隔年結果として知られる現象を引き起こした。さらに、気象条件も悪く、2019年9月と10月の高温は新たに形成された果実に影響を与えた。

2020年3月と4月も気象条件が悪く、肥大が進んだ果実に影響を与えた。気象要覧のデータによると、その期間の累積降水量は過去(1981~2010年)の平均の半分もなく、果実の成長が抑制されたため、果実の大きさは収穫期になっても小さく平均159グラムと予想される。

地域別の単収予測

昨年と比較した今季の単収予測は、地域間で大きな差が出ている。サンパウロ州の北西部(地名の詳細省略。以下同じ)で単収の低下率が一番大きく、予想単収は1ヘクタール当たり492箱で、2019-20年と比較して46.7%の減少と見込まれる。次いで、北部(ミナスジェライス州トリアングロ・ミネイロ地域及びサンパウロ州北部地域)で686箱(-35.9%)の収量が見込まれ、サンパウロ州中部が721箱(-30.1%)、南部が781箱(-16.5%)、南西部が1,185箱(-2.7%)と見込まれる。

23. 世界のレモン市場

FreshPlazaウェブサイト(2020年5月15日)



スペイン、イタリア、トルコの今年のレモンシーズンは早めに終了する。出荷量が昨年より少ない一方、欧州市場の需要は高い。需要が増加したのはレモンがビタミンCを豊富に含むためで、コロナウイルス危機と大いに関係している。ヨーロッパ市場への輸出のほとんどを担うアルゼンチンと南アフリカからの輸出はすでに始まっており、ヨーロッパ市場の有利な価格と出荷時期の前倒しにより、これら両国にとっては絶好の機会となっている。

米国市場はカリフォルニア産と一部アルゼンチン産(2018年以来再び市場に出回っている)のレモンに加えて、メキシコ産の入荷が見込まれる。一部の業者は、需要が引き続き安定するか、それともすぐにレモンが溢れてしまうのか懸念している。将来的には、中国もレモンの主要輸出国になると見られる。

アルゼンチン: 生産量が減少するも輸出は増加

3月のロシア、ウクライナ、カナダ向けを皮切りに例年よりも早く輸出が始まり、4月に米国向け、5月上旬に欧州向けと続いた。ロシアと欧州は依然として最も重要な市場だが、2018年から再開した米国向け輸出の拡大に努力している。米国への輸出は、アルゼンチン側のコロナウイルス対策によりやや遅れた。天候に問題はなく、生産量は昨年より少し少ないが、輸出量は約30万トンに達すると予測されている。2019/20年の総収穫量は180万トンと推定されており、そのほとんどは濃縮果汁とレモンオイルの生産を目的としている。

南アフリカ: 輸出シーズンは早く始まり速いペース

南アフリカとアルゼンチンからの大量の出荷が輸出先の市場に圧力をかける可能性があり、南アフリカのレモン業界関係者は、輸出の見通しに非常に慎重だ。今シーズンの総輸出量は現時点で2,710万箱(15kg/箱)と予測されており、これは昨年より500万箱多い。この増加は、主に栽培面積の拡大の結果である。レモンの新植は減速したが、南アフリカのレモンの木の43%以上が4年生以下だ。

今シーズンの輸出は早く始まった。輸出量は昨年を上回っており、その多くは出始めの時期のレモンの需要が高い中東向けである。ロシアからの需要はこの数年高かったが、今年の輸出は減少している。一部の輸出業者は、これらの産油国の経済発展が消費パターンに与える影響が不確実であることを懸念している。東南アジアは現在、一部の輸出業者を失望させているが、近いうちに通常の消費パターンが回復することが期待される。輸出業者は、中国のレモン輸出の増加に注目している。

15年前、南アフリカのレモン生産者の平均収入は1ヘクタール当たり2,000ランド(100ユーロ)であったが、これは17,000ランドまで増加した後11,000ランドに低下し、昨年は12,000ランド(600ユーロ)に増加した。

オランダ: 価格は高止まりするか?

スペイン産とイタリア産の入荷が終わりつつあり、トルコ産ももう輸入がないので、業者は南半球からのレモン輸入に備えている。すでに5月上旬、アルゼンチン産のレモンを積みロシアへ向かう最初の冷蔵船が、オランダの港に寄港していた。一部の業者はこれから始まる輸入シーズンを楽観的に見ているが、別の業者はより現実的だ。小売セクターの需要が引き続き高く、レモンを高く買うケータリング業界が夏には再開する一方、南アフリカとアルゼンチンからの過剰供給が懸念される。見通しとしては、南アフリカも、新植が多いアルゼンチンも欧州市場に多くの量を輸出するので、価格が低下する可能性がある。

ドイツ: 需要が高くスペイン産の出荷終了が早まる

復活祭前後はレモンの需要が例年高いが、今年は特に高かった。ある業者は、ビタミンCが免疫システムの強化に役立つので、コロナウイルス対策としてビタミンC含有量が多いレモン等の需要が増えているという。

需要の高さは販売状況に影響を与えている。業者は「レモンが不足しているが、貯蔵と包装の能力が十分でない。大量の需要が急に発生したため、スペイン産レモンの在庫は急速に減少した。」と言う。これは、普通栽培のレモンと主にスペインのムルシア及びマラガで栽培されるヴェルナ品種の有機レモンの両方に当て

はまる。このため、スペイン産の出荷シーズンは早く終わるだろうと見られている。

スペイン産の後、通常はアルゼンチン産が続く。業者は、「アルゼンチンからユーレカ品種を輸入する。出荷量は多いと言われているが、我々向けの果実がコンテナに入るまでは状況がわからない。」と言う。

スイス: 有機レモンの販売が過去最高を記録

小売市場での有機レモンの販売数量が3月に史上最高を記録した。平均して1週間に161トンの有機レモンが販売され、これは前月より47%多く、前年同月より53%も多かった。一方、農業局(BLW)の発表によると有機レモンの市場シェアは42%でほぼ変わっていない。

フランス: 南半球産レモンへ切り替え

健康上の利点のため、レモンがよく売れている。スペイン産はほぼ終わった。スペインで春に雨が多く品質上の問題があったが、シーズンの後半には解消された。現在南アフリカ産とアルゼンチン産が入荷している。

スペイン: 今シーズンのヴェルナ品種の終わりは早い

ここ数週間のレモンの需要と価格の異常な高まりは、今は終息した。コロナウイルスの需要への影響は続いているが、2級品や大量の販売は困難だ。プリマフィオーリ品種からヴェルナ品種に完全に切り替わったが、収量は昨年より30~40%低くなると予想されているので、出荷シーズンは早く終わる。果樹一本当たりの着果数が少ないため、大玉が多い。価格はここ数週間で下落しているが、0.72~0.85ユーロ/kgで、生産者には依然好ましい。欧州市場での高価格のため、アルゼンチンと南アフリカは輸出を早めている。アルゼンチンからの最初のレモンは5月上旬に到着し、今レモンを積んだ多くの冷蔵コンテナが海上輸送中である。

イタリア: 需要が多く、品薄

シチリアのレモン生産は過去15年で最も低い水準にある。生産者は「今シーズンを通じて販売価格は高く、平均0.75ユーロ/kgであった。北イタリア、フランス、オーストリア、ドイツ、オランダに出荷している。マルセコ病(*Phoma tracheiphila*)の問題は続いている。」と言う。

前シーズンの悪天候によりシラクサ(シチリア島)産レモンの供給が減少しているが、スペインからの輸入の減少もあって、このレモンの需要は増加している。このため、産地の価格は0.75~0.95ユーロ/kgに上昇している。シラクサ地域の多くの起業家が、レモンの栽培面積拡大に投資しているが、新植された園地から出荷されるのは3~4年後だ。プリモフィオーレ品種のレモンの収穫はカラブリア州であと2週間続く。カラブリア州の出荷は、先週の降雨により30日間延長された。

2019/20年のレモン販売は、需要の増加により好調であった。販売価格は約1.20~1.30ユーロ/kgであるが、供給の減少が続く場合は1週間後には0.20ユーロ増加する見込みだ。

トルコ: レモンの輸出は8月まで停止

コロナウイルスの拡散防止措置のためレモンの輸出は8月まで停止されているが、木曜日(5月14日)時点で最大1万トンのレモン輸出が承認されたというニュースが届いた。来週以降の公式な通知が待たれる。

中国: レモンの輸出が増加

レモンの輸出が大幅に増加した。他方、コロナウイルスのため、ビタミンCの多い食品に対する消費者の需要が増加しており、国産レモンはここ数週間で値上がりした。レモンの主要産地は、重慶市と四川省である。

米国: 小売の需要が強い

米国市場のレモンは、現在2つの地域から来ている。ひとつは一年中レモンを出荷できるカリフォルニア州で、現在2番目の地区から出荷されている。他方はメキシコ産で、3~4週間のうちに大量の輸入が予想され、9ヶ月間市場に出回る。アルゼンチン及び少量ながらウルグアイとチリも米国市場にレモンを輸出している。

多くのレモンを安定的に調達する食品サービス業が閉鎖されているため、大量のレモンが貯蔵されている。小売の需要は急増したが、メキシコ産が大量に流入するとすぐに価格が低下するものと見込まれる。

オーストラリア: 国内市場の拡大に期待

柑橘類栽培面積は増加しているが、多くのレモンの木はまだ成長段階にある。昨シーズンは48,232トンのレモンとライムが生産された。その79%がレモンで、全体のわずか7%が生鮮市場向けであった。昨シーズンは4千トンのレモンが輸入されたが、クイーンズランド州を中心に栽培面積が拡大しており、輸入を減らす方向である。業界は国内市場の成長を見込んでおり、これに向けた販促活動を行う予定である。

24. チリの落葉果樹事情(リンゴ、生食用ブドウ、ナシ)

米国農務省GAINレポート(2020年5月15日)

これは米国農務省海外農業局サンチャゴ事務所(チリ)が作成した「生鮮落葉果実半期報告書」の訳であり、米国政府の公式見解とは異なる場合があります。

要旨

2019/20販売年度(以下「年度」)のチリの生鮮リンゴと生鮮ナシの供給量は、栽培面積の減少と干ばつのために減少した。報告者の推計によると、生鮮リンゴの輸出量は対前年度比3.5%減の65万トン、生鮮ナシの輸出量は同11%減の11万7千トンと見込まれる。2019/20年度の生食用ブドウ生産量は前年度と変わらず、輸出量は65万7千トンと見込まれる。

品目名: リンゴ(生鮮)

表1 チリのリンゴ生産需給統計

リンゴ(生鮮) 販売年度 チリ	2017/2018		2018/2019		2019/2020	
	2018年1月～12月		2019年1月～12月		2020年1月～12月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積	35,937	35,937	34,427	34,427		32,371
収穫面積	33,400	33,400	33,000	33,000		31,300
結果樹本数	38,950	38,950	36,300	36,300		34,430
非結果樹本数	2,800	2,800	2,500	2,500		2,400
果樹本数合計	41,750	41,750	38,800	38,800		36,830
商業的生産量	1,320,000	1,320,000	1,220,000	1,200,000	1,134,650	1,134,650
非商業的生産量	10,000	10,000	10,000	10,000	9,000	9,000
生産量合計	1,330,000	1,330,000	1,230,000	1,210,000	1,143,650	1,143,650
輸入量	2,500	2,500	1,000	1,000	2,000	2,000
供給量合計	1,332,500	1,332,500	1,231,000	1,211,000	1,145,650	1,145,650
生鮮国内消費量	243,600	243,600	240,000	251,271	229,650	235,650
輸出量	778,900	778,900	705,000	673,729	660,000	650,000
加工仕向け量	310,000	310,000	286,000	286,000	256,000	260,000
非販売数量	0	-	0	-	0	0
出荷量合計	1,332,500	1,332,500	1,231,000	1,211,000	1,145,650	1,145,650

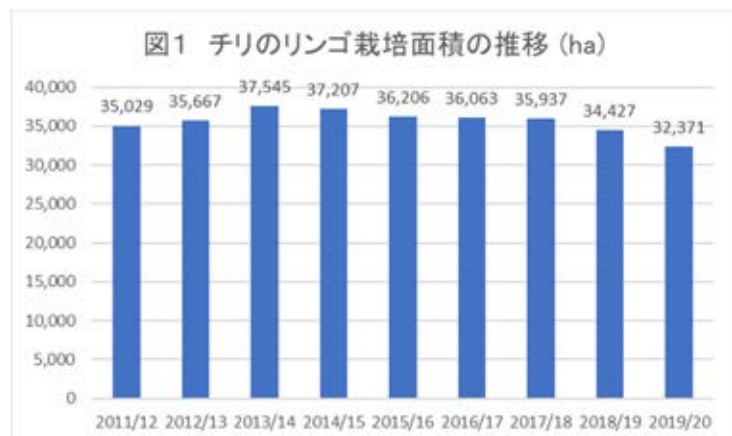
単位:ヘクタール、1000本、トン

出典:報告者推計

生産

2019/20年度のチリのリンゴ栽培面積は対前年度比6%減の32,371ヘクタールとなっている(図1)。これを踏まえ、報告者は、生産量を5.4%減の1,134,650トンと見積もる(表1)。

2019/20年度は干ばつのため生産量が伸びなかった。リンゴ栽培面積の60%を占めるマウレ州では、過去3年間で3.4%減少した。しかし、リンゴ栽培面積



出典:農業研究政策局(ODEPA), 2020

の減少及びそれによる生産量減少の主な要因は、リンゴ生産が他の作物(サクランボ、クルミ、ヘーゼルナッツ、ブルーベリー)に比べて収益性が低いことである。

消費

2019/20年度の生鮮リンゴの国内消費量は、販売目的の商業的リンゴ生産量の21%に当たる235,650トンと見込まれる。また、同23%に相当する260,000トンが加工に仕向けられると見込まれる(表1)。

政策

セバスチャン・ピニェラ大統領は2020年3月19日、コロナウイルスの大流行に伴い、90日間の憲法上の「大惨事事態」を宣言した。数日後、アントニオ・ウォーカー農業大臣は、チリの農業部門は、COVID-19流行の中で食品の供給と流通が正常に機能することを保証する重要なインフラサービスであると宣言した。

港湾、果実検査施設、梱包施設は、厳格な衛生手順とソーシャル・ディスタンスの確保の下で稼働し続けている。さらに、農場や梱包施設は、COVID-19流行の最新の見通しに対処するため安全及び衛生に関する措置を実施している。

貿易

報告者は、2019/20年度のチリのリンゴ輸出量を対前年度比3.5%減の650,000トンと推計する。2020年1月から3月までのチリの生鮮リンゴの輸出量は、2019年の同時期に比べ3.8%減の65,681トンであった。これまでのチリのリンゴの主要輸出先はエクアドルとコロンビアである。米国市場ではリンゴの供給量が増加したため、チリ産の米国向け輸出量は23.2%減少した。

チリのリンゴ輸出業者は現在、高価格を求めてアジア市場での販売促進活動に注力している。

表2 チリのリンゴ輸出量

品目：80810 リンゴ（生鮮）

（単位：トン）

輸出先	販売年度		1月～5月の輸出量		
	2017/18	2018/19	2019	2020	増減率(%)
世界計	778,941	673,729	68,281	65,681	-3.8
米国	62,325	78,662	2,465	1,893	-23.2
コロンビア	84,510	74,332	14,892	15,621	4.9
エクアドル	53,241	48,179	10,677	11,186	4.8
インド	56,119	42,478	6,630	3,871	-41.6
台湾	50,321	42,015	21	32	52.4
ペルー	43,165	40,604	4,303	4,623	7.4
中国	11,618	39,637	1,785	2,839	59.1
サウジアラビア	42,472	38,073	6,312	8,315	31.7
オランダ	59,293	35,709	1,795	2,157	20.2
英国	41,033	27,199	1,186	1,016	-14.3
ブラジル	37,647	19,913	1,230	1,591	29.4
ボリビア	25,207	19,569	3,465	2,868	-17.2
ドイツ	29,907	18,880	256	592	131.3
カナダ	22,675	18,133	1,541	102	-93.4
ロシア	29,428	17,979	499	1,204	141.3
その他	129,980	112,367	11,224	7,771	-30.8

出典：Trade Data Monitor, LLC

品目名：生食用ブドウ(生鮮)

生産

2019/20年度のチリの生食用ブドウ栽培面積は前年同の47,834ヘクタールであった(図2)。チリでは11年間干ばつが続いており、2019/20年度は干ばつの程度が強かったが、生食用ブドウの生産量は安定しており、835,000トンに達した(表3)。

多くの生食用ブドウ生産者は、貯水池の水利権を有している。また、点滴灌漑システム、専用貯水池、水分ストレスに耐える新品種の導入など、生産性を向上させる措置を講じている。

表3 チリの生食用ブドウ生産需給統計

ブドウ(生鮮) 販売年度 チリ	2017/2018		2018/2019		2019/2020	
	2017/10～2018/9		2018/10～2019/9		2019/10～2020/9	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積	48,202	48,202	47,800	47,800		47,834
収穫面積	46,000	46,000	45,900	45,900		46,000
商業的生産量	910,578	910,578	830,000	830,000	805,000	835,000
非商業的生産量	4,650	4,650	4,600	4,600	4,000	4,600
生産量合計	915,228	915,228	834,600	834,600	809,000	839,600
輸入量	300	300	300	300	300	300
供給量合計	915,528	915,528	834,900	834,900	809,300	839,900
生鮮国内消費量	184,228	184,228	174,900	180,384	169,300	182,900
輸出量	731,300	731,300	660,000	654,516	640,000	657,000
非販売数量	0	0	0	0	0	0
出荷量合計	915,528	915,528	834,900	834,900	809,300	839,900

単位：ヘクタール、トン

出典：報告者推計



出典：農業研究政策局(ODEPA), 2020

消費

チリは、生食用ブドウ生産量の約80%を輸出し、残りの20%を国内で消費していると見られ、報告者は2019/20年度の国内消費量を182,900トンと推計する。

貿易

2019/20年度の生食用ブドウの輸出量は、前年度と実質的に変わらない657,000トンと推計する。

米国はチリの生食用ブドウ輸出の63%を占める主要市場である。2019/20年度の米国向けの生食用ブドウ輸出量(3月までのデータ)は対前年度比3.51%増の200,515トンであった(表4)。

中国はチリ産生食用ブドウの第2の市場であり、2019/20年度の輸出量(3月までのデータ)は対前年度比5.23%増の30,669トンであった。チリの果実輸出業者は中国市場での販売促進のために資金と努力を集中しており、報告者は中国向け輸出が今後増加し続けるものと見ている。

表4 チリの生食用ブドウ輸出量

品目：080610 ブドウ（生鮮）

（単位：トン）

輸出先	販売年度		前年10月～当年3月の輸出量		
	2017/18	2018/19	2019	2020	増減率(%)
世界計	731,258	654,516	316,958	328,701	3.70
米国	328,081	295,149	193,712	200,515	3.51
中国	118,155	106,391	29,145	30,669	5.23
韓国	32,212	41,129	23,948	18,334	-23.44
オランダ	43,726	29,946	6,159	11,366	84.54
英国	32,823	24,641	5,883	7,803	32.64
メキシコ	16,505	15,839	11,592	10,512	-9.32
カナダ	17,182	15,659	8,800	9,359	6.35
日本	8,972	13,548	9,624	10,466	8.75
ロシア	16,700	11,318	2,516	4,320	71.70
ブラジル	16,162	9,170	3,064	1,514	-50.59
スペイン	10,253	9,073	3,107	3,966	27.65
ドイツ	9,316	8,680	2,323	1,427	-38.57
エクアドル	7,805	8,212	2,608	3,465	32.86
インドネシア	6,947	8,004	224	0	-100
サウジアラビア	5,736	6,650	1,554	1,096	-29.47
その他	60,683	51,107	12,699	13,889	9.37

出典：Trade Data Monitor, LLC

政策

チリ農業省農畜産局(SAG)は、2019/20年度もGrapevine Moth (*Lobesia botrana*) (蛾の一種)の防除に関する国家プログラムを引き続き実施している。SAGの対策は、チリの全土で生産されるすべての生食用ブドウについて強制的に適用される。

システムアプローチの下で米国に生食用ブドウを輸出するチリの要求は、米国農務省動植物検疫局(US DA-APHIS)の審査待ちである。

品目名：ナシ(生鮮)

生産

2019/20年度のチリのナシ栽培面積は7,272ヘクタールで、前年度に対して11.5%減少した(図3)。その結果、チリの生鮮ナシの生産量は10%減の225,000トンに低下した(表5)。

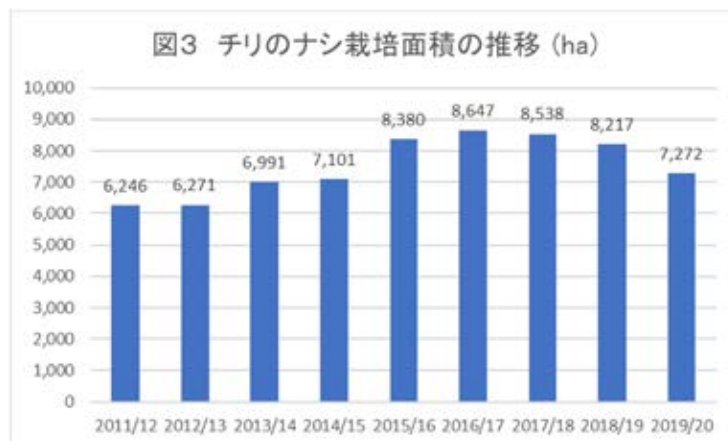
チリの中央に位置するオイギンズ州とマウレ州は、チリのナシ栽培面積のそれぞれ62%と26%を占めている。これらの地域の栽培面積は、オイギンズ州で2.1%、マウレ州で12.2%減少した。2019年4月にチリ産ナシの中国向け輸出が解禁されたことは、ナシ生産者の将来の輸出機会を拡大するものである。

表5 チリのナシ生産需給統計

ナシ(生鮮) 販売年度 チリ	2017/2018		2018/2019		2019/2020	
	2018年1月～12月		2019年1月～12月		2020年1月～12月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積	8,538	8,538	8,157	8,157		7,272
収穫面積	8,200	8,200	8,100	8,100		7,250
結果樹本数	8,610	8,610	8,505	8,505		7,500
非結果樹本数	1,155	1,155	1,050	1,050		900
果樹本数合計	9,765	9,765	9,555	9,555		8,400
商業的生産量	260,000	260,000	250,000	250,000	225,000	225,000
非商業的生産量	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
生産量合計	262,000	262,000	252,000	252,000	227,000	227,000
輸入量	600	600	600	600	600	600
供給量合計	262,600	262,600	252,600	252,600	227,600	227,600
生鮮国内消費量	76,600	76,600	71,000	70,000	67,000	67,000
輸出量	129,000	129,000	130,000	131,531	117,000	117,000
加工仕向け量	57,000	57,000	51,600	51,069	43,600	43,600
非販売数量	0	0	0	0	0	0
出荷量合計	262,600	262,600	252,600	252,600	227,600	227,600

単位：ヘクタール、1000本、トン

出典：報告者推計



出典：農業研究政策局(ODEPA)

消費

2019/20年度のナシの国内消費量は67,000トン、加工仕向け量は43,600トンと推計する(表5)。

報告者は、チリ産ナシの51%が輸出市場、30%が国内市場に仕向けられており、残りの19%が加工用であると推計する。

貿易

2019/20年度のナシの輸出量は、栽培面積と生産量の減少のため、対前年度比11%減の117,000トンと推計する。

2019/20年度の3月までのデータでは、チリのナシ輸出量は前年度に対して4%増の43,211トンであった(表6)。しかし、輸出のピーク月は4月と5月なので、3月までのデータは直近の減少傾向を反映していない。チリ農業省研究政策局(ODEPA)の2020年4月の輸出量データは22,191トンで、対前年比16%の減少となった。

チリの生鮮ナシの主な輸出市場はコロンビア、ロシア、オランダ、イタリアである。2020年第1四半期のコロンビア向け輸出量は対前年同期比8%増加し、第2位の市場であるロシアへの輸出量は24%減少した。一方、米国向けのナシ輸出量は18%増の4,412トンとなり、米国は今年現時点までの主要輸出先の一つとなった。

表6 チリのナシ輸出量

品目：080830 ナシ（生鮮）

(単位：トン)

輸出先	販売年度		1月～3月の輸出量		
	2017/18	2018/19	2019	2020	増減率(%)
世界計	129,003	131,531	41,403	43,211	4
コロンビア	20,446	21,345	5,568	6,025	8
ロシア	15,455	20,032	3,798	2,875	-24
オランダ	17,649	13,080	4,699	4,266	-9
イタリア	10,937	12,513	6,550	8,476	29
エクアドル	10,117	11,632	3,018	2,945	-2
ペルー	11,820	11,620	2,481	2,455	-1
米国	11,930	9,921	3,724	4,412	18
スペイン	5,233	5,564	4,995	4,779	-4
ドイツ	7,097	4,224	590	853	45
ブラジル	2,878	3,210	992	374	-62
サウジアラビア	2,034	2,379	1,389	1,418	2
パナマ	1,911	1,992	312	324	4
中国	22	1,794	0	622	0
メキシコ	696	1,558	139	69	-50
フランス	830	1	721	651	-10
その他	9,948	9,316	2,427	2,667	-10

出典：Trade Data Monitor, LLC

25. ニュージーランドの落葉果樹事情(リンゴ、ナシ)

米国農務省GAINレポート(2020年5月15日)

これは米国農務省海外農業局ウェリントン事務所(ニュージーランド)が作成した「生鮮落葉果実半期報告書」の訳であり、米国政府の公式見解とは異なる場合があります。長文のため、この記事ではハイライト、要約及び図表のみ掲載します。

ハイライト

COVID-19の流行によりいくつかの課題と混乱が生じたが、リンゴの生産量が過去最高の593,000トンに達する等、ニュージーランドの2019/20年度の落葉果実の生産量は増加すると見込まれる。リンゴの輸出も対前年度比2%以上増の40万トンと予測される。

要約

2019/20年度のリンゴの収穫面積は対前年度比3.5%増の10,180ヘクタールと予測される。近年、栽培面積が強い増加傾向にあったが、COVID-19の流行とそれへの対策により2020暦年の新植面積は大幅に制限される可能性が高い。

当事務所は、2019/20年度のリンゴの生産量の見通しを前回より1%弱引き下げ、対前年度比2.8%増の593,000トンと予測する。この増加は、収穫面積の拡大と良好な天候によるものであるが、収穫・梱包を行う時期のCOVID-19の影響を考慮し生産見通しをわずかに引き下げた。

2018/19年度のリンゴの生産量は、2017/18年を1,350トン(0.2%)上回る576,850トンと推計される。

2019/20年度のリンゴの輸出量は史上最高の40万トンと予測されており、これは2018/19年度に比べて2.3%増となるが、前回の見積もりをわずかに下回っている。リンゴの生産量の増加は輸出を押し上げるはずであるが、COVID-19の流行のためになにがしかの混乱が予想される。

2018/19年度のリンゴの輸出量は、対前年度比5.8%増の390,942トンに達した。これは、リンゴの生産量は前年度とほぼ同じであったが、輸出に適した品質のリンゴの割合が多く、輸出が好調であったためである。

今年度のリンゴの加工仕向け量は、前年度を5.7%上回る119,400トンと予測する。これは、生産量が増加したほか、輸出に適した品質のリンゴの割合が減少すると見込まれるためである。2019/20年度の国内消費量は、前年度を0.6%上回る74,000トンと予測される。

当事務所は、2019/20年度のナシの生産量を対前年度比4.5%増の13,150トンと予測する。天候に恵まれたことが増加の主な理由である。2019/20年度のナシの輸出量は2018/19年度と同じ4,000トンと予測する。

2018/19年度のナシの生産量は対前年度比9%減の12,585トンと推計される。2018/19年のナシの輸出量は対前年度比18%減の3,934トンであった。

注: 販売年度は1月1日から12月31日までであり、北半球の販売年度の表記に合わせて「2019/20年度」等としているが、例えば2019/20年度は2020年1月1日から2020年12月31日を指す。

ニュージーランドの落葉果樹栽培面積（品種別）										
										単位：ヘクタール
品種名 \ 収穫年（暦年）	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
Braeburn	1,740	1,589	1,504	1,381	1,352	1,303	1,239	1,199	1,111	964
Cox	236	203	178	150	134	121	111	101	81	
Cripps Pink/Pink Lady	434	446	459	443	461	523	562	606	655	717
Dazzle										280
Envy	174	272	285	315	346	416	544	610	733	856
Fuji	970	934	906	832	837	858	831	854	848	822
Granny Smith	256	256	246	240	219	233	231	247	230	250
Honey Crisp							141	151	151	140
Jazz	983	943	905	869	855	825	821	807	844	868
Koru							120	150	160	150
Pacific Beauty	127	120	113	92	84	83	71	56	49	
Pacific Queen	291	351	456	622	730	827	878	880	862	859
Pacific Rose	399	396	390	379	364	365	342	321	260	227
Pacific 系品種小計	817	867	959	1,093	1,178	1,275	1,291	1,257	1,171	1,086
Rockit										272
Royal Gala & sports	2,423	2,369	2,386	2,337	2,410	2,549	2,604	2,708	2,859	2,853
その他の品種	376	385	484	709	790	707	643	759	972	817
リンゴ栽培面積合計	8,409	8,264	8,312	8,369	8,582	8,810	9,138	9,449	9,815	10,075
ナシ栽培面積合計	473	441	448	403	407	403	371	361	375	342
未登録				383	320	384	395	409	425	450
合計	8,882	8,705	8,760	9,155	9,309	9,597	9,904	10,219	10,615	10,867
リンゴに占めるBraeburnの割合	20.7%	19.2%	18.1%	16.5%	15.8%	14.8%	13.6%	12.7%	11.3%	9.6%
リンゴに占めるRoyal Galaの割合	28.8%	28.7%	28.7%	27.9%	28.1%	28.9%	28.5%	28.7%	29.1%	28.3%

出典：A&PNZI Survey

注：未登録面積には現在輸出向け果実を栽培していない栽培面積を含む。

生産需給統計（下表）の収穫面積には非商業的栽培面積の推計値を含む。

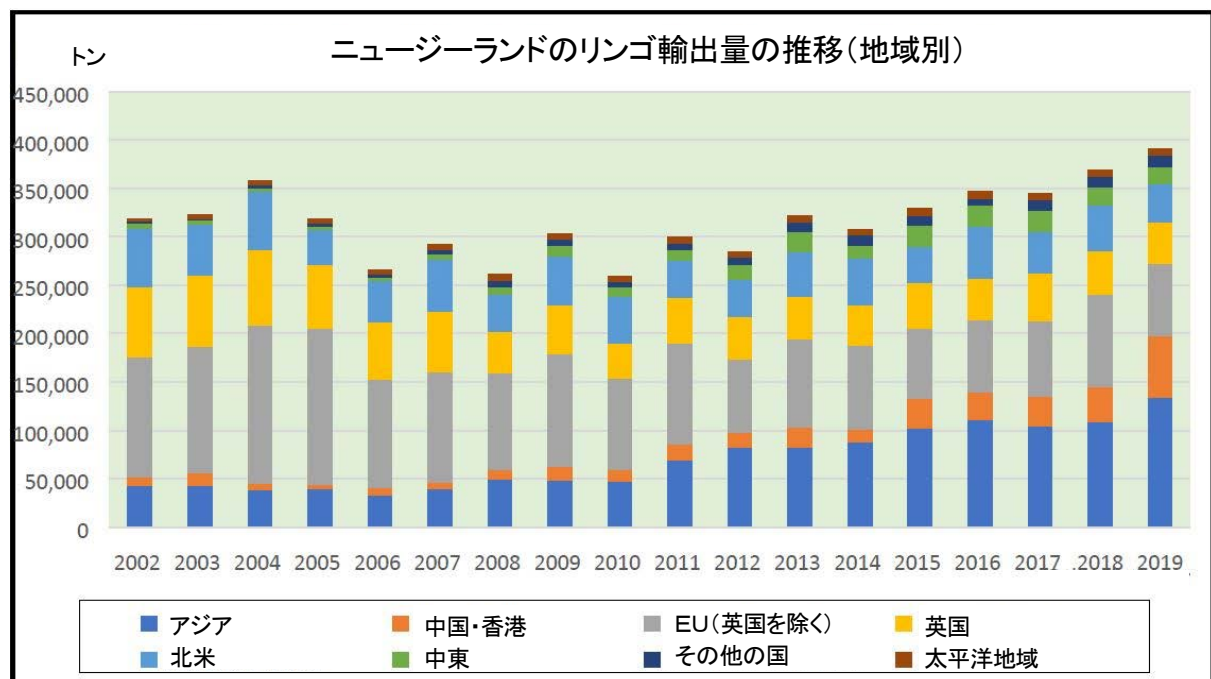
ニュージーランドのリンゴ生産需給統計

リンゴ（生鮮） 販売年度 ニュージーランド	2017/2018		2018/2019		2019/2020	
	2018年1月～12月		2019年1月～12月		2020年1月～12月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積	9925	9925	10315	10315	10725	10725
収穫面積	9450	9450	9835	9835	10180	10180
結果樹本数	0	0	0	0	0	0
非結果樹本数	0	0	0	0	0	0
果樹本数合計	0	0	0	0	0	0
商業的生産量	572500	572500	573850	573850	595000	590000
非商業的生産量	3000	3000	3000	3000	3000	3000
生産量合計	575500	575500	576850	576850	598000	593000
輸入量	200	164	200	617	200	400
供給量合計	575700	575664	577050	577467	598200	593400
生鮮国内消費量	73525	73500	74050	73525	73200	74000
輸出量	369400	369389	390000	390942	405000	400000
加工仕向け量	132775	132775	113000	113000	120000	119400
非販売数量	0	0	0	0	0	0
出荷量合計	575700	575664	577050	577467	598200	593400

単位：ヘクタール、1000本、トン

ニュージーランドの生鮮リンゴ輸出統計								
輸出先国	暦年別輸出量（トン）					1月～3月の輸出量（トン）		
	2015	2016	2017	2018	2019	2019	2020	増減率(%)
E U	73,327	76,117	79,827	97,996	76,389	10,630	9,972	-6.2%
中国	20,331	17,491	16,586	22,171	45,015	9,062	9,604	6.0%
英国	47,236	42,925	49,237	44,665	43,299	5,833	3,222	-44.8%
米国	32,070	48,625	38,220	40,462	33,883	1,776	1,397	-21.3%
タイ	30,141	24,889	23,605	18,654	32,890	5,377	4,545	-15.5%
ベトナム	4,248	8,316	13,311	18,149	25,874	2,839	4,164	46.7%
台湾	22,096	32,183	23,673	22,437	20,858	3,154	2,772	-12.1%
香港	10,599	10,183	13,416	14,074	19,010	2,959	3,049	3.0%
インド	15,007	13,253	9,667	25,787	17,068	5,197	4,712	-9.3%
アラブ首長国連邦	18,764	17,785	18,178	15,424	14,198	4,329	6,357	46.8%
その他の国	55,212	55,146	59,210	49,570	62,458	8,085	9,918	22.7%
世界計	329,031	346,913	344,930	369,389	390,942	59,241	59,712	0.8%

出典: Trade Data Monitor LLB



ニュージーランドの生鮮リンゴ輸入統計						
輸入先国	暦年別輸入量（トン）				1月～3月の輸入量（トン）	
	2016	2017	2018	2019	2019	2020
米国	281	414	152	467	0	183
ポーランド	0	0	12	0	0	0
N Z（再輸入）	42	43	0	150	0	42
イタリア	0	25	0	0	0	0
世界計	323	482	164	617	0	225

出典: Trade Data Monitor LLB

ニュージーランドのナシ生産需給統計

ナシ(生鮮) 販売年度 ニュージーランド	2017/2018		2018/2019		2019/2020	
	2018年1月～12月		2019年1月～12月		2020年1月～12月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積	395	395	375	402	390	370
収穫面積	370	370	360	385	375	352
結果樹本数	0	0	0	0	0	0
非結果樹本数	0	0	0	0	0	0
果樹本数合計	0	0	0	0	0	0
商業的生産量	13612	13612	13000	12385	13800	12950
非商業的生産量	200	200	200	200	200	200
生産量合計	13812	13812	13200	12585	14000	13150
輸入量	3700	3650	3400	3949	3300	3850
供給量合計	17512	17462	16600	16534	17300	17000
生鮮国内消費量	10812	10750	10800	10800	11300	11000
輸出量	4800	4812	4000	3934	4000	4000
加工仕向け量	1900	1900	1800	1800	2000	2000
非販売数量	0	0	0	0	0	0
出荷量合計	17512	17462	16600	16534	17300	17000

単位:ヘクタール、1000本、トン

ニュージーランドの生鮮ナシ輸出統計								
輸出先国	暦年別輸出量 (トン)					1月～3月の輸出量 (トン)		
	2015	2016	2017	2018	2019	2019	2020	増減率(%)
台湾	846	1,662	1,226	1,865	1,540	1,502	869	-42.1%
米国	1,102	1,121	1,072	1,264	673	172	202	17.4%
中国	151	45	326	497	647	386	111	-71.2%
フィジー	119	251	101	137	199	71	77	8.5%
シンガポール	121	103	117	50	72	66	48	-27.3%
香港	467	471	69	34	59	39	24	-38.5%
E U	100	71	53	150	51	50	66	32.0%
ニューカレドニア	16	24	11	38	29	11	7	-36.4%
ウォリス・フツナ	2	9	21	21	23	4	2	-50.0%
クック諸島	16	19	21	21	22	3	4	33.3%
その他の国	223	267	176	203	101	57	138	142.1%
世界計	4,187	4,612	3,785	4,812	3,934	2,591	1,778	-31.4%

出典: Trade Data Monitor LLB

ニュージーランドのナシ輸入統計							
輸入先国	暦年別輸入量 (トン)				1月～3月の輸入量 (トン)		
	2016	2017	2018	2019	2019	2020	増減率(%)
オーストラリア	2,108	3,171	2,707	2,822	103	142	37.86
中国	505	718	500	576	43	125	190.70
米国	513	572	359	455	0	20	0
韓国	106	93	84	97	0	0	0
イタリア	0	4	0	0	0	0	0
世界計	3,231	4,559	3,650	3,949	145	287	97.93

出典: Trade Data Monitor LLB

26. 南アフリカ グレープフルーツの輸出見通しが下方修正

EUROFRUIT電子版(2020年5月18日)

南アフリカのグレープフルーツ業界筋は、今季の輸出見通しを大幅に落とした。史上最大の輸出予測は、シーズンの開始から1ヶ月で下方修正されることとなった。

シーズン中業界の出来事を見守っている同国の「グレープフルーツ・フォーカス・グループ」は、今期の輸出量が、昨年の1,610万箱に対して1,460万箱となる見込みであると発表した。当初の見積もりでは、輸出量は1,670万箱と予測されており、推定値は200万箱以上、約12%減少した。柑橘類全体の予測も1億4,390万箱から1億4,100万箱強に減少する。



南アフリカの柑橘類業界は、今シーズンこれまで、特にヨーロッパで柑橘類の需要が高いという報告によって活気付いていた。これはレモンの高価格がもたらしたもので、グレープフルーツ生産者は、この傾向が彼らにも利益をもたらすことを望んでいた。

物流業者は、柑橘類の需要が高いことと、出荷時期が早まったことから、今年の西ヨーロッパへの柑橘類の出荷は概して増加していると言っていた。グレープフルーツの予測の減少について柑橘類生産者協会(CG A)は説明していないが、強い需要がすべての種類の柑橘類で続くわけではないという最初の兆候かも知れない。

果実の輸出のためのコンテナの確保は、多数の貨物が南アフリカの港に到着したことにより、4月よりもはるかに容易になっている。ケープタウン港は依然として問題であるが、東海岸の港の操業は大幅に改善された。

CGAは輸出業者に対し、COVID-19症例の発生状況によっては、コンテナターミナルの操業がいつでも影響を受ける可能性があると言っている。前出のグループは、「柑橘類の輸出業者は、COVID-19の流行が終息するまでは、ターミナルの操業中断がいつでも起こる可能性があることを念頭に置く必要がある。」としている。

物流業者は、「船舶は遅延を避けてスケジュールを維持するため、しばしばケープタウン港を通過する。カナダ行き船舶であれば、ケープタウン港からの次の船は14日待たなければならないかも知れない。」と指摘しており、南アフリカの港からの積み出しにはまだ多くの不確実性がある。

ケープタウン港コンテナターミナルの先週の状況では、停泊している7隻のうち、4隻(船舶名省略)はEUと英国の船であった。

CGAは、EU、英国及びロシア向けのブレイクバルク輸送(コンテナを使わない輸送方法)を行う輸出業者は、これらの主要市場への柑橘類の供給に関して有利な立場にあるようだとした。業界の一部では、従来型の冷蔵船の使用が現在のコンテナターミナルの問題の解決策として推奨されている。

しかし、海運事業の経験が豊富な人々は、従来型の冷蔵船による出荷は、コンテナ船の現実的な代替手段になるには積載量が十分でないと指摘している。ある情報筋は、従来の冷蔵船は特定の限られた目的地向けには使用できるかも知れないが、1隻のコンテナ船は、大部分の冷蔵船の5~6倍多くの貨物を運ぶことができる上、コンテナはドア・ツー・ドアで輸送できることも考慮すべきだと説明している。

27. 日本の果実輸入 コロナ禍を乗り切る(外国人記者の目)

ASIAFRUIT電子版(2020年5月18日)

日本の消費者の果実に対する需要は増加を続けており、COVID-19の蔓延にもかかわらず生鮮果実の輸入は大部分維持されている。



日本の消費者がより高い価格でより多くの果実を購入したため、2020年3月の日本の生鮮果実の輸入は前年比で増加した。

日本の財務省が公表したデータによると、日本は2020年3月に対前年比1.3%増の134,695トンの生鮮果実を輸入した。

多くの主要品目が前年に比べて増加し、バナナが6%増の81,618トン、パイナップルが6%増の12,208トン、生食用ブドウが6%増の8,148トンであった。キウイフルーツは、ニュージーランド産が早く到着したため、3月の輸入量は3,258トンと前年同月に比べて230%増加した。

また、2020年第1四半期についても、コロナウイルスの蔓延にもかかわらず、日本の生鮮果実輸入は総じて安定していたことが示された。この期間の日本の生鮮果実輸入量は370,898トンで、前年の361,884トンに対し2%増加した。

これらの増加は果実の家計消費にも反映されており、日本の総務省のデータによると、2020年3月には日本の消費者は前年より多くの果実をより高い価格で購入し、支出の増加につながった。一世帯当たりでは、前年同月比2.5%増の5.61kgの果実を購入し、支出額は同5.3%増の2,895円(27米ドル)であった。

訳注:

5月28日発表の財務省貿易統計によると、4月の生鮮果実(HS08.03~08.10のうち生鮮のもの)の輸入量は 168,887トンで、対前年同月比2.5%の減少(1月~4月の累計では539,765トンで、同0.9%の増加)であった。5月29日付け日本農業新聞7面の記事に主要品目別の詳細が記されている。

28. 米国の青果物国内販売額 17%増で引き続き好調

The Packer電子版(2020年5月19日)

米国の生鮮青果物国内販売額を前年の同じ週と比較すると、コロナウイルスが蔓延し始めて以来の週(3月1日までの週から5月10日までの週)の総合で17%以上増加した。IRI(米国の情報調査分析会社)のデータによると、5月10日までの一週間の生鮮野菜の販売額は2019年に比べて23.1%増加し、生鮮果実の販売額は11.7%増加した。

IRIの青果物担当チームリーダーであるパーカー氏はニュースリリースで、「(販売額の増加は)魅力的ではあるが、『ニューノーマル』により従来のベースラインに比べてどれだけ増えるか見極めるのはまだ少し早すぎる。変化の後の日々の需要が、1年前に比べて売上を大きく押し上げていることには疑いの余地がない。しかし、人々が肉を買いだめした際に、青果物が「ついで買い」の恩恵を受けた可能性もある。母の日の外食が家庭内での調理へシフトしたことが青果物の売上に寄与したことも重要だ。」と述べている。

210アナリティクス(米国の情報調査分析会社)のローリンク主幹はニュースリリースで、「この変化は食料品小売業者にとって、パンデミック中の休日に関する重要な教訓だ。消費者はパンデミックにもかかわらず、お祝い事をしているが、昨年とは異なる方法で祝っている。」と述べている。

一部の州では現在、外出制限が解除され、一部の企業活動が再開されているが、前出のパーカー氏は、多くの人々が以前よりも多くオンラインで買い物をしているので、小売業者は農産物のオンライン販売をさらに改善する必要があると主張する。

「この時期、様々な夏の果物や野菜が出てくると、多くの小売業者は従来、目を引く商品展示や商品を組み合わせた休日向けの強力なディスプレイを設置した。しかし、店内では買い物の行程を最小限にしようと買い物客が足早に通り過ぎることを踏まえれば、デジタル広告で仮想的な組み合わせ販売や休日向け販売を行ったり、オンラインでの購入やお祝い事を刺激し支援する注文プラットフォームを構築したりすることに取り組む必要がある。最高品質のスイカが入荷したら、ソーシャルメディアでそれについて発信し、買い物客の関心を盛り上げることだ。」とパーカー氏は提案する。

5月10日までの一週間では、ベリー類、レタス、ジャガイモ、トマト、オレンジが販売額の増加をリードした。このほかピーマン、タマネギ、アボカド、キノコ、メロンがトップ10に入る。しかし、これらの品目の一部では、販売額は販売数量が増えた程には増加しなかった。

青果物販売協会のワトソン副会長はリリースで、「果物では、パイナップル(-17%)、モモ(-14%)、アボカド(-13%)、メロン(-10%)などの品目の重量当たりの単価が前年の同じ週に比べて大幅に低下した。各品目で、販売額の増加をはるかに上回る販売量の増加が見られるので消費者の需要はあるのだが、市場の状況は価格を圧迫している。しかし、タンジェリン(+11%)など、重量当たり単価が上昇している品目もいくつか見え始めている。」としている。

野菜では、販売量と販売額のギャップが大きい品目は、タマネギ、セロリ、芽キャベツ、カリフラワー等であった。一方、ジャガイモの販売額は引き続き堅調で、パンデミックの期間を通じどの品目よりも売り上げを伸ばしている。トップ10の野菜は、5月10日までの一週間にすべて2桁の増加を示した。パーカー氏は、「これは日常的な需要の高まりを示している。レタス、ジャガイモ、ピーマン、タマネギなどの長期にわたる好調な売れ行きが示していることはただ一つ、アメリカ人が料理をしているということだ。これは今後長期にプラスの影響を与えるだろう。」と述べている。

カットサラダの売り上げは、前年比11.7%増加した。パーカー氏はリリースで、「冷凍食品の強さは、消費者が時間をかけて一から作る『検疫料理』に加えて、簡便な食事の選択肢を求めていることを示すものだ。手軽な昼食や夕食、特に午後遅くから夕方のオンライン予約や配達注文向けに、ローストチキンと出来合いのサラダの組み合わせ販売はどうか。」としている。

29. フィリピン 台風で果実等30億円以上の作物被害

FreshPlazaウェブサイト(2020年5月21日)



フィリピン農業省(DA)は5月20日、台風フォンフォンによる作物被害が15億6千万ペソ(約33億円)に達し、45,430戸の農民に影響を与えたと発表した。

速報によると、地元で「アンボ」と名付けられたこの台風により、6つの地域の28,476ヘクタールの農地で、69,935トンの作物が被害を受けた。

影響を受けた地域は、中部ルソン地方、カラバルソン地方、ミマロパ地方、ビコール地方、東ビサヤ地方、コルディラ管理地区(訳注:フィリピン北部から中部の地域。地名詳細省略)にまたがり、バナナ、パパイヤ、その他の果物、野菜などの価値の高い作物が最も大きな打撃を受け、11億3千万ペソと総損失額の73%を占めた。

30. ベトナムの米農家 水不足のため果物や野菜に転換

FreshPlazaウェブサイト(2020年5月25日)

メコンデルタに位置するティエンザン省では、気候変動による水不足に適応する取り組みの一環として、ますます多くの米農家が他の作物に切り替えた。

州の農業農村開発局によると、メコン川の支流であるティエン川上流地区にあるカイライ県とカイバー県の米農家は、2019-20年の乾季には他の作物に完全に切り替えるか、または他の作物と米のローテーションを取り入れた。

カイバー県では現在、5,300ヘクタール以上の生産性の低い水田を使用して特産果実を栽培しているほか、別の1,200ヘクタールで野菜と米のローテーションを行っている。

カイバー県農業農村開発局のファン局長は、農民はゴーヤ、キュウリ、タマネギなど多くの価格の高い野菜を栽培したと言う。それらの作物は生育期間が短く、収量が多く、水の必要量が少なく、米よりも収益性が高い。

同局によると、2つの県で野菜を栽培する農家は、米の3~5倍の収入を得ているという。カイライ県は今年、これまでに67の灌漑プロジェクトに296億ドン(約1億4千万円)以上を投資した。州は、干ばつや海水の侵入のために深刻な水不足に直面している特産果樹を維持するために他の場所から水を輸送した。

約2,275ヘクタールの果樹園が水不足の影響を受けており、2,186ha が30~70%の被害を、残りが70%以上の被害を受けている。

国内最大の果物産地であるティエンザン省では、ミルクアップル、マンゴー、ドリアン、ドラゴンフルーツなどの特産果実をはじめとする果樹園地が77,700ヘクタール以上に及び、年間生産量は150万トン以上である。

31. メキシコのアボカド輸出額が第1四半期に3割近く急増

FreshFruitPortalウェブサイト(2020年5月25日)

今年第1四半期のメキシコのアボカド輸出は、恵まれた市場条件と気象条件によって拍車がかかり、前年同期比で3割近く増加した。

メキシコ中央銀行のデータによると、1月から3月までの輸出額は前年の6億4千万米ドルから8億2,200万米ドルへ28%増加した。これは主に、3月の輸出額が2億4,300万米ドルから3億6,500万米ドルへ56%増と大幅に増加したことによる。1月と2月にも輸出額は増加したが、増え方は控えめであった。

この記録的な数字は、メキシコでの栽培条件が良好であったことと、圧倒的首位の輸出先である米国市場が好調であったことで達成された。3月としては過去最高の輸出額を記録したが、年間を通じての月別過去最高である2019年8月の3億9,500万米ドルには及ばなかった。

3月のアボカドの米国での小売り売上高は、COVID-19パンデミックの初期に消費者が食料品を買いだめしたことで急増した。この月の後半3週間の週間売上高は、前年比17%から28%増加した。それ以降の数週間の売上高は週により様相が異なるが、依然として高水準となっており、週ごとの対前年比では2%～20%の増加となっている。

メキシコ産のアボカドは、今年の第1四半期に米国の果物輸入が4%増加した主な要因でもあった。米国農務省のデータによると、アボカドの輸入額は7億6百万米ドルで、これはメキシコの輸出量の約16%だけがカナダ、日本、ヨーロッパなどの他の市場に行ったことを意味する。

ちなみに、2019年のメキシコのアボカド輸出総額は29億米ドルであった。

32. 米国カリフォルニア州のブドウ 昨年より出荷が早く、量が多い

FreshFruitPortalウェブサイト(2020年5月28日)

ヴァンガード社が提供する最新の情報によると、カリフォルニア州の生食用ブドウの出荷は昨年より早く、わずかに量が多くなるとみられる。

同報告では、全体的な生育条件は、カリフォルニア州全体で良好であり、来シーズンの見通しは前向きであるとしている。

収穫の時期は、当初は昨シーズンより約10日早いタイミングが予想されていたが、一時気温が下がったため数日押し戻され、昨シーズンより数日早い収穫が見込まれることとなった。

2020年の予想出荷量は1億650万箱で、2019年の1億480万箱よりも多いが、過去3カ年平均の1億950万箱を下回っている。

出荷はシーズンの最初から順調と見込まれているが、カリフォルニア州の主産地であるセントラルバレーからの出荷は7月以降となる。

カリフォルニア州で最も出荷が早いコーチェラ地区では、国内市場向けの少量の出荷が始まった。

一方、メキシコ産のブドウも出荷の最中である。2020年のメキシコ産ブドウの出荷量は昨年より約20%少ない1,970万箱と見込まれる。今シーズン初めには天候が悪く出荷の開始が遅れたが、その後の出荷量は増加している。

カリフォルニア州の出荷が早い地域(コーチェラ地区)は、6月いっぱいメキシコ産と競合する。

33. 世界の核果類市場(アプリコット、ネクタリン、モモ)

FreshPlazaウェブサイト(2020年5月29日)

ヨーロッパのアプリコット、モモ、ネクタリンの生産量は昨シーズンよりも少ないと推計されている。これは、長期的な傾向である一方、他方ではスペインのアラゴン州及びカタルーニャ州、フランスのローヌ川流域並びにイタリア北部で見られた暖冬(アプリコットにあまり良くない)や晩霜など収穫前の気象条件の影響もある。

米国のカリフォルニア州も同様の気象条件に対処しなければならなかった。イタリアは霜の影響を受け、エミリア・ロマーニャ州では収穫量が昨年と比較して80%減少すると見込まれる。このため、イタリアの生産量は100万トンを下回ると予想されており、これは25年振りのことである。業界関係者が最も懸念しているのは、コロナウイルス危機とその将来の成り行きである。ヨーロッパ域内の国境は観光客に再度開かれるのか、それとも閉鎖されたままなのか。いずれにしても、スーパーマーケットの需要が需要全体を高く保っている。オーストラリア産果実は、輸出品の多くが港で立ち往生し、冷蔵コンテナから取り出すことができないなどコロナウイルスの影響を大きく受けた。



オランダ: 核果類の需要は高いが入荷が少ない

オランダ市場では現在、ネクタリンの需要が高いが、ほとんど入荷がない。輸入業者は、スペイン北部産が市場に出回るまで、価格は高水準にとどまると予想している。バントウ(蟠桃。扁平なモモ)の供給は着実に増加しており、その販売も順調で価格はかなり高い水準にある。小玉のモモは比較的容易に入手できる一方、大玉の需要が高い。市場への供給が増加するにつれて、価格はわずかに下がるものと見られる。

ドイツ: 大玉ネクタリンの需要は高い

現在は核果類の出盛りの時期である。先週、スペインから最初のバントウがドイツ市場に入荷したので、今はすべての種類の核果類が出揃った。ある輸入業者は、「核果類の需要は、全体的に非常に良い。大玉のネクタリンは現在、消費者に特に人気がある。近年は一般的にネクタリンの売り上げが増えているが、モモも好調だ。」と言う。

核果類の出盛りは復活祭の直前に始まったが、その初期にスペインが嵐に見舞われたため、核果類業界は懸念を募らせた。降水量が多かったため、アプリコットの収穫開始は遅延した。困難なスタートにもかかわらず、供給は現在正常に戻っているようである。現在は、フランス産アプリコットの入荷が待たれる。ドイツの一部の卸売市場では既に少量が入荷しているが、ほとんどの輸入業者はまだ最初の荷を待っている。

フランス：気象条件が悪くアプリコットの収穫量が少ない

アプリコットの収穫は、昨年より1週間早く先週フランス南西部で始まった。しかし、雨や雹による被害が多く発生している。このため、核果類の需要が良好で価格も高い一方で、産地からの出荷量は少ない。モモとネクタリンの初荷の到着は来週に予定されており、ネクタリンよりもモモの品質が高いと期待されている。病気や気象条件でいくつかの問題があったが、十分な出荷量が見込まれる。

スペイン：核果類の価格は高い

スペインの核果類の状況は、昨年と全く異なっている。もし何も変わらなかったら今年の状況は大惨事になっていたのも、これは良いことである。在庫は昨年に比べて少ない。今シーズンは昨年より2週間早く始まり、その時点の需要は良好であった。

一部の北欧諸国で記録的に気温が高く暖かいことが、核果類の需要を押し上げている。コロナウイルスのために、人々は健康的な食事を気にかけている。業界関係者は当初、多くの国でのロックダウンやその他の措置に苦しんだが、スーパーマーケットからの需要は高い売り上げを維持しており、結局在庫は空になった。

また、欧州のケータリング業界が再開した結果、需要も増加し続けると見込まれる。観光客の減少は当初懸念されたが、それらの来るはずだった観光客が留まっている母国の需要は増加しており、バランスを保っている。

スペインや他の地中海諸国の生産量の減少は、価格に直接影響を与え、昨年よりも高くなっている。ネクタリンとモモの出荷量は昨年より12%少ない合計1,414,913トンと見込まれる。特にネクタリンは、面積当たりの収量が低下し、品質もやや問題があるため、出荷量は昨年より20%少ない一方で、需要が増加している。モモとバントウは、需要が高まり価格も上昇している。

アプリコットも市場でかなり不足しているが、販売価格に関しては多くの憶測がある。今年は、需要が多く、(品質にもよるが)価格が高い。需要が高いのは、通常フランスとイタリアから仕入れている多くの業者がスペインでも物色しているためである。アプリコットの出荷量は93,740トン(対前年比15%減)と推計されている。この減少は、主にカタルーニャ州とアラゴン州の厳冬と降霜及びカステリーリャ・ラ・マンチャ州の4月上旬の雹を伴う嵐のためである。カタルーニャ州ではタラゴナ県とリエイダ県の降霜により生産量の26%を失った。モモ、ネクタリン、アプリコットの高値は、今シーズンを通して現在の水準にとどまると予想される。コロナウイルスの拡散を防ぐために導入された国境制限のために、アラゴン州、カタルーニャ州、エストレマドゥーラ州では、農場労働者が不足し収穫作業に影響が出るものとみられる。

イタリア：核果類の出荷量がさらに減少

今年は核果類の量が少ない。これは、何年も続いている構造的な問題によるものであるが、今年はコロナウイルスのために労働者の確保が難しいことと、3月下旬から4月上旬にかけて記録された遅霜のためでもある。アプリコットの収穫量は136,000トンと推計されており、これは昨年より56%少なく、2014年から2018年の平均より40%少ない。栽培面積は何年も拡大してきたが、今年は変わっていない。モモとネクタリンの出荷量は概ね82万トン(対前年比28%減)と予測される。この落ち込みは、今年の状況だけでなく、毎年約5%減少している栽培面積の縮小によるものである。パヴィーア種(黄桃)の減少率は前年比44%に達する。

エミリア・ロマーニャ州のアプリコットの収穫は、5月10日に始まり、市場の需要が高かった。核果類の収穫は、プーリア州(パタゴニア種のネクタリン)とバジリカータ州(モガドール種とプリシア種のアプリコット、その後フロップリア、オレンジルビ、キオタ、ファラリア、ファルベラの各品種)でも始まっている。カラブリア州では、ミカド種のアプリコットが収穫され、イタリアとオーストリアのスーパーマーケットへ販売するため直ちに出荷されている。シチリア島の様子は、昨年と同様である。焦点は早生の品種にあり、平均価格が10%上昇している。産地価格は約0.40~0.70ユーロ/キロ程度である。今年はスペイン及びギリシャとの競争も激しい。

ギリシャ：今シーズンの生産は10%減少

ギリシャは欧州最大のパヴィーア種の生産国であり、今年の出荷量は415,000トン(対前年比8.17%減)と推計される。核果類全体の生産量は、前年比9.6%減と見込まれる。核果類の大部分が栽培されるマケドニア地方の降霜が原因の一つである。予想される出荷量はそれでもなお2014~18年の平均よりも3%多い。

トルコ：核果類の需要に関する不確実性

業界関係者は、ネクタリンの需要が昨年よりも少し鈍いことに注目している。消費者は、核果類の日持ちが悪い、いつものような購入意欲が湧いていない。しかし、輸出が増える可能性がまだあり、状況は幾分改善すると予想される。ある輸出業者は「品質は良く、量も多いが、需要が付いてこない。棚持ちはスペインの競合品よりも少し悪い。」と言う。モモとアプリコットを主体とするトルコの核果類輸出は、毎年増加しているが、2019年は2018年よりも少なかった。トルコの出荷時期は5月から9月までで、南東部から始まり、地中海沿岸を経て北部へと続く。トルコの核果類は、主にロシア、ウクライナ、ルーマニア、バルカン半島諸国、ドイツ、イラクなどの市場向けである。また、少量はベラルーシ、英国、ラトビア、リトアニアにも輸出されている。

中国：東南アジアの需要減少のため輸出の減少が見込まれる

中国の核果類の出荷の季節が始まった。モモの一番早い早生品種は、モモの栽培に特化した大規模産地である湖北省産である。市場ではまだ供給が少なく、したがって荷動きは遅い。しかし、国内の需要は依然として存在するため、販売を継続している。

今年の4月には、いくつかの地域で深刻な降雹被害を受け、核果類全体の供給に大きな影響をもたらした。地域によっては、収穫量の半分以上が失われた。今入荷しているものは早生品種である。6月には、入荷量が急速に増加する。

国内市場のほか、一部は東南アジアの国々に輸出されている。しかし、そこでは需要が大幅に減少しており、状況が今後どのように展開するかわからない。中国はまた、多くの核果類を輸入している。今年はチリ産のシュガープラムが好調であった。オーストラリアからも毎年、核果類が入荷する。

北米：核果類のサイズが小さめ

北米市場における核果類の取扱量は、近い将来に増加すると予想される。カリフォルニア州の生産者の間では、現在小さめの果実のサイズも今後改善されると見込まれている。開花から収穫までの期間が短いことと、カリフォルニアの極端な温度変化が小玉化の原因であると考えられている。生産者は、例年よりも果物の品質が優れていることに満足している。

出荷シーズンは昨年と比べて1週間遅く始まり、その後も遅れた。そのため、カリフォルニア州の核果類の出荷期間は長くなると予想される。6月には、生産者はより大きなサイズを出荷できると予想している。小売業者からの需要は良好であり、価格は昨年と比べて大きく変わっていない。

ジョージア州ではモモの豊作が見込まれるが、史上最高であった昨年の数字には達しないとみられる。モモは棚持ちがよくないにもかかわらず、需要は非常に良好であり、価格も昨年に匹敵する。

オーストラリア：コロナウイルスのために多くの核果類が港で立ち往生

多くの核果類関係者は、2019/20年度の出荷と価格の上昇に満足している。コロナウイルス危機については、国内および国際レベルですでにかなりの問題を生じたが、本格的に蔓延したのが輸出シーズンの最中であつたため、市場に及ぼす実際の影響は依然として不明である。例えば、生産物の一部は港で立ち往生し、リーファーコンテナから取り出すことができなかった。栽培の面では、一部の地域は降雹や水利費の高騰に対処しなければならなかった。2018/19年度には、アプリコット(17%増の9,027トン)、ネクタリン/モモ(4%増の119,775トン)ともに増加した。

ニュージーランド：2020/21年度に焦点

ニュージーランドでは、アプリコットの輸出が50%増加し、その他の果物も輸出が増加した。実際、ホークスベイ地方では、最高の出来の部類であつた。同国は現在、2020/21年度のシーズン(訳注：2020年11月～)に向け取り組んでいる。

34. トルコ 日本等アジアへの果実輸出拡大の取り組みを強化

FreshFruitPortalウェブサイト(2020年5月29日)

トルコは、アジアの農産物輸出市場の拡大に向けた取り組みを強化しており、同国貿易省は日本、タイ、フィリピンなどに生鮮果実を輸出するための許可を得る最終段階に入る。

ルーサー・ペッカカン貿易相は月曜日(5月29日)、同省は生鮮野菜・果実の輸出を多様化する戦略計画を加速したと述べ、厳格な食品安全措置のために各国が農産物の輸出制限を解除するには長い時間がかかるかもしれないと付け加えた。

トルコは、2003年にアジアの農業市場拡大に関する貿易委員会を結成して以来、グレープフルーツとレモンを日本に、サクランボを中国及び韓国に、ブドウ、ザクロ、キュウリ、ピーマン、ナス、レタスをセイシェルに輸出する許可を取得している。

大臣は、「トルコの牛乳と乳製品の中国への輸出許可を得たことは、これらの努力の最大の成果の一つである。柑橘類、リンゴ、ブドウ、ザクロが中国向け乳製品に続くことを期待している。トルコの果実生産者は最近、2億1千万ドル規模のタイのリンゴ市場に参入し、まもなくフィリピンにも参入する。」と述べた。

現在、トルコのリンゴのほとんどはインドに輸出されているが、中東、ヨーロッパ及びロシアでも買い手を見つけた。なお、トルコは、年間300万トンのリンゴを生産し、世界第3位にランクされている。

35. 南半球の柑橘類輸出は12%増加の予測

FreshFruitPortalウェブサイト(2020年5月29日)

今シーズンの南半球からの柑橘類の輸出は、レモンとソフト柑橘類の増加によって、前年比12%増加すると予測されている。

最近設立された世界柑橘類機構(WCO)の暫定的な見積もりでは、アルゼンチン、オーストラリア、チリ、ペルー、南アフリカ及びウルグアイの2020年の柑橘類生産量の合計は、対前年比3%減の840万トンで、一方、COVID-19パンデミックに起因する強い需要の中、輸出は350万トンと予測されている。加工仕向量は15%減の240万トン、各国の国内市場向け量は6%減の250万トンと見込まれる。

レモンの輸出は32%増の90万5千トンと最大の増加率が見込まれている。次いで増加率が高いのがソフト柑橘類で、14%増の82万3千トンと見込まれている。レモンとソフト柑橘類の生産量は前年同と見込まれる。

グレープフルーツは、生産量の増加は少ないものの、輸出量は約9%増の26万トンと見込まれる。

最大の品目であるオレンジは、輸出量の増加率が最も小さく、3%増の150万トンと見込まれる。ちなみに、オレンジの生産量は6%減少すると予想されている。

WCOは、ブラジル及びボリビアと緊密に協力しており、まもなく両国のデータを予測に含めることとしている。

世界柑橘類機構がフル活動

昨年10月にスペインのフルーツアトラクションで初めて発表されたWCOは、今や2020年度の活動計画に基づき、フルに活動している。

同機構は、「7月に加盟団体の会議を開催し、業界の状態を見直すとともに、コロナ禍の中での最新の消費動向と生産国の経験の総括を行う。実際この数ヶ月間、柑橘類は健康の観点から消費者にとって最も魅力的な果物の1つとして注目されている。このため、栄養の問題と柑橘類の消費促進についても、この会議で議論する予定である。」としている。

36. ベトナム ライチの輸出検査のため日本の専門家が到着

FreshPlazaウェブサイト(2020年6月1日)

農業農村開発省(MARD)によると、日本市場向けライチの植物衛生措置を検査・監督するため、日本の専門家が6月3日にベトナムに到着する予定だ。

COVID-19の予防と抑制に関する規制の下で、ベトナムに到着する外国人は14日間の検疫を受けなければならない。しかし、ライチの収穫時期が1ヶ月しか無いので、同省は6月にCOVID-19対策国家運営委員会のヴ・ドック・ダム副首相に対し、ベトナムの果物を日本の要件に沿って輸出できるように、日本の専門家を検疫の義務から免除するよう許可を求めた。

MARDは、ベトナムの2つのライチ主産地であるバクザン省とハイズオン省の当局と協力し、これら北部の省に専門家が滞在する間、COVID-19の予防措置を確保すると強調した。

日本の農林水産省(MAFF)は、専門家がベトナムに来て、ライチの出荷単位ごとに植物衛生措置と処理を検査・監督し、日本の専門家によって適格と認められた果実だけが日本に出荷されることを要求した。

今年はベトナムの生鮮ライチが日本の厳しい市場に参入する初めての年となる。過去4年間、MARDはMAFFと協力して試験と交渉を行い、輸出への道を切り開いてきた。

37. フィリピン 世界第2位のパイナップル輸出国の地位を維持

FreshPlazaウェブサイト(2020年6月2日)

国連食糧農業機関(FAO)によると、フィリピンは2019年も世界第2位の生鮮パイナップル輸出国であり、総出荷量は60万トンを超えた。

FAOの最近の市場レポートによると、2019年のフィリピンの生鮮パイナップル輸出量は、前年の44万7,570トンから50%増加の66万7,633トンとなり、世界のパイナップル貿易の21%を占めた。世界一の輸出国は昨年もコスタリカで、200万トン近くを輸出した。

主としてフィリピンの輸出量の増加により、2019年の世界のパイナップル輸出量は5%増加し、320万トンとなった。

FAOは、フィリピンのパイナップル輸出の増加は、栽培面積の拡大、生産性の向上、及び中国からの輸入需要の「強い増加」によるものだとしている。

フィリピンのMD2品種のパイナップルは、糖度が高く周年供給が可能であることから、中国市場で好評を得ている。中国の国産パイナップルの収穫期間は3月から5月の間の2～3ヶ月に限られている。

FAOのデータによると、昨年のフィリピンの生鮮パイナップル輸出量は、2013～2017年の平均輸出量42万9,260トンに比べて55.5%の増であった。

出典: businessmirror.com.ph

(訳注)

2019年の日本の生鮮パイナップル輸入量は15万3,242トン(対前年比3.6%減)で、品目別ではバナナ(104万トン)に次いで生鮮果実の第2位であり、輸入先では第1位のフィリピン(14万6,124トン、同1.8%減)が大部分を占め、第2位がコスタリカ(3,809トン、同40%減)でした。

38. 南アフリカの柑橘類事情(グレープフルーツ、オレンジ、ソフト柑橘類)

米国農務省GAINレポート(2020年6月1日)

これは米国農務省海外農業局プレトリア事務所(南アフリカ)が作成した「柑橘類半期報告書」の訳であり、米国政府の公式見解とは異なる場合があります。長文のため、この記事ではハイライト、グレープフルーツ(日本への輸出が多い)、オレンジ及びソフト柑橘類(ミカン等手で皮がむける柑橘類)の項のみ掲載します。

ハイライト

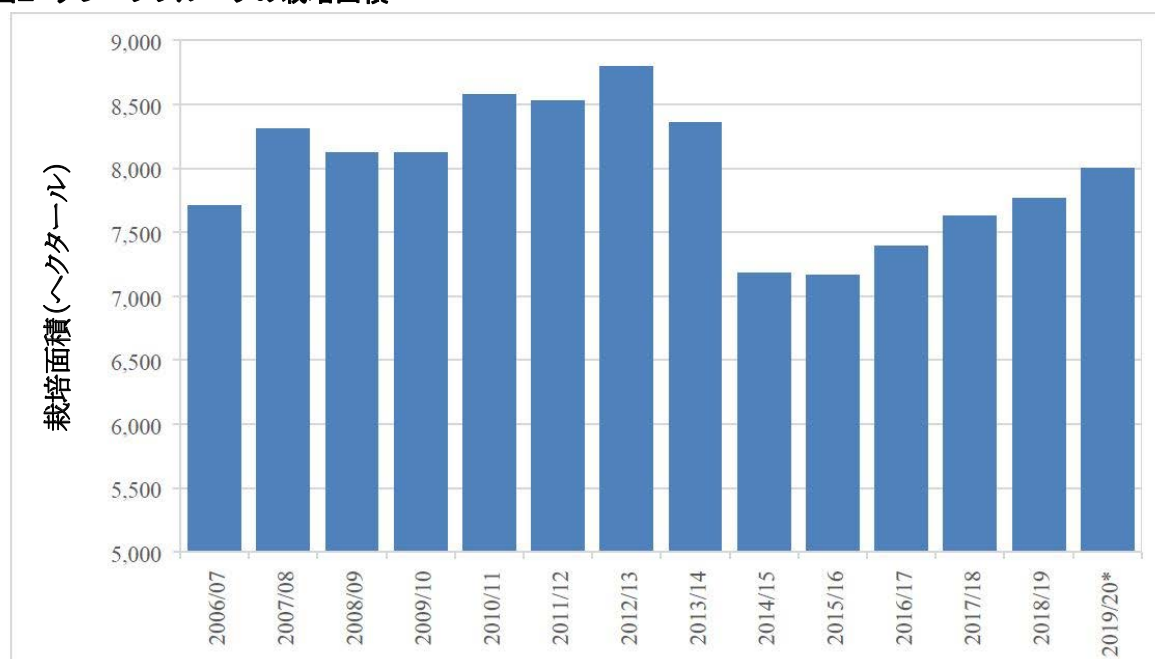
南アフリカの柑橘類、主にソフト柑橘類、レモン及びライムの生産は、栽培面積の増加、面積当たり収量の増加、成園化する新植園地の多さ、労働力や資材の確保におけるCOVID-19の影響が小さかったことにより、2019/20販売年度(以下「年度」)は力強い伸びを示すものと予想される。柑橘類の輸出は、新型コロナウイルスに対する免疫力を高めるというビタミンC関連の健康上の利点を主な要因として、2019/20年度に急増している。しかし、パンデミックの状況が悪化した場合、消費者所得、海運業者やコンテナの制約及び港湾の規制への影響は、南アフリカの柑橘類輸出にとっての懸念事項となる。米国は依然としてプレミアム市場と考えられているため、(米国の)アフリカ成長機会法(AGOA)に基づく米国への柑橘類の免税輸出は、力強い年率の伸びを続けると予想される。

グレープフルーツ(生鮮)

栽培面積

2019/20年度のグレープフルーツの栽培面積は、2018/19年度の7,762ヘクタールに対して3%増の8,000ヘクタールと推計される。これは、欧州、アジア、中東を中心とする世界的な需要の高まりに業界が対応するためである。図2は、2014/15年度以降、グレープフルーツの栽培面積は増加しているが、過去最高の2012/13年度の面積に達していないことを示している。リンボポ州は、全栽培面積の58%を占めるグレープフルーツの主要産地であり、次いでムプマランガ州(22%)、クワズールナタール州(9%)、北ケープ州(7%)、東ケープ州(4%)、西ケープ州(1%未満)が続く。主要品種は、世界的な需要が高く栽培面積の84%を占めるスタールビー、次いでマーシュ品種が12%となっている。その他のグレープフルーツ品種としては、Rose、Redheart、Pomelit、JavaShaddock、Flame、Nartia、Fe 1(Jackson)等がある。

図2 グレープフルーツの栽培面積



*は推計値

出典:CGA

生産量

2019/20年度のグレープフルーツの生産量は、2018/19年度の37万1,849トンに対して4%増の38万7,000トンと推計される。これは、平年並みの気象条件、主要産地での適当な降雨、栽培面積の増加及び面積当たり収量の増加によるものである。2018/19年度の実績については、最終的な業界のデータ及び果実のサイズが小さかったことを踏まえ、報告者は37万1,849トンに下方修正した。さらに、グレープフルーツは隔年結果しがちで2018/19年度は裏年であった。グレープフルーツは通常、3月から9月の間に収穫され、COVID-19の蔓延が生産、収穫、労働に与える影響は現在まで最小限に抑えられている。

消費

グレープフルーツの消費量は、2018/19年度の7,500トンから、2019/20年度には8,500トンに増加すると推定される。この増加は、生産の増加と、国内市場におけるグレープフルーツの健康上の利点に関する認知度と理解の高まりによるものである。ビタミンCがCOVID-19に対する免疫力を高める利点があると期待されるため、柑橘類の需要が急増している。

グレープフルーツは、南アフリカの国内市場では多くの消費者がその品質と味にほとんど馴染みがないため、あまり人気がない。その結果、一人当たりの生鮮グレープフルーツの消費量は、1年当たり1kg未満と比較的低くなっている。

加工

グレープフルーツ生産量全体の平均29%が加工に仕向けられる。報告者は、2019/20年度の加工仕向量は、生産量の増加に伴い、2018/19年度の10万7,000トンに対して3%増の11万トンと推計する。グレープフルーツはジュース及び濃縮果汁に加工され、その大部分はヨーロッパに輸出される。商業的にジュースを抽出した後の残りの果肉は、多くの清涼飲料で香料として使用されるグレープフルーツオイルの重要な原料である。内側の皮はペクチンとクエン酸の供給源であり、どちらも果実、ジャム、マーマレードを保存するために食品業界で使用されている。また、グレープフルーツの皮から抽出されるナリンジンは、トニックウォーターに独特の苦味を与える。グレープフルーツピールオイルは香料として使われる。

輸出

生産量の増加、輸出市場に適した果実のサイズと色、2020年3月までの輸出のペースを踏まえ、報告者は、2019/20年度のグレープフルーツの輸出量は、2018/19年度の25万8,423トンに対して5%増の27万トンと予測する。柑橘類は、COVID-19に対する免疫力を高めるビタミンCの効力が期待されるために需要が急増している。しかし、特にパンデミックが悪化した場合は、消費者所得、海運業者やコンテナの制約、港湾の規制への影響は、南アフリカからの輸出にとって依然として懸念事項となる。2018/19年度のグレープフルーツ輸出量は、Trade Data Monitorの最終的なデータ及び果実のサイズが小さいことに基づいて25万8,423トンに下方修正する。

欧州は、2019年の南アフリカのグレープフルーツ輸出全体の48%を占める最大の輸出市場で、次いでアジアが35%であった。南アフリカは、欧州連合(EU)との自由貿易協定により柑橘類の免税アクセスを許可されているが、カンキツ黒星病(CBS)及びニセコドリリングガ(FCM)のために課題に直面し続けている。EU市場におけるCBSの検疫条件に対応し、それを遵守するために、南アフリカの業界は約18億ランド(9,700万米ドル)の費用をかけていると推計される。

総量は依然として少ないが、米国へのグレープフルーツの輸出は、2012/13年度の76トンから2018/19年度の5,347トンまで、過去5年間で年平均65%の指数関数的増加を示している。米国へのグレープフルーツ輸出は、需要の高まり及び果実の品質の良さにより、またある程度はアフリカ成長機会法(AGOA)を通じた免税措置の継続によって、増加し続けると予想される。中東、カナダ及びアフリカも南アフリカ産グレープフルーツの成長市場である。

表3 南アフリカの生鮮グレープフルーツの輸出

南アフリカの世界への輸出						
品目：080540 グレープフルーツ(生鮮又は乾燥)						
暦年：2015-2019						
輸出先国	単位	暦年				
		2015	2016	2017	2018	2019
世界計	トン	220,318	202,527	230,635	288,155	258,423
オランダ	トン	53,256	59,236	63,868	68,184	75,083
中国	トン	19,972	17,463	20,254	54,530	36,439
日本	トン	44,802	31,154	39,505	37,688	30,072
ロシア	トン	18,020	15,842	19,187	20,064	14,128
香港	トン	5,034	5,828	7,162	13,761	12,130
英国	トン	11,415	9,965	11,990	12,275	11,779
イタリア	トン	11,976	9,365	9,533	12,858	10,434
エスワティニ	トン	3,575	3,229	4,463	4,861	7,459
ポルトガル	トン	4,368	5,991	6,231	7,768	7,384
韓国	トン	9,032	9,760	10,634	9,732	6,918
カナダ	トン	7,127	5,022	6,657	9,504	6,665
アメリカ合衆国	トン	1,802	3,737	4,293	4,729	5,347
フランス	トン	5,816	3,183	3,251	4,328	5,106
ドイツ	トン	1,819	5,015	2,386	3,912	4,135
アラブ首長国連邦	トン	4,625	4,238	3,967	4,156	4,128
アイルランド	トン	834	768	278	1,011	3,321
スウェーデン	トン	887	767	872	481	2,857
台湾	トン	2,801	2,011	3,344	3,268	2,233
ウクライナ	トン	1,123	1,016	1,494	1,427	1,339
ギリシャ	トン	1,317	1,128	1,325	1,535	1,326
スイス	トン	295	0	0	41	1,236
スペイン	トン	23	42	545	1,105	1,053
サウジアラビア	トン	1,655	680	707	1,168	1,033

出典：Trade Data Monitor (TDM)

輸入

南アフリカはグレープフルーツの主要な輸入国ではない。主な輸入先はエスワティニ(旧スワジランド)、スペイン、トルコ、イスラエルで、シーズンの終わりに向かっての小さな需給ギャップを埋めるための輸入である。エスワティニは、南部アフリカ関税同盟(SACU)の下での南アフリカへの免税アクセスと隣国としての地理的恩恵を受けている。

表4 南アフリカの生鮮グレープフルーツの輸入

南アフリカの世界からの輸入						
品目：080540 グレープフルーツ(生鮮または乾燥)						
暦年：2015-2019						
輸入先国	単位	暦年				
		2015	2016	2017	2018	2019
世界計	トン	7,259	3,983	1,211	2,703	1,476
エスワティニ	トン	6,355	2,862	66	2,083	685
スペイン	トン	423	474	514	374	382
イスラエル	トン	56	136	225	134	248
トルコ	トン	166	275	354	93	122
その他	トン	212	177	52	0	20

出典：Trade Data Monitor (TDM)

価格

表5は、2004/05年度以降のグレープフルーツの国内市場、輸出市場及び加工用の価格を示している。輸出市場と国内市場のグレープフルーツ価格は、ランドの対米ドル為替レートの下落により、過去5年間で上昇した。加工用と国内市場の価格は、供給量によって変動する傾向がある。南アフリカ産グレープフルーツの価格としては輸出価格が最も高く、これは業界が輸出指向である理由を説明するものである。

表5 グレープフルーツの価格

販売年度	国内市場	輸出市場	加工用
	平均価格	平均価格	平均価格
	ランド/トン	ランド/トン	ランド/トン
2004/05	1,487	925	325
2005/06	1,493	1,764	386
2006/07	1,796	2,712	237
2007/08	2,283	3,658	152
2008/09	1,839	1,846	240
2009/10	1,437	4,351	268
2010/11	2,107	3,723	383
2011/12	2,275	4,371	377
2012/13	2,352	5,060	376
2013/14	3,020	5,247	401
2014/15	3,866	5,737	310
2015/16	5,154	7,898	409
2016/17	2,472	7,762	596
2017/18	5,246	8,234	1,593
2018/19	2,908	7,990	1,523

出典：CGA

米ドル1=18.49ランド（2020年5月18日時点）

表6 グレープフルーツの生産需給(PSD)統計

グレープフルーツ(生鮮) 販売年度 南アフリカ	2017/2018		2018/2019		2019/2020	
	2018年1月～12月		2019年1月～12月		2020年1月～12月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積	7625	7625	8200	7762	8500	8000
収穫面積	7100	7100	7400	7400	7700	7700
結果樹本数	7200	7200	7400	7400	7600	7600
非結果樹本数	700	700	800	800	900	900
果樹本数合計	7900	7900	8200	8200	8500	8500
生産量	403	403	390	372	420	387
輸入量	3	3	3	1	3	2
供給量合計	406	406	393	373	423	389
輸出量	288	288	270	258	290	270
生鮮国内消費量	7	7	8	8	9	9
加工仕向け量	111	111	115	107	124	110
出荷量合計	406	406	393	373	423	389

単位：ヘクタール、1000本、トン

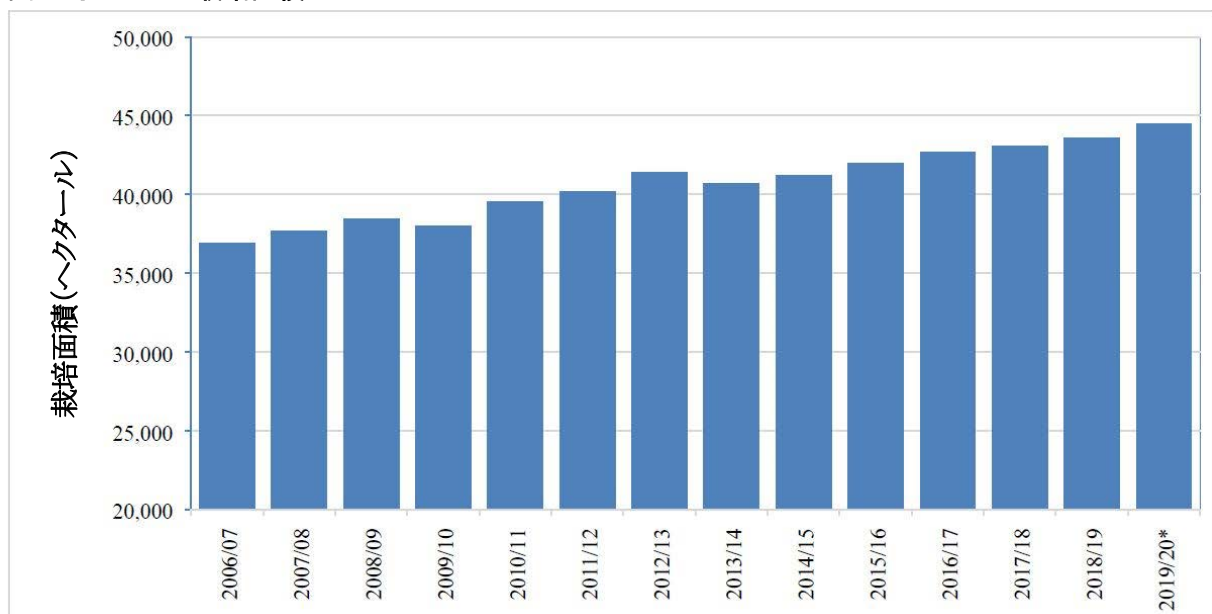
オレンジ(生鮮)

栽培面積

2019/20年度のオレンジの栽培面積は、種無し品種と晩生品種の増加を踏まえ、2019/20年度の43,578ヘクタールに対して2%増の44,500ヘクタールと推計される。この増加の一部は、西ケープ州とリンポポ州の産地におけるオレンジからソフト柑橘類への転換によって相殺されると見込まれる。図3は、2006/07年度以降のオレンジの栽培面積の増加傾向を示している。

リンポポ州は、オレンジの栽培面積全体の49%を占める主要産地であり、次いで東ケープ州(25%)、西ケープ州(15%)、ムプマランガ州(7%)、北ケープ州(2%)、クワズールナタール州(1%)、北西州(1%未満)、フリーステート州(1%未満)が続く。バレンシアオレンジが栽培面積全体の約64%を占め、ネーブルオレンジが36%を占めている。主な品種は、栽培面積全体の23%を占める Midnight で、次いでバレンシアの晩生品種が12%、Delta(11%)、Palmer(7%)、Turkey(6%)、Bennie(6%)、Bahianinha(5%)、Cambria(5%)、Washington(4%)が続く。

図3 オレンジの栽培面積



出典:CGA

*は推計値

生産量

2019/20年度のオレンジ生産量は、2018/19年度の159万トンに対して1%増の160万トンと推計される。この増加は、平年並みの気象条件、主要産地における適当な降雨、栽培面積の増加、生産者の水管理技術の向上、及び高収量の晩生品種の新植によるものである。2018/19年度のオレンジ生産量は、最終的な業界データと予想以上の面積当たり収穫量に基づいて159万トンに上方修正した。オレンジは通常3月から9月の間に収穫され、COVID-19が生産、収穫、労働に与える影響は現在まで最小限に抑えられている。

消費

報告者は、生産量の増加と、新型コロナウイルスに対する免疫力の向上におけるビタミンCの効果に関連する需要の増加に基づいて、2019/20年度オレンジの消費量が2018/19年度の75,000トンから3%増加し、77,000トンになると推計する。南アフリカは輸出市場の供給を優先し、余剰のオレンジまたは輸出基準を満たさないオレンジは生鮮国内需要及び加工需要に仕向けられる。生鮮オレンジは、南アフリカで消費される最も人気のある柑橘類で、一人当たりの消費量は年間約1.5kgである。

輸出

2019/20年度のオレンジの輸出量は、生産量の増加、果実の品質基準の改善、COVID-19に対する免疫力を高めると期待されるビタミンCの効果に基づく需要の急増によって、2019/20年度の119万トンに対し8%増の128万トンと推計される。しかし、COVID-19が消費者所得、輸送やコンテナへの制約、港湾における規制に与える影響は、南アフリカの柑橘類輸出にとって依然として懸念事項である。

2018/19年度のオレンジの輸出は、Trade Data Monitorの最終的なデータ及び小玉果が輸出できなかったことに基づき、119万トンに下方修正された。

EUは南アフリカにとって最大のオレンジ輸出市場であり、輸出市場全体の38%を占めている。しかし、業界がアジアや中東市場の成長を重視しているため、これらへの輸出は長年にわたって着実に成長している。

米国への輸出は、アフリカ成長機会法(AGOA)に基づく免税措置に基づいて継続すると予想される。しかし、米国市場に出荷する南アフリカの生産者は、米国市場の嗜好やプレミアムに応じて、オレンジ園をソフト柑橘類へ改植しているため、輸出もオレンジからソフト柑橘類への段階的シフトが予想される。2019年の米国向けオレンジ輸出は、オレンジからソフト柑橘類へのシフトと小玉が多かったことにより減少した。

表7 南アフリカの生鮮オレンジ輸出

南アフリカの世界への輸出B2:H3B2:H34						
品目: 080510 オレンジ (生鮮)						
暦年: 2015-2019						
輸出先国	単位	暦年				
		2015	2016	2017	2018	2019
世界	トン	1,159,435	1,064,089	1,170,813	1,278,935	1,186,426
オランダ	トン	231,978	221,671	258,526	233,619	224,343
中国	トン	44,269	48,644	78,290	109,995	150,388
サウジアラビア	トン	86,906	93,195	81,541	84,448	83,587
アラブ首長国連邦	トン	116,098	99,483	86,156	80,989	75,602
ロシア	トン	89,439	68,332	79,234	87,147	71,665
イギリス	トン	67,296	60,204	73,360	75,954	62,362
ポルトガル	トン	54,840	57,824	67,514	79,998	58,390
香港	トン	43,447	49,892	69,032	66,255	54,827
バングラデシュ	トン	38,861	32,603	45,541	59,399	44,041
イラク	トン	0	102	280	26,413	34,692
マレーシア	トン	28,213	28,936	28,239	30,704	32,601
イタリア	トン	36,361	33,515	38,065	42,667	31,355
米国	トン	44,721	40,416	39,838	45,120	30,990
カナダ	トン	37,874	32,508	31,859	36,722	29,957
フランス	トン	25,589	17,074	6,729	17,456	18,186
クウェート	トン	47,246	25,943	23,239	21,029	15,062
ドイツ	トン	3,556	10,796	10,705	16,276	13,073
カタール	トン	6,713	4,122	8,917	12,287	10,389
インド	トン	11,127	4,265	11,474	9,705	10,044
オマーン	トン	7,511	5,266	11,248	10,339	9,926
シンガポール	トン	11,335	9,082	12,475	14,384	9,343
スペイン	トン	50	845	2,348	6,928	9,202
ベルギー	トン	2,149	3,412	2,831	6,411	7,610
スウェーデン	トン	7,007	7,047	6,496	6,141	7,167
モザンビーク	トン	11,317	4,486	5,339	6,115	6,598
アイルランド	トン	3,777	4,747	3,677	6,136	5,405

出典: Trade Data Monitor (TDM)

輸入

2019/20年度のオレンジの輸入量は、供給の増加に基づき、4,000トンの横ばいと推計される。通常、需給ギャップを埋め、年末の需要を満たすために、比較的少量のオレンジが11月と12月に輸入される。

表8 南アフリカの生鮮オレンジの輸入

南アフリカの世界からの輸入						
品目：080510 オレンジ(生鮮)						
暦年：2015-2019						
輸入先国	単位	暦年				
		2015	2016	2017	2018	2019
世界計	トン	16,670	3,468	3,326	3,672	3,834
エスワティニ	トン	11,891	350	805	2,270	2,671
スペイン	トン	361	531	1,150	645	991
エジプト	トン	139	24	121	136	52
モザンビーク	トン	0	0	0	0	27
その他	トン	3,964	2,310	1,080	570	0

出典：Trade Data Monitor (TDM)

価格

表9は、オレンジの国内市場、輸出市場、及び加工仕向けの価格を示している。輸出市場の価格が最も高い。国内市場及び加工仕向けの価格が低いため、南アフリカの柑橘類産業は輸出志向である。

表9 オレンジの価格

販売年度	国内市場	輸出市場	加工用
	平均価格	平均価格	平均価格
	ランド/トン	ランド/トン	ランド/トン
2003/04	1,090	2,425	274
2004/05	1,111	1,580	229
2005/06	1,025	1,843	301
2006/07	1,278	2,832	354
2007/08	1,430	3,443	419
2008/09	1,483	3,235	268
2009/10	1,599	4,043	349
2010/11	1,762	4,691	529
2011/12	1,895	4,318	564
2012/13	2,054	4,975	591
2013/14	2,230	5,781	618
2014/15	2,535	6,576	652
2015/16	3,799	8,570	1,002
2016/17	3,604	8,656	1,069
2017/18	3,361	8,600	693
2018/19	3,643	8,268	699

出典：CGA

表10 オレンジ(生鮮)の生産需給(PSD)統計

オレンジ(生鮮) 販売年度 南アフリカ	2017/2018		2018/2019		2019/2020	
	2018年1月～12月		2019年1月～12月		2020年1月～12月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積	43,094	43,094	45,000	43,578	46,000	44,500
収穫面積	39,000	39,000	40,000	39,600	40,500	40,500
結果樹本数	38,300	38,300	39,000	39,000	39,500	39,500
非結果樹本数	4,100	4,100	4,200	4,200	4,300	4,300
果樹本数合計	42,400	42,400	43,200	43,200	43,800	43,800
生産量	1,586	1,586	1,500	1,590	1,560	1,600
輸入量	4	4	4	4	5	4
供給量合計	1,590	1,590	1,504	1,594	1,565	1,604
輸出量	1,278	1,279	1,130	1,186	1,250	1,280
生鮮国内消費量	72	72	75	75	77	77
加工仕向け量	240	239	299	333	238	247
出荷量合計	1,590	1,590	1,504	1,594	1,565	1,604

単位：ヘクタール、1000本、トン

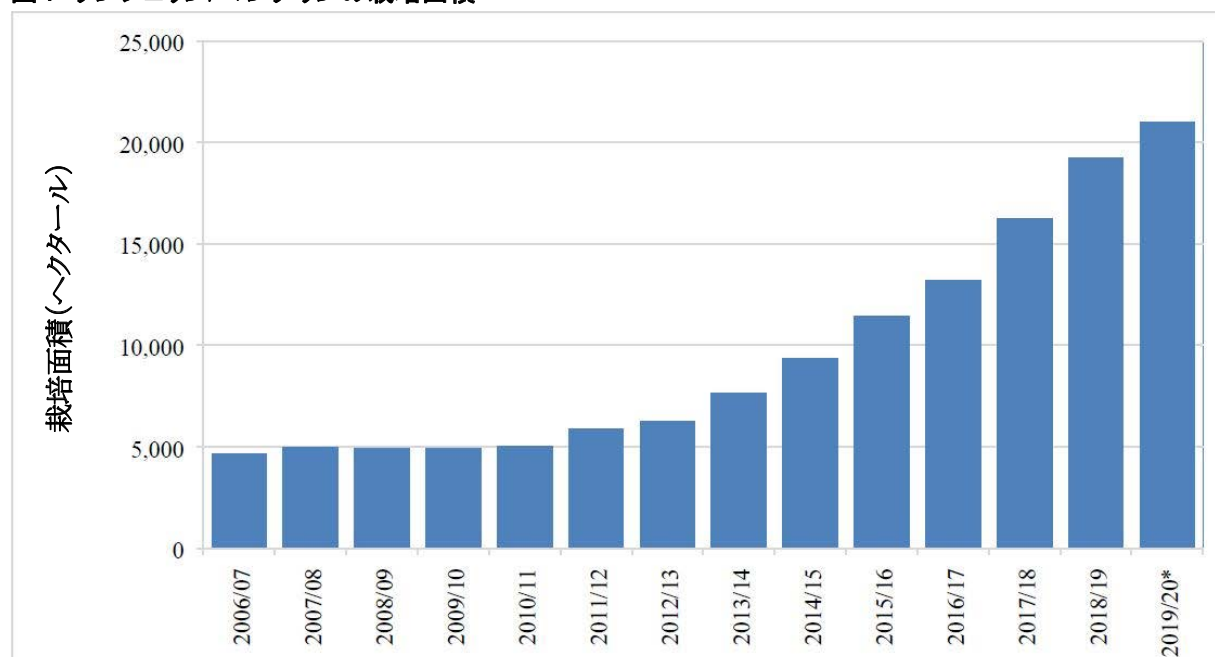
タンジェリン/マンダリン(ソフト柑橘類)(生鮮)

栽培面積

2019/20年度のタンジェリン/マンダリンの栽培面積は、2018/19年度の19,255ヘクタールに対して9%増の21,000ヘクタールと推計される。これは、種子なしタンジェリン/マンダリンに対する世界的な需要の増加と、他の柑橘類よりもソフト柑橘類の収益性が良いことに対する生産者の反応によるものである。図4は、タンジェリン/マンダリンの栽培面積が2006/07年度から2010/11年度には変化がなかったことを示している。その後、世界的な需要と高収益に対応して新しい果樹園への投資が増加したため、栽培面積は毎年大幅に増加している。

南アフリカで栽培される主な品種は、栽培面積の25%を占める Nardocott、次いで Nules が12%で、Nova (11%)、Tango (10%)、Orri (8%)、Leanri (7%) がこれに続く。

図4 タンジェリン/マンダリンの栽培面積



*推計値

出典:CGA

生産量

2019/20年度のタンジェリン/マンダリンの生産量は引き続き大きく増加し、2018/19年度の37万5,119トンに対して12%増の42万1,000トンと推計される。これは、栽培面積の増加、平年並みの気象条件、西ケープ州の主要産地における冬の降水量が適当であったこと、及び過去数年間に新植された園地の成園化によるものである。COVID-19の蔓延が、労働力及び資材の供給に与える影響は最小限に抑えられている。

2018/19年の年度のタンジェリン/マンダリンの生産量は、最終的な業界データに基づいて37万5,119トンに下方修正した。

南アフリカでは、ソフト柑橘栽培における水効率、収量及び総合的な品質を改善するネット栽培を取り入れた新しい果樹園を意欲的に設置する生産者が増加傾向にある。

また、晩生品種の栽培が増えており、収穫が第20週(5月上旬)から週21～30週(5月中旬から7月)に移行している。

タンジェリン/マンダリンの約39%が西ケープ州で生産され、次いで27%が東ケープ州で、21%がリンボポ州で生産されている。西ケープ州は冬に降雨がある地域であり、冬の降雨は翌年の灌漑に使用される。2019年の西ケープ州のダムの貯水レベルの改善は、2019/20年度の作物により影響を与えた。

消費

2019/20年度のタンジェリン/マンダリンの消費量は、生産量の増加と、新型コロナウイルスに対する免疫力を高めるという柑橘類に関連付けられた健康上の利点によって喚起された需要の急増により、2018/19年度の22,000トンに対して9%増の24,000トンと推計される。

業界はソフト柑橘類の輸出市場を優先し、余剰果実のみを国内市場に供給している。しかし、ウールワースのような一部の高級小売チェーンは、輸出グレードの柑橘類を国内の消費者に販売している。

輸出

2019/20年度のタンジェリン/マンダリンの輸出量は、2018/19年度の29万5,607トンに対して16%増の34万4,000トンと推計される。これは、生産量の増加、2020年の輸出ペース、国内市場よりも輸出市場を優先する業界の戦略、及びビタミンCが新型コロナウイルスに対する免疫力を高めるとの期待に基づく需要の急増によるものである。

輸出市場ではタンジェリン/マンダリンの需要が依然として強く、英国が全輸出量の26%を占め、次いでオランダ(21%)、ロシア(8%)、米国(6%)が続く。タンジェリン/マンダリンの輸出は、EU市場における南アフリカ産柑橘類のCBS(カンキツ黒星病)の検疫の影響を受けない。

アフリカ成長機会法(AGOA)の下での米国への輸出は、2013/14年の年度の7,444トンから2018/19年度の18,690トンに、過去4シーズンで年間平均15%増加した。この成長傾向は、皮をむきやすい柑橘類に対する米国市場の嗜好の高まりと、AGOAの下での免税措置の継続により、今後も続く予想される。

表11 南アフリカの生鮮タンジェリン/マンダリンの輸出

南アフリカの世界への輸出						
品目：080520/080521/080522/080529 マンダリン、タンジェリン及びウンシュウミカン並びにクレメンタイン、ウィルキングその他これらに類する柑橘類の交雑種(生鮮又は乾燥)						
暦年：2015-2019						
輸出先国	単位	暦年				
		2015	2016	2017	2018	2019
世界計	トン	156,589	189,730	209,754	260,850	295,607
英国	トン	61,307	66,152	63,213	69,344	75,941
オランダ	トン	32,023	47,300	49,706	51,404	61,403
ロシア	トン	14,468	14,329	20,219	28,425	23,709
米国	トン	8,637	10,287	11,180	13,695	18,690
バングラデシュ	トン	247	1,215	2,128	6,170	15,760
アラブ首長国連邦	トン	7,127	6,733	8,037	10,457	13,022
香港	トン	4,573	9,227	12,309	11,427	12,366
カナダ	トン	6,208	6,729	8,035	11,554	11,972
中国	トン	421	777	2,257	6,520	9,827
サウジアラビア	トン	1,910	2,333	2,170	5,412	6,950
ポルトガル	トン	1,102	2,412	4,348	6,309	6,275
アイルランド	トン	3,742	5,637	5,044	6,889	4,853
マレーシア	トン	1,416	1,385	1,601	3,314	3,762
ドイツ	トン	2,057	1,514	1,460	3,307	3,683
イラク	トン	0	0	0	947	3,336
フランス	トン	974	1,357	1,246	2,559	2,690
セネガル	トン	710	694	711	832	2,540
クウェート	トン	569	550	707	1,803	2,293
モーリシャス	トン	1,129	1,220	1,495	1,556	1,989
ノルウェー	トン	351	209	416	788	1,359
シンガポール	トン	616	902	922	2,413	1,260
カタール	トン	307	346	718	969	1,054

出典：Trade Data Monitor (TDM)

輸入

報告者は、2019/20年度のタンジェリン/マンダリンの輸入は、2020年の輸入ペースに基づいて、前年度の1,833トンから3,000トンに増加すると推計する。南アフリカの輸入は、端境期の需要を満たすための最小限のものに限られている。

表12 南アフリカの生鮮タンジェリン/マンダリンの輸入

南アフリカの世界からの輸入						
品目：080520/080521/080522/080529 マンダリン、タンジェリン及びウンシュウミカン並びにクレメンタイン、ウィルキングその他これらに類する柑橘類の交雑種(生鮮又は乾燥)						
暦年：2015-2019						
輸入先国	単位	暦年				
		2015	2016	2017	2018	2019
世界計	トン	1,151	1,268	1,472	1,246	1,833
スペイン	トン	530	562	1,010	712	1,524
イスラエル	トン	284	308	201	346	181
モロッコ	トン	0	0	0	0	47
エジプト	トン	0	0	0	43	39
その他	トン	300	328	144	73	42

出典：Trade Data Monitor (TDM)

価格

表13に示すように、南アフリカのソフト柑橘類の価格は輸出市場が最も高い。

表13 タンジェリン/マンダリンの価格

販売年度	国内市場	輸出市場	加工用
	平均価格	平均価格	平均価格
	ランド/トン	ランド/トン	ランド/トン
2003/04	1,705	3,638	251
2004/05	1,279	3,977	165
2005/06	2,133	4,423	188
2006/07	2,543	3,758	214
2007/08	3,038	4,965	367
2008/09	3,042	4,635	275
2009/10	3,805	5,618	214
2010/11	4,091	5,637	315
2011/12	3,760	7,133	419
2012/13	5,159	8,542	334
2013/14	5,442	10,004	465
2014/15	5,606	11,392	391
2015/16	6,785	14,242	532
2016/17	6,037	13,489	614
2017/18	6,617	13,498	709
2018/19	5,586	13,344	502

表14 タンジェリン/マンダリン(生鮮)の生産需給(PSD)統計

タンジェリン/マンダリン (生鮮) 販売年度 南アフリカ	2017/2018		2018/2019		2019/2020	
	2018年1月～12月		2019年1月～12月		2020年1月～12月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積	16,268	16,268	17,000	19,255	18,000	21,000
収穫面積	11,200	11,200	11,600	13,600	14,000	14,500
結果樹本数	6,600	6,600	7,000	8,000	7,500	8,500
非結果樹本数	2,600	2,600	2,700	2,800	2,900	3,100
果樹本数合計	9,200	9,200	9,700	10,800	10,400	11,600
生産量	356	356	390	375	420	421
輸入量	1	1	1	2	1	3
供給量合計	357	357	391	377	421	424
輸出量	261	261	295	296	330	344
生鮮国内消費量	21	21	22	22	23	24
加工仕向け量	75	75	74	59	68	56
出荷量合計	357	357	391	377	421	424

単位：ヘクタール、1000本、トン

39. 南アフリカのグレープフルーツ輸出 全力でスタートの後に減速

FreshPlazaウェブサイト(2020年6月3日)

南アフリカのグレープフルーツは今期輸出量の約3分の2が既に輸出された。当初全力疾走でスタートしたが、その後は安定したジョギングに落ち着いている。出荷時期を8月の初めまで伸ばすことができれば、よくあるシーズン最後の盛り上がりで生産者は利益を増やすことができるかも知れない。

南アフリカ産グレープフルーツの収穫が早く始まったこととそれに続く大量の出荷は、当初市場で幾分かの否定的な感情を引き起こし、一部のバイヤーは出荷が早いと不信感を表明した。

最新の輸出量見込みは、赤肉グレープフルーツが当初の推計から13%減の1,190万箱(17kg/箱)であり、ホワイト系のマーシュグレープフルーツについては、輸出機会が一部減少する可能性があるため、80万箱から89万6千箱となっている。

第19週(4月4日～10日の週)以降、出荷のペースが減速し、前年と同程度となっている。輸出できる果実が、一部のサイズは既に市場で飽和している大玉に集中し、この後今シーズン中に輸出できる数量を30%以上先取りしているのではないかと心配があったが、その後晩生の産地に移行するに連れ、(一箱当たり)40玉、45玉、50玉の小玉を中心に産出する古い果樹園が多いことから不安は緩和した。

梱包出荷数量と輸出数量が近いと、港湾に留まる数量は少なくなっている。

今後3週間は、果実の大半がレツィテレ地域とホエドスプルート地域から出荷され、その後これら北部の産地はバレンシアオレンジの収穫に移行するため、第32週(8月3日～9日の週)頃のシーズンの終わりまで、オランダバーク、シクワリニ及びオレンジ川流域の各地域から出荷される。

日本のグレープフルーツ市場に関する懸念

ヨーロッパ向けの輸出は、既に120万箱(17kg/箱)以上になっており、昨年に比べて32玉、35玉、40玉の量が大幅に増加している。北欧では、小玉を除いて市場の需要はかなり強い。

日本向けも、全体的に多く出荷した中でも35玉の量が非常に多く、市場が従来の数量をこなせるかどうか心配されている。

中国と香港もまた、35玉と40玉の大玉の割合が高く、また45玉も多かったが、市場はよく持ちこたえている。



韓国からの需要は良好であるが、基準に合致しない果実の拒否と、それに関連する転送の問題が円滑な供給を妨げている、とグレープフルーツフォーカスグループ(業界を見守る団体)は指摘する。

ロシアではシーズンの初めに送り込まれた大量のグレープフルーツのために、価格は急激に下落している。

中東市場は、今年の供給量が累計で過去より少ないにもかかわらず、飽和している模様である。

南アフリカのほとんどのグレープフルーツ生産者はバレンシアオレンジも栽培しており、まもなく実ってくる膨大な量のバレンシアオレンジを考慮すると、販売の観点からは理想的ではないが、グレープフルーツの梱包出荷をためらったり、やめたりする出荷場もあるとみられる。

昨年と同様、加工用に出荷された果実の一部が、加工施設に向かわず、市場で販売されて高品質の果実と競合するのではないかと懸念が再び高まっている—これはグレープフルーツ業界全体を損なう所業である—とフォーカスグループは指摘する。

40. ニュージーランド 日本向け等3月、4月のキウイ輸出が増加

FreshPlazaウェブサイト(2020年6月4日)

2020年の最初の数ヶ月間に、ニュージーランドのキウイ輸出シーズンは昨年よりも早く始まった。その前の2年間との違いはさらに大きい。今年は4月までに、合計14万2千トンのキウイが輸出された。昨年は13万5千トン、2018年は10万8千トンであった。2017年には8万トンに満たなかった。

この輸出のうち多くが、特にシーズンの初め頃には、東アジア、南アジア向けであり、それらの地域向けは10%増加した。EUへの輸出は昨年と同じ水準にとどまった。北米向けは、2019年よりもかなり減少した。

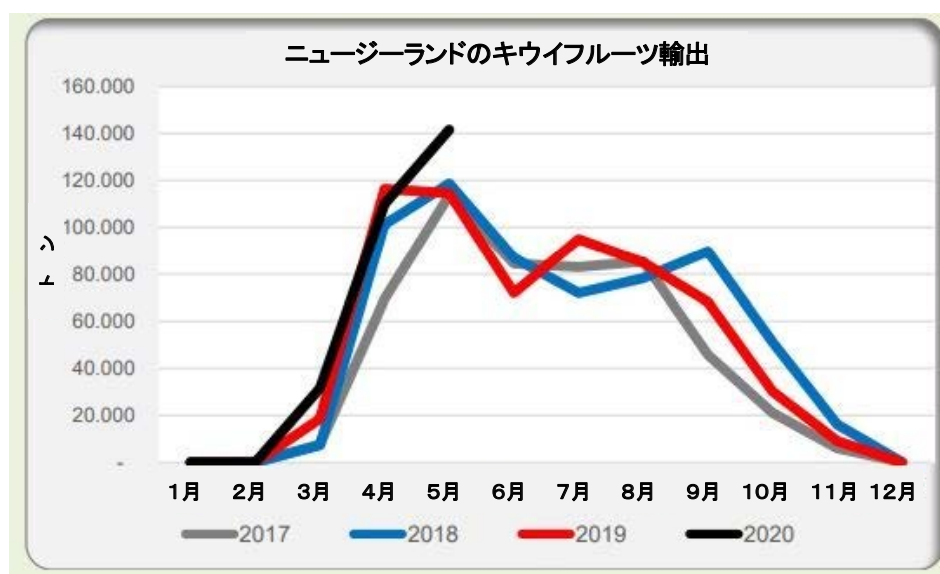
出典: NZ統計局	2017	2018	2019	2017 1~4月	2018 1~4月	2019 1~4月	2020 1~4月	増減率 %
世界	516.498	621.568	608.812	77.115	108.584	134.968	141.575	5%
東アジア・南アジア	283.458	329.689	333.335	47.341	60.535	76.020	83.772	10%
EU	181.335	225.036	212.512	25.166	40.190	46.760	47.339	1%
北米	25.371	37.166	34.891	2.162	4.778	8.414	6.435	-24%
その他	26.334	29.677	28.073	2.446	3.082	3.774	4.029	7%

(訳注) 表中の「,」は日本の表記法の「,」に相当し、少数点ではなく千の位を示す。(以下の図表で同じ)

日本向けは特に増加、中国向けは安定

EUに出荷されたほとんどのニュージーランド産キウイは、ベルギーのゼーブルッヘ港に到着する。少量はスペインとイタリアに直行する。EU域外では、日本が最も重要な買い手である。2020年初めの日本向け輸出量は前年同期比で35%も増加した。

中国向け輸出は停滞し、韓国向けは10%減少した。米国への輸出は4分の1も急減した。これらよりも少ないが、台湾、オーストラリア、カナダへも輸出された。インド向けとブラジル向けは増加した。



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2017	6	10	7.608	69.492	113.640	84.420	83.031	85.327	45.850	21.071	6.028	17
2018	13	9	7.351	101.212	118.683	87.008	71.902	78.233	89.701	51.157	16.129	170
2019	7	0	18.548	116.413	114.519	71.954	94.934	84.960	68.174	30.220	9.079	3
2020	0	0	31.584	109.990	141.575							

ニュージーランドのキウイフルーツ輸出量（輸出先国別）

(トン)

	2017年	2018年	2019年	2017年 1～4月	2018年 1～4月	2019年 1～4月	2020年 1～4月	増減率
世界	516,498	621,568	608,812	77,115	108,584	134,968	141,575	5%
EU	127,586	214,836	210,864	19,466	40,124	46,601	47,271	1%
日本	99,587	119,092	119,224	18,867	24,138	28,660	38,700	35%
中国	93,805	105,326	116,332	19,009	21,615	26,973	26,424	-2%
韓国	26,055	33,326	34,286	3,923	6,843	9,939	8,898	-10%
米国	18,730	27,658	27,297	1,607	3,804	6,816	5,214	-24%
台湾	34,710	35,575	33,150	3,095	4,361	5,739	5,251	-9%
オーストラリア	15,032	16,436	16,724	800	1,004	1,732	1,581	-9%
カナダ	5,028	6,784	6,240	333	536	1,393	1,086	-22%
インド	5,872	11,548	5,194	128	543	489	568	16%
香港	6,598	7,057	7,133	528	623	1,052	1,047	-1%
ブラジル	2,887	3,928	2,478	489	536	337	503	49%
インドネシア	3,081	2,893	2,605	517	407	554	426	-23%
ベトナム	3,195	3,932	4,309	299	640	691	742	7%
メキシコ	1,613	2,724	1,354	221	438	205	134	-34%
マレーシア	3,821	3,476	3,303	398	428	671	498	-26%
シンガポール	3,209	3,621	3,575	275	542	777	807	4%
サウジアラビア	1,228	1,327	1,360	215	393	463	591	28%
アラブ首長国連邦	1,820	1,866	1,968	249	331	370	305	-18%
タイ	2,343	2,589	2,805	206	272	291	266	-9%
南アフリカ	1,506	1,592	1,288	45	187	226	218	-3%
イスラエル	766	1,003	1,182	178	149	190	221	16%
モーリシャス	454	451	451	22	45	90	112	24%
フィリピン	1,123	1,190	1,342	97	103	175	146	-17%
クウェート	555	701	514	130	145	120	53	-56%
ロシア	775	876	1,073	108	107	119	127	7%
ニューカレドニア	282	330	294	16	17	6	11	78%
バーレーン	251	291	269	65	85	83	73	-11%
スペイン	40,030	9,329	169	4,340	-	-		
イタリア	13,360	38	187	1,311	-	40		
その他	54,588	11,140	2,200	5,830	170	207	302	46%

出典: Fruit & Vegetable Facts(原典:ニュージーランド統計局)

41. オレンジが米国の果実輸出の伸びを牽引

The Packer 電子版(2020年6月4日)

米国の生鮮オレンジ/タンジェリンは、2019年5月から2020年4月までの1年間の輸出額において、主要青果物の中で最高の成長率(対前年比)を示した。

米国農務省の統計によると、米国のオレンジ/タンジェリンの全世界への輸出額は、対前年同期比で13%増加した。

3月末までの12ヶ月間の米国の生鮮農産物輸出額は70億1千万ドルで、前年比1%減少した。そのうち生鮮果実の輸出額は43億9千万ドルで、1年前と変わらなかった。生鮮野菜の輸出額は26億2千万ドルで、対前年比で1%減少した。

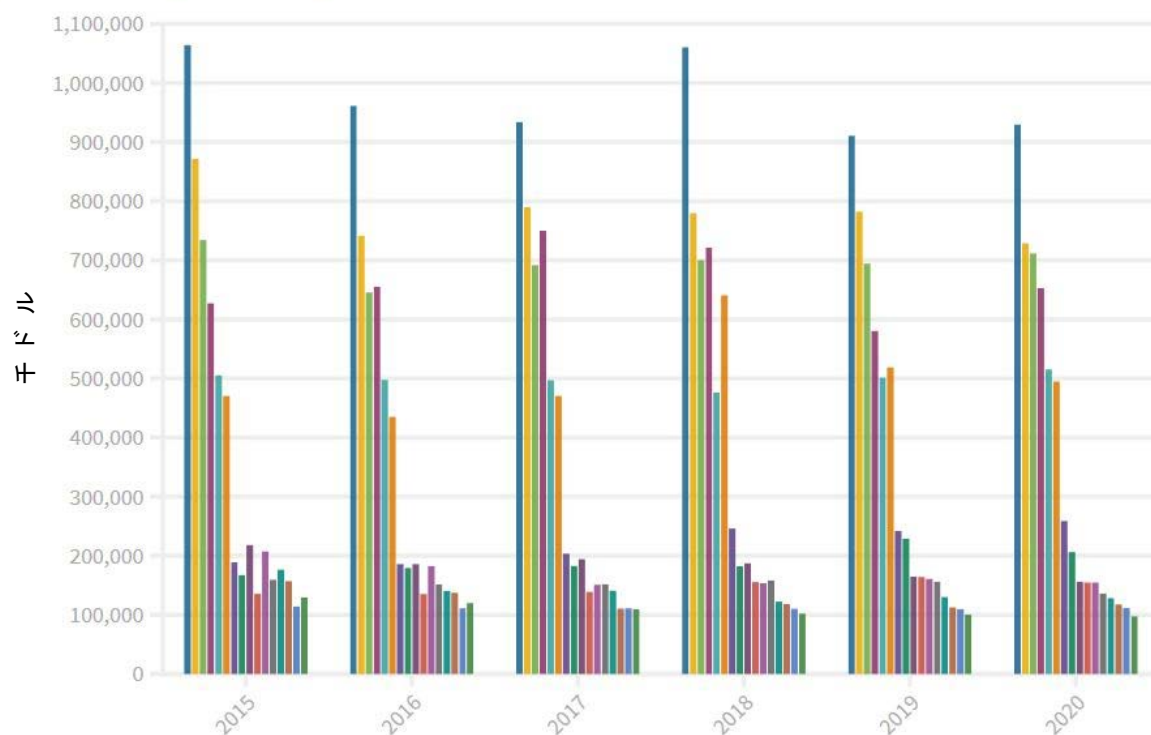
輸出額上位の青果物の輸出額(2019年5月～2020年4月)及び対前年比は以下のとおり。

リンゴ: 9億2,940万ドル、2%増	カリフラワー: 1億5,460万ドル、6%減
ブドウ: 7億2,850万ドル、7%減	ナシ: 1億5,460万ドル、4%減
ベリー類: 7億1,140万ドル、2%増	メロン: 1億3,630万ドル、13%減
オレンジ/タンジェリン: 6億5,320万ドル、13%増	モモ: 1億2,820万ドル、2%減
レタス: 5億1,530万ドル、3%増	トマト: 1億1,748万ドル、4%増
サクラambo: 4億9,490万ドル、5%減	ニンジン: 1億1,160万ドル、2%減
タマネギ/シャロット: 2億620万ドル、10%減	ブロッコリー: 9,740万ドル、3%減
レモン/ライム: 1億5,590万ドル、5%減	セロリ: 9,705万ドル、8%減

米国の青果物輸出額

凡例: 各年のグラフの左から

リンゴ ブドウ ベリー類 オレンジ/タンジェリン レタス サクラambo ジャガイモ
 タマネギ/シャロット レモン/ライム カリフラワー ナシ メロン モモ
 トマト ニンジン ブロッコリー (すべて生鮮)



出典: 米国農務省

42. メキシコ アボカドの輸出額が引き続き増大

FreshPlazaウェブサイト(2020年6月9日)

公式データによると、COVID-19パンデミックの結果としてメキシコから他国への輸出が急落した中で、アボカド輸出額は引き続き増大している。

国立統計地理研究院(Inegi)のデータに基づく農業市場協議会(CGMA)の調査によると、1月から4月のアボカドの輸出額は11億3,200万ドルで、2019年の同時期の10億9,500万ドルを3.4%上回った。他方、輸出量は50万7千トンから44万8千トンに11.8%減少した。

専門家は、メキシコから他国への輸出量は少なかったが、新型コロナウイルスのために人々がアボカドを購入し需要が高まったため、価格が上昇したと言う。CGMAのアナリストは、今年の最初の4ヶ月間にアボカドの公定価格が約18%上昇し、生産者の収入が22%増加したとしている。



年間23億ドル以上の生産量を誇るメキシコは市場を独占している。次いではるかに少ないオランダが約7億3千万ドル、ペルーが7億3千万ドルと続き、さらに、スペイン3億4千万ドル、チリ3億2千万ドル、米国1億8千万ドルである。(訳注:原文ではオランダ以下の単位が「トン」となっているが、実態と合わないため、「千ドル」と読み替えて訳した。)

メキシコでは、アボカドは緑の黄金と呼ばれ、ミチョアカン州が単独で収穫量の50%を占めている。

出典: explicaco

43. コロンビア ハス・アボカドを日本に発送

FreshPlazaウェブサイト(2020年6月9日)

6月5日(金)、コロンビアはハス・アボカドを再び日本に送った。19トンの果実は、横浜に向けてブエナベンチュラ港を出発した。これは、4月までに16.1トンを出荷したのに続く、日本向け輸出の第2弾となる。

商工観光省によると、アボカドはウェストファリアフルーツコロンビア社によって輸出されている。アボカドの日本市場は、商工観光省、農業省、ICA(農業機構)、プロコロンビア(貿易投資観光促進機構)及び在日コロンビア大使館の働きかけのより、2019年に開かれた。この19トンは、同社が7月末までに日本に送る170トンの一部である。

日本は、今年の第1四半期に(全世界から)4,910万ドルのアボカドを輸入した。2019年のアボカドの購入額は約2億4千万ドルに上った。

ヒメネス通商副大臣は、この出荷を祝福した。パンデミックが世界に影響を与えているにもかかわらず、コロンビアは貿易活動を維持している。今年の最初の4ヶ月間の輸出額は4,940万ドルで、昨年同期の輸出額4,080万ドルを21%上ったことは注目される。

出典: agronegocios.co

44. 米国の果実生産見通し(柑橘類、サクランボ)

米国農務省農業統計局(2020年6月11日)

訳注: これは、米国農務省農業統計局が2020年6月11日に発表した作物生産統計のうち、果実関係を抜粋したものです。

柑橘類

<オレンジ>

2019-2020年度の米国のオレンジ総出荷量は508万トンで、前回の予測から2%減少し、2018-2019年度の出荷量確定値から6%減少するものと予測される。フロリダ州のオレンジ総出荷量は6,770万箱(304万トン)で、前回の予測から3%減少し、昨シーズンの出荷量確定値から6%減少するものと予測される。フロリダ州の早生、中生及びネーブル種の出荷量は2,970万箱(133万トン)で、前回の予測と変わらず、昨シーズンの出荷量確定値から2%減少するものと予測される。フロリダ州のバレンシアオレンジの出荷量は、3,800万箱(171万トン)で、前回の予測から5%減少し、昨シーズンの出荷量確定値を8%下回るものと予測される。カリフォルニア州及びテキサス州のオレンジの生産量予測は、前回の予測を持ち越した。

<グレープフルーツ>

米国の2019-2020年度のグレープフルーツの出荷量は61万2,000トンで、前回の予測からわずかに減少し、昨シーズンの出荷量確定値から2%増加するものと予測される。フロリダ州の予想生産量は、489万箱(20万8,000トン)で、前回予想からわずかに減少したが、昨年より8%増加するものと予測される。カリフォルニア州及びテキサス州のグレープフルーツの生産予測は、前回の予測を持ち越した。

<タンジェリン及びマンダリン>

米国のタンジェリンとマンダリンの出荷量は96万8,000トンで、前回の予測と変わらず、昨シーズンの出荷量確定値から13%減少するものと予測される。フロリダ州のタンジェリンとマンダリンの予測は102万箱(48,000トン)で前回の予測から変わらず、昨年の総箱数から3%増加するものと予測される。カリフォルニア州のタンジェリンとマンダリンの予測は、前回の予測を持ち越した。

品目別柑橘類の出荷量 州別及び米国計：2018-2019年度及び2019-2020年度予測(6月1日現在)
 作物年度は、第1年の開花から第2年の収穫の収量までの期間を指す。

作物及び州	出荷量（箱） ¹		出荷量（トン）	
	2018-2019 (1000箱)	2019-2020 (1000箱)	2018-2019 (1000トン)	2019-2020 (1000トン)
オレンジ				
カリフォルニア州計 ²	51,400	48,500	2,056	1,940
早生・中生・ネーブル ³	42,000	40,000	1,680	1,600
バレンシア	9,400	8,500	376	340
フロリダ州計	71,850	67,650	3,233	3,044
早生・中生・ネーブル ³	30,400	29,650	1,368	1,334
バレンシア	41,450	38,000	1,865	1,710
テキサス州計 ²	2,500	2,300	106	98
早生・中生・ネーブル ³	2,210	1,800	94	77
バレンシア	290	500	12	21
米国計	125,750	118,450	5,395	5,082
早生・中生・ネーブル ³	74,610	71,450	3,142	3,011
バレンシア	51,140	47,000	2,253	2,071
グレープフルーツ				
カリフォルニア州 ²	4,100	4,300	164	172
フロリダ州計	4,510	4,890	192	208
赤	3,740	4,100	159	174
白	770	790	33	34
テキサス州 ²	6,100	5,800	244	232
米国計	14,710	14,990	600	612
タンジェリン/マンダリン⁴				
カリフォルニア州 ²	26,500	23,000	1,060	920
フロリダ州	990	1,020	47	48
米国計	27,490	24,020	1,107	968
レモン²				
アリゾナ州	1,350	1,900	54	76
カリフォルニア州	23,700	21,000	948	840
米国計	25,050	22,900	1,002	916

注1 一箱当たりの内容量は、次のとおり(1ポンド≒0.4536キログラム)

オレンジ：カリフォルニア州 80ポンド、フロリダ州 90ポンド、テキサス州 85ポンド

グレープフルーツ：カリフォルニア州 80ポンド、フロリダ州 85ポンド、テキサス州 80ポンド

タンジェリン/マンダリン：カリフォルニア州 80ポンド、フロリダ州 95ポンド

レモン：80ポンド

注2 今年度の見込みは前回の予測を持ち越した。

注3 カリフォルニア州はネーブル及び交雑種、フロリダ州及びテキサス州は早生(ネーブを含む)及び中生品種。

注4 タンジェロ及びタンゴールを含む。

サクランボ

<甘果オウトウ>

2020年の米国の甘果オウトウの総生産量は、33万4,000トンで、2019年に比べて6%減少するものと予測される。

カリフォルニア州の生産者は、異常な暖冬にもかかわらず、十分な寒さがあったと報告した。3月の涼しい天候により果実の生育期間が延長され、前シーズンと比較して予想収穫量が増加した。オレゴン州とワシントン州では、2月と3月中旬の複数回の厳しい寒波が、地域全体で様々な影響を与えた。開花の遅い品種は、他の品種に比べて大きく遅れており、ワシントン州等では収量の低下が予想される。

甘果オウトウ生産量 州別及び米国計：2019年及び2020年予測(6月1日現在)

州	総生産量	
	2019年 (トン)	2020年 (トン)
カリフォルニア州	58,100	63,000
オレゴン州	57,200	61,000
ワシントン州	239,000	210,000
米国計	354,300	334,000

<酸果オウトウ>

2020年の米国の酸果オウトウの総生産量は、1億9,700万ポンド(89,360トン)で、2019年の生産量から25%減少するものと予測される。

ミシガン州は、最大の酸果オウトウ生産州で、5月上旬の降霜により同州南西部を中心に州全体の作物に被害を受けた。ウィスコンシン州では、開花期の強風と降霜による作物の被害が生産者から報告されている。ワシントン州の生産者は低温に関し懸念を表明した。

酸果オウトウ生産量 州別及び米国計：2019年及び2020年予測(6月1日現在)

州	総生産量	
	2019年 (トン)	2020年 (トン)
ミシガン州	77,110	55,790
ニューヨーク州	1,950	3,670
ユタ州	24,490	14,420
ワシントン州	11,160	10,980
ウィスコンシン州	4,130	4,490
米国計	118,840	89,360

訳注：この表は、原典の百万ポンド表記をトンに換算しました。

果実とナッツ類の生産量 米国: 2019年及び2020年

データは、今回または以前のレポートから利用可能な最新の推定値を採用した。

今年の推計値は、柑橘類は2019-2020年度、その他は2020作物年度。

空白のセルは、まだ推計を行う時期に至っていないことを示す。

作物	生産量	
	2019 (トン)	2020 (トン)
柑橘類¹		
グレープフルーツ	544,310	555,200
レモン	909,000	830,980
オレンジ	4,894,260	4,610,310
タンジェリン/マンダリン	1,004,250	878,150
非柑橘類		
リンゴ（販売量）	4,997,680	
アプリコット	46,540	
アボカド	123,030	
ブルーベリー（栽培）	308,760	
ブルーベリー（野生、メイン州）	24,680	
甘果オウトウ	321,420	303,000
酸果オウトウ	118,840	89,360
コーヒー(ハワイ州)	12,370	
クランベリー	359,110	
ナツメヤシ	55,700	
ブドウ	6,233,270	
キウイフルーツ(カリフォルニア州)	46,720	
ネクタリン(カリフォルニア州)	121,560	
オリーブ(カリフォルニア州)	151,950	
パパイヤ(ハワイ州)	5,330	
モモ	618,340	
ナシ	661,340	
プラム(カリフォルニア州)	92,080	
プルーン(カリフォルニア州)	82,640	
ラズベリー	102,510	
イチゴ	1,021,490	
ナッツ類その他		
アーモンド（殻付き、カリフォルニア州）	1,156,660	1,360,780
ヘーゼルナッツ（殻付き、オレゴン州）	39,920	
マカダミアナッツ(ハワイ州)	18,460	
ペカン（殻付き）	115,940	
ピスタチオ(カリフォルニア州)	335,660	
クルミ（殻付き、カリフォルニア州）	592,390	

注1: 生産量は 2018-19 年度及び 2019-20 年度

45. 世界の落葉果樹市場と貿易動向(リンゴ、ブドウ、ナシ)

米国農務省海外農業局(2020年6月12日)

リンゴ、生食用ブドウ、ナシの貿易と消費の世界予測では、COVID-19の影響を考慮しているが、パンデミックが継続する期間と世界経済への影響は依然として不確実であるため、その正確な影響は明らかでない。

国別の詳細については、農務省海外農業情報システムに掲載された報告書を参照されたい。

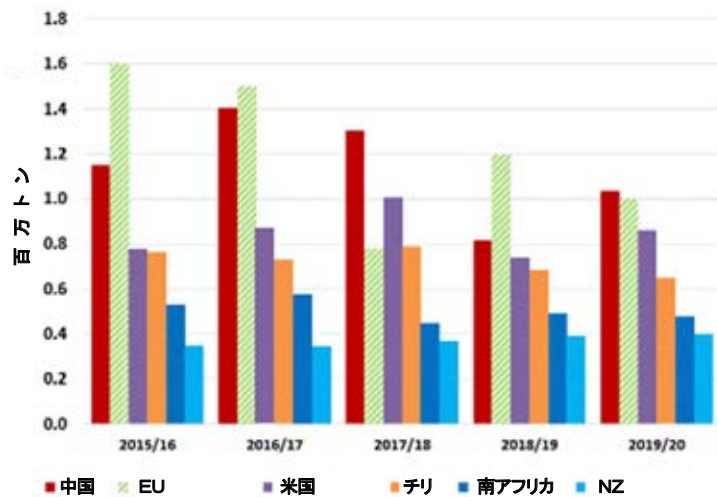
<リンゴ(生鮮)>

世界の2019/20年度のリンゴ生産量は、中国が昨年の霜害から立ち直り、欧州連合(EU)の生産の急落を相殺する以上の増産となったため、差し引きで約500万トン増加し、合計7,580万トンと推計される。生産量の増加にもかかわらず、EU、モルドバ、トルコからの輸出の減少により、輸出量は減少が予測される。

中国の生産量は、ほとんどの主要産地で天候条件に恵まれたため、800万トン増加して過去最高に近い4,100万トンに跳ね上がると予測される。COVID-19による混乱にもかかわらず、輸出は100万トンを超えると予測され、中国は輸出国として首位に復活する。販売年度の前半には出荷量の増加により、特にバングラデシュ、ベトナム、タイへの輸出が増加した。

生産量は増加したが、国内産の高品質なリンゴが少ないため輸入需要に拍車がかかり、輸入量は22,000トンから11万5,000トンに増加する。

コロナ渦の中で中国がリンゴの輸出をリード



EUの生産量は、ポーランドを始めとする大部分の加盟国で、降霜、干ばつ、熱波、降雪による複合的な被害を被ったため、360万トン減の1,150万トンと推計される。生産量が20%以上の損失を被るのは3年間で2回目となる。生産量の減少により、輸出量は100万トンまで20万トン近く減少するものと推計される。一方、南半球の輸出国からの出荷の減少により輸入量も47万トンに減少するものと見込まれる。

米国の生産量は、最大の産地であるワシントン州の夏の天候が良かったため30万トン以上増加し、480万トンと推計される。農務省の農業統計局(NASS)は果樹業界の調査を行い、2020年5月の「非柑橘果実及びナッツ類に関する2019年サマリーレポート」で生産量データを更新した。生産量が多く品質も良いため、最大の市場であるメキシコ、カナダ向けを始めとして、輸出量は10万トン以上増加して86万トンとなり、一方、輸入需要は12万5千トンに低下するものと予測される。

トルコの生産量は、2年続きの暖冬に加えて春の天候が開花と果実の肥大に適していたことにより、昨年の記録に匹敵する300万トンと見込まれる。生産量の増加にもかかわらず、販売年度の後半にトップ市場であるイラクとシリアへの輸出が減少したことから、輸出量は18万トンと40%近く減少するものと見込まれる。

インドの生産量は、モンスーンによる降雨が通常よりも遅い時期にあったため、生産量の増加が抑えられ、前年と変わらない240万トンと推計される。イラクとパキスタンからの出荷の減少、中国産リンゴの輸入禁止の継続、米国産リンゴに対する報復関税により、輸入量は17万5,000トンと40%近く減少するものと予測される。

ロシアの生産量は引き続き増加傾向にあり、2年連続で記録を更新して170万トンに達すると予測される。果樹業界は引き続き、新しい果樹園の新植、果樹園の維持管理、冷蔵施設の導入を含む様々な面で政府の

支援を受けている。中国産リンゴの引き続きの輸入禁止にもかかわらず、国内産の供給量が多く品質も高いため輸入需要が減少し、輸入量は15万トン減の64万5,000トンと見込まれる。

チリの生産量は、干ばつ状態の継続と、6年連続の栽培面積の減少により、66,000トン減の110万トンと見込まれる。輸出量は生産量の減少に伴い34,000トン減の65万トンと予測される。

南アフリカの生産量は、新植された園地の成園化と冬の水不足の緩和及び水管理の改善による収量の増加により、5万トン近く増加し、史上最高の94万2,000トンに達するものと推計される。生産量の増加により国内消費量と加工仕向け量は増加するものの、COVID-19による混乱のため、輸出量は48万トンにとどまるものと予測される。

メキシコの生産量は、収穫量の増加と新植された果樹の成木化により、昨年の霜害による減収から反発して13万トン以上増加し、68万トン近くに達すると見込まれる。栽培面積は主産地であるチワワ州で増加しており、高密度植果樹園の新植への投資が続いている。2019年5月に米国産リンゴに対する20%の報復関税が撤廃された結果、輸入量は23,000トン増の27万トンと予測される。

ニュージーランドの生産量は、収穫面積の拡大と良好な天候に恵まれ、16,000トン増の59万3,000トンと予測され、引き続き増加傾向にあるものと見られる。作付面積は未だ拡大しているが、生産者は果樹園を高密度植栽に改植することで生産を増やすものと見られ、面積の増加率は小さくなっている。生産量の増加により輸出量が40万トンに達し、輸出は長期の上昇傾向を続けると予想される。

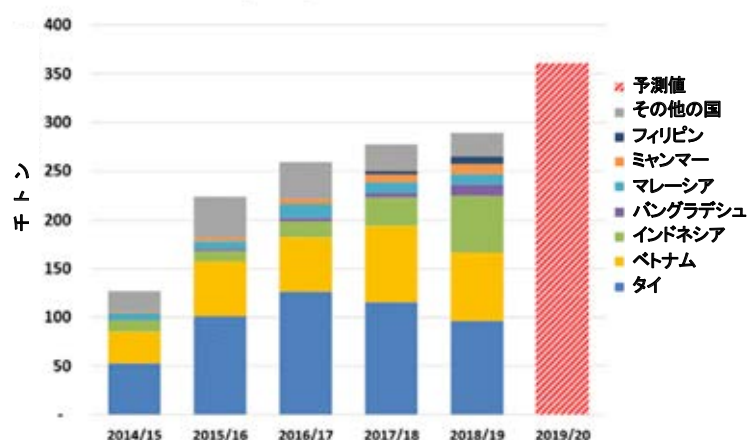
アルゼンチンでは、栽培面積の継続的な減少に1月の降雹被害が加わり、資材費の上昇や果樹園の衛生管理能力の低下等の課題含みの状況を一層悪化させたことから、生産量は7万トン減の48万トンで、減少傾向が続くと予想される。輸出量は、生産量の低下に伴い12,000トン減の10万トンに縮小すると見込まれる。

<生食用ブドウ(生鮮)>

世界の2019/20年度のブドウ生産量は、中国の生産量が回復することから、90万トン以上増加して2,340万トンと推計される。輸出量は、中国とメキシコの増加を、インドと米国の減少が上回るため、全体ではわずかに減少すると予想される。

中国の生産量は、ブドウ園が昨年の厳しい霜害から回復するため、90万トン増加して1,080万トンに跳ね上がると予測される。フィリピン、バングラデシュ、ベトナムへの輸出の増加が輸出の継続的な増加傾向を後押ししており、生産量の回復に伴い、輸出量は史上最高の36万トンに増加するものと予測される。輸入量は、主要な輸入先であるチリ、ペルー、米国からの輸出量の減少により、27,000トン減の23万5,000トンと推計される。最近、スペイン産とポルトガル産の中国市場へのアクセスが認められたことから、EUからの小規模な供給が見られるが、米国は現在も引き続き中国に対する北半球最大のブドウ輸出国である。

中国の生食用ブドウ輸出：アジアでの成長が続く



インドでは、9月と10月の豪雨がマハラシュトラ州北部の収量に影響を与えたため、増収は20万トンに留まり、生産量は300万トンと見込まれる。シーズン後半の雨も品質を低下させた。輸出品質の供給量の低下とCOVID-19に対する国内措置の影響により、輸出量は45%急減し、13万5,000トンと見込まれる。

トルコの生産量は、エーゲ海地方の雹害の影響により、わずか5万トン増加の200万トンと推計される。生産量の増加は、ロシア、ウクライナ等への輸出量を26,000トン増加させ、輸出量は20万5,000トンと予測される。

EUの生産量は、主に加盟国最大の生産国であるイタリアでの開花期の降雨被害により、22万トン減の140万トンと見込まれる。輸出は75,000トンではほぼ変わらないと予測される。生産量が減少するにもかかわらず、エジプトとトルコからの輸入の増加をインド、ペルー、ブラジルからの輸入の減少が上回るため、輸入量は67万5,000トンとわずかに減少するものと推計される。生産量の減少により、消費量は2001/02年度以来の最低水準に達すると予想される。

米国の生産量は、春の過剰な湿気により通常よりもカビが増えたため、9万トン減の90万6,000トンに縮小すると見込まれる。農務省農業統計局は果樹業界を調査し、2020年5月の「非柑橘果実及びナッツ類に関する2019年サマリーレポート」で、米国の生産量を更新した。最終的な貿易データによると、輸出量は生産量の減少とメキシコの需要減少を反映して42,000トン減の32万6,000トンで、輸入量は販売年度初めの6月にメキシコから記録的な入荷があったため、67万2,000トンと10万トン以上増加した。

チリのブドウ生産は11年間の干ばつで24%の減少に見舞われたが、今年は前年と同じ84万トンで堅調に推移すると予測される。生産者は、点滴灌漑システムの設置、耐干性品種の栽培、専用の貯水施設の整備など、干ばつの影響を軽減するための様々な対策に投資してきた。米国、中国、EUからの着実な需要を背景に、輸出量は64万5,000トンで生産量同様ほぼ前年と変わらないものと予測される。

ペルーの生産量は、栽培面積と収穫面積の拡大が続く中、18,000トン増の64万8,000トンと推計される。輸出量は、最大の市場である米国向けが増加する一方、EU向けと中国向けの減少により、7,000トンの緩やかな増加で39万5,000トンと見込まれる。

ロシアの生産量は、栽培面積が一定のため、21,000トンで変わらないと予測される。輸入量は、トルコからの輸入の増加をウズベキスタンからの輸入の減少が上回るため、わずかに減少して27万5,000トンと予測される。

南アフリカの生産量は、良好な気象条件、十分な水供給、新品種や新植園地の成園化、及び2010/11年度以来ほぼ倍増した栽培面積の増加により、2万トン増の32万トンと予測される。EUとカナダへの持続的な輸出を背景に、生産量の増加は輸出量を1万トン増加させ、29万5,000トンに引き上げると予測される。

ナシ(生鮮)

世界の2019/20年度のナシ生産量は、EUの天候不良による減収を相殺する以上に中国の生産量が増加したため、250万トン増の2,300万トンに跳ね上がると見込まれる。中国の回復に伴い輸出量は増加すると見込まれる。

中国の生産量は、悪天候による昨年の減収がすべて回復し、300万トン増の1,700万トンと推計される。生産量の回復により、販売年度前半の輸出量はタイ向けとマレーシア向けを中心に60%近く増加して58万トンに達すると予測される。輸入量は11,000トンで堅調に推移する見込みである。

EUの生産量は、果実の被害により40万トン以上減少し、220万トンと推計される。最大の生産国であるイタリアはカメムシ(Brown marmorated stinkbug)の影響を受け、多くの加盟国は天候関連の損失を被った。生産物は海外市場と国内生鮮消費に優先的に仕向けられるため、輸出量の減少はわずかに留まり、29万5,000トンと予測される。加工仕向量は50%以上削減されて25万トンに減少するものと見込まれる。

米国の生産量は、火傷病、降雹、降雨、熱波によるワシントン州の収穫量の減少が、カリフォルニア州での増加を上回るため、65万8,000トンと7万トン近く減少するものと推計される。農業統計局は果樹業界を調査し、2020年5月の「非柑橘果実及びナッツ類に関する2019年サマリーレポート」で米国の生産量を更新した。生産量の減少によりカナダへの輸出が抑制されるため、輸出量は、14,000トン減の13万トンと予測される。生産量の減少により、輸入量は75,000トンに増加するものと見込まれる。

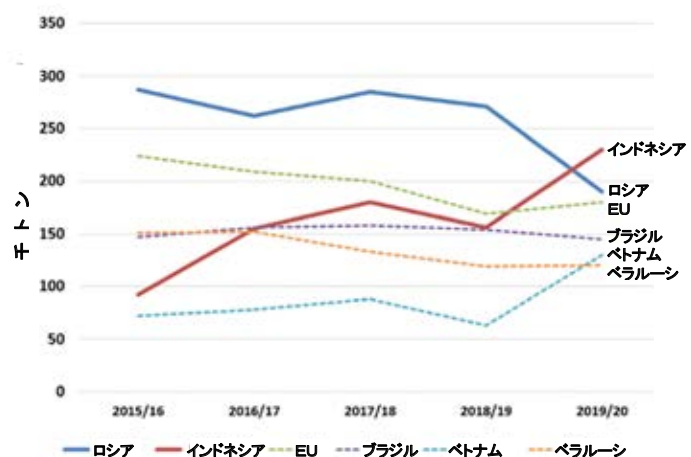
アルゼンチンの生産量は、1月の降雹により5万トン減少し、55万トンと見込まれる。生産量減少の影響を大きく受けて、加工仕向量は25,000トン減の16万5,000トンと予測される。輸出量は、販売年度当初のロシア向け及びEU向けの輸出の増加に支えられ、わずかに15,000トン減少して29万5,000トンと予測される。

南アフリカの生産量は、開花期・着果期の高温に起因する収量の低下が、栽培面積の拡大による生産量の増加によって一部相殺され、わずかに減少して40万7,000トンと予測される。2016/17年度に始まった干ばつからの回復により、栽培面積は4年連続で増加すると予測される。輸出量は、生産量の減少とCOVID-19関連の混乱により、15,000トン減の21万トンと推計される。

ロシアの生産量は、国内生産量の90%以上を占める非商業的果樹園(家庭果樹園)の生産量の増加により、わずかに増加して24万5,000トンと推計される。今年の輸入量は、アルゼンチン、南アフリカ、トルコからの輸入の増加をベラルーシと中国からの輸入の減少が上回るため、全体では30%減少して19万トンと予測される。予測通りであれば、ロシアはもはや最大の輸入国ではなく、インドネシアに次いで第2位となる。

チリの生産量は、栽培面積の減少と進行中の干ばつにより3年連続で減少し、25,000トン減の22万7,000トンと見込まれる。生産量の減少により、輸出量は2013/14年以来の最低水準である12万トンに減少すると予測される。

インドネシアがロシアを上回りナシの最大輸入国に



リンゴ(生鮮) 主要国の生産需給統計
(1000トン)

	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 12月予測	2019/20 6月予測
生産量						
中国	38,900	40,393	41,390	33,000	41,000	41,000
EU	12,453	12,723	10,005	15,030	11,477	11,477
米国	4,546	5,010	5,085	4,486	4,665	4,821
トルコ	2,740	2,900	2,750	3,000	3,000	3,000
インド	2,520	2,258	1,920	2,371	2,370	2,370
イラン	2,470	2,097	2,097	2,097	2,097	2,097
ロシア	1,311	1,509	1,360	1,611	1,714	1,714
ブラジル	1,049	1,301	1,301	1,301	1,301	1,301
チリ	1,335	1,310	1,330	1,210	1,144	1,144
ウクライナ	1,099	1,076	1,076	1,076	1,076	1,076
その他	6,215	5,855	5,892	5,795	5,878	5,836
合計	74,638	76,432	74,205	70,978	75,722	75,834
国内生鮮消費量						
中国	33,826	34,662	35,351	29,775	38,050	38,080
EU	7,534	7,739	6,524	8,178	7,401	7,346
トルコ	2,532	2,573	2,450	2,594	2,631	2,710
米国	2,553	2,817	2,672	2,518	2,589	2,635
インド	2,309	2,230	1,919	2,330	2,365	2,290
ロシア	1,646	1,583	1,807	1,867	1,884	1,816
イラン	2,036	1,864	1,372	1,814	1,814	1,814
その他	10,764	10,552	10,341	9,618	10,174	10,116
合計	63,199	64,019	62,437	58,694	66,907	66,807
加工仕向け量						
EU	3,601	3,817	3,229	6,151	3,601	3,601
中国	4,000	4,400	4,800	2,500	2,000	2,000
米国	1,404	1,497	1,540	1,372	1,361	1,450
ロシア	335	459	349	455	460	460
チリ	320	310	310	286	256	260
南アフリカ	192	144	190	199	130	243
カナダ	142	172	151	166	164	164
その他	623	596	587	581	545	474
合計	10,616	11,395	11,156	11,710	8,517	8,652
輸入量						
ロシア	746	657	859	793	710	645
EU	451	425	531	493	500	470
イラク	297	241	307	319	330	319
バングラデシュ	203	245	245	173	240	280
メキシコ	218	267	287	247	280	270
エジプト	268	145	72	266	215	245
ベトナム	141	150	160	151	190	220
カナダ	230	221	222	203	220	210
香港	160	182	162	179	178	180
インド	202	370	249	277	250	175
その他	3,558	3,350	2,971	2,617	2,856	2,621
合計	6,473	6,254	6,064	5,718	5,969	5,635
輸出量						
中国	1,151	1,402	1,302	818	1,050	1,035
EU	1,600	1,498	781	1,195	975	1,000
米国	778	868	1,007	742	860	860
チリ	765	726	789	684	660	650
南アフリカ	531	573	449	490	570	480
ニュージーランド	349	345	369	393	405	400
イラン	435	233	725	283	283	283
セルビア	253	243	156	187	175	190
モルドバ	170	168	164	299	230	185
トルコ	110	218	191	297	260	180
その他	586	476	494	596	501	450
合計	6,727	6,750	6,427	5,984	5,969	5,713

注: 販売年度は、米国とメキシコは8月～7月、他のすべての北半球の国は7月～6月。
南半球の国は、2年目の年の暦年。

ブドウ(生食用、生鮮) 主要国の生産需給統計
(1000トン)

	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 12月予測	2019/20 6月予測
生産量						
中国	10,000	10,100	10,500	9,900	10,800	10,800
インド	2,590	2,784	2,800	2,800	3,000	3,000
トルコ	2,005	2,350	2,120	1,900	1,950	1,950
ウズベキスタン	1,570	1,626	1,626	1,626	1,626	1,626
EU	1,753	1,718	1,448	1,597	1,376	1,376
ブラジル	985	985	985	985	985	985
米国	947	943	935	997	998	906
チリ	868	917	915	835	809	840
ペルー	540	611	623	630	648	648
メキシコ	282	256	339	371	375	375
その他	929	861	850	823	864	874
合計	22,468	23,150	23,140	22,462	23,430	23,378
国内生鮮消費量						
中国	10,022	10,080	10,464	9,873	10,730	10,675
インド	2,220	2,358	2,401	2,329	2,477	2,562
EU	2,280	2,280	2,057	2,200	1,988	1,976
トルコ	1,831	2,177	1,841	1,721	1,770	1,745
ウズベキスタン	1,461	1,529	1,501	1,509	1,526	1,531
米国	1,150	1,189	1,217	1,199	1,298	1,253
ブラジル	982	964	964	954	955	959
韓国	296	286	285	309	301	296
ロシア	346	228	412	310	300	295
ペルー	231	294	343	242	250	253
その他	1,335	1,367	1,458	1,492	1,433	1,459
合計	22,153	22,753	22,944	22,137	23,026	23,001
輸入量						
EU	615	649	688	682	690	675
米国	530	593	618	570	645	672
ロシア	256	212	387	290	280	275
中国	249	237	242	262	250	235
香港	232	229	250	259	240	235
カナダ	170	176	180	180	180	188
タイ	131	157	143	124	145	130
ベトナム	74	74	101	100	115	110
インドネシア	49	68	81	112	115	95
メキシコ	82	88	101	127	100	95
その他	369	398	375	375	369	369
合計	2,758	2,881	3,166	3,081	3,129	3,079
輸出量						
チリ	688	731	731	655	640	645
ペルー	297	311	277	388	400	395
中国	227	257	278	289	320	360
米国	328	347	336	368	345	326
南アフリカ	255	304	279	285	285	295
メキシコ	164	156	196	147	220	220
トルコ	175	173	280	179	180	205
香港	190	212	214	226	210	195
オーストラリア	110	107	110	146	175	160
インド	160	200	210	247	220	135
その他	241	236	251	244	226	210
合計	2,834	3,033	3,162	3,174	3,221	3,145

注: 販売年度は、米国とメキシコは5月～4月、他の北半球の国は6月～5月。
南半球のアルゼンチン、オーストラリア、チリ、ペルー及び南アフリカは10月～9月、
ブラジルは2年目の年の暦年。
一部の国のデータは干しブドウを含むことがある。

ナシ(生鮮) 主要国の生産需給統計
(1000トン)

	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 12月予測	2019/20 6月予測
生産量						
中国	16,530	15,960	16,410	14,000	17,000	17,000
EU	2,513	2,340	2,384	2,592	2,184	2,184
米国	729	668	663	726	726	658
アルゼンチン	580	540	580	600	590	550
トルコ	415	440	420	450	490	490
南アフリカ	430	432	408	413	415	407
インド	323	340	280	340	340	340
日本	278	275	275	275	275	275
ロシア	155	236	218	243	245	245
チリ	267	290	262	252	227	227
その他	604	602	634	572	577	577
合計	22,824	22,122	22,534	20,463	23,069	22,952
国内生鮮消費量						
中国	14,437	13,938	14,325	12,445	14,915	14,831
EU	2,048	1,966	1,955	1,898	1,894	1,819
トルコ	381	414	366	398	435	430
米国	390	406	398	434	425	421
インド	300	327	261	322	360	355
ロシア	417	400	423	403	382	319
日本	277	273	273	273	273	273
インドネシア	92	155	180	156	160	230
韓国	228	202	230	171	174	174
ブラジル	162	178	180	176	177	167
その他	1,174	1,218	1,245	1,201	1,274	1,360
合計	19,906	19,477	19,836	17,877	20,471	20,379
加工仕向け量						
中国	1,700	1,520	1,550	1,200	1,600	1,600
EU	356	275	285	552	250	250
米国	262	209	222	220	230	182
アルゼンチン	170	160	160	190	190	165
南アフリカ	132	119	144	145	127	156
ロシア	9	55	47	69	70	70
チリ	56	57	57	51	44	44
トルコ	10	10	10	10	10	10
韓国	10	10	4	5	6	6
メキシコ	4	4	4	5	4	4
その他	9	10	9	10	3	3
合計	2,718	2,430	2,493	2,457	2,535	2,490
輸入量						
インドネシア	92	155	180	156	160	230
ロシア	287	262	285	271	253	190
EU	224	209	200	169	180	180
ブラジル	147	156	158	154	155	145
ベトナム	72	78	88	63	130	130
ペラルーシ	151	152	133	119	110	120
メキシコ	77	67	72	92	90	90
その他	582	590	604	573	600	625
合計	1,632	1,668	1,720	1,596	1,678	1,710
輸出量						
中国	401	509	543	366	500	580
アルゼンチン	310	280	320	310	300	295
EU	310	308	345	310	220	295
南アフリカ	250	266	222	225	245	210
米国	156	126	122	144	150	130
チリ	129	152	129	132	117	120
トルコ	24	16	44	42	45	50
その他	171	145	140	121	120	68
合計	1,752	1,800	1,864	1,650	1,697	1,748

注: 販売年度は、北半球の国は7月～6月、南半球の国は2年目の年の暦年。

46. 世界のブルーベリー市場

FreshPlazaウェブサイト(2020年6月12日)

昨年は市場での価格低下圧力が度々報告されたが、今年の状況は大きく異なる。スペイン産の出荷量は、悪天候とコロナウイルス対策による労働力不足のために通常よりもはるかに少ない。イタリアは、スペイン産の出荷が終わってからポーランド産の出荷が始まるまでの隙間を埋めようとしている。米国では国内向けの出荷シーズンが始まったが、東部の生産者は今年の夏後半に市場に出回るカナダ産及びペルー産との競争を恐れている。南アフリカ産は現在、輸出がさらに拡大している。



オランダ：夜間の降霜のため生産が減少

オランダのブルーベリー市場は現在ほとんど空である。スペイン産ブルーベリーの季節は終わりに近づいており、入荷量が少なく品質もあまりよくない。オランダ産のブルーベリーの出荷シーズンが始まるまでにあと数週間ある。ある生産者は、「第26週(6月21日の週)には、オランダ南部のほとんどの農場が収穫を開始するが、生産量は大幅に低下すると見られる。特に5月中旬以降の夜間の降霜の結果、同地域の生産量は30～40%低くなると予想されている。気温はマイナス2℃前後まで下がり、多くの果実が凍結した。農場間の違いが著しく、全く被害を受けていない農場もあれば、生産量の最大70%を失ったところもある。同じ状況は、ドイツ北部とポーランドでも見られた。このため、シーズンの初めには困難を伴う。価格下落を恐れる必要はないが、販売店の棚に並ぶ数量が少ないため、通常出盛りには一パック500グラムで販売されるものが、今年はおそらく250グラムになるのではないかと。」と言う。

ドイツ：需給がバランス

小売業者によると、ドイツ市場でのブルーベリーの需要は現在比較的少ない。他の年と比較して、需要は数ヶ月間にわたり低くなっている。スペインの主要産地での労働者不足と天候不良のために、生産量は通常よりも約30～40%少ない。

しかし、この通常と異なる状況は、市場に良い影響を与えている。通常、ヨーロッパの出荷シーズン中には、慢性的な供給過剰と価格への圧力がある。小売業者は、今は需要と供給のバランスがとれており、価格はやや高いが、高騰というほどではないと言う。

この異例の状況と収穫量が少ないことから、スペインの出荷シーズンは例年よりも早く終わると見られる。出荷は現在、フランス南部などスペインよりも北の産地に移行している。現在フランスでは最初のブルーベリーが収穫されており、これは通常より約10日早い。ドイツ産のブルーベリーは7月中旬まで入荷しない。

農業市場情報会社(AMI)の最新のデータによると、ドイツ産ブルーベリーの主要産地は(重要な順に)ニーダーザクセン州、ノルトライン・ヴェストファーレン州、ブランデンブルク州である。

フランス：2週間前に収穫が始まる

この2週間フランス産ブルーベリーの収穫が進行中である。生産者が困るような問題は特にないが、需要が多くない。それにもかかわらず、フランス、スペイン、ポルトガルからの出荷量はかなり多い。一般論としてフランスのブルーベリー消費量は年々増加しており、多くの北欧諸国ほどではないが、ブルーベリーの市場は確かに存在している。

スペイン：ブルーベリーは今年のベリー類の主役

昨年この業界は大きな損失を被ったが、今年のスペインのブルーベリーの状況は、当初の予想とは全く異なることが判明した。生産者は、ブルーベリーは間違いなく今年のベリー類の主役だと言う。4月に雨が多く寒かったこともあり、収穫期が分散して異なる品種の重なりがなく、安定した出荷が保証されたことから、価格は安定している。ウエルバの生産者は現在、晩生品種のブルーベリーを出荷しており、6月末まで出荷を継続したいと考えている。スペインの輸出先国は、自国市場に大量のブルーベリーを供給できるとは考えられないので、スペインがその需給ギャップを埋めることとなる。

イタリア：ピエモンテ州産 Duke 品種が隙間を埋める

ブルーベリーの出荷シーズンがピエモンテ州で始まったところである。ブルーベリーの需要は強く、果実の品質は前年よりも良い。ヘクタール当たりの収量は、おそらく暖冬のために、昨年と比較してやや少ない。最も多く栽培されている主要品種はDukeである。この品種は味と棚持ちが良く、サイズが適当で、スペイン産の出荷が終わりポーランド産の出荷がまだ始まらない頃に熟すので、市場の隙間を埋めることができる。ブルーベリーの主な輸出先は英国で、全体の60%を占めている。残りの40%は国内市場向け、ドイツ向け及びスイス向けである。

イタリア北部の卸売業者は、ブルーベリーの価格は良いと言う。ほとんどのブルーベリーはイタリア産である。需要が安定していないため、市場価格は8~10ユーロ/kgの間で上下している。コロナウイルスに対する措置が最も厳しくなってから、スーパーマーケットのトレンドはより堅調で安定している。ケータリング業界への販売は、依然として観光が停止している影響を受けている。

中国：枝付きのブルーベリーが人気

一般的に市場はまだコロナウイルスの影響から完全に回復しておらず、ブルーベリーのような高価な果実については明らかに回復していない。荷足はかなり遅い。雲南省産は、現在は収穫シーズンが終わったが、まだ大量の入荷がある。また、遼寧省産もかなりの量があるほか、山東省の温室栽培ものも入荷がある。価格は昨年より15%低い。露地のブルーベリーも市場に出回っており、価格は約30人民元/500グラム(3.73€/500グラム)程度である。中国では、ブドウのように枝についたブルーベリーが販売され、新たなトレンドとなっている。生鮮なイメージを与えるため、消費者に人気がある。

南アフリカ：輸出が50%増加

南アフリカのブルーベリー部門は成長している。2019/2020年度の輸出量は12,282トンで、2018/2019年度の8,000トンに比べて50%増加した。2021年度のブルーベリー輸出量は17,000トンと、一層の増加が見込まれている。この数値は2022年には25,000トンに増加すると期待される。力強い成長は、5年後には幾分頭打ちになると見込まれる。

南アフリカ・ベリー生産者協会の合同マーケティングフォーラムは、最近、ブルーベリーのマーケティングと物流について話し合う会議を開催した。一部の専門家によると、これはセクターが成熟していることを示していると言う。南アフリカ産ブルーベリーの収穫は、1ヶ月以内に同国の北部で始まる。

米国：全米で平均的生産量の予想

ブルーベリーの生産は良好であるが、米国市場の需要は、主にコロナウイルスのためにピークに達した後には減少している。ある生産者は、「ブルーベリーに関して3月は良い月だった、4月は劇的で、5月は3月ほど

ではないが4月よりも良かった」と言う。4月にはメキシコからも多くのブルーベリーが入荷し、ジョージア州とフロリダ州も豊作であった。消費者の購買行動もコロナウイルスによって大きく異なり、イチゴとの競争が激しかった。

カリフォルニア州の出荷は現在ピークに達しており、あと約2週間続く。生産者は、今シーズンは久しぶりに最良の年の一つであり、またブルーベリーの需要が高いと言う。出荷量は昨年に匹敵する。ノースカロライナ州とジョージア州も現在、晩生品種の出荷のピークに達している。コロナウイルスにもかかわらず、ブルーベリーの需要は依然として強く、クラムシェル包装の使用も消費者のブルーベリー購入に貢献している。過去4週間は、その前の数週間に観察されたトレンドが逆転し、平均より高い価格も見られた。

カリフォルニア州の後には、今年の豊作が見込まれるオレゴン州で収穫が始まる。生産コストが上昇し、カナダドルの価値が低下した(訳注:カナダ産の価格が下がる)ため、生産者はより良い価格を望んでいる。その後、収穫はニュージャージー州とミシガン州でも始まるが、関係者はカナダ産とペルー産の米国東海岸への輸入による市場価格の低下を恐れている。ペルー産ブルーベリーはまた、昨年よりも早く市場に出回ると予想されており、それはいくらかの価格低下圧力となるものと見られる。

オーストラリア：販売額減少に対策を講じる業界

オーストラリア・ベリー協会は、同国におけるコロナウイルスの経済的影響により、ブルーベリーの販売額が3,000万豪ドル(1,830万ユーロ)下落すると予想している。これに対処するため、このセクターはブルーベリーの大規模なバイヤーを対象とした自主的な課徴金を導入しており、また国内の市場を守るための努力が払われている。ブルーベリーは、様々な地域で一年中栽培されている。冬の間、生産はニューサウスウェールズ州にシフトする。2019年の生産量は2018年と比較して13%増加し、19,008トンに達した。生産額は10%増加した。ブルーベリーの輸出量は9%減の201トンであったが、輸出額は8%増加した。ニュージーランド産を中心に約1,555トンが輸入された。

47. 南アフリカのグレープフルーツ輸出はまだ模様 日本向けは不調

FreshPlazaウェブサイト(2020年6月15日)

韓国、カナダ向けの貿易は安定しているが、日本、中国、ロシア向けの状況は不安定だ。



南アフリカのグレープフルーツ(ホワイトとルビーの両方)の約4分の3が既に出荷された。果実の品質と梱包・出荷は良好である。

出荷初期には一箱35玉を中心に大玉に異常に偏っていたが、その後、EU、中東、極東及びロシアの市場からの抵抗に合い、極端な大玉と小玉の出荷は控えられた。

柑橘類生産者協会のグレープフルーツフォーカスグループの最新の発表では、出荷量全体は過去2年に比べてわずかに(4%)増加したが、威勢のいいスタートの後、かなり早く「尻すぼみ」になる可能性が高いとしている。

日本でのグレープフルーツの売上げは25%減少

日本は南アフリカ産スタールビーとマーシュグレープフルーツの最大の買い手であるが、今季は物流上の困難や(特にマーシュグレープフルーツの場合)ホテル、レストラン、ケータリング向けの販売がないことにより、昨年に比べて売上が4分の1減少した。

グレープフルーツフォーカスグループは、この販売量だと市場には4～5週間分のグレープフルーツの在庫があり、さらに、積み込み中や計画中のものを除いても(コンテナ船ではない)従来型の貨物船3隻分の荷が到着すると指摘している。

南アフリカ産グレープフルーツの今シーズンの対日輸出は早く始まったが、最終的な輸出量は減少すると予想されている。

加工向け品質の輸出の急増は、中国での価格を抑制

中国では、南アフリカ産グレープフルーツを積んだ2隻の従来型貨物船の到着が、価格の急落と一致した。第23週(6月の第1週)までで、中国への赤肉グレープフルーツの輸出量は22%増加した。

中国の荷受人はその量をなんとかこなすであろうが、価格は当初の目標を下回ると警告している。

加工向け品質のグレープフルーツの輸出の大幅な急増ー昨シーズンに比べて30%増加ーは、中国での上級品の販売に何も良い影響をもたらさず、それは柑橘類生産者協会だけでなく、一部の輸出業者にとっても懸念事項である。

今シーズンの最も重要な問題は、加工用の果実が加工目的で使われずに上級品と競合する売り場に現れるのではないかと懸念に関連し、加工用品質の果実の大量の輸出は、生産者に付加価値を与えているのか、それとも価値を破壊しているのか、ということである。

フォーカスグループは、加工用品質の果実の中国への輸出の大幅な削減のほか、一箱35個の大玉の除外を、彼らが言うところの今シーズンの残りのグレープフルーツの見通しを改善するかもしれない動きとして歓迎するだろう。

他の市場への加工用果実の輸出は目に見えて増加しておらず、今年の取引データを分析することにより、加工用品質のグレープフルーツの輸出傾向(もし傾向があれば)がよりよく理解されるだろう。

48. 米国 COVID-19の影響(青果物輸入の減少と梱包施設の懸念)

4月の青果物輸入は生鮮果実が最大の減少

FreshFruitPortalウェブサイト(2020年6月15日)

米国の今年4月の果実と野菜の輸入はともに減少し、特に生鮮品が減少した。

米国農務省のデータによると、果実の総輸入量(生鮮、冷凍、乾燥、果汁を含む)は、前年比15%減の17億米ドルであった。

生鮮柑橘類は36%減、生鮮落葉果実は21%減で、アボカド、バナナ、ベリー類を含む「その他」の生鮮果実は16%減少した。逆に、冷凍果実は20%増加し、加工果実は8%増加した。

野菜の総輸入額は引き続き比較的安定しており、4月にはわずかに2%減少して13億米ドルとなった。ジャガイモを除く生鮮野菜の輸入は8%減少し、生鮮のジャガイモは数量は少ないものの46%増加した。冷凍野菜は3%のわずかな減少を見せたが、「調製または保存に適する処理をした」野菜は28%増加した。

一方、(米国での)COVID-19蔓延後の最初の完全な月となる4月の、米國小売業の青果物販売に関するIRI社(米国の情報調査分析会社)のデータは、生鮮、冷凍、缶詰の青果物のすべてで販売額が増加し、中でも冷凍と缶詰は、一貫して生鮮よりもはるかに高いレベルの増加を示した。

果実・野菜の集出荷業者に広がるCOVID-19蔓延の懸念

FreshFruitPortalウェブサイト(2020年6月17日)

米国中の果実・野菜の農場や梱包施設でCOVID-19の症例が多数出現しており、懸念が広がっている。

ロイター通信は、何千人もの食肉工場の従業員がウイルスに感染したのに次いで、農場や梱包施設の労働者の感染が増加しており、米国の食料生産におけるより一層の人手不足と新たな混乱の波につながる可能性があると報じている。

トランプ政権は先月、食肉工場の営業を維持するための行政命令を果実や野菜の生産者にも拡大する可能性があるとして述べ、青果物が次に打撃を受けるセクターになるかもしれないと懸念しているそぶりを見せた。

畑で果実や野菜を収穫する労働者は、より容易にソーシャルディスタンスを確保でき、外で働くことがウイルスの拡散リスクをいくらか減らすかもしれないが、リンゴやニンジンなどを包装する作業所の状況は、食肉包装施設での蔓延の一因となった肘と肘が接するような状態に類似している。

5月下旬までに、ワシントン州ヤキマ郡の農業労働者の間で600件以上のCOVID-19の症例があった。郡保健当局のデータをロイターが精査したところ、そのうち62%がリンゴ関係及びその他の梱包作業や倉庫の労働者であった。

さらに、広大な野菜農場によって「世界のサラダボウル」として知られるカリフォルニア州モンテレー郡の保健当局は、6月5日時点で247人の農業労働者がコロナウイルスの陽性反応を示し、郡全体の症例の39%にあたると報告した。

また、トマトの主産地であるフロリダ州イモカリー近傍でも症例が発生している。

49. エクアドル産バナナ COVID-19で価格が下落

EUROFRUIT電子版(2020年6月17日)

2020年の最初の4ヶ月、輸出量は増加したがスポット価格は大きく下落した。

コロナウイルスの世界的蔓延は、ここ数週間スポット市場で価格が低迷しているエクアドルのバナナ輸出に引き続き影響を与えている。(訳注:エクアドルは世界最大のバナナ輸出国)

輸出協会(Acorbanec)によると、エクアドルは今年の1月から4月の間に、前年同期比9.8%増となる1億4,013万トンのバナナを輸出した。

しかし、価格はこの時期の通常のレベルを大きく下回っている。6月15日現在、スポット市場で輸出業者が受け取る価格は1箱当たり約3.5米ドルで、生産者が受け取る最低価格6.3米ドルを大きく下回った。

輸出協会の関係者は、現在の価格水準は8月の初めまでだろう見ており、エクアドルの日刊紙エクスプレソに対し「人々はバナナを欲しがっているが、安いものが欲しいのだ。」と語った。

(主要輸出先である)中国、ロシア、ヨーロッパはスポット市場での支払いを減らし、アルジェリアは原油価格下落後にドルの流出を防ぐために輸入制限を課し、アルゼンチンでは経済状況が悪化しており、エクアドルの貿易見通しはすぐに改善する兆しを見せていない。

エクアドルの輸出量の増加は、主に昨年末に新しい農場が生産に入ったためである。輸出協会によると、同国の栽培面積は2019年に約4,000ヘクタール増加し、さらに4,000ヘクタールが更新された。

2020年の1月～4月の輸出量の31%がEU市場向けで、そのほか21%がロシア、15%が中東、9%が米国、7%が東アジア、6%が南米、5%が東ヨーロッパ、4%がアフリカに輸出された。

50. ベトナム産ライチ 日本に初上陸

ASIAFRUIT電子版(2020年6月22日)

ベトナム産生鮮ライチの日本向け輸出は、COVID-19の脅威の後にブレークスルーを果たした。

ニャンザン(ベトナム共産党の機関紙)に公表された報告によると、ベトナム産生鮮ライチの最初の1トンが6月20日に航空貨物で日本に到着した。さらに4トンが同時(6月18日)に出荷され、今年は合計200トンのベトナム産生鮮ライチが日本市場に到着することとなっている。

5年間の交渉の末、2019年の暮れに日本がベトナム産ライチの輸入を許可したのに続き、輸出が成功することは両国にとって大きな成果である。

先月、COVID-19による制約のため、日本の農林水産省の担当官が処理施設を訪問して検疫証明を行うことができないと報じられ、これにより日本への生鮮ライチの輸出は2021年まで延期されるものと思われた。*

しかし、パンデミックの影響を受けたとの報告に続く、最初の荷口が到着したとのニュースは、日本におけるベトナム産農産物の価値を再確認させ、ベトナムのライチ産業に必要な大きな後押しを与えた。

日本駐在のベトナム人貿易カウンセラーは、日本はライチの大きな市場ではないが、ほとんどの日本の消費者はライチに馴染みがなく、その味や食べ方についてあまり知らないなので、大きく発展する可能性を秘めており、日本でのベトナム産ライチのプロモーションを強化する必要性が高いことを強調した。

ベトナム産の新鮮なライチは、AEONスーパー及び複数の輸入業者を介して消費者に提供される。

両国の関係者は、引き続き日本市場でのライチのプロモーションを行い、生鮮ライチの保存、蒸熱処理、殺菌、輸送の技術を導入するものと期待されている。

* 訳注: 日本の検疫官は、コロナウイルスに関する14日間の隔離検疫を受けた後に、ライチの輸出検査を行った。(2020年6月19日付けFreshPlazaウェブサイト)

51. ブラジルの柑橘類事情(オレンジ、オレンジ果汁)

米国農務省GAINレポート(2020年6月22日)

これは米国農務省海外農業局サンパウロ事務所(ブラジル)が作成した「柑橘類半期報告書」であり、米国政府の公式見解とは異なる場合があります。翻訳に当たり、一部の項目と表を省略しています。

ハイライト

2019/20販売年度(以下「年度」)のブラジルのオレンジ生産量は、3億8,280万箱(40.8kg/箱、1,560万トン)で、前年度に比べて19%減少すると予測される。この減少は、サンパウロ州の柑橘類ベルト地帯の天候及び隔年結果によるものである。2019/20年度のブラジルの冷凍濃縮オレンジ果汁(FCOJ、65ブリックス換算)の輸出量は、オレンジ生産量の減少に伴い、前年度に対して17万7,000トン減の96万5,000トンと予測される。オレンジ果汁の2019年7月～2020年5月の米国向け輸出量は、米国フロリダ州のオレンジ生産が回復し、また米国内の在庫率が高いため、前年同期比で16%減少した。

<生鮮オレンジ>

生産

2018/19～2020/21ブラジル販売年度(7月～6月)(2017/18～2019/20米国販売年度に相当)のサンパウロ州及びブラジル全土の生鮮オレンジの生産、供給、流通に関する改定データを次表に示す。

ブラジル：生鮮オレンジ 生産需給統計(7月～6月)			
米国販売年度	2017/18	2018/19	2019/20
ブラジル販売年度	2018/19	2019/20	2020/21
栽培面積	601.5	595.8	595.7
サンパウロ州	401.5	395.8	395.7
その他	200.0	200.0	200.0
収穫面積	571.0	562.6	557.0
サンパウロ州	378.4	370.0	364.4
その他	192.6	192.6	192.6
結果樹本数	227.3	226.0	226.3
サンパウロ州	175.3	174.0	174.3
その他	52.0	52.0	52.0
非結果樹本数	23.1	25.3	27.5
サンパウロ州	19.1	21.3	23.5
その他	4.0	4.0	4.0
果樹総本数	250.4	251.3	253.7
生産量	391.0	472.0	382.8
サンパウロ州	286.0	375.0	287.8
その他	105.0	97.0	95.0
輸出量	0.5	0.1	0.1
輸入量	0.6	0.5	0.5
国内消費量	122.1	123.4	121.2
加工仕向量	269.0	349.0	262.0
サンパウロ州(FCOJ+NFC輸出)	245.0	325.0	238.0
その他	24.0	24.0	24.0

単位：千ヘクタール、百万本、百万箱(40.8kg/箱)

注：FCOJは冷凍濃縮オレンジ果汁、NFCは濃縮していないもの。

米国とブラジルの販売年度には1年のずれがあり、例えばブラジルの2020/21販売年度は米国の2019/20販売年度と同等である。本報告書では米国販売年度に統一して記述する。

全般

当事務所は、2019/20年度(7月～6月)のブラジル産オレンジの総生産量を、対前年度比19%減の3億8,280万箱(40.8kg/箱)、即ち1,560万トンと予測する。サンパウロ州とミナスジェライス州西部の商業的生産地帯のオレンジ生産量は、2018/19年度の3億7,500万箱(1,530万トン)に比べて23%の大幅な減少となる2億8,780万箱(1,174万トン)と見込まれる。この予測は、昨年5月に発表された柑橘類保護基金(Fundecitrus)の最初の柑橘類作況予測に基づいている。予測は、以下の品種を考慮に入れている: Hamlim、Westin、Rubi、Valencia Americana、Valencia Argentina、Seleta、Pineapple、Pera Rio、Valencia、“Folha Murcha” Valencia 及び Natal。

Fundecitrusによると、2億8,780万箱の予測は過去10年間の平均生産量を12.5%下回っているため、不作と考えられる。この落ち込みは、前のシーズンに比べて一果樹当たりの着果数が大幅に減少したためである。前年の豊作により、樹木に貯蔵された栄養分が多く消費されたため隔年結果の現象を引き起こした。天候関係の問題も、その後の生産に悪影響を及ぼした。Fundecitrusによると、2019年9月と10月の高温は着果に影響を与えた。さらに、2020年3月と4月の平均以下の降水量も果実の生育に影響を与えた。収穫量の85%は早い時期に開花した花から発達した果実であり、約12%が遅く開花した花によるものである。

収穫シーズンはサンパウロ州の柑橘類ベルト地帯では5月上旬に始まり、すべての加工工場が操業を開始する6月には収穫最盛期となる。ブラジルの農業生産者を連邦レベルで代表するブラジル農業連盟(CNA)は、労働力と輸送に関するCOVID-19の潜在的な影響についてブラジル政府に注意を促した。

ブラジル地理統計研究所(IBGE)の情報によると、他の州の2019/20年度の実績生産量は9,500万箱(387万トン)で、9,700万箱(395万トン)であった前年度に比べて200万箱減少するものと予測される。

2020年2月、サンパウロ州農業経済研究所(IEA)は、2020/21年度(米国の2019/20年度に相当)のオレンジ生産量の最初の調査を発表し、前年の3億3,540万箱(1,370万トン)とほぼ同様の3億3,670万箱(1,380万トン)と予測した。この数値は、2019年2月に収集されたデータに基づいており、商業的生産地域と非商業的生産地域の両方が含まれる。当事務所の推計は、柑橘類業界の方法論に従いサンパウロ州とミナスジェライス州西部の商業的生産地域の果汁用の主要4品種を対象としているのに対し、IEAはサンパウロ州全体のすべてのオレンジ品種を対象としていることに留意されたい。IEAは、サンパウロ州のオレンジの果樹本数を1億8,290万本(結果樹1億6,410万本及び非結果樹1,880万本)と推定している。

消費

当事務所は、2019/20年度のブラジルのオレンジ消費量を、前年度の1億2,340万箱(500万トン)とほぼ同じ1億2,100万箱(490万トン)と予測する。この数字には、実際の国内消費量のほか、自然落下及び収穫、輸送、梱包中の損耗を含む。国内販売される非濃縮果汁(NFC)の製造用に加工業者に納入される果実もここに含まれる。

国内消費量の推計値は、生産量の推計値と輸出用オレンジ果汁(FCOJ及びNFC)製造業者への原料オレンジ納入量の差として算出される。

貿易

当事務所は、ブラジル対外貿易事務局(SECEX)の改訂データに基づき、2019/20年度の生鮮オレンジ輸出量は、前年と変わらず10万箱(4,100トン)と予測する。ブラジルのオレンジは他国へのマーケットアクセスが限られており、輸出の大半はヨーロッパ諸国向けである。輸出の多くは6月から12月の間の商業的な収穫期間中に行われるが、今シーズンの輸出はほぼ皆無である。

<オレンジ果汁>

生産

2018/19～2020/21ブラジル販売年度(7月～6月)(2017/18～2019/20米国販売年度に相当)のサンパウロ州及びブラジル全土のオレンジ果汁の生産、供給、流通に関する改定データを次表に示す。表には、次の変換係数を使用して、冷凍濃縮オレンジ果汁(FCOJ)相当量に換算された輸出用の非濃縮果汁(NFC)の生産量が含まれている。

FCOJ(65ブリックス)の1トン=NFC(11.6ブリックス)の5.4～5.6トン

ブラジル：冷凍濃縮オレンジ果汁 生産需給統計(7月～6月)			
米国販売年度	2017/18	2018/19	2019/20
ブラジル販売年度	2018/19	2019/20	2020/21
加工仕向量	269	349	262
サンパウロ州(FCOJ+NFC輸出)	245	325	238
その他	24	24	24
期初在庫量	185	160	290
総生産量	1004	1312	1022
サンパウロ州FCOJ	650	958	650
サンパウロ州NFC(FCOJ換算)	274	274	292
その他	80	80	80
供給量合計	1189	1472	1312
輸出量	989	1142	965
サンパウロ州FCOJ	671	858	630
サンパウロ州NFC(FCOJ換算)	270	245	280
その他FCOJ	48	39	55
国内消費量	40	40	42
期末在庫量	160	290	305
仕向量合計	1189	1472	1312

単位：加工仕向量は生鮮果実百万箱(40.8kg/箱)、その他は果汁千トン(65ブリックス換算)

注：FCOJは冷凍濃縮オレンジ果汁、NFCは濃縮していないもの。

米国とブラジルの販売年度には1年のずれがあり、例えばブラジルの2020/21販売年度は米国の2019/20販売年度と同等である。本報告書では米国販売年度に統一して記述する。

全般

当事務所は、2019/20年度のブラジル産冷凍濃縮オレンジ果汁の生産量(FCOJ、65ブリックス相当)を、2018/19年度に比べて29万トン減の102万2千トンと予測する。この減少は、加工用果実の供給量の低下が予想されるためである。サンパウロ州の果汁産業は、果汁用オレンジ2億3,800万箱(FCOJ用1億6,300万箱、NFC用7,500万箱)を処理し、果汁94万2千トン(FCOJ65万トン及びNFC29万2千トン)を生産するものと予測される。他の州は、2,400万箱の果実から、果汁8万トンを生産するものと予測される。

2018/19年度のブラジルのFCOJ(65ブリックス)の生産量は、前回の見通しから15,000トン減の131万2千トンにわずかに下方修正された。この落ち込みは、主に1トン(65ブリックス)の果汁を生産するのに必要なオレンジの箱数の修正(前回見通しの262箱に対して今回は266箱)によるものである。

オレンジ果汁の数字には、FCOJ(65ブリックス)に換算された輸出用のNFCの生産量が含まれている。ブラジルのNFCの需給に関する公式な推計値はない。

消費

報告者は、2019/20年度のFCOJの国内消費量を、据え置き42,000トン(65ブリックス)と予測している。

ブラジル柑橘類輸出業者協会(CitrusBR)は、国内のFCOJ消費量を35,000トン(66ブリックス)と見積もっている。

貿易

当事務所は、2019/20年度のブラジルのFCOJ(65ブリックス)輸出量は、果汁用オレンジの供給量の減少により、2018/19年度の114万2千トンから17万7千トンの減少となる96万5千トン(全量がサンパウロ州)と予測している。

当事務所は、2018/19年度の果汁の輸出量を、加工用果実の供給の増加により、前のシーズンに比べて15%増の114万2千トンと推計する。

2019年7月～2020年5月の米国向けのFCOJ換算輸出量は15万9,633トン(66ブリックス)で、2018/19年度の同時期(18万8,998トン)に比べて29,365トン減少した。

ブラジルから米国への輸出の減少は、米国フロリダ州の柑橘類生産が回復したことと、米国の在庫率(使用量に対する在庫の量)が高いためと考えられる。ブラジルの総輸出量の約70%を占めるEU向けの2019年7月～2020年5月の輸出量(FCOJ、66ブリックス)は67万7,443トンで、前年同期(59万1,091トン)と比較して15%増加した。

ブラジル対外貿易事務局(SECEX)のデータに基づく Trade Data Monitor (TDM) による、2018/19年度及び2019/20年度のオレンジ果汁(関税分類2009.11.00)の輸出先国別輸出量は次表のとおりである。(関税分類2009.12.00(NFC)及び2009.19.00(その他のオレンジ果汁)の表は省略)

冷凍/非発酵オレンジ果汁 輸出量 (トン、千ドル(FOB))				
	2018年7月～2019年5月		2019年7月～2020年5月	
輸出先国	輸出量	輸出額	輸出量	輸出額
ベルギー	90,290	171,259	158,506	263,995
オランダ	51,255	99,093	59,384	82,927
日本	36,585	71,728	53,206	93,922
中国	30,188	60,328	42,623	58,645
米国	20,940	40,702	13,467	21,191
オーストラリア	11,162	22,588	11,330	20,193
オーストリア	180	361	10,548	16,912
イスラエル	10,393	19,535	6,678	7,947
韓国	-	-	6,381	10,483
チリ	5,438	11,346	5,134	8,242
その他	36,174	73,478	36,895	60,857
合計	292,605	570,418	404,152	645,314
出典:ブラジル対外貿易事務局(SECEX)データに基づく Trade Data Monitor 関税分類 2009.11.00				

在庫

2019/20年度の期末在庫量は、2018/19年度(29万トン)と比較して15,000トン増の30万5千トン(65ブリックス)と予測される。在庫量には、ブラジル国内のオレンジ果汁施設(加工工場、港湾ターミナル等)の貯蔵タンクの在庫のみが含まれる。米国、欧州、日本の輸送施設や港湾ターミナルなど、ブラジル企業が海外で保有する在庫は含まれない。

ブラジル柑橘類輸出業者協会(CitrusBR)によると、ブラジルのオレンジ果汁の世界の在庫量は、2020年6月30日現在で42万782トン(66ブリックス)と推定され、2019年6月30日の在庫量(25万3,181トン、66ブリックス)に対して16万7,601トン増加した。CitrusBRの世界の在庫量には、ブラジル国内の加工工場や港湾ターミナルの貯蔵タンクのオレンジ果汁及び海外の在庫量(世界中の船舶や港湾施設)が含まれる。

52. 中国 ウンシュウミカンの生産量が減少

FreshPlazaウェブサイト(2020年6月22日)

市場の状況は昨年より悪い。

他のマンダリンはまだ成熟中であるが、ウンシュウミカン(Wenzhou Satsuma mandarin)は6月中旬に広西省龍州県ですでに収穫が始まり、中国の今年のウンシュウミカンの小売シーズンが正式に開幕した。早生のマンダリンは、通常6月中旬に少量が市場に入荷する。湖南省と雲南省のウンシュウミカンは、通常7月中旬に市場に入荷する。

早い時期のマンダリンは、まだかなり酸味が強い。スーパーマーケットでは、味が良くなる6月後半まで販売できない。早生のマンダリンは、昨年より3日遅く市場に入荷した。果実の大きさは非常に小さい。生産量も大幅に減少し、昨年の約70%~80%に過ぎない。受粉期間中は雨が降り続き、夏の間には新梢が伸び過ぎ、着果数が少なくなった。

生産量が大幅に少ないにもかかわらず、購入価格が上昇しない主な理由は、倉庫に貯蔵されたOrri種とMaogu種のマンダリンの小売販売が進まないことである。倉庫からの貯蔵品の供給は、新鮮な早生マンダリンの販売を圧迫する。広西省南寧市でのOrri種の貯蔵マンダリンの価格は、0.5kg当たり約2.3~2.5元(0.32-0.35米ドル)である。業界の一部の人々は、市場の圧力があまりにも大きいと言う。果実の多くは売られる前に腐敗するだろう。このほかの低価格の理由としては、酸味が強いこととサイズが小さいこと等があげられる。

出典: ncw365.com

53. インド 今シーズン初の日本向けマンゴーを航空便で輸出

FreshPlazaウェブサイト(2020年6月24日)

今シーズン最初の荷口である約3.5トンのマンゴーは、6月22日にムンバイから空路で日本に送られた。昨シーズンは、約40トンのマンゴーが日本に輸出された。

日本に送られた荷は、ヴァシ市にあるマハラシュトラ州農業流通委員会(MSAMB)の蒸熱処理場で、日本へのマンゴー輸出に必須の蒸熱処理を受けたと同委員会の高官は述べた。

日本は2006年からインド産マンゴーを輸入しており、蒸熱処理プロセスを監督する検査官を送っている。しかし、今年はCOVID-19の流行のために、日本政府は検査官をムンバイに送ることができなかったため、代わりに、植物保護・検疫・保管局が必要な手順を監督することを許可した。農業流通委員会の担当官は、これに従ってマンゴーの蒸熱処理プロセスを完了した。

日本向けの荷は、3つの輸出業者によって発送された。農業流通委員会の高官は、蒸熱処理施設は機能していたが、日本への国際線航空便が利用できず、今シーズンの輸出が遅れたと述べた。

経済情報サイト financialexpress.com によると、5月末までにインドから合計約11,760トンのマンゴーが中東、サウジアラビア、英国、米国、ドイツに輸出された。昨年の同時期の輸出量は、22,892トンであった。

54. 世界のアボカド市場

FreshPlazaウェブサイト(2020年6月26日)

欧州市場のアボカドの価格はゆっくりと下落している。総じて言えば、7月と8月の価格はこれまでに比べて急落すると予想される。これは、コロナウイルスがまだ大きな影響を与えているため、一部の国の購入量が引き続き通常よりも少ないためである。例えば、米国のフードサービスの一部はまだ元のレベルに戻っていない。このため世界最大の生産国であるペルー(ママ*)は、欧州市場への販売を増やしている。その他の生産国・地域は、メキシコ、コロンビア、米国カリフォルニア州、南アフリカ、ケニア、タンザニア、ウガンダである。ペルーは中国とインドの両方で強い存在感を示している。南アフリカの業者は、自国産の生産量が予想よりも少なかったため、現在ペルー産のアボカドを調達してそれを補っている。中国の輸入は増加し続けており、コロンビア産は、チリ産とペルー産の端境期を埋めるのに都合の良い補完として認識されている。また中国はアボカドの国内生産に向けて取り組んでいる。



(訳注)生産量、輸出量ともにメキシコが圧倒的な1位であり、ペルーは2位である。)

ベルギー：ハス種は低価格、グリーンスキンは通常の価格

ベルギーの流通業者によると、現在様々な国が出荷しているため、ハスアボカドの供給量が多くなっている一方、需要は通常のレベルにある。その結果、ハス種の価格は非常に低くなっており、グリーンスキンの価格とあまり変わらない。グリーンスकिनは現在ペルーと南アフリカから通常どおりに輸入されている。

オランダ：アボカドの大量供給、人気はまだ上昇中

現在ヨーロッパのアボカド市場は供給量が多い。輸入業者は、ペルーとケニアから十分な供給があると言う。南アフリカからのグリーンスキンの供給も良好である。これらは特に東ヨーロッパ、バルト諸国、イタリア、ギリシャで人気がある。アボカドの人気の高まりにより、輸出国の栽培面積が拡大している。輸入業者によると、例えば、ケニアは市場シェアを拡大し続けているが、タンザニアも潜在的なアボカド輸出国になりつつある。好ましいのは、アボカドの人気がさらに高まっていることである。6月は世界アボカド機構によってアボカド月間に選ばれ、世界中の様々なスーパーマーケットチェーンでプロモーションが行われた。アボカド輸出国の数も増加している。ペルー、チリ、アフリカの輸出業者は、中国市場に一層注力している。中国は、まずその膨大な人口により、そしてアボカドがまだほとんど知られていないことで、多くの可能性を有している。

ドイツ：わずかな供給過剰が価格の圧力に

コロナウイルスのために、アボカドの取引の流れに変化があった。ケータリング部門は大幅に減少し、小売売上高は著しく増加した。アボカド市場は危機をうまく乗り切ったようで、売り上げはおしなべてほぼ安定している。しかし、供給量が限られているので、4月から5月にかけて価格が大幅に上昇した。輸入業者によると、今は、市場はやや穏やかな状態に戻った。

ペルー産の供給は、やや難しいスタートを切ったにもかかわらず、現在は順調に進んでいる。最近まで非常に多かった小玉に代わり、現在最も多いサイズは16+である。流通業者は、「これらは小玉傾向の南アフリカ産とうまく組合わせるので、供給のバランスは取れている。」と言う。価格は、わずかな供給過剰と強い価格圧力のために非常に低下している。流通業者は、今後数週間のうちに状況が再び安定すると予想している。

フランス：市場の価格圧力にもかかわらず消費はやや停滞

最近数週間で大量のペルー産アボカドが欧州に到着したため、フランス市場でアボカドの在庫が膨らんで

いる。その結果、価格は急激に下落した。スーパーマーケットでのプロモーションにもかかわらず、フランスでの消費はやや停滞している。ロックダウン中にアボカドの価格が高くなり、今は再び安くなったが、フランス人はまだ他の選択肢を好んでいる。ランジス青果市場などで、大量のアボカドが出回っている。

英国：大量のペルー産アボカドにより低価格

大量のペルー産アボカドが現在、ヨーロッパ市場に到着している。第23週(6月の第1週)には毎週400本の冷蔵コンテナが到着していたが、この数字が今は毎週600本に増加した。入荷量が多いため、市場は圧力を受けており、価格は低い。この状況は今後2〜3週間続く見込みである。ペルー北部では現在もまだ小玉のアボカドを出荷中である。収穫が国の南部に移動すると、より大きなサイズが出荷される。英国では良い天候と小売業者のプロモーションにより、市場の需要は強い。南アフリカとケニアからの入荷もある。

スペイン：大量出荷とコロナ禍にもかかわらずスペインのアボカド出荷シーズンは成功

スペイン産アボカドの出荷シーズンは、大量の出荷の末5月に終了した。今は表年であった。大量(約8万トン)の出荷とコロナ禍にもかかわらず、最も小さいサイズの需要がシーズンの終わりまで高かった。需要が高いため、シーズンは高値のまま早期に終了した。生産者、流通業者、小売業者は、今シーズンのスペイン産アボカドは大成功であったと考えている。

2020/2021年度の出荷は、9月に緑色系の品種で始まり、10月末からハス種に引き継がれる。新しい年度は収穫量が大幅に減少する裏年であると予想される。このため、スペインの流通業者や輸出業者は、他国産によって供給を補完する。その対象となる輸入先国はチリとメキシコである。スペインの輸入業者は現在、ペルーからアボカドを入手している。ペルー産は欧州市場に殺到し、6月上旬から価格の下落を引き起こした。スペインの輸出業者によると、ヨーロッパ市場は通常、週に1万トンのアボカドをこなすことができるが、6月上旬からは週に1万3千〜1万4千トンのアボカドがヨーロッパ市場に流入した。

イタリア：ロックダウンにもかかわらず、売り上げは引き続き上昇

アボカドの価格は欧州市場でゆっくりと下落しており、これはイタリアにも当てはまる。今後数ヶ月間、わずかながら継続的な減少が予想される。ミラノ卸売市場の業者は、「アボカドの取引は毎年増加している。ロックダウンの最も厳しい時でさえ、市場のアボカド供給は大幅に増加し続けた。3月1日から5月31日まで、前年同期比で40%増加した。卸売市場の平均価格は10ユーロ/4kg(南アフリカ産及びペルー産)である。世界の貿易量と比較すると、イタリアの生産量はわずかである。そのため、価格は輸入アボカドよりも高い(ほぼ2倍)。最も一般的な品種はハス、フェルテ、エッティンガーで、来季の出荷は10月にシチリアで始まる。

南アフリカ：輸出量を下方修正

アボカドの輸出量は当初4キロ箱で1,850万箱と見込まれていたが、その見積もりは1,600万箱に下方修正された。これには2つの理由がある。第一に、ヨーロッパへのグリーンズキンアボカドの輸出は、シーズン初めのヨーロッパ大陸のロックダウンのために減少した。ロッテルダムなどのヨーロッパの港からグリーンスキンの主要消費地である東ヨーロッパへの内陸輸送もロックダウンによって困難となった。第二の理由は、南アフリカの降水不足と熱波のために、アボカドが小玉であったことである。今年、アボカド業界の大規模多国籍企業は、ペルーなど他の産地のアボカドで、南アフリカ産の不足分を補う必要があった。

現在の輸出シーズンの3分の2はすでに終了した。スーパーマーケットでの売り上げは順調に推移している。第21週(5月18日からの週)から、ヨーロッパ市場でペルー産アボカドの存在感が次第に高まった。業界はまた、消費者の行動に目を光らせ、購入後に自宅で追熟するアボカドとすぐに食べられるアボカドのどちらを好むかを調べようとしている。国内市場では、フードサービスが徐々に回復しており、アボカドの需要を押し上げている。国内市場の平均価格は現在0.62ユーロ(12.21ランド)/kgで、上昇傾向にある。

北米：ペルーは米国に多くのアボカドを出荷中

控えめに言っても、アボカドの供給は豊富である。現在北米市場で入手できるアボカドは、主にカリフォルニア州産、ペルー産、メキシコ産である。今年のカリフォルニア州の予想収穫量は、昨シーズンよりも多い。カリフォルニア州の生産者は「今年は16万7,375トン(3億6,900万ポンド)のアボカドがあり、そのうちすでに92,986トン(2億500万ポンド)を収穫した。週に6,800トン(1,500万ポンド)を収穫できると予想している。」

と言う。今年はペルーからのアボカドの入荷が多い。米国でも在庫が多く、価格圧力を下げるためにメキシコは同国産の在庫を制限しようとしているが、ペルーはこれに付け込もうとしている。今年はスーパーマーケットでペルー産青果物を宣伝する小売業者が増えている。メキシコ産も昨シーズンより入荷が多いと予想される。

需要面では、価格は現在も安定している。コロナウイルスによるロックダウンの最初の4週間の間、市場での販売量は毎週5千万ポンド(22,680トン)から4千万ポンド(18,144トン)に減少した。その後の数週間で、小売業はフードサービス向けの販売量を吸収することができた。フードサービスのアボカド需要は現在、元の50%の水準に戻っている。しかし、今後数週間のうちに、ペルーとカリフォルニア州からの果実の入荷に伴い、市場圧力が高まることが予想される。

メキシコ：ハリスコ州はペルーとの競争に直面

ミチョアカン州の生産者が主に米国へ輸出しているのに対し、ハリスコ州の生産者はカナダ、ヨーロッパ、アジアに注力している。ハリスコ州の出荷シーズンは、生産が少ない3月から4月の間に短い端境期がある。今年の新シーズンは、5月中旬ではなく5月末と遅く始まったが、ペルー産が同じ輸出先に大量に出荷されているため、生産者は困難な市場状況に直面している。

ペルー：生産は引き続き増加

ペルーの出荷は4月末に始まった。ペルーの主要戦略は、生産を拡大し、世界市場、特に北米とヨーロッパでより大きなシェアを獲得することである。6月中旬から10月にかけて、米国向けの大量の輸出が見込まれている。生産は拡大を続けており、少なくとも90,718トンのアボカドが今シーズン米国に輸出される予定である。

コロンビア：出荷の最盛期は9月から

コロンビアは現在オフシーズンで、出荷が少ない。生産者は9月からの出荷最盛期に向けて準備を進めている。コロンビアは世界市場での販売拡大に懸命に取り組んでいる。輸出業者にとって、コロナウイルスがアボカド市場に与える影響は、需要と価格に関してまだそれほど深刻ではない。

インド：主要な輸入先はニュージーランドとペルー

アボカドは最近のインド市場で好調である。海上輸送によるペルー産の初荷は、まもなく到着する見込みだ。新しい電子商取引の販売プラットフォームのおかげで、インド市場でのアボカドの売り上げは増加している。価格と供給量は現在いずれも安定している。

ペルーとニュージーランドが、インド市場の2大主要輸入先である。両国は、季節によってはインド市場でそれなりのシェアを持っている。包装、熟度、価格は、両国で非常に異なっている。そのため、両国のアボカドが同時に市場に出回っても、異なる層の消費者にアピールする。

中国：今年初めてコロンビア産と米国産のアボカドが入荷

輸入量は前年に比べて少ない。これは主に、多くのアボカドが低品質のために適切に処理されておらず、現地市場での販売に影響を与えているからである。現時点では、ほとんどのアボカドはペルー産で、その輸入量は7月中旬から増加する。また中国は今年、カリフォルニア州とコロンビアから初めてアボカドを輸入することとなっている。コロンビアからの最初のコンテナは6月29日に到着する予定である。ある輸入業者は、これはチリ産とペルー産の端境期を埋めるのにちょうどよい補完になると期待している。同じ輸入業者はまた、中国での国内生産への第一歩として、今年初めて雲南省にハスアボカドを植えた。

オーストラリア：安定した在庫があるが、夏の供給が少ない

オーストラリア・アボカド協会は、今後数ヶ月の供給が安定していると予想しているが、南部の産地では着果数が少ないため、夏の収穫期になれば出荷量が低下するものと予想される。オーストラリアのほとんどの州が厳格なコロナウイルス対策を既に緩和したにもかかわらず、食品サービス業への販売が枯渇しているため、業界は引き続き家庭でのアボカド消費を促進する活動を行う。

関連記事

アボカドの国別輸出入(データのみ抜粋)

World's Top Exports ウェブサイト(2020年6月26日)

2019年にアボカドの純輸出額が多かったのは次の国である。

(純輸出額 = 総輸出額 - 総輸入額)

1. メキシコ	28億米ドル(純輸出額が2015年比67.8%増)
2. ペルー	7億5,130万ドル(同 147.3%増)
3. チリ	2億7,260万ドル(同 87.1%増)
4. コロンビア	1億7,540万ドル(同1,619.5%増)
5. ケニア	1億3,780万ドル(同 161.5%増)
6. ドミニカ共和国	8,690万ドル(同 426.1%増)
7. イスラエル	7,310万ドル(同 38.9%増)
8. ニュージーランド	6,950万ドル(同 10.8%増)
9. 南アフリカ	6,710万ドル(同 0.1%増)
10. モロッコ	4,650万ドル(同 297.1%増)
11. スペイン	4,490万ドル(同 53.1%減)
12. タンザニア	2,300万ドル(同1,683.1%増)
13. ブラジル	1,790万ドル(同 193.4%増)
14. グアテマラ	380万ドル(同270万ドルの純輸入国から純輸出国へ転換)
15. エクアドル	360万ドル(同66,000ドルの純輸入国から純輸出国へ転換)

2019年にアボカドの純輸入額が多かったのは次の国である。

(純輸入額 = 総輸入額 - 総輸出額)

1. 米国	27億米ドル(純輸入額が2015年比68.9%増加)
2. フランス	4億2,870万ドル(同 82.2%増)
3. 英国	3億2,750万ドル(同101.3%増)
4. ドイツ	2億8,340万ドル(同142.5%増)
5. 日本	2億3,970万ドル(同 56.1%増)
6. カナダ	2億3,780万ドル(同 52.6%増)
7. 中国	9,240万ドル(同104.9%増)
8. ロシア	9,100万ドル(同378.7%増)
9. イタリア	7,570万ドル(同217.1%増)
10. ノルウェー	6,490万ドル(同 52.9%増)
11. スウェーデン	6,400万ドル(同 22.9%増)
12. スイス	6,230万ドル(同 95%増)
13. ポーランド	6,180万ドル(同198.9%増)
14. デンマーク	5,620万ドル(同 34.6%増)
15. オーストリア	3,650万ドル(同140.6%増)

55. 日本の果実輸入は力強い伸び

ASIAFRUIT電子版(2020年6月29日)

日本の5月の生鮮果実の輸入量は、対前年同月比で5%増加し、その主要因はバナナとキウイフルーツの増加であった。一方、柑橘類の輸入は品目によって増減が混在した結果となった。

日本の財務省と総務省が発表したデータによると、5月の生鮮果実の輸入量は前年同月に比べて8,897トン増の18万2,070トンとなった。COVID-19蔓延による混乱にもかかわらず、日本の生鮮果実の輸入はここ数ヶ月増加している。年初から5月までに対前年同期比1.9%増の72万1,832トンが輸入された。

5月(以下同じ)のバナナの輸入量は、前年同月より6,406トン(6%)増加し、品目別で最大の増加量を示した。最大の輸入先であるフィリピンからの輸入が2%減少し、エクアドルやメキシコなどからの輸入が増加した。キウイフルーツの輸入も順調で31,090トンに達し、前年同月に比べて6,170トン(25%)の増加であった。

グレープフルーツは、前年に比べて2,438トン(126%)増と顕著な増加を示した。一方で、レモンの輸入量は、カリフォルニア産レモンの輸入が急減した結果、わずか1,033トンで、前年同月に比べて3,727トン(78%)減少した。

56. 米国 中国産柑橘類解禁に押し戻しの動き

ASIAFRUIT電子版(2020年6月30日)

米国では中国産柑橘類のアクセス承認に異議が提起されているが、農務省は立場を変えていない。

5種類の柑橘類の輸入を許可するという農務省の4月の決定に対して、中国からの柑橘類の輸入禁止を求める法案が提出された。米中貿易協定の第1段階の一環として、米国は植物防疫上のシステムアプローチの下でのポメロ、ハニーマンダリン、ポンカン、スイートオレンジ及びウンシュウミカンの輸入を承認した。

UPI通信社の伝えるところによると、米国、特にフロリダ州の柑橘類生産者に与える影響に関する懸念が拡大することを食い止める法案が提出された。

グレッグ・スチューブ 共和党下院議員は、農務省の決定を揺るがすためのフロリダ州での取り組みが失敗した後、米国柑橘類保護法と呼ばれる法案を提出した。

同議員はUPIに対し、「米国の生産者が今、ブラジルとの競争、カンキツグリーンング病やその他の病気など、多くの課題を抱えていることを考えると、中国からの輸入という課題を追加することが非常に問題を含むことは明らかだ。」と語った。

上院ではこの法案と同時に審議する法案がなく、日程調整上の問題が生じる可能性があることを同議員も認めており、実現までの長い道のりに直面している。

農務省は4月に5種類の柑橘類に承認を与えた際、この法案によって提起されている懸念に触れ、心配される植物病害虫リスクを軽減できる措置が存在すると判断した。

農務省はその決定の中で「米国は、果実や野菜の輸入の禁止は科学的証拠に基づいて課され、十分な科学的証拠なしには維持されないことに合意し、中国は、中国からの植物や植物製品の輸入に対して米国が課す植物衛生措置を尊重することに合意した。その上で、すべての中国産柑橘類は、米国へ入国する港で検疫対象の病害虫について検査され、輸入貨物に病害虫が付いていると判断された場合は、その病害虫のリスクに対処するための適切な措置が適用されるとともに、動植物検疫局は、中国側の輸出プログラム自体が確実に改善されるかどうかを評価する。」としている。

57. EUの柑橘類事情(生産動向と政策)

米国農務省海外農業局GAINレポート(2020年6月30日)

これは米国農務省海外農業局マドリッド事務所(スペイン)がEU域内関係事務所の協力を得て作成した「柑橘類半期報告書」であり、米国政府の公式見解・データとは異なる場合があります。長文のため、個別品目の解説、一部の政策事項(残留農薬基準の見直し)及び細部の一部を省略しました。なお、本報告は英国を含む28か国を対象としています。

ハイライト

2019/20販売年度(以下「年度」)のEUの柑橘類生産量は、11%減の1,040万トンと予測される。この生産見通しは、前回の見通しより4%多い。EUの主要な柑橘類生産国であるスペインの天候不順が、全体的な生産量減少の要因である。柑橘類生産の減少は輸入を促す可能性がある。EU産柑橘類の戦略的輸出市場は、引き続きカナダ、中東、中国である。2019/20年度は、EUの航空機補助金に関連して世界貿易機関(WTO)が承認した米国の報復関税が、スペイン産クレメンタイン及びレモンの輸出に影響を与える可能性が高い。COVID-19が蔓延する間、消費者が免疫システムを強化する食品を求め、柑橘類の域内需要は強く保持されていた。この報告の時点で、EUの柑橘類輸出はコロナ禍の直接的な影響を受けていない。

生産の減少と消費者の需要増加が輸入を促進する可能性

要約

EUの柑橘類の生産は地中海地域に集中している。スペインとイタリアはEU産柑橘類の代表的産地であり、ギリシャ、ポルトガル及びキプロスがこれに続く。報告者は、2019/20年度は、天候のよくないスペインを中心に柑橘類全体の生産量が減少する一方、果実の品質は優れているものと予測する。EUの柑橘類の消費量は、COVID-19の蔓延に対応して前回までの推定値から増加する可能性がある。政府の指示によるEUでのロックダウンの間、消費者は免疫システムを強化する食品を求め、柑橘類の人気の高まった。この柑橘類消費の増加は、EUの柑橘類供給の減少と相まって、2020年の最初の16週間のスペイン産柑橘類の価格を押し上げた。

2019/20年度のEUのオレンジ生産量は610万トンと予測され、2018/19年度より9%近く少ないが、前回の見通しより6%多い。この生産見込みの落ち込みは、主としてEUの主要オレンジ生産国であるスペインで春と秋に大雨が降る悪天候であったことによる。これに伴い、EUのオレンジ果汁生産量は、対前年比21%減の83,724トンと予測される。この予測は、2019/20年度のEU産オレンジの加工仕向量の予想と一致している。さらに、2019/20年度のEU28か国のタンジェリン生産量は、スペインで23.8%の減少が予想されることにより、14%減の270万トンと予測される。過去9年間で、EUのオレンジの栽培面積は13%近く縮小し、タンジェリンは8%縮小したが、柑橘類農業の生産性と収益性は向上した。

同様に、レモンとグレープフルーツの主要生産国でもあるスペインで生産量の大幅な減少が予想されるため、2019/20年度のEU産レモンの生産量は、前期と比較して16%減の140万トン、グレープフルーツは11%減の96,000トンと予測される。EUのレモンとグレープフルーツの栽培総面積は拡大を続けており、2011年以降8%増加した。

2019/20年度は、EUの柑橘類生産量が減少するため、EUの柑橘類輸入量は、モロッコ産と南アフリカ産を中心にわずかに増加すると予想される。EUの柑橘類の輸出先は主にスイス、ノルウェー及びカナダで、近年は中国と中東への輸出が大幅に増加している。EUの柑橘類輸出は、カナダ、中東、中国などの戦略的な市場で引き続き上昇傾向が続くと予想される。一方、EUの航空機補助金に関連し世界貿易機関(WTO)が認めた米国の報復関税は、EUの柑橘類輸出、主にスペイン産クレメンタインとレモンに影響を与える可能性がある。COVID-19の蔓延に対する封鎖措置の間、スペインの柑橘類部門は国内外の需要に力強い対応を行った。これまでのところ、EUの柑橘類貿易はコロナ禍の影響を受けていない。

政策

共通農業政策(CAP)の改革

単一の共通市場制度(CMO)は、共通農業政策の下での市場関連措置の枠組みを提供しており、これは欧州連合規則1308/2013でその概要を規定され、2014年1月1日に発効した。共通農業政策は、各国に委任された行為によって補完される4つの基本的な規則で構成される。柑橘類等の農産物を販売するために生産者によって設立された法人である生産者組織は、引き続き果実や野菜の共通市場制度における重要な要素である。EUの補助金は個々の生産者に支払われるのではなく、生産者組織を通じて支払われる。EUの補助金の対象となるためには、生産者組織は運営基金によって手当てされる実施計画を提出する必要がある。EUの補助金は、生産者組織の運営基金に直接払い込まれる。運営基金の額は、実施計画と市場への農産物販売額に基づいて算出される。実施計画は、2014年1月20日付の規則に基づき承認される。

果実と野菜の市場からの隔離(訳注:出荷抑制等)に対する生産者組織への支援を強化する欧州委員会委任規定2017/891が2017年6月1日に発効した。この枠組みはまた、生産者組織を未加入者としてより魅力的なものにし、EUの補助対象となる行動をより明確化し、また生産者が消費者に直接販売する短いサプライチェーンを作り出すため組織外で販売できる農産物の最大割合を25%に設定することを目的としている。さらに、多国籍の生産者組織とその連合体への支払いに関する規則を簡素化・明確化している。

果実・野菜の流通に関するEU規格

EU域内へ輸入される生鮮果実・野菜は、すべての流通段階で、品質、サイズ、表示、包装、展示方法などを含むEUの流通規格に合致しているかどうかをチェックされる。すべての生鮮果実・野菜の一般的な流通規格は欧州委員会実施細則(EU)No543/2011に示されている。柑橘類を含む10品目については、さらに品目別の流通規格がこの細則の付属文書に定められている。

2020年以降の共通農業政策

欧州委員会は2018年6月1日、2020年以降の共通農業政策に関する法案を提出した。新しい提案の目的は、気候変動などの現在および将来の課題に対してより良く対応することである。共通農業政策は引き続き欧州の農家を支援するが、予算総額はこれまでに比べて少ない。

COVID-19のため「学校果物計画」を延長

欧州の「学校における果物計画」は、子どもの肥満と闘うための措置として2009年に始まった。学校での果物や野菜の無料配布、健康的な食習慣に関する情報キャンペーン、モニタリングと評価の3つの要素が含まれている。2019/20学校年度には、前年までと同様にすべての加盟国に合計2億6,400万ドル(2億5,000万ユーロ)のEU資金が割り当てられている。

しかし、COVID-19対策の一環として実施された教育機関の一時的な閉鎖により、2019/20年度の学校果物計画の実施に支障が生じているため、欧州委員会は2020年4月30日に、「学校年度」の定義を2020年9月30日まで(訳注:1か月間)延長する実施細則(EU)2020/600を発令した。また、付属的な教育措置に対する補助金申請の提出期限も延長された。さらに、2021/22学校年度の学校果物計画に参加する加盟国の間で、未交付の補助金を再分配する可能性もある。

コロナ禍関連の実施計画の柔軟性

2020年4月30日、欧州委員会は、COVID-19の蔓延とそれに関連する措置によって引き起こされた果実、野菜及びワイン部門の市場の障害に対処するための加盟国政府への委任規定(EU)2020/592を公布した。生産者組織は、市場の障害に対する回復力を高めるため、実施計画の一環として危機対策と予防措置を実施することができる。通常の下況下では、これらの危機回避・管理対策は、実施計画の下での支出の3分の1を超えることができないが、この規定によって2020年にはこの制限が適用されない。

販売促進措置

果樹部門はまた、農産物販売及び地理的表示促進のための欧州販売促進予算の恩恵を受けることができる。欧州委員会は、対象品目の範囲の拡大と輸出市場への重点化を図るため、販売促進政策の改革を実施した。2020年の販売促進予算は2億5,500万ドル(2億ユーロ)に達している。これまでのような各国政府による一部負担の必要はなく、EU内の団体は、この計画に直接申請することができる。

EU向け輸出のための証明書

EUへの果実、野菜、ナッツ類の輸出には、植物検疫証明書が求められる。米国農務省動植物検疫局の検査官は、国際植物防疫協定により定められた国際規則に則り、証明書を発行する。

欧州理事会指令2000/29/ECには、EUの輸入要件への合致を確認するための、書類審査、同定、及び植物の物理的な検査を含む強制的な植物検疫に関する規定が定められている。指令2019/523は、指令2000/29/ECの附属書 I から IV を改正し、2019年9月1日から摘要される一部の果実および野菜の輸入に伴う有害生物の侵入に対する新たな措置を定めている。しかし、これらの措置は品目と有害生物の組み合わせによってすべて異なっているので、それぞれの場合について指令2019/523を確認することが有用である。ほとんどの要件(柑橘類やマンゴーなど)は、すべてのEU非加盟国に適用されるが、米国、カナダ、メキシコにのみ適用される特定の品目(リンゴ、梨、ブルーベリー)の要件もある。新しい規則は、一定の輸入条件の下で特定の商品を輸入する際のEU非加盟国の情報提供義務を規定している。

さらに、指令2000/29/ECは2019年12月14日に廃止され、植物害虫に対する保護措置に関する欧州議会・EU理事会規則2016/2031に置き換えられた。

欧州委員会規則1756/2004は、正当化される場合は植物検疫の頻度を減らす可能性を規定している。欧州委員会は2020年1月1日に、品目の改定リストを公表した。欧州委員会は、貨物の検査頻度を調整する方法を決定するため、毎年、果物や野菜の輸入を監視している。

関税

生鮮果実・野菜のEUへの輸入には、ウルグアイラウンド以来現在の形で実施されているエントリー価格システム(EPS)が適用される。これは、EUの生産者を高いレベルで保護する複雑な関税制度である。このシステムでは、設定されたエントリー価格以上で輸入される果実・野菜には、従価税のみが課される。エントリー価格を下回る価格の物品には、従価税に加えて関税相当額が課される。関税相当額は、輸入価格がエントリー価格の92~100%の間の物品に対しては段階的に適用される。輸入価格がエントリー価格の92%未満の物品には、関税相当額の全額と従価税が課される。2020年の関税水準は、欧州委員会実施細則2019/1776に掲載されている。柑橘類の関税率は2018年の水準と変わっていない。

米国は通常、追加関税が課されない高い価格で高品質の果実を販売する傾向にある。

ロシアの農産物輸入禁止措置

2014年8月7日、ロシア政府は、ウクライナでのロシアの行動に対する米国とEUの制裁に対抗して、米国、EU、カナダ、オーストラリア、ノルウェーからの柑橘類を含む多様な農産物および食品の1年間の輸入禁止を実施した。共通市場制度規則(規則1308/2013参照)は、市場を安定させるための様々な市場管理の手法を規定しており、また欧州委員会は改正された共通農業政策の下で、市場の混乱が生じた場合に「例外的な措置」を取る権限を与えられている。欧州委員会はこれを踏まえ、手始めにオレンジ、マンダリン、クレメンタインを含む柑橘類の果物を対象とする特定市場支援措置を2017年まで導入した。果実と野菜の最後の緊急対策は、2018年6月30日までに段階的に廃止された。EUは、全体で170万トンの果実と野菜を市場から隔離するのに相当する5億8,800万ドル(5億ユーロ)の援助を生産者に与えた。

品目別図表

<オレンジ>

表1 EUの生鮮オレンジ生産需給統計

オレンジ(生鮮) 販売年度 EU	2017/2018		2018/2019		2019/2020	
	2017年10月～2018年9月		2018年10月～2019年9月		2019年10月～2020年9月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積	280,924	280,924	278,449	278,449	277,727	278,680
収穫面積	259,979	259,979	259,193	259,193	257,799	259,343
結果樹本数	0	0	0	0	0	0
非結果樹本数	0	0	0	0	0	0
果樹本数合計	0	0	0	0	0	0
生産量	6,270	6,270	6,505	6,799	5,840	6,194
輸入量	1,042	1,042	1,012	1,017	1,050	1,000
供給量合計	7,312	7,312	7,517	7,816	6,890	7,194
輸出量	324	324	357	357	300	350
生鮮国内消費量	5,834	5,835	5,911	6,080	5,545	5,764
加工仕向け量	1,154	1,154	1,249	1,379	1,045	1,080
出荷量合計	7,312	7,312	7,517	7,816	6,890	7,194

単位:ヘクタール、千本、千トン

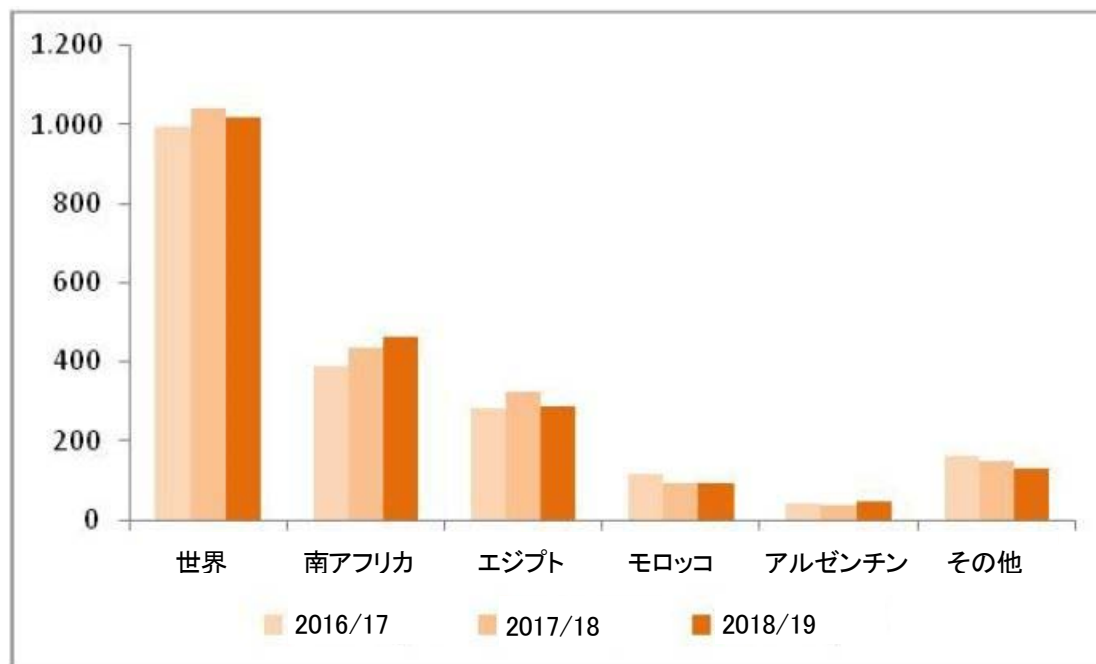
出典: 海外農業局マドリード事務所

表2 EUの生鮮オレンジ国別生産量(トン)

国名	2017/18	2018/19	2019/20
スペイン	3,369,000	3,930,000	3,331,000
イタリア	1,621,000	1,592,000	1,586,000
ギリシャ	961,000	913,000	910,000
ポルトガル	299,000	344,000	347,000
キプロス	20,000	20,000	20,000
総生産量	6,270,000	6,799,000	6,194,000

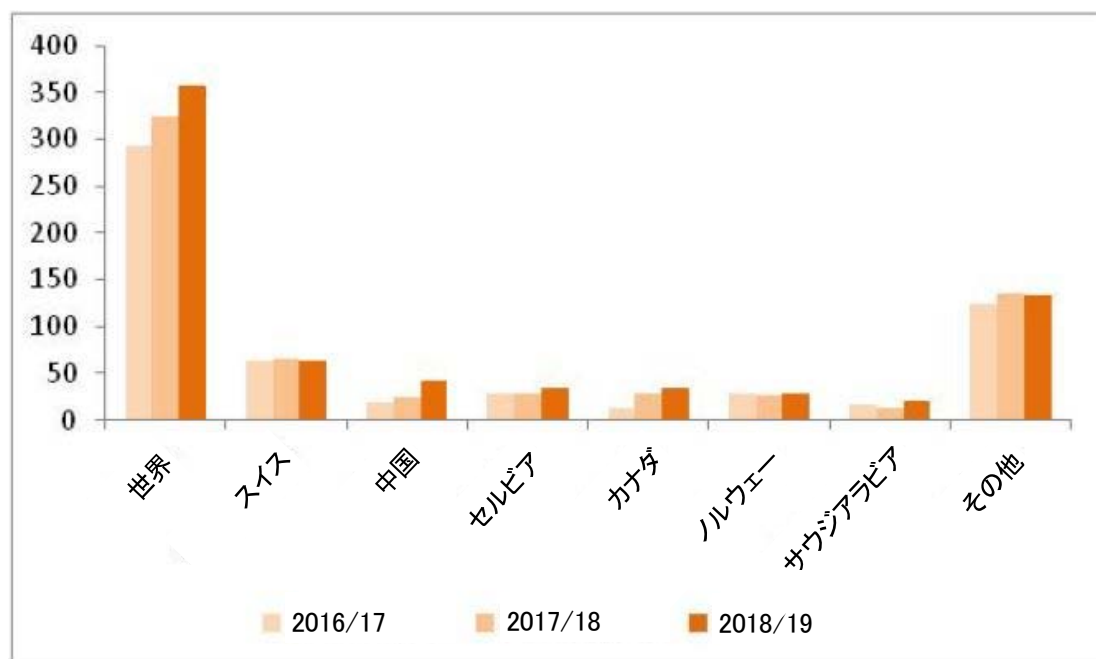
出典: 海外農業局マドリード事務所

図1 EUのオレンジ輸入量 輸入先別(千トン)



出典: Global Trade Atlas

図2 EUのオレンジ輸出量 輸出先別(千トン)



出典: Global Trade Atlas

<オレンジ果汁>

表3 EUのオレンジ果汁生産需給統計(ブリックス65)

オレンジ果汁 販売年度 EU	2017/2018		2018/2019		2019/2020	
	2017年10月～2018年9月		2018年10月～2019年9月		2019年10月～2020年9月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
加工仕向量	1,154,000	1,154,000	1,249,000	1,379,000	1,045,000	1,080,000
期初在庫量	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000
生産量	89,460	89,460	96,825	106,903	81,010	83,724
輸入量	704,474	704,474	657,637	657,92	670,000	670,000
総供給量	808,934	808,934	769,462	779,823	766,010	768,724
輸出量	58,273	58,295	59,776	59,819	58,000	58,000
国内消費量	735,661	735,639	694,686	705,004	693,010	695,724
期末在庫量	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000
合計出荷量	808,934	808,934	769,462	779,823	766,010	768,724
単位:トン						

出典: 海外農業局マドリッド事務所

表4 EUのオレンジ果汁輸入額(ブリックス65) 輸入先別(米ドル)

輸入先国	2016/17	2017/18	2018/19
ブラジル	1,230,903,849	1,290,650,895	1,200,166,258
メキシコ	90,826,944	61,688,204	72,777,565
南アフリカ	10,578,736	9,033,135	24,243,296
エジプト	10,529,077	14,301,412	16,395,943
イスラエル	11,898,236	14,034,008	11,819,551
アルゼンチン	7,202,507	5,399,288	8,443,976
コスタリカ	5,826,909	7,366,673	5,291,694
モロッコ	5,389,360	3,718,217	4,935,852
トルコ	8,997,580	9,201,736	4,824,723
ベリーズ	3,948,415	4,511,204	3,739,767
ガーナ	6,136,760	6,490,608	2,754,055
米国	34,020,919	8,669,794	2,630,735
その他	13,063,394	13,485,708	10,451,466
世界計	1,439,322,686	1,448,550,882	1,368,474,881

出典: Global Trade Atlas

表5 EUのオレンジ果汁輸出額(ブリックス65) 輸出先別(米ドル)

輸出先国	2016/17	2017/18	2018/19
スイス	21,453,026	17,885,669	19,404,506
サウジアラビア	11,316,876	12,678,640	14,448,632
ノルウェー	12,759,889	13,130,092	11,370,553
日本	11,725,835	13,909,589	10,186,268
韓国	9,355,175	8,667,995	9,780,412
中国	6,747,623	10,248,903	8,003,279
米国	8,351,413	6,380,092	6,826,506
その他	75,836,239	67,508,290	69,201,586
世界計	157,546,076	150,409,270	149,221,742

出典: Global Trade Atlas

<タンジェリン/マンダリン>

表6 EUのタンジェリン/マンダリン生産需給統計

タンジェリン/ マンダリン(生鮮) 販売年度 EU	2017/2018		2018/2019		2019/2020	
	2017年10月～2018年9月		2018年10月～2019年9月		2019年10月～2020年9月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積	155,506	155,506	155,464	155,464	155,915	155,953
収穫面積	142,131	142,131	142,656	142,768	142,707	143,001
結果樹本数	0	0	0	0	0	0
非結果樹本数	0	0	0	0	0	0
果樹本数合計	0	0	0	0	0	0
生産量	2,913	2,915	3,213	3,211	2,643	2,761
輸入量	483	483	483	483	500	500
供給量合計	3,396	3,398	3,696	3,694	3,143	3,261
輸出量	217	217	246	246	245	245
生鮮国内消費量	2,953	2,955	3,095	3,093	2,694	2,790
加工仕向け量	226	226	355	355	204	226
出荷量合計	3,396	3,398	3,696	3,694	3,143	3,261

単位: ヘクタール、千本、千トン

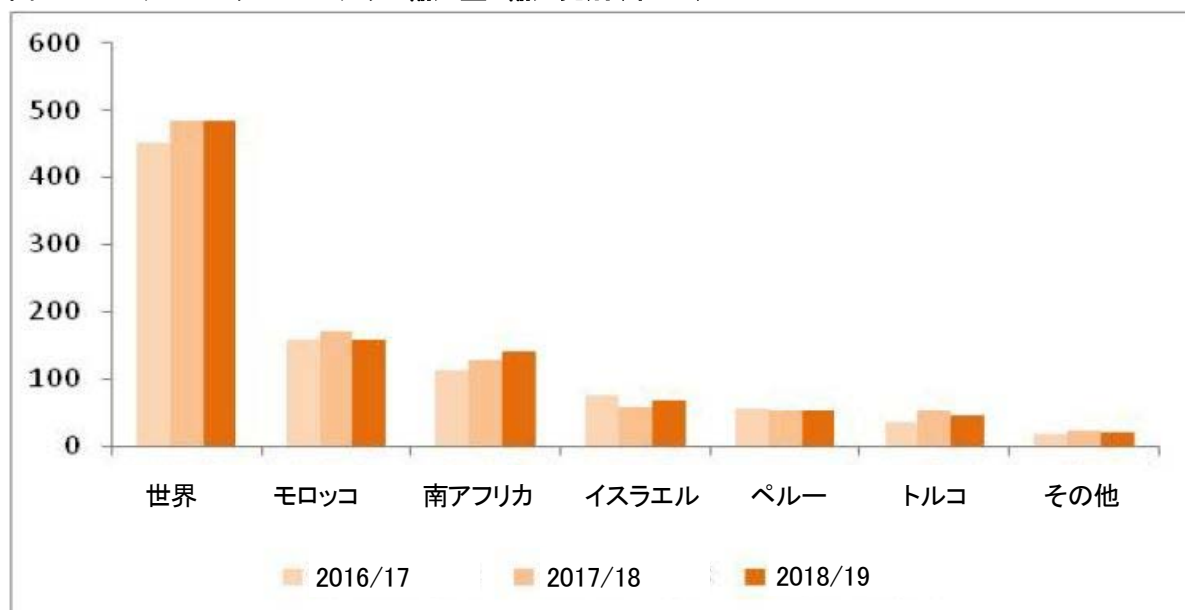
出典: 海外農業局マドリード事務所

表7 EUの生鮮タンジェリン/マンダリン国別生産量(トン)

国	2017/18	2018/19	2019/20
スペイン	1,967,000	2,385,000	1,816,000
イタリア	697,000	577,000	695,000
ギリシャ	176,881	174,147	175,000
ポルトガル	40,000	40,000	40,000
キプロス	35,000	35,000	35,000
総生産量	2,915,881	3,211,147	2,761,000

出典: 海外農業局マドリード事務所

図3 EUのタンジェリン/マンダリン輸入量 輸入先別(千トン)



出典: Global Trade Atlas

図4 EUのタンジェリン/マンダリン輸出量 輸出先別(千トン)



出典: Global Trade Atlas

<レモン>

表8 EUのレモン/ライム生産需給統計

レモン/ライム (生鮮) 販売年度 EU	2017/2018		2018/2019		2019/2020	
	2017年10月～2018年9月		2018年10月～2019年9月		2019年10月～2020年9月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積	75,419	75,419	77,128	77,128	77,743	77,929
収穫面積	65,762	65,762	65,762	66,046	66,653	66,914
結果樹本数	0	0	0	0	0	0
非結果樹本数	0	0	0	0	0	0
果樹本数合計	0	0	0	0	0	0
生産量	1,472	1,472	1,684	1,683	1,470	1,417
輸入量	610	611	545	548	600	600
供給量合計	2,082	2,083	2,229	2,231	2,070	2,017
輸出量	65	65	82	82	80	80
生鮮国内消費量	1,785	1,786	1,894	1,871	1,766	1,716
加工仕向け量	232	232	253	278	224	221
出荷量合計	2,082	2,083	2,229	2,231	2,070	2,017

単位:ヘクタール、千本、千トン

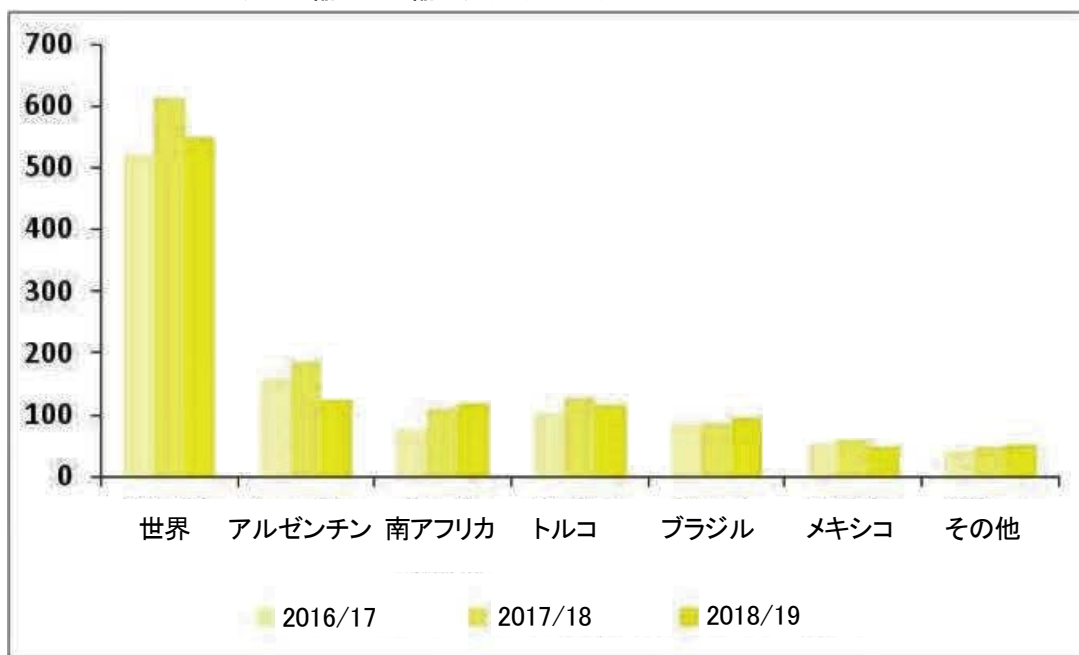
出典: 海外農業局マドリッド事務所

表9 EUの生鮮レモン/ライム国別生産量(トン)

国	2017/18	2018/19	2019/20
スペイン	928,000	1,149,000	923,000
イタリア	435,000	424,000	383,000
ギリシャ	85,000	88,395	88,500
ポルトガル	16,000	16,000	17,000
キプロス	8,000	6,000	6,000
総生産量	1,472,000	1,684,258	1,471,000

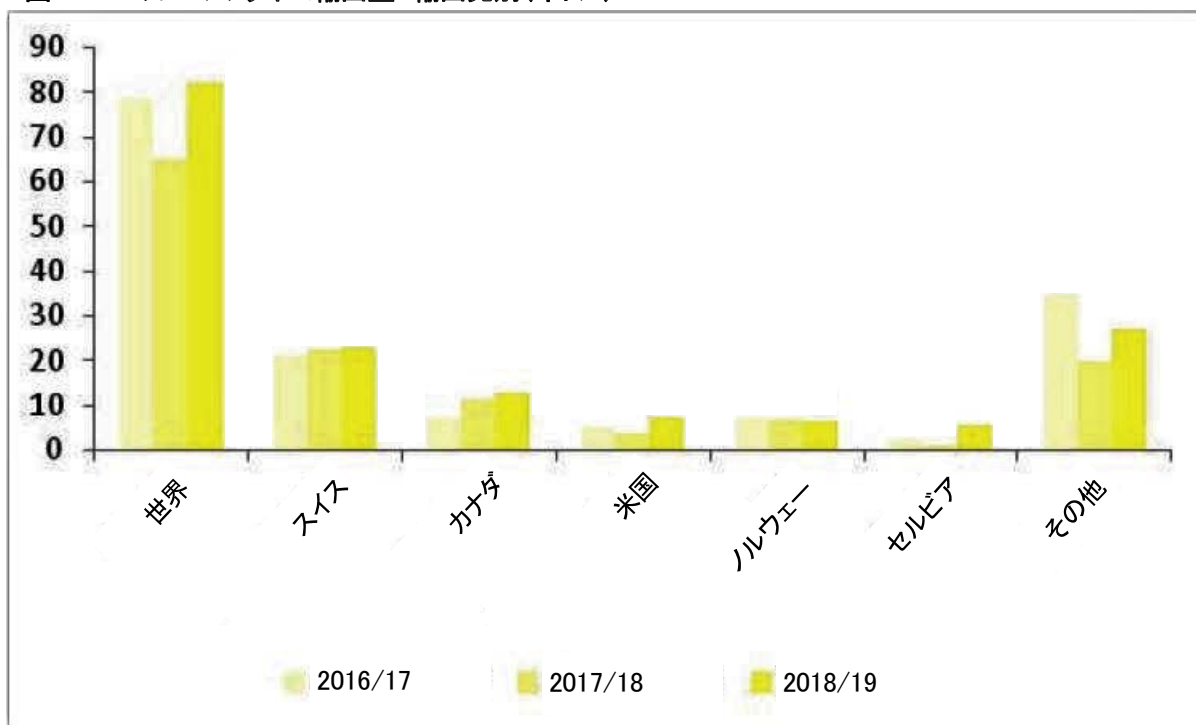
出典: 海外農業局マドリッド事務所

図5 EUのレモン/ライム輸入量 輸入先別(千トン)



出典: Global Trade Atlas

図6 EUのレモン/ライム輸出量 輸出先別(千トン)



出典: Global Trade Atlas

<グレープフルーツ>

表8 EUのグレープフルーツ生産需給統計

グレープフルーツ (生鮮) 販売年度 EU	2017/2018		2018/2019		2019/2020	
	2017年10月～2018年9月		2018年10月～2019年9月		2019年10月～2020年9月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積	3,157	3,137	3,332	3,311	3,332	3,312
収穫面積	2,817	2,817	2,894	2,914	2,894	2,904
結果樹本数	0	0	0	0	0	0
非結果樹本数	0	0	0	0	0	0
果樹本数合計	0	0	0	0	0	0
生産量	107	107	108	108	89	96
輸入量	374	374	323	324	375	370
供給量合計	481	481	431	432	464	466
輸出量	17	17	16	16	15	17
生鮮国内消費量	447	447	394	395	434	434
加工仕向け量	17	17	21	21	15	15
出荷量合計	481	481	431	432	464	466

単位:ヘクタール、千本、千トン

出典: 海外農業局マドリード事務所

表11 EUの生鮮グレープフルーツ国別生産量(トン)

国	2017/18	2018/19	2019/20
スペイン	78,000	80,600	68,100
キプロス	21,000	19,000	20,000
イタリア	4,833	5,160	5,160
ギリシャ	3,000	3,155	3,200
ポルトガル	200	210	260
総生産量	107,033	108,125	96,720

出典: 海外農業局マドリード事務所

(参考) 本報告書における各品目のHSコード

オレンジ 080510

タンジェリン/マンダリン 080520、080521、080522、080529

レモン 080550

グレープフルーツ 080540

オレンジ果汁 200911、200912、200919

58. 日本 米国産果実の輸入検査を強化

ASIAFRUIT電子版(2020年7月1日)

日本は、COVID-19関連の渡航制限により検査官が米国の産地を訪問できないため、米国から輸入される果実が日本に到着した際の検査を強化する。

米国農務省によると、日本の検査官が米国に渡航できるようになるまで、日本は生鮮のサクランボ、マンゴー、パパイヤ、ネクタリン、プルーン及びジャガイモの検査数を一時的に増やす。

米国産のこれら6つの青果物の日本市場へのアクセスは、毎年ほ場での植物衛生検査を行うとの条件付きであるが、2020年の栽培期間中はこれが実施できていない。

これらの果実の貿易が妨げられないことがないよう、日本の農林水産省は、検査官が2週間の自己検疫などの制限なしに米国に渡航できるようになるまでの間、この新しい措置を導入した。

これは、COVID-19によって生じた初めての問題ではない。ベトナムの輸入業者は、同じ問題のために日本にライチを送ることができないという懸念を表明していたが、一旦渡航制限が緩和されると日本の検査官はベトナム産ライチの初出荷を後押しすることができた。

なお、中国は、中国での検査を円滑に行うためとして、輸出業者に通常よりも多くの書類を要求している。

59. 日本 パキスタン産マンゴーの初荷が到着

FreshPlazaウェブサイト(2020年7月2日)

COVID-19関連のロックダウンに起因する複雑なプロセスにもかかわらず、パキスタン産マンゴーの初荷が日本に到着した。今後より多くのマンゴーがこれに続くと期待されている。

マンゴーの到着を祝う式典を指揮したイムティアズ・アーメド駐日パキスタン大使は、The Newsに対し、「コロナウイルスの流行のために日本へのマンゴーの輸入は複雑なプロセスとなった。我々のチームは、マンゴーの検査とパキスタン機関による検査を認めることに尽力したパキスタン大使館の商務官及び日本政府に感謝する。今年は昨年よりも多くのマンゴーを日本に輸入し、パキスタン産マンゴーに関して日本の人々の間で醸成された最高の印象を持続させたい。」と語った。大使はまた、著名な実業家の努力によりパキスタン産マンゴーの日本への輸入が増加したと述べた。

大使館の商務官は、パキスタン政府は日本向けの輸出を増やすため、このほかの果実や野菜を輸入するための許可を日本政府に求めていると述べた。

日本はマンゴーの高級品市場である。英国、サウジアラビア、ノルウェー、スウェーデン、イタリア、ベルギー、オランダでのパキスタン産マンゴーの市場シェアは着実に増加しているが、今年は輸出の減少が見込まれるので、日本市場への期待が高まっている。

出典: thenews.com.pk

(訳注) 原典をもとに一部捕捉しました。

60. 世界の生食用ブドウ市場

FreshPlazaウェブサイト(2020年7月3日)

ヨーロッパ市場では、輸入物の生食用ブドウの入荷が終了した後は供給がほとんどなかったが、エジプト産とヨーロッパ産が良いスタートを切った。シチリア産は最近1ヶ月間市場に出回っているが、多くの生産者は、特に品質を考慮すれば、現時点の価格に失望している。

北米では、メキシコ産からカリフォルニア州産に切り替わっている。今週、同州のサンジョアキン・バレーでブドウの収穫が始まった。中国では6月25日以降、価格と売り上げが再び上昇した。インドのマハラシュトラ州では、今年のブドウの輸出がコロナウイルスのために約4分の1減少した。現時点では多くの国で需要がさえないが、今後数ヶ月で需要の改善が期待される。



オランダ：ヨーロッパ産ブドウは良いスタート

ヨーロッパ産とエジプト産のブドウは、先月良いスタートを切った。市場には少量のチリ産レッドグローブを除いて海外産が入荷していなかったため、それらのブドウは空っぽの市場に投入された。今シーズン、シチリア産の初荷の白ブドウ(ビクトリア)と青ブドウ(ブラックマジック)は、5月の最終週にオランダ市場に入荷した。そうこうするうち、最初のレッドグローブとパリエリも棚に並んだ。イタリア産(マスカット)は通常、フェラゴスタ(8月中旬の聖母被聖天の祝日)の頃に最初の入荷が期待されている。オランダの輸入業者は、種無しブドウが引き続き優勢であるが、味が良ければ種有りのブドウにもまだ関心があると言う。

ドイツ：エジプト産は終わり間近

エジプト産ブドウの出荷シーズンは終わりに近づいている。最後の荷が来週初めに取引され、その後スペイン産とイタリア産に完全に切り替わる予定である。ヨーロッパの輸出国では、白ブドウは出荷の準備ができているが、赤ブドウはわずかに遅れるかもしれない。ハンブルグの輸入業者は、その場合、エジプト産赤ブドウの販売を少し引き伸ばすことができるだろうと言う。トルコ産とギリシャ産の初荷もまもなく市場に入荷する。

一般的に、ドイツの流通業者はイタリア産とスペイン産を好む。ある業者は、「エジプト産は味は良いが、サイズがやや小さい。また、ヨーロッパからの入荷量が増えればすぐに価格差がなくなる。」と言う。

フランス：国内産露地物は2週間後

市場には現在、主に中南米諸国、モロッコ、スペイン、イタリア及びフランス国内からブドウが入荷している。フランス産のブドウはまだ南フランスの温室物だが、15日以内に露地物も入荷するはずである。今年はシチリア産が、良好な気象条件に恵まれて4週間早く入荷し、高い品質と量の多さの両方で目立っている。需要は現在まだやや低調である。

スペイン：ムルシアとアリカンテで収穫が始まる

生食用ブドウの収穫は、ほぼ平年並みの時期にムルシア地方で始まったが、出荷量はやや少なく、着果期の降雨のため品質面で問題がある。ムルシア地方ではスペイン産種無しブドウの90%を栽培している。もう少し北のアリカンテ地方でも、収穫が始まっている。1ヘクタール当たり収量の高さと味や香りのよさからムルシア地方の生産者が頼りにしてきた種無し白ブドウのスーパーリアと、赤ブドウのイトゥムフィフティーンの最初の荷が、現在市場に入荷している。市場がどのように反応するかはまだ不確定だが、(モモ等の)核果類市場の結果が良好であったことから、関係者は楽観的である。

スペインの輸出業者は、エジプト産との厳しい競争を予想している。エジプト産は今年、中国市場でうまくいっていないため、ヨーロッパへの出荷が増えている。昨年、スペインはベトナムと中国にブドウを輸出することができた。ベトナムではうまくいったが、シーズンの中盤から終わりにかけてのスペインでの降雨のため、ブドウの品質が遠隔地への輸送に適さなくなり、中国への輸出はできなくなった。スペインの生食用ブドウ業界は現在、タイ市場と台湾市場の開放に取り組んでいる。

労働力不足と気候変動はますます大きな課題となっている。幸いなことに、この業界は今年は労働者が不足していない。コロナウイルスによる警戒態勢のために、この国の多くの人々が失業し、代替として農業に流入している。しかし、制限が解除されるにつれて、それらの人々はこの業界で働くのをやめる可能性が高い。十分な労働者を確保できる保証なしに作物を栽培し続けることも問題である。近年、春の大きな気温変動が常態化してきているように見える。春先には、高温の期間があったかと思うと突然数週間の寒さに見舞われる。このことは果樹の不均一な成長をもたらし、収穫をより頻繁に行い、選果により多くの注意を払う必要を生じることから、より多くの労働者が必要となることを意味する。

イタリア：シチリア産のブドウの価格は予想以下

シチリアでは、この1ヶ月間生食用ブドウ(ビクトリア、ブラックマジック及び種無し品種)を収穫している。今、シチリアのブドウは、より低い生産コストで栽培されるエジプトの種無し品種と競合している。1週間の内に、スペインでも収穫が始まり、スペインは特にこの時期の種無しブドウに期待していると見られる。現時点のヨーロッパの気温は、良好な生産とより高い消費を保証している。2018年産の裂果や2019年産の低価格といった悲惨な年を踏まえると、今年のシチリア産ブドウは味や香りの良さにもかかわらず、価格は予想よりも低い。プーリア州では、早生品種では出来は平年並みであるものの出荷量は15~20%減少し、晩生品種については影響を与える問題はない。ビクトリア種は今、成熟の最終段階に入っている。果実は中程度の大きさで、房は大きすぎない。プーリア州のブドウの出荷は7月10日に始まる。

エジプト：昨シーズンに匹敵する出荷量

困難な気象条件にもかかわらず、今シーズンのエジプトの生食用ブドウの生産量は昨年に匹敵する。エジプトでは第11週(3月9日の週)に過去20年間で最大の大雨が記録されたが、ブドウの多くがプラスチックフィルムで覆われているため、ブドウ栽培への影響は皆無であった。出荷シーズンは予定どおり5月中旬に始まった。エジプト産ブドウの需要は高く、特に今は出荷量を増やすことに成功している。

インド：主産地マハラシュトラ州の輸出は24%減少

今年のマハラシュトラ州のブドウ輸出量は、10月の季節外れのモンスーンとその後のロックダウンにより、24%減の92,342トンに留まった。マハラシュトラ州は生産性が最も高く、全国の生産量の81%を占める国内最大のブドウ産地である。全インドブドウ輸出協会は、今年2月まで輸出は順調に進んでいたが、コロナウイルスが広がるにつれて、国際市場でのブドウの需要が減少したと報告している。ロックダウンは最後の一撃であった。その結果、生産者、輸出業者、流通業者は大きな損失を被った。

南アフリカ：冬休み

南アフリカのブドウ生産者は冬の期間を過ごしている。生産者は現在、主にブドウの木の剪定などを行い、新しいシーズンに備えている。西ケープ州では、冬の前の6月に平均を上回る降雨量があった。ヘックス川渓谷の多くのブドウ栽培者は井戸水を使用しているが、降雪により地下水が補充された。

中国：6月末に国内販売が増加、輸出は安定

中国では龍舟競漕の祭り(6月25日)の1ヶ月前には、ブドウの価格は低いままで、売り上げは減速した。祭りの期間中、価格は徐々に上昇し、売り上げも伸びた。国内市場は強い変動を示しているが、輸出は比較的安定している。輸出価格は、昨年と同じレベルの約15～35米ドル/4kgである。ここ数年、シャインマスカットの生産量が毎年増加しており、市場への入荷量も増加している。主に収穫の技術が十分でないために、品質は未だやや低い。

米国：ブドウの需要は続くか？

米国市場は現在、メキシコ産の赤ブドウ、白ブドウからカリフォルニア州産に切り替わっている。サンジョアキン・バレーでの収穫は、7月第1週のフレーム種で始まった。白色系の品種がこれに続く。

メキシコ産ブドウの輸入は、今後数日間で少しタイトになる。2,060万箱の見通しは現実とかなり一致しているが、シーズンの終わりに向かっていくらか減少する。収穫期の暑さのため生産は落ち込んだが、シーズン全体で考えると、それほど悪くはなかった。多くの地域では、低温のため収穫が2週間遅れた。それが米国の輸入業者にとって最大の課題であった。フレーム種のブドウの出荷は通常よりも少し長く続くが、問題は市場がそれを受け入れる準備ができているかどうかである。

いずれにしても、米国のブドウの需要は良好である。コロナウイルスのためブドウがどの程度売れるか当初は懸念があったが、小売業者はなんとか大量の販売に成功した。価格は5月には予想を上回り、6月には予想どおりであった。出荷シーズンは5月中旬にカリフォルニア州のコーチェラ地域で始まった。今年の収穫量は昨年とほぼ同じ1億600万箱と推定されている。気象条件が好ましくなかった昨年に比べ、今シーズンはすでに良いスタートを切っている。カリフォルニア州の出荷シーズンは11月または12月まで続く。流通業者は、7月の価格が6月と同様か、さらに高くなることを望んでいる。

オーストラリア：気象条件のため出荷シーズンは短い

オーストラリアの2019/20年度の収穫シーズンは終了した。一部の生産者はまだ輸出市場向けの在庫を持っている。日本に輸出しているある生産者は、コロナウイルスの蔓延防止措置のために、売り上げが落ち込んだ。消費者は高級なブドウよりも安い品種に関心を持っている。栽培期間を通じた乾燥した天候のため、出荷は通常より3週間遅く始まった。毎月のように砂嵐があり、果実の成熟期には気温が温暖であった。また、雨のため出荷期間の終了も少し早まった。コロナウイルスが2019/20年産に及ぼす実際の影響はまだ分かっていない。これまでは、年々輸出が増加していた。昨シーズンは、2017/18年と比較して32%増加した。

61. 世界のサクランボ市場

FreshPlazaウェブサイト(2020年7月10日)

サクランボ市場では現在、供給量が少なく需要が高い。供給量の減少は、主として地中海地域の天候不良によるものであり、その恩恵を受けている地域もある。オランダ産とベルギー産のサクランボも高価格で販売されているが、これらは主に国内市場向けである。需要が高く供給が少ないため、一部の国ではサクランボの出荷シーズンが通常より早く終わると予想される。他方、ニュージーランドは市場の機会を見据えて、輸出用の高品質なサクランボの生産に取り組んでいる。



オランダ：サクランボ生産者は、ヨーロッパの収穫減少の恩恵を受ける

オランダでは現在、サクランボの本格的な出荷シーズンである。生産者らによると、販売は順調である。ヨーロッパのサクランボの供給量は非常に少なく、オランダの生産者はその恩恵に浴している。オランダのサクランボの収穫量も平均をわずかに下回っている。オランダのサクランボ業界にとって国内販売は依然として非常に重要である。現時点では、オランダ産サクランボの輸出需要もあるが、前出の生産者らによると、輸出市場は依然としてニッチ市場である。現在、ギリシャ産及びトルコ産のサクランボとの競争がいくつかある。オランダの生産者や流通業者は、オランダの出荷シーズンが本格化しているのに、これら他国産のサクランボがまだ小売店に出回っていることに怒っている。

ベルギー：需要は高いが入荷が少ない

今年のベルギー産サクランボの出荷は平年より約5～10日早く始まった。流通業者によると、早生品種は非常に売れ行きがよく、晩生の品種も大きな需要があり、よい価格が期待できる。降霜のためサクランボの収穫量の推定30～40パーセントが失われた。この出荷量は2018年産に匹敵する。あるベルギーの業者は品質とサイズに非常に満足しているが、ここ数週間の降水量を考えると、サクランボが裂果する可能性もある。

ドイツ：生産者にとってはほどほどの収量

ある業者は、「サクランボは夏の定番商品だが、今年は夜間の降霜とそれによる被害の可能性がわからないため、国内の作柄が長い間不確かであった。しかし、これまでのところ、事態はそれほど悪くない。現在、十分な量が出回っている。国内産サクランボの卸売価格は、サイズに応じて、約6～8ユーロ/kgである。28～30mmのことが多い。しかし、週に一度立つ市では、大きいサイズに需要があり、現在は供給が限られ

ている」と言う。

これまでのところ、生産者にとっては残念な年であった。降霜やその他の問題のため、収量はほどほどであった。「2020年産は今まで経験した中で最悪のシーズンの一つだ」と言う生産者もいるが、ドイツ南部のフレンキシエ・シュヴァイツ地域等の大産地では、品不足は見込まれていない。

国外産は、スペイン、ギリシャ、イタリア、トルコなどから入っている。産地によっては、価格は昨年に比べ最大30%高い。

英国：生産者は満足

サクランボの収穫は、6月末にケント地方の一農家ではじまり、その他の生産者も7月1日からこれに続いた。生育期間中は特に問題がなかった。開花期の北風のため花数はいくらか減少したが、それ以外、開花は順調であった。大玉が不足しているが、品質は良い。糖度と味については文句ない。サクランボの需要は高い。

フランス：悪天候により収穫に支障

フランスではサクランボの出荷が終了した。天候が悪く雨が多いため、市場への出荷は通常より少し早く始まった。このことは、特に今年産の品質があまり良くない早生品種Burlatの減収につながった。他の地域でも天候がサクランボの収穫に影響を与えた。シーズン後半の晩生品種では状況が改善された。

イタリア：高い需要と低収量の結果高価格に

プーリア州では、生産量の少ない極晩生品種と気温が低い地域(ジョイア・デル・コッレ、カッサーノ等)で栽培されるフェロビア種が現在収穫されており、サクランボの出荷は今週末までにすべて終わると見られる。出荷量が少なく需要が多いため、高い価格で販売されている。ヴェネト州(北イタリア)の山地のサクランボは順調である。26以上のサイズは容易に売れている。ヴェネト州の山地のサクランボは、イタリア中南部産よりも遅く市場に入荷し、興味深い市場シェアを形成する。収穫は7月15日以降まで続き、7月末まで出回る。

南チロル地方ヴェノスタ渓谷のサクランボの出荷は、天候と気温に恵まれ通常よりも数日早く始まる。レジーナ種とコルディア種は、海拔800～1300メートルのヴェノスタ渓谷の気候に適している。昨年と同様に40ヘクタールの園地で500トンが生産されると推計される。当地のサクランボは流通業者や小売業者によって、8月の第1週までイタリア中で販売される。

スペイン：高い価格も収量減を補えない見込み

山岳地帯の果樹園を除いて、スペインのほとんどの地域でサクランボの収穫がほぼ終了した。一般的に、今シーズンは生産量が非常に少ないことが特徴だ。これは、複数の地方での豪雨や雹を伴う嵐など悪天候の影響によるものである。スペインのほぼすべてのサクランボ産地で生産量が減少したため、価格は昨年よりもよいが、生産量の大幅な減少を補うものではない。今年の供給量の少なさを踏まえ、また航空輸送の制約のために遠くの目的地への輸出が困難であるため、スペインの業者は主にヨーロッパ市場に輸出している。

トルコ：トルコ産サクランボの市場が拡大

トルコ産サクランボは今シーズンこれまでのところ順調であり、生産者は、過去数十年の中でも非常に良いと報告している。様々な市場から需要があり、特に中国は、ますます重要なサクランボの輸出先となっている。コロナウイルスはトルコのサクランボ市場にほとんど影響を与えていない。中国への航空輸送はやや困難であるが、すべての果実がトラックで出荷されるヨーロッパ市場ではほとんど問題なかった。

中国：サクランボの輸入は少ないが、市場は回復しつつある

カリフォルニア州産サクランボの後、6月上旬からワシントン州産が入荷している。輸出量が少ないためサクランボの価格は高くなっているが、7月上旬以降は下降傾向を示している。国内市場のコロナ危機の緩和により、中国の消費者の購買力が増大している。その結果、消費者からのオンラインによるサクランボの注文が再び上向いている。

今四半期のサクランボの輸入量は前年同期に比べて大幅に減少した。今年はチリ産サクランボの約85%が春節(1月下旬)の前に中国に到着した。1月末には、コロナウイルスの流行に伴って市場は低迷し、輸入業者はもはやサクランボを買い付けようとしなかった。4月には蛇口港(シェコウ港、深圳市)に到着したサクランボの量は、約100コンテナに急減した。チリ産の出荷シーズンの終了後、米国産が引き継いだ。販売は

困難であった。これは、一方で両国間の貿易紛争により輸入果実に対する関税が高まったためであり、一方でコロナウイルスに対して物流が脆弱であったためである。

米国：強い需要と供給不足で出荷が早く終了

今シーズンは米国産のサクランボが不足している。ワシントン州の生産者は、今が出荷の最盛期であると報告している。春の降霜やその他の悪天候のため、収量は前回見通しの半分に減少した。市場には大玉のサクランボが出ており、スーパーマーケット向けの梱包は順調である。しかし、産地の降雨のため、倉庫への搬入は現在幾分遅れている。サクランボは現在、主にヤキマ渓谷地域とクインシー地域から入荷しており、リバーバレー地域から早生品種が入荷している。1ヘクタール当たりの収量は、8～10トンから2～4トンに減少した。

一方、サクランボの需要は依然として強く、市場価格は高くなっている。一部の生産者は、昨シーズンと比較して最大50%価格が上昇していると報告している。市場の品不足と需要の高さから、出荷は通常より1週間早い8月5日頃に終わると見られる。出荷のピークは7月8日から11日の間で、その後は下降傾向が見られると予想される。

カナダ

米国の北に隣接するカナダも厳しいシーズンに直面している。ブリティッシュコロンビア州の南オカナガン渓谷では、6月中旬にサクランボの収穫が開始された。冬と春の多くの異常気象により、一部の果樹園では木にほとんど果実が付いていないほどの被害を被った。他の園地ではおそらく通常の7割の収穫が見込まれる。オカナガン渓谷を北上した地域では、さらに収穫量が少ないと見られる。全体として、ブリティッシュコロンビア州のサクランボ業界は、2020年の収穫量は当初の予測を大きく下回ると予想している。

オーストラリア：輸出割合が最高に

サクランボ生産者協会の会長は、生産者が報告しているように収穫は減少しているが、輸出は一步も後退していないと述べた。実際、輸出の割合は過去最高である。これは明らかに、オーストラリアのサクランボ生産者の将来が主に輸出市場に関係していることを示している。

ニュージーランド：市場での立場を強化

セントラルオタゴに2つのサクランボ農場を設立するため、ニュージーランドに新会社ディープクリークフルーツが設立された。主な目標の1つは、ニュージーランド産サクランボに対する世界的な需要の高まりを活用することであり、生産者団体サマーフルーツは、ニュージーランドのサクランボ輸出額は今後20年間で40%伸びると予想している。この部門は長期的に力強い成長を遂げた。ディープクリークフルーツ社は、2021/22年度の夏に世界の輸出市場向けに最高品質のサクランボを初出荷する。サクランボは12月から2月まで収穫される。

62. 南半球から日本等アジア向けの果実輸出が記録を更新

FreshPlazaウェブサイト(2020年7月15日)

南半球生鮮果実輸出業者協会(SHAFPE)は、2018-19年の市場動向を振り返るとともに、アジアの貿易相手国との現在の市場動向にCOVID-19が与えている影響を予備的に評価するため、毎年恒例のアジア会議を7月初めに初めてヴァーチャル会議で開催した。SHAFPE会員は、アジアの輸入国への出荷が260万トン、76億米ドル相当という新記録を達成した2019年の出荷シーズンを振り返った。2020年第1～第2四半期はCOVID-19蔓延による世界的な物流の制約のために輸入の減速が見られたが、SHAFPEの業者らは年後半に向けて控えめにも楽観的な見方をしている。(訳注: SHAFPEの会員は、アルゼンチン、オーストラリア、ブラジル、チリ、ニュージーランド、ペルー、南アフリカ及びウルグアイの輸出業者を代表している。)

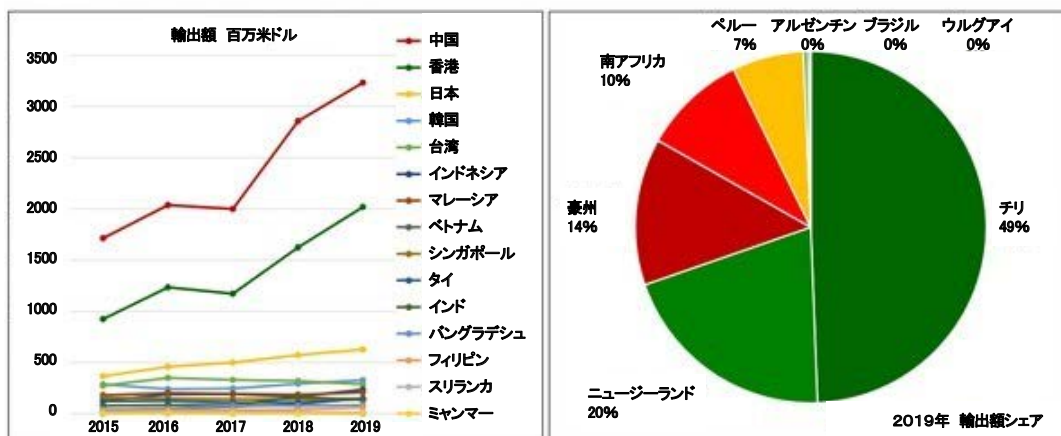
SHAFPEのアジア会議は恒例として、南半球からアジアの生鮮果実主要輸出先への長期的な輸出動向の分析を行っている。この点に関し、2019年は引き続き、世界及び南半球からアジア市場への輸出にとって記録的な年であった。SHAFPEの輸出業者は、2018年から2019年にかけて温帯果実の輸出を伸ばし、輸出額は15%増の76億米ドル超、輸出量は13%増の260万トンに達した。特に、アジア向けの最大の果実輸出国であるチリは輸出額の5年平均成長率が20%と2桁の伸びを更新し、輸出額ではニュージーランド(同16%)とオーストラリア(同20%)がこれに続く。このほか、すべてのSHAFPE会員国がアジアのトップマーケットで現在有利なポジションを築いている。

驚異的な成長曲線の主な原動力は、合計52億米ドル、180万トンに達する中国と香港の輸入市場である。日本、台湾、韓国など他の輸出先も安定した伸びを示している。アジアの温帯果実輸入トップ15カ国は、現在約1,030万トン、196億米ドルを輸入しており、そのうち約43%はアジア域内の貿易により、40%は南半球の輸出国によって供給されている。SHAFPEの輸出業者は、COVID-19の蔓延が引き続き世界的な貿易に与える影響を踏まえつつ、対中国貿易回復の兆しが見えることもあり、現状を控えめに楽観視している。

アジアの輸出先国及びSHAFPE会員国で3月と4月に急激に生じた緊急事態の間、一部の品目では取引が15～30%減少したが、それらは今、回復の兆しを見せている。SHAFPEの輸出業者の多くはまだアジアへの輸出シーズンが始まっていないものの、航空貨物輸送の制約、港湾の渋滞、その他の物流障害など、いくつかの重要な要素は依然として困難な状況である。また、今年の前半を通じてCOVID-19の危機管理が重視されたため、アジアへの輸出のための市場アクセス交渉の多くが留保されている。前向きな面では、SHAFPEの輸出業者は、アジア全域で今後の貿易のために取られた多くの貿易促進策と動的な危機管理策を歓迎した。全体像が把握できるのは2020年末になるため、SHAFPE事務局は、第3四半期及び第4四半期の動向を引き続き注視する。



SHAFPE会員国のアジアの主要輸出先15カ国向け輸出額
(輸出先国別の推移及び会員国別シェア)



63. 世界のオレンジ市場

FreshPlazaウェブサイト(2020年7月17日)

コロナウイルスのため、柑橘類の需要は引き続き高く、価格にも反映されているが、既にピークを過ぎており、価格は正常なレベルに戻ってきている。出荷は現在南半球で進んでおり、南アフリカ、ペルー、チリ、オーストラリアが主要輸出国となっている。米国カリフォルニア州とイタリアでも限られた量のオレンジが生産されているが、これらは主に国内市場向けである。



オランダ：オレンジは供給不足で価格が高いが、転換点の到来か

ヨーロッパのオレンジの需要は現在非常に良好であるが、これは主にエジプト、モロッコ、スペインから入荷がほとんどないためである。南アフリカは、まだすべての産地がフルに出荷しているわけではないため、短期的には供給不足を埋めるのに苦労している。港湾の問題とその結果の遅延も妨げとなっている。このため価格は高い。この状況は今後約4週間続き、その後で例年需要の少ない時期に入ると幾分様相が変わると予想される。南アフリカが今と同じ量を出荷し続けられれば、輸送の遅延もあって、市場の様子が変わる可能性もある。オランダの輸入業者は、機会を逃した販売や注文は後から取り返すことはできないと言う。

ドイツ：オレンジの需要は高位安定

コロナウイルス危機は、柑橘類の販売増加につながった。ピークはすでに過ぎたが、需要はまだ通常よりも高い。エジプト産は、7月の初めに入荷が最後となった。現時点では、南アフリカ産バレンシアオレンジに完全に切り替わった。ある流通業者は、バレンシアオレンジも需要に対して入荷量が十分でないと言う。一方、価格は1パック17～18ユーロ程度で、この時期としてはごく普通である。

フランス：オレンジ価格が需要と釣り合いに高い

良い評判のおかげで、ロックダウン中のオレンジの販売は非常に順調であった。しかし、今年はバレンシア・レイト種の収量が少なく、その結果、スペインの生産者が価格を急激に押し上げた。あるフランスの輸入業者は、この価格の上昇が現在、市場で問題を引き起こしていると言う。

「ロックダウンが現実のものになるとすぐに、オレンジの販売が影響を受けた。バレンシア・レイト種は通常果汁用の需要が高いが、観光客が少なく、レストランが通常のレベルで営業していないため、この品種に対する需要は僅かしかない。その結果、我々は消費の減少を全く反映していない非常に高価なオレンジを抱え込んだ。市場は本当にバランスを失っている。」(同輸入業者)

イタリア：シチリア産オレンジに高い需要

市場にはまだイタリア産オレンジが出回っている。プーリア州の一部の生産者の手元には、7月の前半に収穫したオレンジがまだある。これらのバレンシアオレンジは、葉付きの晩生品種で、糖度の高さとジューシーさによって高く評価されている。ある卸売業者は、品質が優れており、価格はおよそ2ユーロ/kgと高いと言う。コロナウイルスが販売を後押ししたこともあり、柑橘類の需要は高い。

シチリア島からの出荷は5月前半に終わった。出荷量は昨年より多かったが、多くの生産者の売上はほぼ変わっていない。しかし、短い期間に収穫しなければならず、収穫のタイミングが大きく違った。生産者価格は平均約1.00ユーロ/kgであった。シチリア産オレンジは大部分が国内市場でさばかれたが、シチリア産の評判が年々向上しているスカンジナビア諸国をはじめとして、国外市場からの需要も良好であった。今シーズン、一部の業者は定期的な小口注文に対応してオランダ市場向けに出荷することができた。

現在のところ、2020/21年度のシチリア産柑橘類は、平均して昨年と同程度の数量が見込まれ、販売見通しは良好である。コロナ禍は、柑橘類(オレンジとレモン)の需要を少なくとも30%増加させた。そのため、顧客はすでに前年までより早めに配送契約を検討している。

スペイン：今年の記録的なオレンジ輸出とブレグジットの影響に関する様々な懸念

スペインのオレンジの収穫量が昨年より約15～20%少なく、また海外貿易の大幅な減少にもかかわらず、今年のオレンジ輸出量は昨年の輸出量に匹敵している。例えば、アンダルシア州のオレンジ輸出は、昨年と比較して輸出量で10%、輸出額で17%増加した。

生産量が少ない上に、コロナウイルスにより需要が増加したためシーズン中に様相が変わり、出荷は予定より5週間早く終了した。コロナウイルス危機がヨーロッパ中で燃え上がった3月には、スペインの輸出業者はスペイン産柑橘類の歴史上最高の輸出を記録した。

ある輸出業者は、コロナウイルスに関係なく、今年は柑橘類の生産者と小売業者の双方にとっては良いシーズンであったと言う。流通業者にとっては、高い価格にもかかわらず、利幅が非常に狭かったため、難しい年であった。特にオレンジでは、嵐などの気象条件によって大量の廃棄が発生するなどし、時に損失が発生するほどであった。「販売可能なオレンジの割合が低く、生産コストは増加している」と、前出の輸出業者は言う。次のシーズンについて正確な数字を示すのはまだ早いですが、業界筋はネイベリーナ種の生産量はわずかに(6-7%)増加し、レーン・レイト種はわずかに減少し、晩生品種のオレンジは顕著に減少すると見ている。

スペインの柑橘類業界は現在、英国がEUを離脱したために柑橘類に輸入関税を適用する可能性があることを懸念している。その場合、10%の税率が適用されると見られる。スペインは昨年、英国に82,400トンのオレンジを輸出した。スペインが英国市場を失えば、モロッコ、チュニジア、南アフリカ、エジプトなど直接の競争相手を利することとなる。

南アフリカ：物流の遅れが最大の課題

強い需要の結果、南アフリカのネーブルオレンジとバレンシアオレンジの輸出は前シーズンに比べて増加した。北米および英国市場向けの出荷も増加した。唯一、東南アジア向けのオレンジの輸出は前のシーズンに比べて減少した。今季の輸出量は、ネーブルオレンジは2,640万箱(15kg/箱)、バレンシアオレンジは5,030万箱と見込まれる。

柑橘類は風害などの問題が比較的少ないが、中部及び北東部地域では、しわのあるオレンジが報告されている。物流の遅れにより、大量のオレンジがその目的地に同時に到着する可能性がある。

米国：6月のネーブル市場は空

フロリダ州、メキシコ、及びカリフォルニア州の一部では今年の出荷がほぼ終わった。コロナウイルスにより、ネーブルオレンジやバレンシアオレンジの国内需要は高く、その結果、出荷販売期間は通常より早く終了した。カリフォルニア州では、一部の生産者が収穫を遅らせており、市場には8月に入荷する。このため、カリフォルニア州産バレンシアオレンジの入荷は分散することとなる。

輸入品は現在、主に南アフリカとチリから到着している。ネーブルは6月下旬に、ほぼ空っぽの市場に入荷した。需要は依然として高く、その結果として価格は上昇した。多くの小売業者は、同じレベルの供給を維持できるかどうか分からないため、プロモーションを控えている。南アフリカ産は8月までネーブルが入荷し、そ

の後ミッドナイトバレンシアが続く。チリ産は9月下旬または10月上旬まで入荷する。オーストラリアのネーブルも今週から市場に到着している。入荷量が限られるため、ペルー産のクレメンタインやミネオラなど、他の柑橘類が輸入される余地が増大している。

オーストラリア：国内市場向けの新オレンジブランド

オーストラリアは現在冬である。オーストラリア柑橘生産者協会の調査によると、去年は乾燥した気象条件が甘くてジューシーな果実の生産につながったことが示された。今年は、生産量は昨年よりも少ないが、果実のサイズは良い。最近、オーストラリアの国内市場に特化した新ブランドが発売された。同協会は主にワシントン・ネーブル、レーン・レイト及びバレンシアに特化しており、おってカラカラ・ネーブルも手掛ける予定である。

最新(2019年6月)の統計によると、オーストラリアのオレンジの生産量は安定しており、52万8,095トンと1%未満の増加となっているが、生産額は7%増加し、3億9,880万豪ドル(2億4,460万ユーロ)に達している。輸出量は1%減の18万8,056トンであったが、輸出額は10%増加して3億810万豪ドル(1億8,900万ユーロ)となった。中国がオーストラリアの柑橘類の主要輸出先であり、輸出全体の33%を占めた。続いて日本が18%であった。ネーブルがオレンジの中で最も多く生産される品種で、生鮮生産量の89%を占めている。総生産量のうち、21万4,686トンが果汁等の加工用に出荷された。

中国：エジプト産オレンジはロックダウンで苦戦

中国と米国の貿易戦争やコロナウイルス発生後の危機など、いくつかの主要な出来事の影響により、柑橘類の輸入市場の状況は前年までほど良くない。市場は徐々に回復しつつあるが、出荷は遅れている。概して言えば晩生のオレンジは売れないため、輸入量が減少している。たとえば、オーストラリアから輸入されるオレンジの数が少なくなっている。高級オレンジは6月から入荷していない。

多くのフードサービスやケータリング事業がコロナ危機の間休業を余儀なくされたため、果汁用のエジプト産オレンジの輸入量が急減した。すでに市場に入荷している果物は販売が困難で、中国の港にオレンジが滞貨している。

チリ：大部分が米国向け

チリは、第20週(5月中旬)にオレンジの出荷を開始し、第42週(10月中旬)頃まで出荷を続ける予定である。第28週(7月上旬)まで、世界中に29,995トンのネーブルオレンジを出荷し、そのうち28,638トンが米国向けであった。今年はチリ産オレンジの需要が強く、販売額は昨年と比べて増加している。7月5日までの週の売上高は、前年に比べて47.6%増加した。

64. インドネシア 日本とのEPA再交渉を望む

FreshPlazaウェブサイト(2020年7月17日)

インドネシア政府は、インドネシア-日本経済連携協定(IJEPA)の再交渉を通じて、日本市場へのアクセス拡大、関税の引き下げ及び観光業における労働者の移動の自由化を目指している。

貿易省のマデニ国間交渉部長は、政府は市場アクセスの拡大とインドネシア産農産物に対する日本の関税割当(TQR)の見直しに注力していると述べた。

「市場アクセスに関しては、缶詰製品を含むインドネシア産水産物の一部は、日本市場に参入するための関税が依然として高い。また、日本の果物市場を確保したいと考えている。日本は現在、インドネシア産品に関税割り当てを実施している。」(同部長)

インドネシア-日本経済連携協定の附属書1は、日本は、生鮮パイナップルやバナナなどのインドネシアの熱帯果実に関税割り当てを適用し、バナナについては5年間にわたり年間最大1千トンの無税枠を提供している。

同部長は、日本はインドネシアにとって第3位の輸出先、第2位の輸入先であるため、インドネシア製品の市場アクセスが拡大されれば、両国間の貿易を促進すると述べた。貿易省のデータによると2019年のインドネシアと日本の間の貿易総額は315億6000万米ドルで、2018年の374億4000万ドルからやや減少した。なお、インドネシアはまた2019年には約3億2000万ドルの貿易黒字を計上した。

出典: thejakartapost.com

65. ブラジル産オレンジ果汁輸出 2019/20年度*は107万トン

FreshPlazaウェブサイト(2020年7月21日)

2019/20年度のブラジル産オレンジ果汁の輸出量は107万トンで前年度(92万29トン)と比較して17%増加した。

ブラジル柑橘類輸出業者協会(CitrusBR)がまとめたブラジル対外貿易事務局(Secex)のデータによると、売上高は17億5,100万米ドルに達し、前年の17億700万米ドルに比べて3%増加した。

同協会のイビアパバ・ネット会長は、増加はしたもののこれは小さな動きであり、長期的に見れば2015/16年度のレベルに戻っていると述べた。

この増加はまた、市場への果汁出荷量の増加によって説明される。この部門は2019/20年度に3億2,500万箱以上、合計120万トンの果汁を製造し、これは前の年度よりも約37%多い。

ブラジル産オレンジ果汁の主要輸出先は引き続きヨーロッパであり、米国、日本、アジア諸国がこれに次いでいる。

訳注: オレンジに関し、ブラジルの2019/20年度は、2018年7月～2019年6月である。(北半球の欧米諸国の年度と1年のずれがある。)

66. タイ 輸入生鮮青果物の残留農薬検査ガイドラインを改訂

FreshPlazaウェブサイト(2020年7月22日)

タイ食品医薬品局(FDA)は7月15日、2020年8月1日から実施される生鮮農産物に対する改正残留農薬監視措置を公表した。改訂された監視措置は、タイFDAのウェブサイトにてこれまでに正式に公開されたすべての措置に取って代わる。

米国大使館の農業担当部署は7月8日にタイFDAと会談し、入国港での生鮮農産物検査に関する新たな監視措置に係わる懸念について話し合った。7月15日、タイFDAは、保健省通知第387号「残留農薬を含む食品」に則り、輸入生鮮農産物の残留農薬検査に関する改訂ガイドラインを発表した。

改訂された措置は、タイFDAのウェブサイトにてこれまでに公式に掲載されたすべての措置に取って代わる。施行日は予定どおり2020年8月1日である。

前回の発表から修正された重要な項目は次のとおり:

- 「高リスク」カテゴリの検査は、荷口ごとではなく、ランダムに実施される。
- 「高リスク」カテゴリの検査と分析結果証明書が必要な農薬の改訂リストの公表 - 134成分の検査は不要*
- 「非常に高リスク」カテゴリの検査と分析結果証明書が必要な農薬の改訂リストの公表 - 同上

※訳注:タイ当局の直近の公表では、134成分を検査することとされていた。

出典: 米国農務省バンコク事務所(タイ) 食料農業輸入規制基準報告書(2020年7月17日付)

(参考)分析結果証明書に表示すべき高リスクの農薬物質(果実関係) *:日本で登録されていない農薬

ドラゴンフルーツ(5物質)

カルベンダジム*、グリホサート、パラコート、クロルピリホス、メタラキシル

サクランボ(4物質)

クロルピリホス、グリホサート、フェンプロパトリン、パラコート

イチゴ(6物質)

クロルピリホス、メソミル、プロパルギット、グリホサート、パラコート、ピリメタニル*

ミカン(14物質)

ビフェントリン、シペルメトリン、パラコート、カルベンダジム*、ジコホール*、プロフェノホス、カルボフラン、エチオン*、チアベンダゾール*、クロルフェナピル、グリホサート、トリアゾホス*、クロルピリホス、オメトエート*

ブドウ(8物質)

クロルフェナピル、フェノブカルブ、パラコート、クロルピリホス、フェンプロパトリン、プロチオホス、シフルトリン、グリホサート

参考の出典: 農林水産省(日本)ウェブサイト

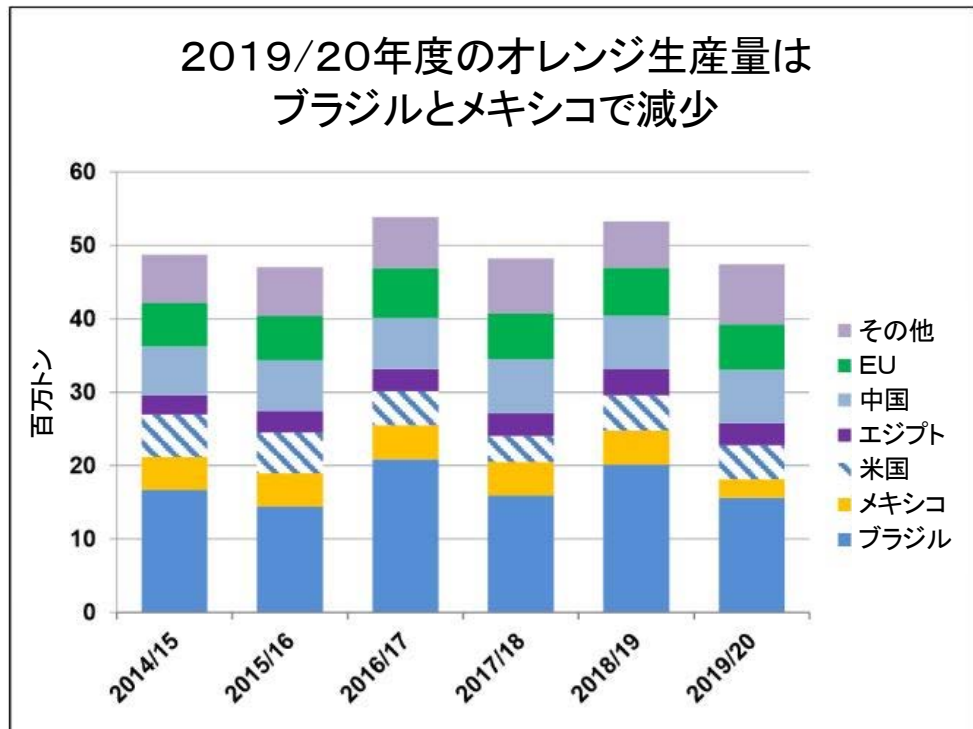
67. 世界の柑橘類事情と市場動向

米国農務省海外農業局(2020年7月23日)

<オレンジ>

世界の2019/20年度のオレンジ生産量は、ブラジル(19%減)とメキシコ(45%減)での天候不順による減収のため、前年比780万トン減の4,610万トンと推定され、また、これに伴い消費量、加工仕向量、生鮮輸出量も少ないものと推定される。

ブラジルの生産量は、サンパウロ州の柑橘ベルト地帯が隔年結果の裏年であることと、複数の天候上の問題(一番花、二番花の開花から着果期の後の暖かい気温と平均以下の降水量)のために19%減の1,560万トンに減少すると推定される。生鮮オレンジの消費量は490万トンに減少し、加工仕向量は350万トン減の1,070万トンと見込まれる。



メキシコでは干ばつと高温により、今年のオレンジの生産量が平年のほぼ半分の250万トンに減少すると推定され、これは1990年代初頭以来最低の収穫量となる。オレンジは、果実を生産するためにより多くの水が必要とする樹齢の高い木が多いため、現在進行中の干ばつと高温は他の柑橘類よりもオレンジの生産に大きな影響を与える。最大の産地であるベラクルス州では、2019年10月と11月の高温が最も問題であった。栽培期間を通じた高温と降水不足により、広範囲にわたって果実の品質が低下し、ほとんどの産地でサイズが小さくなった。供給量の減少に伴い消費量は3分の1減少すると予想され、加工仕向量は60%近く減少すると推定される。オレンジの輸出量は横ばいで推移し、その95%以上が例年どおり米国向けと予測される。

中国の生産量は、天候に恵まれ730万トンとわずかに増加するものと予測される。輸入量は、高級・高品質オレンジに対する消費者の需要の高まりに対応して3%増加し、供給量全体の増加により消費量は多い。エジプトと南アフリカは依然として最大の輸入先であり、中国の輸入量の70%以上を占める見込みである。

米国の生産量は、5%減の470万トンと推定される。フロリダ州のオレンジ生産量は、カンキツグリーニング病のために長年減少傾向にあり、20年前の3分の1以下となっている。生産量が減少する中、消費量と輸出量はともに増加するが、加工仕向量は減少するものと予想される。

EUの生産量は、悪天候により開花や着果が影響を受けたため、9%減の620万トンと予測される。供給量の減少により、生鮮消費量、加工仕向量、輸出量はすべて減少する。

エジプトの生産量は、強風と高温により開花や着果が影響を受けたため、17%減の300万トンと推定される。輸出量は20万トン減の150万トンと予測されるが、依然として世界の貿易量の3分の1を占める見込みである。主な輸出先は、引き続きEU、ロシア、サウジアラビア、中国等と予想される。

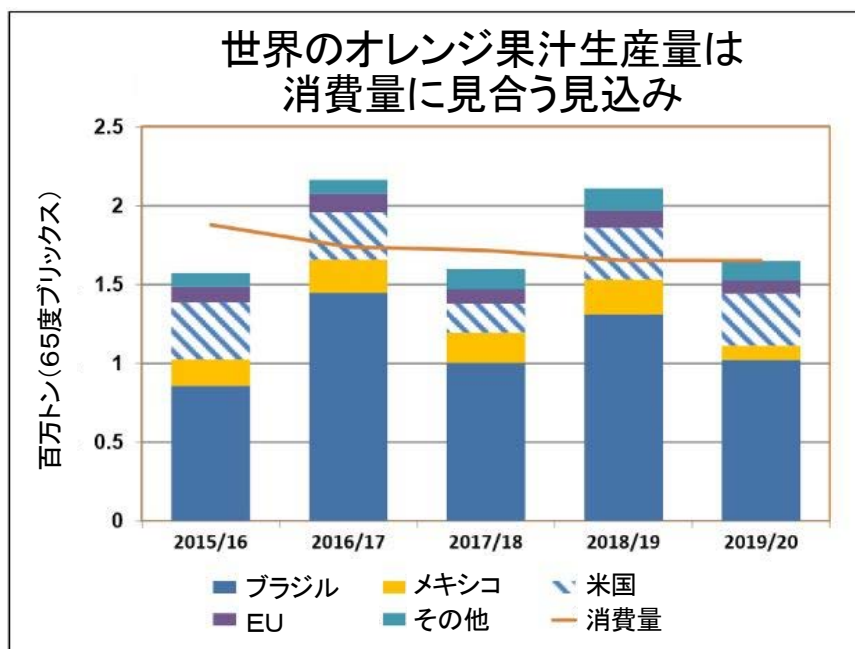
南アフリカの生産量は、平年並みの天候により横ばいの160万トンと予想される。輸出量は史上最高の130万トンと推定され、引き続きEUと中国がトップ市場になると予想される。

モロッコの生産量は、水不足と悪天候により3分の1近く減少して80万6千トンと推定される。生産量の減少に伴い、消費量、輸出量、加工仕向量も減少すると推定される。

トルコの生産量は、2019年5月の高温により開花が悪影響を受けたことから11%減の170万トンと推定される。供給量が少ないため、消費量と輸出量は減少する。

＜オレンジ果汁＞

世界の2019/20年度のオレンジ果汁生産量は、23%減の160万トン(65度ブリックス)と推定される。これはブラジルとメキシコでオレンジの加工仕向量の減少に伴い果汁生産量が減少するためである。消費量は横ばい(減少ではないものの)と予測される。また、ブラジルとメキシコからの輸出量の減少が見込まれることから、世界の貿易量は減少するものと見込まれる。



ブラジルのオレンジ果汁生産量は、オレンジの加工仕向量の減少により、22%減の100万トンと予測される。消費量と在庫量はいずれもやや増加すると見込まれる一方、輸出量は生産量の減少に伴い15%減少すると予測される。原料供給が少ないとしてもブラジルは依然として世界最大のオレンジ果汁生産国であり、世界のオレンジ果汁輸出量の4分の3以上を占めると予測される。

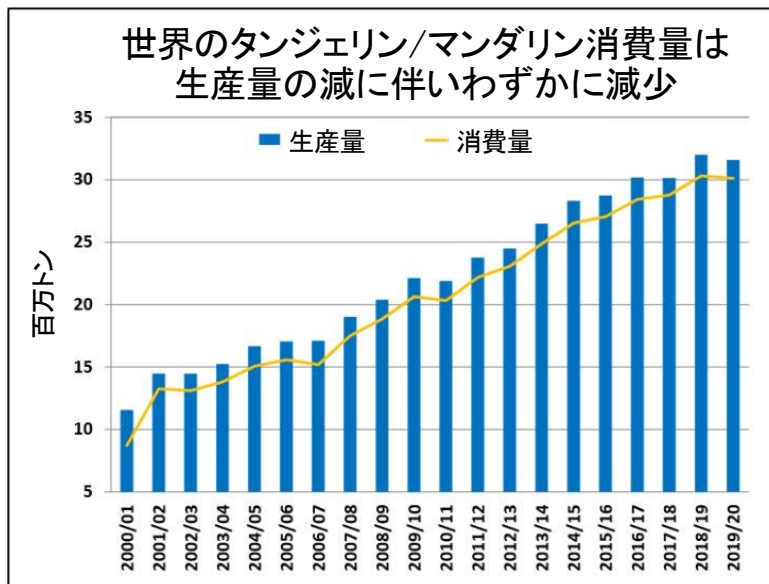
米国のオレンジ果汁生産量は、オレンジの加工仕向量の減少により、10%減の29万7千トンと予測される。消費量は20年以上前から減少傾向にあるが、今回は横ばいと予測する。輸出量はやや多く、輸入量はやや少ないと見込まれることから、在庫量は減少するものと予想される。

メキシコのオレンジ果汁生産量は、オレンジの加工仕向量の大幅な減少により、半分以上減少して9万トンと予測される。消費量と輸出量はともに減少し、在庫量も減少する。

EUのオレンジ果汁生産量は、オレンジの加工仕向量の減少により、21%減の8万4千トンと推定される。生産量の減少が輸入量のわずかな増加を上回るため、消費量は減少する。引き続きブラジルが最大のオレンジ果汁輸入先であると予想される。

<タンジェリン/マンダリン>

世界の2019/20年度の生産量は、EU、モロッコ、トルコ、米国の減少が中国の増加を上回るため、40万トン減の3,160万トンと推定される。供給量の減少に伴い、消費量と輸出量はいずれも減少する。時系列で見ると、生産量と消費量は、中国、EU、トルコ、米国での増加により、20年近く前から増加傾向にある。



中国の生産量は、良好な天候と皮をむきやすい新しい品種の栽培面積の急速な拡大により、100万トン増加して史上最高の2,300万トンに達するものと推定される。中国は引き続き世界の生産量と消費量の約70%、輸出量の4分の1以上を占める見込みである。生産量の増加分は国内市場で消費される見込みで、輸出量は昨年と同水準と見込まれる。

EUの生産量は、スペインとイタリアの豪雨等、春と秋の悪天候のため、45万トン減の280万トンと見込まれる。供給量の減少に伴い、消費量は減少、輸入量は増加し、輸出量は横ばいと予想される。引き続き、モロッコと南アフリカが、EU市場向けの主要輸出国と見込まれる。

トルコの生産量は、開花時の寒気により15%減の140万トンと推定される。消費量は供給の減少に伴って減少すると予想される一方、輸出量は引き続きロシア向けを筆頭に拡大するものと予想される。

モロッコの生産量は、開花期から着果期にかけての高温のため、33%減の92万6千トンと予測される。供給量の減少に伴い消費量と輸出量も急落するものと推定される。

米国の生産量は、悪天候による減収のために20%減の80万6千トンと見込まれる。供給の減少に伴い消費量が減少する一方、輸出量はカナダと日本を2大輸出先として横ばいと予想される。

<グレープフルーツ>

世界の2019/20年度の生産量は、メキシコと米国の悪天候によりわずかに減少し、670万トンと推定される。消費量がやや減少すると予想される一方、トルコの輸出量の増加に伴い世界の輸出量は増加すると予測される。

<レモン/ライム>

世界の2019/20年度の生産量は、アルゼンチン、EU、メキシコ、トルコ、米国での生産量減少により、97万5千トン減の760万トンと推定される。供給の減少に伴い、消費量、加工仕向量、輸出量はいずれも減少するものと見込まれる。南アフリカの輸出量が記録的に増加するが、トルコの輸出量の減少がこれを上回るものと見込まれる。

主要国の生産需給統計

オレンジ(生鮮)

(千トン)							(千トン)						
	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 1月推計値	2019/20 7月推計値		2015/16	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 1月推計値	2019/20 7月推計値
生産量							輸出量						
ブラジル	14,414	20,890	15,953	19,258	15,100	15,617	エジプト	1,450	1,520	1,540	1,700	1,500	1,500
中国	6,900	7,000	7,300	7,200	7,300	7,300	南アフリカ	1,064	1,171	1,279	1,186	1,250	1,280
欧州連合	6,038	6,739	6,270	6,799	5,840	6,194	米国	657	613	511	479	485	525
米国	5,523	4,616	3,560	4,894	4,898	4,664	E U	319	293	324	357	300	310
エジプト	2,930	3,000	3,120	3,600	3,000	3,000	トルコ	371	397	454	298	253	274
メキシコ	4,603	4,630	4,737	4,639	4,417	2,530	オーストラリア	161	191	186	195	190	190
トルコ	1,800	1,850	1,905	1,900	1,800	1,700	香港	107	176	189	167	170	170
南アフリカ	1,275	1,363	1,586	1,590	1,560	1,600	モロッコ	89	165	145	148	110	105
モロッコ	925	1,037	1,021	1,183	815	806	アルゼンチン	65	80	60	85	70	70
ベトナム	637	768	770	770	770	770	中国	74	59	65	55	60	60
アルゼンチン	800	700	750	800	720	650	メキシコ	56	76	72	60	62	60
オーストラリア	455	480	525	510	500	500	シンガポール	8	6	5	6	6	6
コスタリカ	335	322	315	295	310	310	ロシア	3	5	5	5	5	5
グアテマラ	177	177	180	177	180	180	ブラジル	26	33	20	4	20	4
イスラエル	86	81	76	68	76	76	イスラエル	6	5	4	3	4	4
その他	162	160	165	161	183	165	その他	2	4	3	4	4	4
合計	47,060	53,813	48,233	53,844	47,469	46,062	合計	4,458	4,794	4,862	4,752	4,489	4,567
生鮮国内消費量							輸入量						
中国	6,446	6,718	7,058	6,989	7,088	7,088	E U	974	995	1,042	1,017	1,050	1,000
欧州連合	5,407	5,950	5,834	6,080	5,545	5,804	ロシア	473	430	463	462	460	450
ブラジル	4,940	4,761	4,982	5,035	4,735	4,943	中国	220	357	393	434	448	448
メキシコ	2,929	2,473	2,785	2,408	2,427	1,601	サウジアラビア	411	395	380	428	410	415
トルコ	1,366	1,402	1,386	1,539	1,472	1,358	香港	286	315	347	332	330	330
アメリカ合衆国	1,346	1,184	1,261	1,230	1,251	1,289	バングラデシュ	154	155	239	172	200	240
エジプト	1,380	1,380	1,480	1,540	1,200	1,200	カナダ	204	183	190	186	185	200
ベトナム	695	811	832	821	820	820	イラク	192	184	262	192	180	195
モロッコ	811	822	826	975	670	666	米国	164	182	222	193	195	190
ロシア	470	425	458	457	455	445	アラブ首長国連邦	220	204	181	189	185	185
サウジアラビア	411	395	380	428	410	415	韓国	154	143	141	126	135	120
アルゼンチン	469	350	320	410	303	380	マレーシア	101	98	92	106	105	105
イラク	265	257	337	263	255	270	ウクライナ	76	73	88	95	95	90
バングラデシュ	158	158	242	175	221	243	日本	100	92	83	85	88	88
グアテマラ	211	213	199	211	210	210	スイス	71	68	70	70	70	75
その他	1,782	1,676	1,673	1,689	1,595	1,592	コスタリカ	52	70	69	66	70	70
合計	29,086	28,975	30,053	30,250	28,657	28,324	ベトナム	58	43	62	51	50	50
加工仕向量							シンガポール	44	42	43	44	45	42
ブラジル	9,466	16,116	10,975	14,239	10,365	10,690	トルコ	37	49	33	42	35	42
米国	3,684	3,001	2,010	3,378	3,357	3,040	ノルウェー	38	35	32	33	33	33
欧州連合	1,286	1,491	1,154	1,379	1,045	1,080	メキシコ	32	19	20	29	27	31
メキシコ	1,650	2,100	1,900	2,200	1,955	900	グアテマラ	34	36	19	34	30	30
中国	600	580	570	590	600	600	オーストラリア	18	21	14	20	20	20
エジプト	100	100	100	360	300	300	ブラジル	18	20	24	20	20	20
南アフリカ	142	123	239	333	238	247	モザンビーク	5	5	6	7	7	7
コスタリカ	230	238	232	216	230	230	その他	5	5	9	6	8	4
アルゼンチン	270	273	375	307	350	200	合計	4,141	4,219	4,524	4,439	4,481	4,480
オーストラリア	77	60	108	90	190	190	複数年表示は収穫販売年度であり、北半球では概ね11月～10月に当たる。						
その他	152	181	179	189	174	174	南半球では、収穫はほぼ第2年次を通じて行われ、収穫販売年度は第2年次に始まる以下の時期である。						
合計	17,657	24,263	17,842	23,281	18,804	17,651	アルゼンチン 1月～12月						
							南アフリカ 2月～1月						
							オーストラリア 4月～3月						
							ブラジル 6月～7月						
							上記の販売年度の違い等により、輸入合計と輸出合計が一致しないことがある。						

オレンジ果汁

(65度ブリックス、千トン)						
	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 1月推計値	2019/20 7月推計値
生産量						
ブラジル	859	1,447	1,004	1,312	992	1,022
米国	361	303	187	329	330	297
メキシコ	166	210	190	220	196	90
E U	100	116	89	107	81	84
南アフリカ	21	19	49	63	45	47
中国	46	45	44	45	46	46
オーストラリア	8	7	18	17	16	16
その他	14	18	17	18	17	16
合計	1,574	2,164	1,598	2,111	1,722	1,618
国内消費量						
E U	826	741	736	705	693	696
米国	631	581	572	530	530	532
中国	83	97	110	112	112	112
カナダ	93	86	85	83	87	83
日本	78	72	73	70	71	71
ブラジル	38	38	40	40	42	42
オーストラリア	40	38	36	34	34	34
その他	90	86	79	80	82	79
合計	1,879	1,739	1,730	1,654	1,650	1,649
期末在庫量						
米国	302	268	261	376	426	318
ブラジル	6	185	160	290	182	305
南アフリカ	11	0	6	36	20	29
日本	13	12	23	26	23	23
E U	15	15	15	15	15	15
その他	7	4	7	25	6	6
合計	353	485	472	768	672	697
輸出量						
ブラジル	962	1,230	989	1,142	935	965
メキシコ	158	204	182	195	191	105
E U	52	63	58	60	58	58
南アフリカ	35	28	39	30	50	50
米国	66	57	35	30	30	33
その他	32	32	32	31	28	27
合計	1,305	1,613	1,336	1,487	1,292	1,238
輸入量						
E U	778	688	704	658	670	670
米国	280	301	413	346	280	210
カナダ	97	90	86	83	87	83
中国	40	55	68	69	68	68
日本	73	71	84	75	68	68
ロシア	37	35	31	33	32	33
イスラエル	29	21	25	23	23	23
その他	57	57	45	41	41	42
合計	1,391	1,320	1,455	1,326	1,269	1,197

複数年表示は収穫販売年度であり、北半球では概ね10月～9月に当たる。
 南半球では、収穫はほぼ第2年次を通じて行われ、収穫販売年度は第2年次に始まる以下の時期である。
 南アフリカ 2月～1月
 オーストラリア 4月～3月
 ブラジル 6月～7月
 上記の販売年度の違い等により、輸入合計と輸出合計が一致しないことがある。

タンジェリン/マンダリン(生鮮)

(千トン)						
	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 1月推計値	2019/20 7月推計値
生産量						
中国	20,200	20,600	21,200	22,000	23,000	23,000
E U	3,086	3,421	2,913	3,211	2,643	2,761
トルコ	1,040	1,300	1,550	1,650	1,500	1,400
日本	933	1,070	968	994	952	952
モロッコ	1,065	1,278	1,185	1,375	910	926
米国	861	933	729	1,004	844	806
韓国	635	600	577	608	645	645
南アフリカ	226	261	356	375	420	421
アルゼンチン	350	320	350	430	390	310
イスラエル	190	243	162	198	200	200
その他	152	157	148	151	148	147
合計	28,738	30,183	30,138	31,996	31,652	31,568
生鮮国内消費量						
中国	18,910	19,413	20,058	20,735	21,734	21,734
E U	2,988	3,265	2,953	3,093	2,694	2,820
日本	860	989	906	933	897	897
米国	769	862	876	1,030	909	875
ロシア	724	841	836	902	840	840
トルコ	487	614	836	969	819	601
韓国	547	542	503	543	558	558
その他	1,766	1,903	1,800	2,095	1,756	1,792
合計	27,051	28,429	28,768	30,300	30,207	30,117
加工仕向量						
中国	660	650	640	620	620	620
E U	271	372	226	355	204	226
米国	288	309	171	243	205	195
韓国	85	56	72	63	85	85
アルゼンチン	110	110	116	113	135	75
日本	87	98	79	79	73	73
南アフリカ	11	24	75	59	68	56
その他	41	56	33	43	36	36
合計	1,553	1,675	1,412	1,575	1,426	1,366
輸出量						
トルコ	575	710	739	712	710	828
中国	658	587	556	706	710	710
モロッコ	469	517	539	599	360	385
南アフリカ	190	210	261	296	330	344
E U	250	236	217	246	245	245
イスラエル	87	120	88	102	110	110
米国	36	36	35	45	45	46
その他	56	45	38	40	38	38
合計	2,321	2,461	2,473	2,746	2,548	2,706
輸入量						
ロシア	724	841	836	902	840	840
E U	423	452	483	483	500	530
米国	232	274	353	314	315	310
ウクライナ	139	124	157	164	165	190
ベトナム	116	118	143	160	150	165
カナダ	146	154	154	157	150	160
フィリピン	68	68	87	102	95	105
タイ	141	123	75	87	70	75
インドネシア	60	69	60	73	65	65
マレーシア	69	64	67	69	65	65
その他	69	95	100	114	114	116
合計	2,187	2,382	2,515	2,625	2,529	2,621

複数年表示は収穫販売年度であり、北半球では概ね10月～9月、南半球では4月～3月に当たる。
 南半球では、収穫はほぼ第2年次を通じて行われる。
 上記の販売年度の違い等により、輸入合計と輸出合計が一致しないことがある。

グレープフルーツ(生鮮)

レモン/ライム(生鮮)

(千トン)							(千トン)						
	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 1月推計値	2019/20 7月推計値		2015/16	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 1月推計値	2019/20 7月推計値
生産量							生産量						
中国	4,350	4,600	4,800	4,900	4,930	4,930	メキシコ	2,416	2,513	2,311	2,401	2,422	2,199
米国	728	633	462	544	582	485	E U	1,333	1,535	1,472	1,683	1,470	1,417
南アフリカ	315	354	403	372	420	387	アルゼンチン	1,350	1,450	1,770	1,780	1,600	1,400
メキシコ	438	442	418	456	468	350	トルコ	670	850	1,000	1,100	1,000	950
トルコ	250	253	260	250	300	270	米国	820	800	806	909	740	831
イスラエル	163	149	144	139	155	155	南アフリカ	308	430	446	492	530	579
E U	107	106	107	108	89	96	イスラエル	60	67	65	68	75	75
その他	25	25	26	26	26	26	その他	93	99	91	92	96	99
合計	6,376	6,562	6,620	6,795	6,970	6,699	合計	7,050	7,744	7,961	8,525	7,933	7,550
生鮮国内消費量							生鮮国内消費量						
中国	4,224	4,460	4,670	4,713	4,743	4,743	E U	1,582	1,692	1,786	1,871	1,766	1,716
E U	438	398	447	395	434	434	米国	1,135	1,222	1,222	1,359	1,265	1,356
メキシコ	331	335	311	344	352	254	メキシコ	1,383	1,397	1,190	1,257	1,276	1,140
米国	287	282	231	240	254	230	トルコ	200	319	417	476	406	532
ロシア	117	106	134	156	160	135	ロシア	184	210	216	217	222	207
トルコ	62	131	71	112	131	86	サウジアラビア	121	126	143	145	145	145
日本	105	108	96	89	84	84	カナダ	102	96	97	126	125	120
カナダ	39	37	35	35	35	37	アラブ首長国連邦	97	93	84	85	85	85
ウクライナ	18	15	27	29	32	35	アルゼンチン	70	90	151	170	150	80
香港	5	5	5	6	10	10	日本	74	75	72	69	79	77
その他	22	21	22	23	24	24	その他	158	178	182	193	202	206
合計	5,648	5,898	6,049	6,142	6,259	6,072	合計	5,106	5,498	5,560	5,968	5,721	5,664
加工仕向量							加工仕向量						
米国	333	268	191	262	285	213	アルゼンチン	1,004	1,122	1,348	1,377	1,150	1,100
南アフリカ	111	118	111	107	124	110	メキシコ	374	388	396	397	395	307
メキシコ	87	88	90	94	95	79	E U	243	284	232	278	224	221
イスラエル	92	80	68	77	72	72	米国	190	164	189	242	185	200
E U	20	19	17	21	15	15	南アフリカ	56	115	113	122	139	140
その他	1	1	2	2	3	3	トルコ	40	40	50	50	50	50
合計	644	574	479	563	594	492	日本	29	31	31	32	34	34
輸出量							その他	2	4	4	6	4	4
南アフリカ	203	231	288	258	290	270	合計	1,938	2,148	2,363	2,504	2,181	2,056
中国	159	180	208	248	255	255	輸出量						
トルコ	190	125	189	138	170	185	メキシコ	662	731	729	751	755	755
イスラエル	61	61	68	54	75	75	南アフリカ	237	299	315	350	370	416
米国	124	108	58	57	62	57	トルコ	434	495	536	576	546	370
香港	11	15	32	21	20	25	アルゼンチン	279	241	272	234	300	220
メキシコ	22	20	18	20	23	18	米国	110	112	97	96	90	90
その他	15	15	17	16	15	17	E U	69	79	65	82	80	80
合計	785	755	878	812	910	902	モロッコ	9	13	9	15	11	14
輸入量							その他	22	26	17	14	16	11
E U	365	326	374	324	375	370	合計	1,822	1,996	2,040	2,118	2,168	1,956
ロシア	117	106	134	156	160	135	輸入量						
中国	33	40	78	61	68	68	米国	615	698	702	788	800	815
日本	82	84	71	64	60	60	E U	561	520	611	548	600	600
カナダ	39	37	35	35	35	37	ロシア	186	213	219	220	225	210
香港	16	20	37	27	30	35	サウジアラビア	121	126	143	145	145	145
ウクライナ	18	15	27	29	32	35	カナダ	102	96	97	126	125	120
アメリカ	16	25	18	15	19	15	アラブ首長国連邦	91	87	79	80	80	80
スイス	7	7	7	7	7	7	日本	51	53	53	59	62	60
南アフリカ	4	1	3	1	3	2	ウクライナ	41	47	50	55	55	55
その他	4	4	2	3	4	3	香港	37	47	39	36	38	35
合計	701	665	786	722	793	767	メキシコ	3	3	4	4	4	3
複数年表示は収穫販売年度であり、北半球では概ね10月～9月、南半球では4月～3月に当たる。							その他	8	8	5	4	3	3
南半球では、収穫はほぼ第2年次を通じて行われる。							合計	1,816	1,898	2,002	2,065	2,137	2,126
上記の販売年度の違い等により、輸入合計と輸出合計が一致しないことがある。							複数年表示は収穫販売年度であり、北半球では概ね10月～9月に当たる。						
							南半球では、収穫はほぼ第2年次の1月～12月に行われる。						
							上記の販売年度の違い等により、輸入合計と輸出合計が一致しないことがある。						

68. 世界のパナナ市場

FreshPlazaウェブサイト(2020年7月24日)



バナナは、柑橘類の果実と並んで、コロナウイルスによって市場の需要が増加した数少ない品目の一つである。夏になり、他の果実との競争によってスーパーマーケットや青果店での需要は幾分落ち込んでいるが、その落ち込みは、多くの生産者、輸出業者、輸入業者が当初予想していたよりも顕著である。これは現在価格が低いことを意味するが、年末に向けては夏果実が市場から消えるほか、コロナ禍による労働者不足のために南米のパナナ生産量が減少したため、価格は上昇すると見込まれる。各地で降水量の不足が報告されており、生産量の減少に繋がる可能性がある。

エクアドル：物流の問題はあるも輸出は継続

コロナ禍にもかかわらず、バナナは輸出されており、栽培は安定している。物流の問題により輸出がやや減速し、その結果一部で出荷量が減少した。しかし、市場全体は安定しており、輸出が行き滞ることはなく、市場の需要は満たされた。バナナの価格は下落し、現在は生産者が予想していたよりも低くなっている。これは、ウイルスに対する予防措置の追加的コストによる面もある。また、夏場には他の果実との競合によりバナナの需要が低下するが、それは通常のことであり、生産者にとっては織り込み済みである。

コスタリカ：農園の管理厳格化による人手不足

コスタリカのパナナ生産は、数週間非常に混乱した後によりやく安定を回復した。保健当局は、不法移民の間でコロナウイルスの症例数が増加したと報告した。その後の調査で、一部のバナナプランテーションは労働者のかなりの割合をニカラグアから連れてきているが、それらの労働者に防護服を提供したり、確実なソーシャル・ディスタンスを取らせたりしていないことがわかった。また、管理の厳格化により、農場労働者が不足し、その結果、一部の農園は閉鎖を余儀なくされた。現在2級品のバナナは一箱(18.14kg)当たり7.50ドル、1級品は10.59ドルで販売されている。

オランダ：バナナの売り上げは引き続き増加

バナナの売上は今年明らかに増加している。ある輸入業者は「3月と4月にはかなり多くのバナナが消費されピークに達した。そのピークはすでに過ぎたが、売り上げはまだ他の年に比べて多い。バナナは栄養価が高いだけでなく、価格が比較的安いことが利点である。例えば、1キロのリンゴに比べると、バナナは安い商品だ。支出のパターンが変化しており、人々は安価で健康的な食べ物に戻ってくると思われるが、これはバナナの売り上げにプラスの影響を与える。通常、7月と8月はバナナの取引が最も少なく、特に第30週から第34週(7月下旬から8月中旬)には大幅に減少する。現在、多くの人々が自分の国で休暇を過ごしており、また夏の果実の出荷が出遅れたため、バナナ需要の減少はそれほど大きくはない。このため先を見通すのがさらに少し難しくなったが、今のところ、需要と供給はバランスがとれている。」と言う。

ドイツ：1級品、2級品とも価格が下落

ドイツの卸売市場では、4月中旬のコロナウイルス危機の真っ最中には、バナナの価格は史上最高レベル(1.47ユーロ/kg。前年の同時期は1.41ユーロ/kg)に上昇していたが、1級品、2級品とも着実に値下がりしている。連邦市場調査機関BLEの最近の調査によれば、バナナの価格は現在、近年の平均程度である。

供給量の面では、エクアドルがドイツにとって最大の輸入先であり、2019年には合計35万5,084トンが入荷した。このほか、コロンビア(32万9,707トン)とコスタリカ(32万3,507トン)がトップ3であった。興味深いことに、輸入額で見るとコスタリカ(2億2,423万ユーロ)、コロンビア(2億1,285万ユーロ)、エクアドル(2億1,159万ユーロ)とトップ3の順位が逆転している。ドイツはバナナの主要な買い手であるだけでなく、プレー

メンとハンブルクの港があるため、北欧市場、東欧市場への重要な通過国でもある。デンマーク、ポーランド、チェコは、バナナの主要市場である。

フランス：バナナ栽培の課題は海外県の干ばつ

バナナはロックダウン中に最も売れた品目の一つであった。6月から9月にかけてはモモやネクタリンなどの夏果実との競争もあり、バナナの需要は常に低くなる。今年、フランスの海外県(カリブ海のグアドループ島及びマルティニーク島)のバナナ生産は、3月以降の乾燥した天候の影響を受けている。これは生産量に影響を与えると予想される。

イタリア：需要が少なく価格が低下

バナナは、ロックダウン中にも順調であった数少ない品目の一つである。バナナの需要が高く、供給が十分でなかったため、価格が上昇した。現在は供給が安定しており、需要はロックダウン中よりも少ない。その結果、1級品のバナナの価格は0.20ユーロ/kg、2級品はおよそ0.20～0.30ユーロ/kg安くなっている。

バナナの売り上げは、特に過去20日間減少している。これは夏の期間の通常の傾向である。しかし、今年はケータリング業界からの受注量が限られていることもあって、販売数量の減少は少し大きくなっている。この期間中、小売価格は非常に低く、多くのスーパーマーケットチェーンで0.99ユーロ/kgで提供されている。バナナは現在、エクアドル、コスタリカ、コロンビアから輸入されている。

中国：需要は最低

海南省産バナナの出荷シーズンは終わりに近づいているが、広東省と広西省の出荷量は徐々に増加している。広西省はすでに中国国内で最も重要な産地となっている。12月末まで1ヘクタール当たりの高い収量が續くと見られる。価格は現在、7月上旬よりも高い。今後数週間、暑い夏を控え、バナナの需要は今年の最低点に達すると予想される。

東南アジア：フィリピンの出荷量が一時的に減少

ベトナム産とカンボジア産のバナナの出荷ピークは終わった。ラオス、ミャンマー等の生産は限定的である。今年、フィリピンのバナナ出荷量は20%減少したが、9月には以前の水準に戻る見込みである。フィリピン産バナナの価格は現在、一箱(13.5kg)当たり8.5～9米ドルである。

米国：供給過剰で依然として低価格

北米市場では現在バナナが供給過剰となっている。ほとんどのバナナは、エクアドル、ホンジュラス、グアテマラ、コスタリカなど中南米の生産国から輸入されており、メキシコから輸入している業者もいる。多くの取引業者が、現在の状況は2年前に似ていると感じている。入荷量は高水準にあるが、ここ数週間で需要に変化があった。ある業者は「メモリアルデー(5月31日)の約1週間後に大幅に需要が減少した。人々は夏の間、メロンや夏の果実を多く食べ、バナナをあまり食べない。」と言う。

供給過剰のため、バナナの価格は数ヶ月前よりも大幅に低くなっている。コロナ禍の間、需要が増加したにもかかわらず、価格は上昇していない。8月になれば徐々に需要が上昇すると予想されるため、価格は再び改善すると見込まれる。供給量は変わらないと予想される。他の輸入業者は「11月には在庫量が最適だが、パンデミックが生産国の人手不足を引き起こし、世界的なバナナ不足が起こる可能性がある」とし、バナナの長期的な不足を恐れている。

オーストラリア：コロナ禍が需要に大きく影響

オーストラリアバナナ生産者協議会は、オーストラリア市場では2019年の晩夏から初秋にかけてバナナが品薄であったと報告している。このため、投資に対して平均以上の収益を得る結果となった。晩秋から冬までバナナの入荷量が増加し、消費者の需要も高まった。一方、クイーンズランド州北部の多くの農園で、TR4(新パナマ病)がゆっくりと広がっていることが観察されている。

オーストラリアは一年を通して国内市場向けにバナナを出荷している。最新のデータによると、2019年6月までに37万2,204トン(前年比4%減)が収穫され、その販売額は25%増の6億490万豪ドル(3億7,330万ユーロ)であった。生産量のうち、97%がキャベンディッシュ種であり、その他3%がレディフィンガーである。

69. 米国北西部産サクランボの最終見込みは19万トン

Good Fruit Grower電子版(2020年7月30日)

米国北西部のサクランボ業界関係者は7月30日、同地域のサクランボ(甘果オウトウ)の収穫はピークを過ぎており、8月下旬に収穫が終わるまでの総収穫量を19万トン(20ポンド箱で1,900万箱相当)以上と見積もっていると語った。

予想どおりであれば、雨、風、その他の難しい天候に見舞われ、需要を満たすのに十分なサクランボを確保するために販売担当者が奮闘を強いられたシーズンにしては、6月上旬に予想された18万8,000トンに近いことになる。

ワシントン州ヤキマに本拠を置き、西部5州で生産される果実を取りまとめて販売する北西部サクランボ生産者協会は「母なる大自然は確かに北西部産サクランボの毎日の出荷量の増減に影響を与えたが、これまでに1,800万箱以上が出荷されており、最終的な出荷量は収穫シーズン前の予測に近くなりそうだ。」としている。

同協会のサービー会長は今週、収穫は8月20日まで続き、最終的には19万トンを超える量に達すると述べた。

黄色品種以外の収穫は終わっており、黄色品種の収穫量は2018年、2019年を大幅に下回る14,250トン(15ポンド箱で約190万箱)と見込まれる。

70. ペルー 日本でアボカドの販売促進

ASIAFRUIT電子版(2020年7月30日)

ペルーの貿易促進機関プロムペルー(PromPeru)は、7月、8月を通し日本の小売り業者を通じてペルー産アボカドの販売促進を行う。同機関の日本事務所が開始したこの新しいキャンペーンは、日本の複数の大手小売業者の店舗での取り組みが8月に突入する。ペルー産アボカドは、この取組みに参加しているスーパーマーケットの雑誌にも掲載される。

同機関は、このプロモーションは、トップレベルのアボカド生産国としてのペルーの地位について、日本の消費者の間で意識を高めようとするものであると述べており、発表資料では、「アボカドはペルーのスター的なスーパーフードの一つであり、それは美食の一部であるだけでなく、驚くべきことに古代からの遺産の一つでもある。」としている。

また同機関は、小売の活動に加えて、アボカドを日本の食生活に取り入れるため、日本の輸入業者の団体や大手食品製造・販売企業等と協力している。

日本はペルーのアボカドにとって2番目に大きな市場となっており、輸出は2016年から2019年の間に年平均63%増加し、同機関は2020年もこの増加が続くと予想している。

これは、アジアへのアボカド輸出を増やすペルーの取り組みの象徴である。2015年には652トンであったアジア向けのアボカド輸出量が、2019年には18,529トンに増大し、年平均成長率は131%であった。

2019年にアジアに輸出された18,529トンのうち、52.7%が中国、25.4%が日本、19.9%が香港向けであり、インド及びアラブ首長国連邦は各2%であった。これらの市場へのアボカドの合計輸出額(FOB)は4,870万米ドルであった。

(訳注)個別企業の名称は省略しました。

71. 日本の今年前半の生鮮果実輸入が増加

ASIAFRUIT電子版(2020年8月3日)

日本は2020年前半の6ヶ月間に、前年同期の87万3,714トンに比べて3%増の89万7,458トンの生鮮果実を輸入した。これは同じ時期の生鮮果実の輸入量としては過去5年間で最高であり、このことは世界的なコロナ禍の影響を踏まえると特に意味深い。

東京の卸売会社が今年上期の輸入果実上位13品目を調べたところ、バナナ、キウイフルーツ、生食用ブドウがいずれも過去5年間で輸入量が増加した。

同じ期間に、グレープフルーツ、レモン、メロン、サクランボはすべて減少傾向を示し、パイナップル、オレンジ、タンジェリン、アボカド、マンゴー等他の果実は横ばいであった。

バナナは、すべての輸入果実の中で目立った存在であり、期間中にすべての輸入果実の60.3%を占めた。引き続きフィリピンが最大の輸入先であり、バナナ全体の76.4%を占めたが、エクアドル(+1%)、メキシコ(+2.3%)、グアテマラ(+0.7%)からの輸入量が増え、フィリピンは前年比4.5%減であった。

ニュージーランドは引き続きキウイフルーツの主要な輸入先であり、今年上期に輸入された合計70,140トンのうち65,401トン占めた。これは2018年1年間の49,849トンに対してかなりの増加であり、ゼスプリのアジアへの継続的な販売攻勢を反映している。

72. 米国カリフォルニア州 生食用ブドウの収穫が本格化

ASIAFRUIT電子版(2020年8月3日)

カリフォルニア州の生食用ブドウの出荷シーズンが本格化しているが、カリフォルニア州生食用ブドウ委員会(CTGC)は収穫量の見込みを4月の推定値1億650万箱(8.6kg/箱)から1億490万箱に修正した。これは、1億499万箱が収穫された2019年に近いものになる。

同協会のキャスリーン・ネーブ会長は、収穫量の公式な推計は毎年3回行われ、さまざまな要因を考慮した詳細なプロセスであると述べた。

「2019年に起こったブドウ園の大規模な廃園の影響は、2020年に生産に入る新しいブドウ園によって相殺されたものと見られる。需要が強く、堅調に推移していることから、今シーズンは前向きな結果が期待できる。品質は優れており、米国内、輸出市場とも需要は強く、シンプルで風味豊かで使い道が広く、免疫力を高める健康的な栄養素に満ちたブドウは、昨今の複雑な時代の消費者に最適だ。カリフォルニア州産の生食用ブドウの65%は通常9月初めから1月末まで出荷されており、一般的にはブドウは夏の果物と考えられがちだが、間違いなく秋から初冬にかけての果物でもある。」(同会長)

カリフォルニア州サンホアキンバレー地域では、春の涼しい天候により、収穫の開始が7月初めにずれ込んだ。市場に残っているメキシコ産ブドウが多いことから、生産者はこのスロースタートを歓迎したが、こうした競合が繰り返し起きることが最近の傾向となってきた。

米国農務省によると、メキシコ産生食用ブドウの米国への輸入量は、2019年の2,350万箱を最高に、過去4年のうち3年は2千万箱を超えている。

夏まで残るメキシコ産ブドウの存在は、主にサンホアキン産の種なしフレイム種のブドウに影響を与え、カリフォルニア州の生食用ブドウ業界の販売上の課題となっている。

(訳注: 以下、メキシコとの競合の詳細については省略しました。)

73. 欧州の生産予測 リンゴはわずかに減少、ナシは2桁増加

The Packer電子版(2020年8月9日)

世界リンゴ・ナシ協会(WAPA)は、2020年のヨーロッパのリンゴ生産量が昨シーズンに比べてわずかに減少し、ナシ生産量は2桁増加すると予測している。

同協会は毎年、プログノスフルーツ会議(訳注:Prognosfruit Conference ヨーロッパを中心とする各国のリンゴ・ナシ関係者による会議)の際に会合を持ち、その年の生産予測を発表するが、8月6日に開催された今年の同会議は、コロナ禍のためヴァーチャル会議となった。

リンゴの生産予測には21カ国の報告が含まれており、ポーランド(340万トン)、イタリア(210万トン)、フランス(140万トン)が生産をリードしている。WAPAの集計によると、欧州全体の生産量は1,071万トンで、昨年に比べて1%の減少、過去3年間の平均に対しては4%の減少になると予測されている。

ポーランドのリンゴ生産量は昨年の不作から回復し、対前年比17%増となる見込みであるが、過去3年平均に比べると依然として4%の減少となる。

主要品種別の予測は以下のとおりである。

- ・ ゴールデンデリシャス: 200万トン
- ・ ガラ: 150万トン
- ・ レッドデリシャス: 66万トン
- ・ アイダレッド: 59万8千トン
- ・ シャンピオン: 44万4千トン

発表によると、WAPAは20以上の主要品種のそれぞれについて予測を行ったが、その他の様々な品種も170万トンに上った。

ナシの報告には19カ国が含まれている。WAPAによると、ナシの生産量は220万トンと予測され、昨年の生産量に対して12%増となるが、過去3年間の平均に対してはわずか1%の増加にとどまる。

最も生産量が多い国はイタリア(64万2千トン)、オランダ(37万3千トン)、ベルギー(36万2千トン)である。

主要な品種は次のとおり。

- ・ コンフェレンス: 92万7千トン 対前年比4%増
- ・ アバーテ・フェーテル: 28万7千トン 対前年比2倍以上だが、過去3年平均に対しては9%増
- ・ Williams' bon chrétien(米国での別名 バートレット): 24万2千トン

訳注: 次ページ以降に8月6日に発表されたWAPAの資料を掲載します。

EUの国別リンゴ生産量

国 名											千トン	
	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020推計	増減率(1)	増減率(2)
オーストリア	199	157	155	188	177	40	67	184	146	121	-17	-9
ベルギー	305	220	220	318	285	234	88	231	242	167	-31	-11
クロアチア	83	59	96	62	101	35	66	86	60	55	-8	-22
チェコ	79	118	121	131	156	139	102	145	103	111	8	-5
デンマーク	20	18	23	26	24	24	19	24	15	24	60	24
フランス	1,701	1,169	1,576	1,444	1,674	1,515	1,424	1,477	1,651	1,431	-13	-6
ドイツ	953	972	804	1,116	973	1,033	597	1,093	991	951	-4	6
ギリシャ	305	242	236	245	242	259	231	301	276	289	5	7
ハンガリー	301	750	585	920	522	498	530	782	452	350	-23	-40
イタリア	2,293	1,939	2,122	2,456	2,280	2,272	1,704	2,264	2,096	2,080	-1	3
ラトビア	8	9	15	10	8	10	8	14	10	14	40	31
リトアニア	49	39	40	27	46	50	48	62	26	58	123	28
オランダ	418	281	314	353	336	317	228	267	272	234	-14	-8
ポーランド	2,500	2,900	3,170	3,750	3,979	4,035	2,870	4,810	2,910	3,400	17	-4
ポルトガル	265	221	284	272	329	263	314	267	354	301	-15	-3
ルーマニア	412	351	387	382	336	327	230	425	327	343	5	5
スロバキア	33	36	42	46	40	17	15	44	35	30	-14	-4
スロベニア	73	45	56	68	71	12	6	72	36	46	28	21
スペイン	507	391	464	505	482	495	480	476	555	467	-16	-7
スウェーデン	17	14	17	16	21	20	18	32	20	32	60	37
英国	226	162	204	206	243	239	207	219	205	207	1	-2
合計	10,746	10,095	10,929	12,541	12,326	11,834	9,251	13,275	10,783	10,711	-1	-4

(1)2020年推計値の2019年に対する増減率(%)、(2)2020年推計値の2017年～2019年の3ヵ年平均に対する増減率(%) 出典: WAPA

EUの品種別リンゴ生産量

品 種 名											千トン	
	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020推計	増減率(1)	増減率(2)
Annurca	35	35	35	40	35	35	35	40	45	45	0	13
Boskoop	73	58	58	85	77	71	34	66	55	47	-16	-10
Braeburn	324	264	302	323	327	318	220	312	286	257	-10	-6
Bramley	91	59	70	83	84	85	75	72	54	58	8	-13
Cortland	70	40	25	25	26							
Cox Orange	89	38	42	26	34	29	20	23	17	16	-4	-21
Cripps Pink	184	144	187	249	244	261	260	275	289	277	-4	1
Elstar	453	353	346	431	399	387	265	357	363	312	-14	-5
Fuji	261	212	311	321	338	288	290	332	316	294	-7	-6
Gala	1,137	1,111	1,204	1,318	1,382	1,312	1,271	1,467	1,439	1,490	4	7
Gloster	148	187	196	201	183	197	166	190	145	154	7	-8
Golden Delicious	2,628	2,286	2,535	2,677	2,534	2,406	1,911	2,403	2,261	1,964	-13	-10
Granny Smith	413	302	361	383	405	384	363	393	372	369	-1	-2
Idared	692	986	1,069	1,192	1,129	965	629	1,177	592	598	1	-25
Jonagold	652	475	500	644	633	567	298	577	391	310	-21	-27
Jonagored	194	367	341	491	519	539	335	563	246	231	-6	-39
Jonathan	242	201	178	193	143	123	108	164	96	90	-6	-27
Ligol		250	260	290	303	330	250	350	150	210	40	-16
Lobo	100	50	30	30	31							
Morgendurf/impera	61	53	57	74	46	49	54	58	48	52	10	-1
Pinova	37	43	62	79	119	104	85	155	140	154	10	22
Red Delicious	680	541	597	675	643	632	558	737	678	660	-3	0
Red Jonaprince	33	48	53	98	104	156	114	371	407	437	7	47
Reinette Grise du Canada	108	73	121	126	134	108	83	142	129	129	1	10
Shampion	327	423	457	494	513	522	416	569	413	444	7	-5
Spartan	6	6	6	6	6	4	3	5	3	3	7	-20
Stayman	17	12	18	14	14	14	8	7	2			
その他の新品種 (3)	152	100	152	165	207	213	209	344	359	405	13	33
その他の品種	1,541	1,377	1,358	1,808	1,713	1,735	1,192	2,127	1,488	1,705	15	6
合計	10,746	10,095	10,929	12,541	12,326	11,834	9,251	13,275	10,783	10,711	-1	-4

(1)2020年推計値の2019年に対する増減率(%)、(2)2020年推計値の2017年～2019年の3ヵ年平均に対する増減率(%)

(3)Ariane、Belgica、Cameo、Diwa、Greenstar、Honey Crunch、Jazz、Junami、Kanzi、Mariac、Rubens、Tentation、Wellant 等 出典: WAPA

EUの国別ナシ生産量

千トン

国 名	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020推計	増減率(1)	増減率(2)
ベルギー	295	236	315	374	369	322	310	369	332	362	9	7
クロアチア	6	2	3	2	2	1	6	4	3	2	-40	-63
チェコ	3	6	7	4	10	7	4	7	6	6	2	10
デンマーク	5	5	6	6	6	6	5	6	4	6	50	20
フランス	176	124	154	131	155	138	133	134	121	124	2	-4
ドイツ	47	34	34	45	43	35	23	45	42	43	2	17
ギリシャ	36	42	32	37	60	47	59	60	58	66	13	11
ハンガリー	21	25	36	40	33	38	35	38	32	16	-50	-54
イタリア	934	650	726	736	764	681	738	730	363	642	77	5
ラトビア	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	7	45
オランダ	336	199	327	349	349	374	330	402	373	373	0	1
ポーランド	55	45	65	50	80	55	40	70	70	65	-7	8
ポルトガル	210	115	162	203	134	113	186	142	202	159	-22	-10
ルーマニア	28	19	24	17	13	16	12	21	16	13	-18	-21
スロバキア	1	0	1	0	1	0	1	1	1	1	7	-15
スロベニア	4	3	3	4	4	1	0	5	1	1	-11	-46
スペイン	461	355	403	400	344	311	331	298	313	300	-4	-5
スウェーデン	2	1	1	1	1	1	1	2	1	2	100	58
英国	32	28	26	25	25	24	23	23	20	18	-9	-19
合計:	2,652	1,888	2,327	2,425	2,394	2,171	2,237	2,358	1,959	2,199	12	1

(1)2020年推計値の2019年に対する増減率(%)、(2)2020年推計値の2017年～2019年の3ヵ年平均に対する増減率(%) 出典: WAPA

EUの品種別ナシ生産量

千トン

品 種 名	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020推計	増減率(1)	増減率(2)
Abate Fetel	404	256	304	358	333	296	328	318	140	287	105	9
Blanquilla	78	59	54	49	44	40	43	40	37	36	-2	-9
Conference	928	693	894	952	967	908	871	988	892	927	4	1
Coscia-Ercollini	80	77	80	66	79	67	79	70	63	73	16	3
Doyenne du Comice	107	58	83	94	87	82	59	82	62	68	11	1
Durondeau	7	5	6	6	5	3	2	4	3	3	8	-2
Guyot	96	70	80	67	74	59	65	58	58	55	-5	-10
Kaiser	60	39	54	33	45	38	43	45	17	36	110	3
Passacrassana	17	17	14	11	12	11	9	10	7	9	18	-3
Rocha	209	115	162	203	134	113	186	142	202	159	-22	-10
William BC	332	252	283	278	283	261	263	272	200	242	21	-1
その他の品種	333	246	315	308	330	292	287	329	278	304	9	2
合計	2,652	1,888	2,327	2,425	2,394	2,171	2,237	2,358	1,959	2,199	12	1

(1)2020年推計値の2019年に対する増減率(%)、(2)2020年推計値の2017年～2019年の3ヵ年平均に対する増減率(%) 出典: WAPA

74. 米国ワシントン州のリンゴ生産見通しは2019年と同程度

The Packer電子版(2020年8月9日)

新たな生産見通しによると、2020年のワシントン州のリンゴ生産量は、昨シーズンと同程度と見込まれる。

ワシントン州ヤキマ市に拠点を置くワシントン州果実協会は、州内の2020年のリンゴ生産量を、2019年の1億3,390万箱(40ポンド(約18kg)/箱)とほぼ同じ1億3,400万箱と予測している。

同協会のジョン・デバニー会長はニュースリリースで「2020年のワシントン州のリンゴの作柄は、昨年と同程度と見られる。収穫が進行中であり、生産者は、十分な量の高品質な果実で消費者の強い需要を満たすことができると予想している。当協会の会員は、大規模な生産を行っているが、品種の選択肢は増えており、また国内外の消費者の期待に応えるよう、既に高い品質基準をさらに引き上げている。」と述べた。

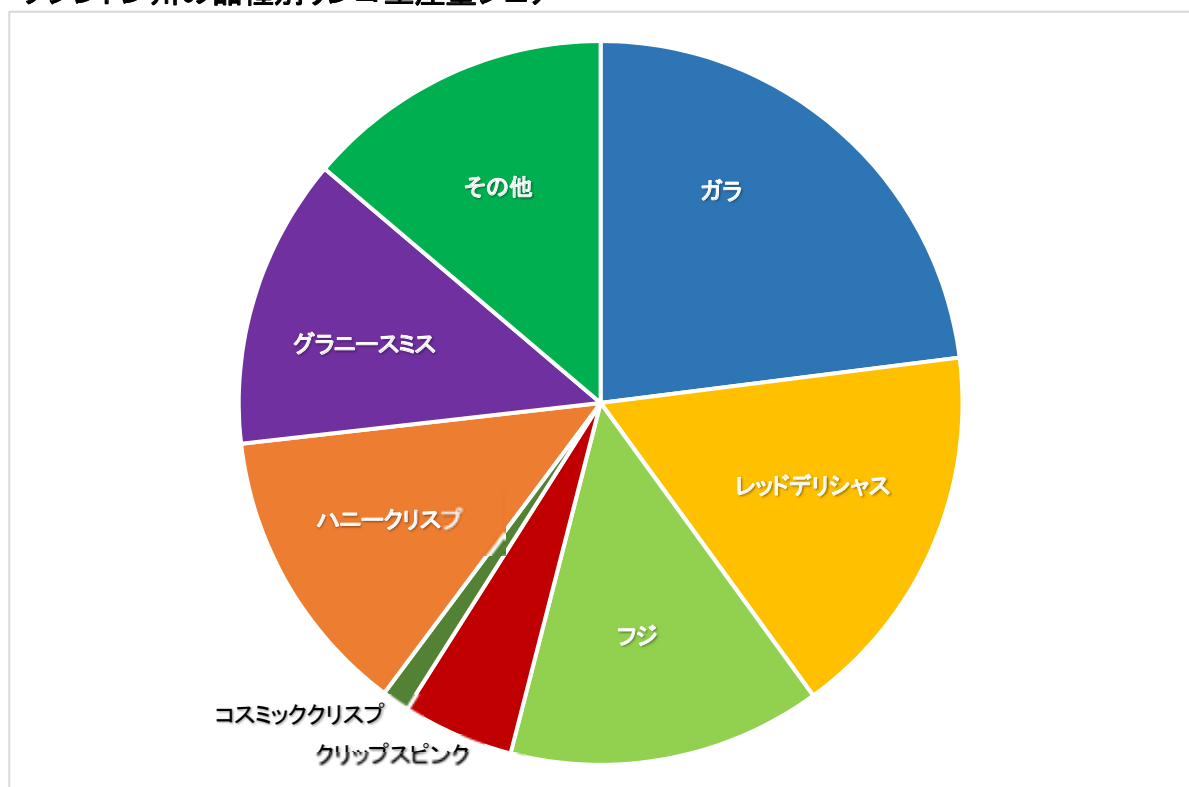
ニュースリリースによると、品種別ではガラが2年連続で最も生産量が多くなると見られる。ガラは州内のリンゴの23%を占め、以下レッドデリシャスが17%、フジが14%、ハニークリップとグラニースミスが各13%、クリップスピンクが5%と見込まれ、急増しているコスミッククリップは約1.2%を占めると見込まれる。

有機リンゴの生産量は、2,100万箱で、生産量の16%に達すると予測されている。2019年の生産量は1,500万箱であった。

この生鮮リンゴの生産予測は、同協会の会員の調査に基づいている。

ワシントン州のリンゴの収穫は8月に始まり、11月まで続く。ニュースリリースは、予測は今後数か月の天候の影響を受けるとしている。

ワシントン州の品種別リンゴ生産量シェア



出典: ワシントン州果実協会

75. 米国の果実生産見通し(リンゴ、ブドウ、モモ、ナシ、クランベリー)

米国農務省農業統計局(2020年8月12日)

訳注: これは、米国農務省農業統計局が2020年8月12日に公表した作物生産見通しのうち、果実関係を抜粋したものです。

リンゴ(商業生産)

2020作物年度の米国のリンゴ生産は、前年比3%減の107億ポンド(483万トン)と予測される。今シーズンの州別の生産予測は、オレゴン州を除くすべての州で昨年より少ない。ミシガン州では、昨冬後半の気温が低く花芽の形成が遅延したほか、5月上旬に厳しい凍害に襲われたため、リンゴ生産量は前年に比べて3%減少する見込みである。

州	生産量	
	2019作物年度 (百万ポンド)	2020作物年度推計値 (百万ポンド)
カリフォルニア州	305	270
ミシガン州	946	920
ニューヨーク州	1,320	1,300
オレゴン州	150	180
ペンシルベニア州	507	420
バージニア州	190	160
ワシントン州	7,600	7,400
米国計	11,018	10,650

訳注: 百万ポンドは約463.6トン

ブドウ

2020年の米国のブドウ生産量は、前年比4%増の718万トンと予測される。カリフォルニア州のワイン用ブドウの生産量は、2019年と変わらず400万トンで、同州のブドウ生産量全体の59%を占め、レーズン用ブドウ生産量は、前年比8%増の140万トンでブドウ生産量の21%を占めると予測される。ブドウ生産量の残りの20%を占める生食用ブドウ生産量は、前年比14%増の135万トンと予測され、実現すれば史上最高となる。

州	生産量	
	2019作物年度 (トン)	2020作物年度推計値 (トン)
カリフォルニア州	6,480,000	6,750,000
レーズン用 ¹	1,300,000	1,400,000
生食用 ¹	1,180,000	1,350,000
ワイン用	4,000,000	4,000,000
ワシントン州	391,000	430,000
果汁用	190,000	170,000
ワイン用	201,000	260,000
米国計	6,871,000	7,180,000

1: 生鮮重量

モモ

米国のモモ生産量は64万5,500トンで、2019年に比べて5%減少すると予測される。

カリフォルニア州では、フリーストーン種が昨年より15日早い3月3日に満開となり、良好であると報告された。収穫は6月8日にキングスバーク地区で始まり、果物のサイズが小さく、労働力の確保が難しいことが報告された。クリングストーン種のモモは、十分な低温時間の後に春の良好な天候に恵まれた。中生のモモの収穫が続く中、全体的な状況は良好である。

サウスカロライナ州では、低温時間の不足と一部の地域での降雹被害にもかかわらず、収穫量は2011年

以来最高になると予想される。その結果、需要と荷動きは中程度で安定し、果実の品質は一般的に良いと報告されている。収穫は5月中旬に始まり、8月2日までに90%完了した。ジョージア州の生産者は豊作を期待しており、収穫は5月中旬に始まり、8月2日までに97%完了した。

コロラド州では、西側斜面の産地での凍結が収穫量に深刻な打撃を与えた。ミシガン州とニュージャージー州では、春の低温により収穫量が減少した。

州	生産量	
	2019作物年度 (トン)	2020作物年度推計値 (トン)
カリフォルニア州	498,000	490,000
フリーストーン種	234,000	220,000
クリングストーン種	264,000	270,000
コロラド州	14,300	3,000
ジョージア	39,100	28,000
ミシガン州	4,800	5,500
ニュージャージー州	19,500	11,500
ペンシルベニア州	19,750	15,000
サウスカロライナ州	75,000	80,000
ワシントン州	11,150	12,500
米国計	681,600	645,500

ナシ

2020年の米国のナシ生産量は、昨年に比べて10%増の80万トンと予測される。ナシの収穫が続くカリフォルニア州では、生育条件は理想的で、果物のサイズが改善した。オレゴン州とワシントン州の生産者は、春と夏の生育条件が良好で穏やかであったことが、健全な収穫量の確保に最適であったと報告している。生産者は、生産量の増加に加えて品質とサイズの改善を期待している。

州	生産量	
	2019作物年度 (トン)	2020作物年度推計値 (トン)
カリフォルニア州	163,000	160,000
オレゴン州	236,000	250,000
ワシントン州	330,000	390,000
米国計	729,000	800,000

クランベリー

米国の2020年のクランベリー総生産量は、2019年に比べて13%増の897万バレル(40万7千トン)と予測される。ウィスコンシン州の生産者は昨年よりも生育条件がよいと報告しており、生産量は2019年に比べて18%増の550万バレルと予測される。マサチューセッツ州の生産量は、昨年に比べて11%増で史上最高の240万バレルと予測される。8月2日時点で、マサチューセッツ州のクランベリーの60%が良好または最適な状態であると評価された。

州	生産量	
	2019作物年度 (バレル)	2020作物年度推計値 (バレル)
マサチューセッツ州	2,160,000	2,400,000
ニュージャージー州	529,000	540,000
オレゴン州	558,000	530,000
ウィスコンシン州	4,670,000	5,500,000
米国計	7,917,000	8,970,000

訳注：1 クランベリーバレルは約95.5リットル、1 バレルの重量は100ポンド(約46.4kg)

米国の果実とナッツ類の生産量及び生産見通し(2019及び2020作物年度)

作物名	生産量	
	2019作物年度 (トン)	2020作物年度推計値 (トン)
柑橘類¹		
グレープフルーツ	544,310	485,340
レモン	909,000	830,980
オレンジ	4,894,260	4,663,840
タンジェリン及びマンダリン	1,004,250	805,580
非柑橘類		
リンゴ(商業生産)	4,997,680	4,830,760
アプリコット	46,540	31,570
アボカド	123,030	
ブルーベリー (栽培)	308,760	
ブルーベリー (野生、メイン州)	24,680	
甘果オウトウ	321,420	303,000
酸果オウトウ	118,840	89,360
コーヒー(ハワイ州)	12,370	
クランベリー	359,110	406,870
ナツメヤシの実	55,700	
ブドウ	6,233,270	6,513,590
キウイフルーツ(カリフォルニア州)	46,720	
ネクタリン(カリフォルニア州)	121,560	
オリーブ(カリフォルニア州)	151,950	
パパイア(ハワイ州)	5,330	
モモ	618,340	585,590
ナシ	661,340	725,750
プラム(カリフォルニア州)	92,080	
プルーン(カリフォルニア州)	82,640	
ラズベリー	102,510	
イチゴ	1,021,490	
ナッツ類その他		
アーモンド (殻付き、カリフォルニア州)	1,156,660	1,360,780
ヘーゼルナッツ (殻付き、オレゴン州)	39,920	
マカダミアナッツ(ハワイ州)	18,460	
ペカン (殻付き)	115,940	
ピスタチオ(カリフォルニア州)	335,660	
クルミ (殻付き、カリフォルニア州)	592,390	

1：柑橘類のみ2018-19年度及び2019-20年度

推計値は、今回または以前の報告書から利用可能な2020作物年度(柑橘類は2019-2020年度)の最新のデータを採用した。

空白の箇所は、まだ推計を行う時期に至っていないことを示す。

76. 世界のライム市場

FreshPlazaウェブサイト(2020年8月14日)

冬を迎えている南半球の状況に伴いライムの入荷量が減少しており、市場の需要が高いことと相まって価格が上昇している。この結果、一部の国では大きな価格変動が生じている。メキシコでは、次期作の準備として生産者が樹上の果実をすべて収穫しているため、二級品の果実が大量に供給され、一級品は少なくなっている。同国ベラクルス州の主産地における降雨のため、市場で数日間の需給ギャップが生じる可能性がある。北米市場では現在需要が高いため、価格は(高値で)安定している。

オランダ：ライム市場は数ヶ月ぶりに回復

オランダの輸入業者は「ライム市場は数ヶ月間不調だったが、かなり回復してきた。欧州全体で需要が高いが、入荷量は減少している。例えば、現在ブラジル現地の市場ではライムの需要が高いが、出荷シーズン終盤のため供給量が少ない。先週、ブラジルから再び追加の入荷があったが、この傾向が続けば、2～3週間は十分なライムが出回る。メキシコ産はここ数ヶ月間、入荷量が非常に限られている。」と言う。

ドイツ：接客業界の規制のため販売が困難

最近のドイツ市場ではメキシコ産とブラジル産が大部分を占めている。通常、夏季はライムの売り上げが好調だが、最近では完全に様相が異なる。ハンブルクの業者は「コロナ禍のため、通常の夏と比べてライムの需要は急激に減少した。接客業界がしばらくの間閉鎖され、休暇時期の前には再開されたが、売上高はまだ通常のレベルではない。ライムの買い手(カクテルバー等)は特に大きな打撃を受けた。」と報告している。

フランス：大きな価格変動

ライム市場では短期間に大きな価格変動が見られた。3週間前、ライムは1パック3～4ユーロで販売されていたが、先週末には10～12ユーロに上昇した。これは、冬を迎えている南半球の状況によりライムがやや不足したこと等による。高い価格と夏の休暇時期にもかかわらず、フランスではまだライムの需要がある。フランス国内で休暇を過ごしている人々や、コロナ禍によって健康志向が高まった人々が消費を押し上げている。

イタリア：価格は大きく変動 消費量は70%減少

イタリアの卸売業者は、ライムの価格が大きく変動していると言う。2019年8月には3～4ユーロ/kgであったが、2020年7月には2ユーロに下落し、同月末にはわずか1ユーロになった。現在、コロナ禍とそれによって引き起こされた物流の遅れにより、南米から入荷するライムは通常よりも少なくなっており、そのため価格が変動している。2019年の7月と比較すると、需要は70%減少し、消費量は少なくなっている。

米国：米国市場では高価格

現時点では、メキシコ産を中心に米国内の在庫は多く、卸売業者は通常よりも多くのライムを引き受けている。出荷シーズンのピークにもかかわらず、高温のため果実の品質と棚持ちに影響を受けているライムが多い。また、コロンビア、ペルー、グアテマラからの輸入の遅れが昨年との違いとして目立っている。

小売セクターからの需要が過去3～4ヶ月間かなり安定して強いことと、コロナ禍に伴うメキシコでの収穫時の課題を反映して、米国市場では価格が上昇しており、取引業者は価格が高止まりすると予想している。生鮮市場に適したライムが多く入荷すれば価格は下がるはずだが、当分の間はそうはならない。

メキシコ：降雨により数日間の品切れが起きる可能性

メキシコのライムの主産地はベラクルス州である。現在、生産者は次期の生産に備えて樹上のすべての果実を収穫している。その結果、二級品のライムの供給が増加して価格が下がり、一級品はやや品不足となり価格が上昇した。この1週間、ベラクルス州では降雨のため収穫が停止しており、この状況は来週も続くと言われている。収穫が2～3週間遅れており、市場の現在の在庫量では次の荷が入るまでの需給ギャップを埋めることができないので、数日間の品切れを引き起こす可能性がある。次の収穫物が入荷すれば、価格は再び安定する可能性が高い。

77. チリ 生食用ブドウの栽培面積が減少

FreshPlazaウェブサイト(2020年8月18日)

2019/2020年度について分析する際に最も関係深い要因は、干ばつ、コロナ禍、社会的抗議活動、及び生食用ブドウ産業に特有のその他の問題である。

10年以上にわたり影響を与えている大規模な干ばつとは別に、生食用ブドウ産業は近年、収益性低下の影響を受けており、それは主に栽培面積の減少と品種の交代という形でこの品目の重要な構造変化をもたらしている。



シーズン中に様々な地域の生産者に直接行われた非公式の調査によると、チリの生食用ブドウ栽培面積は多くて37,000ヘクタール(すなわち、前回の公式データより10%少ない)と推定される。農業研究政策局(Odepa)のデータによると、2017年の生食用ブドウの栽培面積は47,101ヘクタールで、この時点ですでに2008年に比べて8.4%少なくなっていた。主に降水量の不足と、より収益性が高いと期待される他の作物への転換によって、近年減少傾向が強まっている。

「しかし、6月と7月に降雨があったため、一部の生産者が品種交代によって栽培を継続したり、より良い条件を待ってこれまで植え付けしていなかった農地に植栽することを検討したりする可能性がある」としているのは、チリ青果物販売協会(PMA)の生食用ブドウグループが果物製品小売りのDecofruit社及び生食用ブドウの発展のための調査委員会(Uvanova)と共同で行った今シーズンの分析報告書である。PMAの関係者は、様々な要因を扱った同報告書の分析を多くの人に読んでほしいとしている。

訳注：2019年の日本のチリ産生鮮ブドウ輸入は13,444トン、30.1億円で、米国、豪州に次いで第3位でした。

78. ペルーの果実輸出 アジアでの成長の地固めを目指す

ASIAFRUIT電子版(2020年8月18日)

輸出が前年比5%増加する中、アジア全域での市場アクセス拡大に向けて交渉が進められている



ペルーは、生鮮青果物の主要輸出国としての地位を引き続き向上させており、同国のプロモーション機関プロムペルー(PromPeru)が発表した統計では、輸出が対前年比5%増加したことが明らかとなった。

プロムペルーによると、食品輸出は同国の外貨獲得の第二の資金源であり、北米とヨーロッパが主要な輸出市場となっている。

しかしながら、ここ数年、ペルーの生鮮果実・野菜セクターにおけるアジアとの貿易はかなり成長している。プロムペルーの香港・東南アジア担当貿易委員のエリック・アポンテ氏は、アジアはペルーにとって非常に重要な優先事項になってきたと語った。

「2005年以降、アジア向けの輸出は急激に伸びており、この傾向は2020年も続くと予測される。このため、我々は2020-21年の出荷シーズンのために、これらの市場へのアクセスについて交渉してきた。」と同氏は説明する。

ペルーは、クランベリーをインドとマレーシアへ、柑橘類をインドとベトナムへ、ザクロを中国、マレーシア、韓国、台湾へ、ハスアボカドをフィリピンとマレーシアへ、生食用ブドウを日本へ輸出するための市場アクセスを獲得することを望んでいる。

アジアは現在、ペルーの全世界への食品輸出の9%を占めており、また中国はペルー食品のアジア最大の市場でこの地域への輸出の30%を占めている。

その他の主要市場は、香港(20%)、韓国(14%)、日本(12%)、インドネシア(8%)であり、タイ、マレーシア、台湾、サウジアラビア、アラブ首長国連邦、ベトナムはいずれも有望な市場であると見られている。

2017年に開始された「ペルーから来たスーパーフード」キャンペーンは、同国の輸出の成長の大きな要因であり、プロモーションは農産物の栄養素含有量が高いことを強調している。

2019年にアジアに輸出された主なペルー産青果物は、生食用ブドウ(20%)、クランベリー(11%)、マンゴー(8%)、マンダリン(8%)、アボカド(5%)であった。

79. トルコ 日本品種のプラムに堅調な需要

FreshPlazaウェブサイト(2020年8月20日)

トルコでは現在プラムの旬であるが、ある輸出業者は日本品種のプラムと特別な関係を持っている。欧州からの需要が高まっており、価格は昨シーズンよりやや高いが、輸入業者は日本品種のプラムに平均的な市場価格よりも高い金額を支払うことを躊躇しない。

トルコの果実輸出業者アラナール社は、日本品種のプラムの生産量をこれまで何年も増加させてきた。同社の販売コーディネーターであるイギット・ゴキギット氏によると、トルコの気候はプラムの栽培に最適である。

「トルコはプラムの大生産国である。様々な種類のプラムが、地中海地方とエーゲ海地方を中心にトルコ各地で栽培できる。弊社はエーゲ海地方のサリリ・マニサにある直営の果樹園ですべてのプラムを栽培している。トルコの気候と環境はプラムに最適であり、今年の収穫量は、例年どおり満足がいくものである。」

日本品種のプラムを生産する果樹園の一部はまだ完成していない。このため、ゴキギット氏は来年は生産量がさらに増加すると予想している。

「今シーズンは300トンの日本品種のプラムの収穫を見込んでいる。弊社独自の日本品種のプラム園の整備が現在も続いているため、生産量は増えている。これは来年はさらに多くの収穫が期待できることを意味する。今シーズンは天候がプラムに最適であったので、形がとてよい。」



日本品種のプラムはアジア市場で人気が高いが、アラナール社は欧州市場でもその地位を向上させることとしており、需要は高まっている。

「弊社は世界中にプラムを輸出する中で、限られた数の農場しか栽培しない非常に特殊な日本品種のプラムを扱っている。弊社のプラムの大半はインド、香港、シンガポール、マレーシアに輸出されている。これらの市場に加えて、ヨーロッパからも堅調な需要がある。弊社の日本品種のプラムは、これまで輸出してきたアジア諸国で非常によく知られているが、今年は欧州市場でも人気が出てきていることがわかる。」

日本品種のプラムを顧客によく知ってもらうためのゴキギット氏の戦術の一つは、試してもらえるように他の品目の取引先にプラムを送ることである。

「アラナールの日本品種のプラムは、糖度が高く明るい色で洗練されている。このプラムを試した人はそれが特別であることを認識して継続的に注文してくれるので、弊社の他の品目の新規顧客には少なくとも1パレットのプラムを送ることが鍵だ。現在、価格は一般的なプラムに対して競争力がある。実際、日本品種のプラムに対して大きな需要があり、顧客は市場の平均よりも高い価格を提示してくれる。」

80. 世界のプラム市場

FreshPlazaウェブサイト(2020年8月21日)

北西ヨーロッパのプラム生産は、業界関係者にとって通常は大きな収入源ではないが、今年は価格が良い。むしろあちこちの市場で不足が見られる。ノルウェーでは、5月の降雪のために収穫の80%が失われ、特に大きな打撃を受けた。今シーズンのプラム市場は、スペイン産プラムがブラジル市場を失ったことが注目される。このことは、北米市場での米国産やインド・東南アジア市場でのトルコ産との競合を少しだけ強めた。



オランダ：適当な価格

プラムの栽培面積は近年やや減少しており、そのことが文字通りにも、比喩的にも今年は実を結んだ。北オランダの業者は「近年、プラムはそれほど収益性が高くないが、今シーズンは価格が良い。Reine Victoria品種の価格は約2ユーロである。年によっては売れ残りがいくらか出るが、今年はあちこちで品不足となっている。スペイン産のモモやサクランボが不足しており、我々業者は不足分をプラムで埋めている。また、北オランダではすでに休暇シーズンが終わっており、需要の面では助けになる。Opal品種のシーズンは終了した。Jubileum品種も売り切れた。今は、Lazoetの類のいくつかの品種とReine Victoria品種に切り替わりつつある。この状況は今後4週間継続する。」と言う。オランダ産プラムの販売は主に国内向けである。

ベルギー：春の霜害により入荷量はわずかに少ない

ベルギー産プラムの市場入荷量は、昨年と同程度である。当初は昨年よりも生産量が多くなると予想されていたが、春の降霜により収穫の一部が被害を受けた。ベルギー産プラムは約5～6週間市場に入荷する。果実の品質は良いようだ。先週の熱波は少量のプラムに日焼けの害を引き起こしたが、影響を受けたのは木の上の方の果実だけである。ベルギー産プラムの需要は毎年着実に増加している。

ドイツ：出荷の開始が非常に早い

現在、ドイツの市場では国内産が大勢を占めており、特にTop、Hanita、Cacaks Schöneといった品種が多い。スペインとイタリアからの輸入量が多いが、ボスニア産のStanley品種を除いて東欧諸国産のプラムのシェアは減少している模様である。供給自体が十分にあるため、小さい果実や未熟な果実の取引は難しい。価格は、ボスニア産の1ユーロ/kgから国内産Cacaks Schöneの2ユーロ/kgまで幅がある。また、現在、ポーランド、チェコ及びセルビアから大量のCacaksが輸入されている。

ドイツの国内産プラムの今年の出荷は、非常に早く始まった。バーデン＝ヴュルテンベルク州やラインラント＝プファルツ州の主産地では、収穫がすでに本格化している。両地域の協同組合は、「春の降霜のため収穫量がやや減少すると見込んでいるが、それでも現在の生産見通しはまだ肯定的である」と言う。南ドイツの生産者協同組合も新しい品種に投資している。ミッテルバーデン果実卸売市場(OGM)の関係者は、「Franzi品種は、3年間の試験段階を経て、今年初めて商業的に収穫される。生産物はドイツの小売店で提供される。」と言う。青果物販売のVOGインゲルハイム社もまた、種苗会社と提携して新しい品種を発売することを最近発表した。

いずれにせよ、ドイツ市場では、産業的な食品加工(主にベーキング製品)に非常に適した特別なプラム品種Zwetschgenが非常に好まれている。ある業者は、「従来のプラムは売上の10%を占めるに過ぎず、残りはZwetschgenだ。」と言う。この品種は、この時期には特に人気があり、小売店の棚でも見かけることがある。

フランス：早熟のため例外的な年

今シーズンの最初からプラムの成熟が非常に早く、それがシーズンを通して続いた点で今年は非常に特別な年であった。その結果、入荷も通常より早く終了する。今年の収穫量は昨年より約3割少ないが、量が少ない分糖度が高く品質が良い。価格はシーズンを通じてかなり高く、需要は低かった。

ノルウェー：降雪のためプラムの収穫は壊滅

昨年はノルウェーのプラムにとって記録的な年であったが、今シーズンは状況が大きく異なる。降雪と降霜のため、ノルウェーの生産者はこれまで経験したことがない80%以上の生産量の低下に見舞われた。収穫量は600～700トン(昨年は1,900トン)と推定される。

イタリア：春の降霜のために価格上昇が予想されたが

北イタリアではプラムの価格上昇が報告されたが、期待されたほどではなかった。プラムにとって最も重要な市場の1つであるエミリア＝ロマーニャ州モデナ県のヴィニョーラ卸売市場では、果実の品質は良く、価格は品種と大きさにより0.80～3.00ユーロ/kgである。春の降霜の影響でプラムの約60%が失われたため、生産者はより高い需要と価格を期待していた。最も人気のあるRegina品種の価格は2～3ユーロ/kgであり、同じく需要が高いGrossa di Felisio品種の価格は約1.50ユーロ/kgである。

スペイン：ブラジル市場の喪失により価格が低下

スペイン最大のプラム産地であるエストレマドゥーラ州の生産量は、昨シーズンに比べて約25%減少した。需要と価格に関しては、シーズンの初め頃はよかったが、思いもよらないブラジル市場の喪失*により価格が下落した。イタリア、フランス、ポルトガル、ギリシャなど他の国で霜や雹を伴う嵐のために生産量が減少したので、ブラジル市場を失っていなければ、今シーズンの輸出はおそらく良好であっただろう。エストレマドゥーラ州の多くの農場は、ブラジルへの輸出のために多額の投資を行ってきた。昨シーズンは2万トン以上がブラジルに出荷された。ブラジル市場は、サイズ50以上(小玉)に需要があり、9キロのバルク容器出荷のため、非常に魅力的である。この国で良い結果が出たため、多くの輸出業者が同じ行動に出てしまった。

プラムはインドなど他の市場にもある程度出荷されたが、欧州は依然としてプラムの主要輸出先の一つである。しかし、今年のような年には、不足分は次第に地元の生産物で埋められる。今年はすでに困難な年となっているが、スペインの輸出業者が来年もまだブラジルに輸出できないか、イタリア等の他の常連の輸出国の収穫量が平年並みであったら、どうなるだろうか？

ある輸出業者は、「2018年のスペイン産プラムの出荷シーズンには、エストレマドゥーラ州でも欧州の他の地域でも収量が低かった。しかし、スペインの輸出業者はブラジル市場に依存していた。今シーズンの状況は心配だ。」と言う。実は、エストレマドゥーラ州の果実産業は、桃やネクタリンについてはスペインの他の産地に敗れたために、プラムに大きく依存しているということなのだ。

訳注*：ブドウの病害虫を防ぐため、ブラジル政府が欧州の規則では使用が禁止されている臭化メチルを用いてスペイン産のプラムを燻蒸するよう要請したことを指します。

トルコ：プラムの栽培面積は拡大中

地中海とエーゲ海岸を中心に、トルコ中でプラムが栽培されている。新しいプラム園が造成されて生産量

は増加を続けており、来年はさらに増える見込みである。今シーズンは、気象条件がよく、果実の成長が良好であった。日本品種のプラムの需要はヨーロッパで高まっているが、トルコはインド、シンガポール、香港、マレーシアなどのアジア諸国にこの品種の大部分を出荷している。需要が大きいので、価格がやや高いにもかかわらず、顧客は日本品種のプラムに対して平均以上の価格を支払う意思があると言える。

南アフリカ：生産者は主に港の状況を懸念

南アフリカの生産者は気象条件に目を光らせている。水供給の面では良好なようだ。十分な降雨があり、降雪はいくらかの低温をもたらした。しかし、ほとんどの生産者は今、果樹園のプラムの受粉を容易にするためにもう少し日差しがほしいところだ。最も早生の品種はすでに開花期が終っており、他の品種は今後数週間でこれに続く。しかし、風が強く曇天が続くと、受粉に悪影響を及ぼす可能性がある。

水管理に関しては、今シーズンは昨年よりも良好なようだ。しかし、プラムの生産者は、出航の大きな遅れが報告されているケープタウン港の状況と投入コスト、すなわち電気代(電気の供給もこの国では不安定だ)と包装コストを懸念している。次の収穫見通しは来月末に予定されている。プラムは11月から収穫される。

中国：プラム輸出は大幅に減少

Shuanghua品種のプラムは現在、中国市場で最も人気があり、平均価格は約4人民元/kg(0.49ユーロ/kg)であるが、最も高級なFengtang品種の価格は平均約72人民元/kg(8.80ユーロ/kg)である。最近ではXiangcui品種が人気を集め、これを栽培する産地が増えており、東南アジアにも輸出されている。しかし、4月は天候が悪く、品質に影響を与えた。コロナ禍と極端な天候条件のため、今年の輸出量は大幅に減少した。また、卸売市場の価格は3割以上下落した。中国の輸出シーズンは7月から10月までである。米国産とトルコ産は、中国産の主要な競争相手である。

北米：国内市場でスペイン産と競合

米国のプラムの供給はかなり限られている。カリフォルニア州では、いくつかの品種の開花に問題があり、その結果、収穫量が減少した。これは主に、受粉の時期に気温が低く雨が降っていたためである。しかし、着果した果実は大きく、高品質である。現時点では、生産者は新たな天候の課題に直面しており、ある生産者は「プラム産地は記録的な高温に見舞われ、余分な果実を摘果している。」と言う。

今年の国内市場では、輸出先のブラジル市場を失ったスペイン産と主に競合している。業者は「米国、カナダ、メキシコ市場では通常あまり見かけないスペイン産プラムが、今年は見られる」と言う。しかし、国内市場ではプラムの需要も価格も良好であるため、競争の悪影響はあまりない。アメリカの生産者も、東南アジア市場にプラムを輸出したが、そこでもスペイン産との競争のために需要は平均的であった。国内市場、輸出市場ともに価格は昨年よりも高い。

オーストラリア：中国への輸出が力強く増加

最新のホートイノベーション社の統計によると、2019年6月までの1年間のオーストラリアのプラム生産は近年に比べてやや多かった。生産量は8%増の32,241トン、生産額は4%増の7,570万豪ドルとなり、輸出量は29%増と大きく増えて6,839トン、輸出額は25%増の2,500万豪ドルとなった。特にアクセスを獲得した中国向けは急激に増加し、2017年のわずか1トンから2019年には2,604トンとなり、オーストラリアの全輸出量の38%を占めて最大の輸出先となった。

ニュージーランド：新品種栽培の取組み

昨シーズンが早く早く終了したため、ニュージーランドのプラム生産者は、2020-21年度はより長期間の出荷を望んでいる。輸出に関しては、プラムの輸出量は5年前に報告された60トンよりも大幅に少ないが、サマーフルーツNZ社によると、上昇傾向の始まりである可能性がある。昨シーズンの輸出量は前年の21トンを上回る29トンであり、主要輸出先は米国であった。

ニュージーランドのプラム生産者は、新しいアイデアや品種を試してみることや、アントシアニンが豊富な赤プラムの健康上の利点に関するより多くの研究を行うことを求めている。その中でホークスベイ地域のある生産者は、3年生の若木から驚異的な収量を得た。また、ニュージーランドで栽培される最新のプラム品種の一つであるFlavor Blastは有望と見られつつある。

81. 米国 2020年のリンゴ生産見通しは楽観的

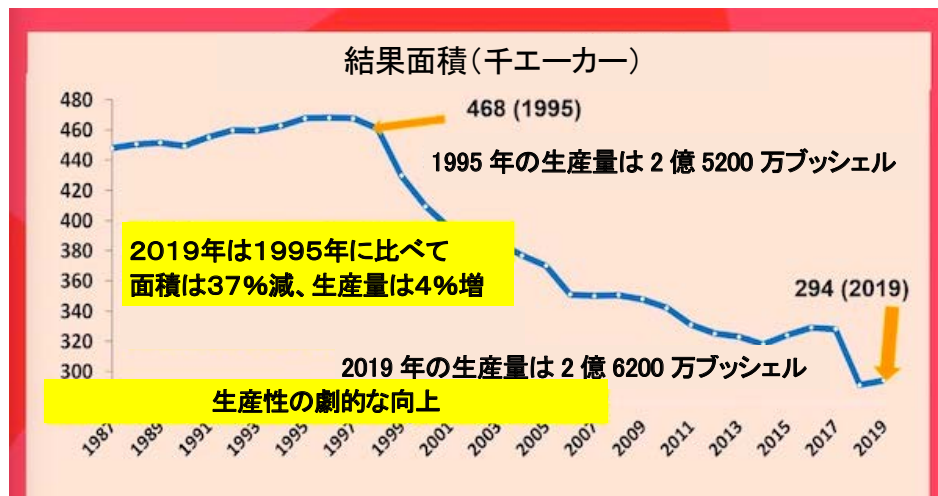
FreshPlazaウェブサイト(2020年8月21日)

米国リンゴ協会の2020年生産見通し大会は、8月20日からバーチャルで開催されている。大会では、教育的なウェブセミナーと米国及び世界のリンゴ生産見通しを取り上げた。

米国の2020年リンゴ生産見通し

米国リンゴ協会の規制政策及び業界対策の責任者であるマーク・シーティン氏は、米国の2020年のリンゴ生産量は、史上9番目に多い2億5,360万ブッシェルになると予測され、これは2019年の2億6,230万ブッシェルから3%の減少となると発表した。過去最高は2億8,114万ブッシェルで数年前に達成された。

(訳注: 州や品目によって異なるが、リンゴでは便宜的に1ブッシェル = 42ポンド = 19.5キログラム = 1箱と考えられます。)



出典: 米国リンゴ協会

(訳注: 1エーカー = 40アール)

生産者の目標の一つは果樹園の効率を改善することであり、データによるとこの点では過去数十年で多くの人が成功を収めてきた。1995年以降、リンゴの栽培面積は30%減少したが、生産量は4%増加した。これは生産効率が劇的に向上していることを示している。

地域別では、ミシガン州の今年の生産見通しは過去5年平均より1%少なく、ニューヨーク州は同3%少ない。東部と中西部のリンゴの合計生産量は、2019年の生産量から約6%減少すると予測される。ワシントン州の生産量は過去5年平均より6%増加する一方、カリフォルニア州では9%減少すると予測される。アパラチア地方は、5年平均より17%少ないものと見込まれる。



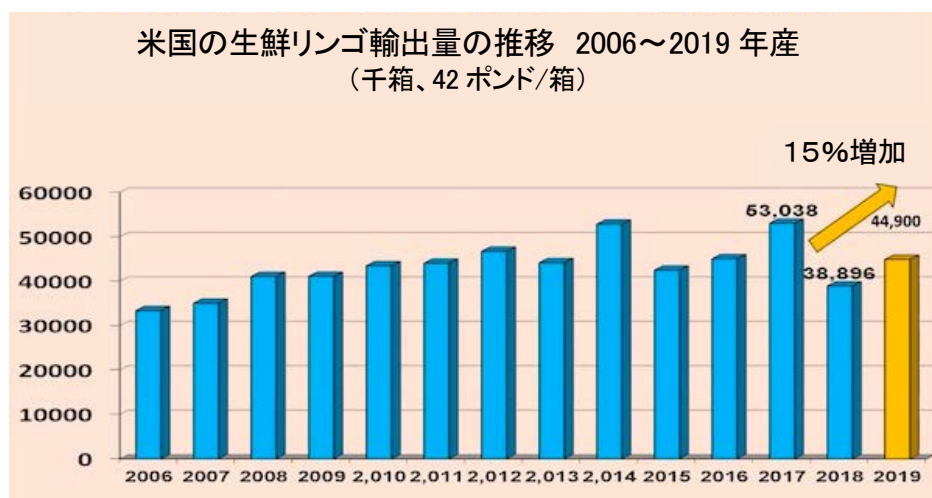
出典: 米国リンゴ協会

生鮮果実への関心の高まり

米国農務省は2018年にリンゴの加工仕向量の内訳の公表をやめ、現在は加工仕向量全体の割合のみを報告している。しかしながら、リンゴの加工仕向量が減少していることは明らかである。25年前には、生鮮で消費されるリンゴが52%、加工用が48%であったが、今日では生鮮が71%、加工用が29%であり、業界内の生鮮部門が大きく成長した。

輸出と価格

過去2年間、リンゴの輸出は大打撃を受けた。2018年には、3,880万ブッシェルを輸出したが、これは非常に残念な数字であった。輸出は貿易問題の影響を受けた。主要な輸入国であるカナダ、メキシコ、中国との貿易上の課題により、輸出が鈍化した。ただし、2018年以前の数値には戻っていないものの、米国農務省が結んだ貿易合意等により、これらの数値は回復した。輸出量は15%増加したが、輸出額は7%しか増加していないため、価格に明らかな影響が出ている。生産者の手取り額も2018年に比べて7%減少し、2年連続の減少となった。



出典：米国リンゴ協会

輸出先にも変化があった。インドは米国産リンゴの第2の輸入国であったが、現在の上位4位はメキシコ、カナダ、台湾、ベトナムであり、インドは入っていない。

輸出先上位5カ国 2019 年産 (%は輸出全体に占めるシェア)		
	42ポンド箱数	輸出シェア%
メキシコ	13,381	30%
カナダ	8,131	18%
台湾	3,672	8%
ベトナム	2,417	5%
インド	2,149	5%
その他	15,150	34%

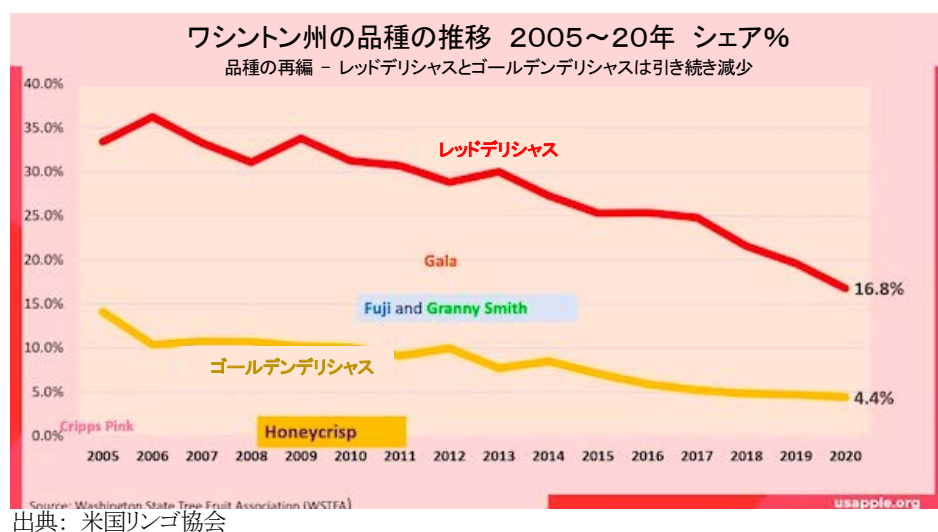
出典：米国リンゴ協会(米国農務省のデータによる)

品種:ハニークリスピが増加

消費者の需要にうまく合った結果、ハニークリスピの生産量は12%増加すると予想され、品種別国内生産量で3位に上昇する。西部では、グラニースミスがかなり安定しており総生産量の約15%を占める一方、最も急成長している品種の一つであるハニークリスピが、ふじを上回ると見られる。

レッドデリシャスは2018年に、数十年にわたって保持していた生産量最大の品種の地位をガラに譲った。現在の予想では、ガラはレッドデリシャスとの差を広げ、引き続き生産量最大の品種であると見込まれる。2020年に生産されるリンゴの上位5品種は、多い順に、ガラ、レッドデリシャス、ハニークリスピ、グラニースミス、ふじと見込まれる。

コスミッククリスピは新しい品種の1つであり、市場への導入以来、大きな成長を遂げている。コスミッククリスピの戦略は非常に積極的であり、今年の実量は昨年より356%増加し、2026年までにこの品種は2,150万ブッシェルに達する計画である。



ゴールデンデリシャスやレッドデリシャスなどの伝統的な品種は減少し続けている。ワシントン州では、レッドデリシャスは生産量の約16.8%に減少し、ゴールデンデリシャスは4%に減少した。ハニークリスピはワシントン州の13.3%に上昇し、グラニースミスとふじは長い間13～14%で変動している。

革新と特徴的な課題

2020年産のリンゴの販売は、いくつかの特徴的な課題に直面すると見られる。コロナ禍のトンネルの出口の光が見えるまでにはまだいくつかの道のりがあるが、これまでのところリンゴ業界はこれらの変化に劇的に適応してきた。コロナ禍のために市場は依然として緊張感を見せているが、我々業界関係者はこれらの課題をうまく乗り越えるために懸命に取り組んでいる。販売事業は今年も革新を続け、挑戦的な取組となるだろう。しかし、業界は大量の作物をさばく能力を実証しており、予想される2020年のリンゴの出荷量は、業界の対応能力に見合ったものである。したがって、2020年の収穫を楽観視するすべての理由が揃っている。

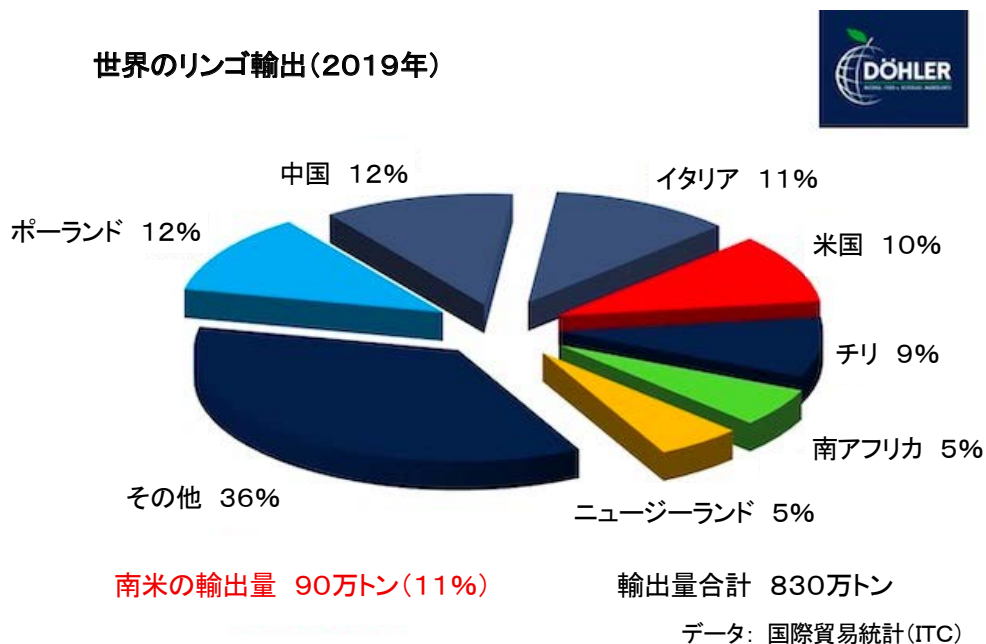
出典: U.S. Apple Association

www.usapple.org

82. 南米のリンゴ生産見通し

FreshPlazaウェブサイト(2020年8月25日)

先週開催された米国リンゴ協会2020年生産見通し大会の発表には、世界中の様々なリンゴ生産地域の概要と予測が含まれている。北半球の春と夏の間、貯蔵リンゴを補完する点で南半球の産地は重要である。ドーラ(Döhler)北米青果物社の営業責任者であるレネ・アラルコン氏が、南米のリンゴ生産の概要を解説した。



アルゼンチン及びブラジル: 主な市場は国内

南米でチリ以外の主要なリンゴ生産国と言えばアルゼンチンとブラジルである。アルゼンチンの生鮮リンゴ輸出量は、2019年には2018年から20%増加したものの、全体的には近年減少している。アルゼンチンで栽培されている主な品種は、レッドデリシャスやグラニースミスなどの古い伝統的な品種であり、このことが、アルゼンチンが国際市場で以前ほど力を持たない主な理由である。WAPA(世界リンゴ・ナシ協会)によると、2019年のアルゼンチンのリンゴ総生産量は約55万トンで、そのうち10万トン以上が輸出された。主な輸出先は、ブラジル、ロシア、オランダであった。

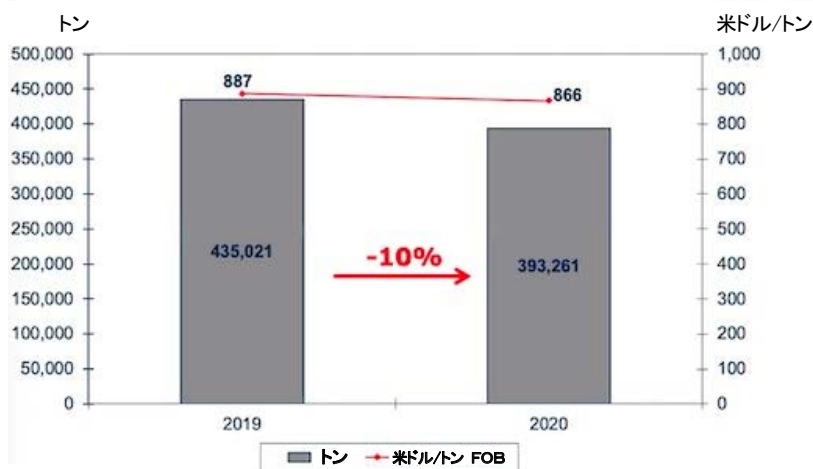
ブラジルの場合、2019年の生産量は約110万トンであるが、主要な輸出先であるバングラデシュ、ロシア、アイルランドに出荷されたのは約5万7千トンに過ぎない。今年の輸出量は昨年に比べて1%減で、安定している。輸入量は今年28%増加したが、2万8千トンから3万6千トンへの増加であり、絶対量が少ない。

チリ: 今年の輸出は10%減少

中南米のリンゴ生産国の中で、チリは主要な輸出市場を有する唯一の国である。チリは、2019年の世界のリンゴ生産量の2%とリンゴ輸出量の9%を占めている。チリのリンゴ産業にとって輸出は主要な活動であるが、2019年の輸出量は約72万5千トンとやや減少した。これまでの流れで見ると輸出のピークは2014年の82万トンであった。WAPAの推計によると、2019年の総生産量は160万~170万トンである。

チリでは約3万2千ヘクタールでリンゴを栽培しており、全生産量の61%がマウレ州で生産されている。2014年から2019年の間に、リンゴの栽培面積は13%減少した。ロイヤルガラは今でも生産量が最大の品種であり、全生産量の45%を占めている。リチャードデリシャスとグラニースミスは、それぞれ約10%を占める。チリが他の中南米のリンゴ生産国と比べて輸出において優れている理由の一つは、従来の品種よりも市場での需要がはるかに高い新しい品種に重点を置いていることである。

チリの今期(1~6月)のリンゴ輸出量と単価

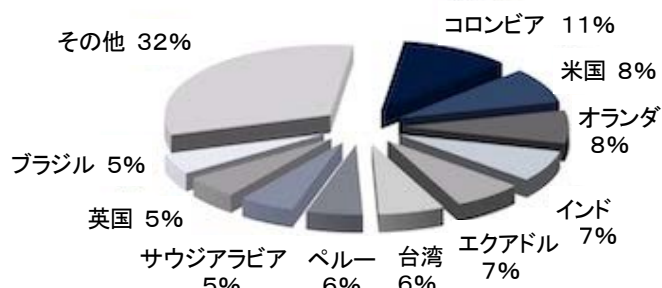


データ: チリ税関

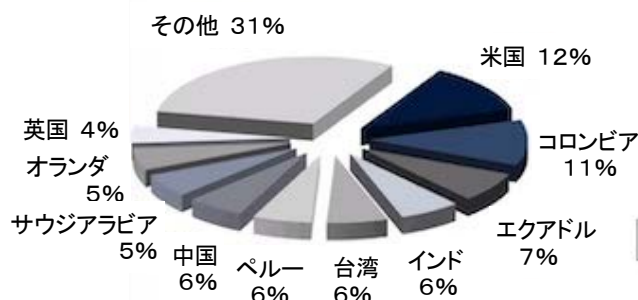
チリのリンゴ輸出先



2018



2019



合計: 77万8,962トン

合計: 72万5,765トン

データ: 国際貿易統計(ITC)

チリの輸出は非常に多様化しており、これも強みの1つである。市場は非常によく分散している。突出して大きな輸出先はないが、最近では以前には見られなかった中南米諸国への輸出が増加し、コロンビア、ペルー、エクアドル向け輸出のシェアが増えている。

WAPAは、2020年のチリのリンゴ生産量を2019年に比べて8%減の150万トンと見込んでいる。

出典: U.S. Apple Association

www.usapple.org

83. 米国 サルモネラ菌汚染でモモの廃棄を勧告

FreshFruitPortalウェブサイト(2020年8月28日)

米国疾病対策センター(CDC)は、ワウオナパッキング社が提供した果物に関連してサルモネラ菌による汚染が発生しているため、出所がはっきりしないバラ売りのモモを廃棄するよう勧告している。

ワウオナ社は当初8月19日に袋入りのモモをリコールしたが、3日後には全国の小売業者に出荷した袋入り及びバラ売りのモモに対象を拡大した。

同社の出荷先であるラスデイベス卸売会社(RDW)は最近、Crazy Freshブランド及びQuick&Easyブランドのピーチサルサを、サルモネラ菌で汚染されている恐れがあるためリコールすると発表した。これまでのところ、RDW社は、この細菌に関連する病気の報告を受けていない。

影響を受ける製品は、ミネソタ、ウィスコンシン、ノースダコタ、サウスダコタ、ミシガン、アイオワ、ネブラスカ、及びワイオミングの各州の小売店に配送された。プリマワウオナ社またはワウオナパッキング社からリコール対象製品を仕入れた小売業者には、Aldi、Food Lion、Hannaford、Target、Kroger、Walmart及びWegmansの各社が含まれるが、これらに限定されない。

CDCによると、この細菌の汚染により、米国の12州で78人が体調を崩し、23人が入院した。死亡例は報告されていない。

8月26日、ニュージーランド当局は、プリマワウオナ社によって提供された米国カリフォルニア州産の袋に入っていない果肉が黄色のPrimaブランド及びSweet Valueブランドのモモのリコールを発表した。それらは同国北島のスーパーマーケットや青果物小売店、高級青果物店で販売されている。

(続報)プリマワウオナ社のモモは十数か国に輸出

FreshFruitPortalウェブサイト(2020年9月1日)

カリフォルニアに拠点を置くプリマワウオナ社から出荷され、サルモネラ菌で汚染されている恐れがあるとしてリコールされたモモは、十数か国に輸出されていた。

米国食品医薬品局(FDA)は情報を更新し、8月28日時点で、カナダ、シンガポール及びニュージーランドでモモのリコールを行っている発表した。

しかし、問題のモモはオーストラリア、中国、コスタリカ、エクアドル、エルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラス、メキシコ、パナマ、フィリピン、台湾、アラブ首長国連邦の取引先にも発送されていた。FDAは、流通に関する情報をこれらの国の食品安全当局と直接共有していると述べた。

ワウオナ社の広報は、「6月1日から8月3日までに出荷販売されたバラ売りのモモと、6月1日から8月19日までに出荷販売された「ワウオナ」及び「ワウオナオーガニック」ブランドの袋入りのモモは、サルモネラ菌に汚染されている可能性があるためリコールしている。」と述べている。

米国疾病対策センター(CDC)は、疫学的証拠はモモが今回のサルモネラ菌汚染の原因である可能性が高いことを示していると報告している。

FDAは、ほかにも影響を受けたモモがないか、汚染された可能性のある食品が他の小売業者に出荷されていないかを判断するため、汚染の源を特定する追跡調査に取り組んでいる。

(訳注：8月28日付けの記事との重複箇所は省略しました。)

84. 冷蔵コンテナ内の冷気の流れを改善してクレームを減らす

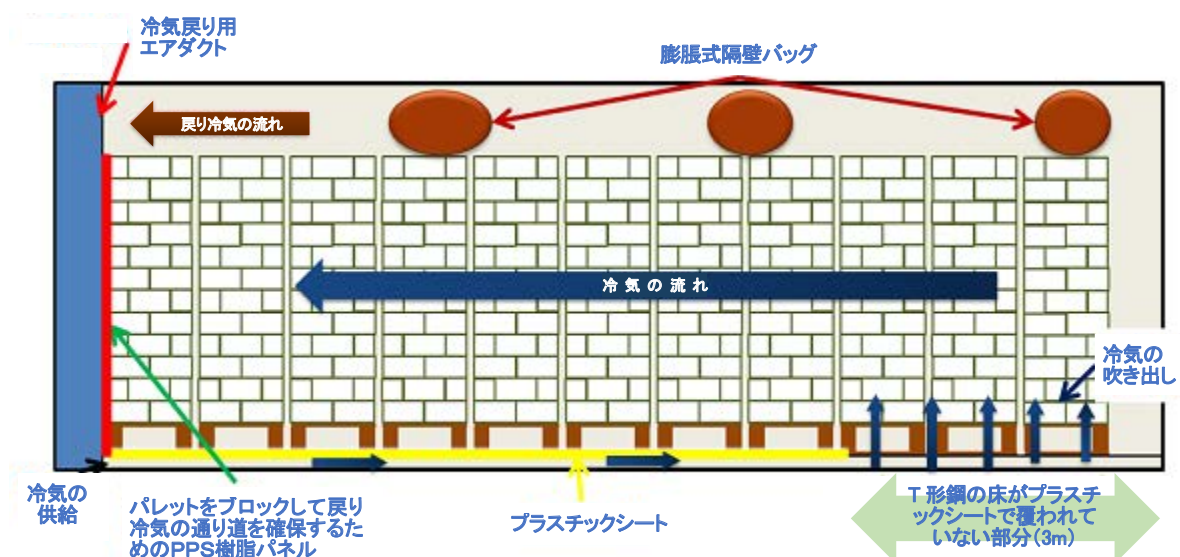
FreshPlazaウェブサイト(2020年8月28日)

(訳注: この記事は技術を紹介するためのものであり、特定の商品を推薦するものではありません。)

冷蔵コンテナ内では、冷気がしばしばうまく循環せず、生鮮農産物を望ましい温度に保てない。

ダンラッシュ(Dunlash)南アフリカ社のバリー・ヒューゴ取締役は、「冷気は怠惰であり、最も抵抗の少ない経路をたどる。」と説明する。

この課題に対処するため、あらゆる40フィート冷蔵コンテナに適合する新たなRAFTキット(RAFTは冷蔵フロー技術(Refrigerated Air Flow Technologies)の意)が設計された。このキットは、冷気がパレット内を通過して、より水平な経路をたどるように強制する。これは、コンテナの床の一部をフロアライナーで覆い、パレットの上下の空間を隔離することで実現する。



(RAFTキットによって作られる空気の流れの概略図(最新の設計では、膨張式の隔壁ではなく段ボールの隔壁を使用する。))

冷気が積荷の上部からではなく、限られた床面積の送気部から送られるようになるので、冷気の速度が増し、積荷全体への浸透が改善し、果実内部の温度がよりよく管理される。

RAFTキットが搭載されたコンテナを用いたプラムと柑橘類の試験では、同じ船に積んだ対照コンテナと比較して、積み荷の中の温度差を1.5～2℃減らすことができ、到着時の品質に直接的な影響を与えた。

冷気の流れがパレット内を強制的に通過するため、コンテナの前部から後部にかけて温度がより均一に保たれる。

RAFTキットは南アフリカ共和国で特許を取得しており、国際特許を申請中である。開発者は、南アフリカ以外でのこの技術の使用を承知していない。

計画されていたアボカドの試験はロックダウンのために保留となったが、ヒューゴ氏はこのキットがより良い温度管理を提供することによって、単独でも、あるいはCA、MA、またはオゾン生成機を装備したコンテナの補完システムとしても、コンテナ当たり800南アフリカ・ランド(47米ドル)の費用よりもはるかに高い付加価値を提供するであろうと考えている。

段ボールの隔壁が膨脹式の隔壁を代替

新しい設計では、コンテナ内のパレット積みされた荷の上部と天井の間に、コンプレッサーを必要とする膨脹式の隔壁に代えて、特別に設計された段ボールの隔壁を設置する。パレットの上に直接設置されるこの隔壁は、冷気の短絡を遮断し、実質的にすべての冷気が果実が入ったパレット内を通過する。

同氏は、柑橘類とプラムの試験から得た結果は非常に優れており、このキットには確かな利点がある、生食用ブドウのような温度に敏感な品目はこのシステムを使用することでメリットが得られると述べている。

一部の国向けには、製造及び販売に関する国際契約が用意されている。



85. パキスタン大使 日本へのマンゴー輸入50%以上増を期待

FreshPlazaウェブサイト(2020年8月28日)

パキスタンが最近の交渉に成功したので、日本へのマンゴー輸入は今年40～50%増えると期待される。

イムティアズ・アフメド駐日パキスタン大使は、パキスタン産マンゴーの今年の輸入は、コロナ禍の影響で大変であったと語った。

「しかし、今年も輸入することができた。今年の輸入を増やすため、去年は懸命に働いた。今年の主要な課題の一つは輸入のための貨物便の確保であり、もう一つは検疫であった。」(同大使)

アフメド大使は、輸入業者は様々な航空会社を使って貨物便を手配した、パキスタンのマンゴーの輸入はまったく影響を受けておらず、我々は目標に向かって進んでおり、今年は日本に輸入されるパキスタン産のマンゴーが40～50%増えると語った。

前年の120トンに対し、今年は検査の滞りのため輸入がゼロになることが懸念されたが、パキスタン産マンゴーの最初の荷は7月初めに日本に到着した。パキスタンは昨年、世界に13万トンのマンゴーを輸出した。

86. 台湾 20年ぶりに日本へのザボン輸出を再開

FreshPlazaウェブサイト(2020年8月31日)

台湾産ザボンの20年ぶりの日本への輸出再開を祝う式典が8月28日、台南市で行われた。

約111トンのザボンは、害虫駆除の目的で12日間の低温処理を行うため、台湾省果実販売協同組合台中支部に輸送される。その後、9月中旬に東京に向けて出荷される予定である。



画像提供: 台南市役所

3,600箱のザボンのうち100箱は、友好の証として日本の学校に寄付される。台湾にある茨城県笠間市代表事務所の職員は、この機を捉えてキャンペーンを行い、台湾産ザボンの販売を応援すると述べた。

台湾南部の台南市農業局によると、台湾産ザボンの最大の輸出市場は中国であり、2019年には89%、今年には71%を占めている。台湾は、中国への依存を減らし、市場を多様化するため、香港、カナダ、シンガポール、日本へのザボン輸出を増やそうとしている。

(令和元年度3月分)

155. コロナウイルスと闘うヨーロッパの果物・野菜貿易

EUROFRUIT 電子版(2020年3月2日)



コロナウイルスによるパニック買いのため空になったイタリアのスーパーマーケットの棚 写真: ステファノ・マラゴリ

突然で、劇的で、時に混乱を引き起こしているコロナウイルス流行の影響により、ヨーロッパの生鮮青果物業界は様々な課題に直面している。

輸入業者はアジアからの主要な供給ラインの再開を待ち望んでいる一方、輸出業者はアジア市場への出荷に関して困難に直面しており、また元々アジアに向かうはずであった農産物の自国市場への振り替えの可能性を探っている。物流も最大の問題のひとつとなっており、中国の活動の減速に対応して船会社が輸送量を減らしたため、アジアでは冷蔵コンテナの確保が急激に困難になった。

ブルーホエール(フランスの輸出業者でアジア市場への主要サプライヤー)輸出部長 マーク・ペイレス氏の話

「現時点では何でも起こる可能性があり、何が起きているのかを明確に把握することは非常に困難である。主な影響は、物流の大きな混乱とコンテナ確保の不確実性であると見られている。そのため、複数の運送会社がアジアの多くの目的地について3月から料金を上げようとしている。」

BFV(ベルギーの協同組合)販売部長 マーク・エブラード氏の話

「Covid-19 に関する包括的な報道はかなりの懸念を提起した。人々はコロナウイルスはどこにでもあると考え始めている。十分な事実が分かっておらず不確実な面が多いが、有害な影響がある。」

中国まで届けることが困難であるにもかかわらず、消費者が健康上の利点を持つ商品を求めているため、カンファレンス梨の売り上げは活況を呈している。

「問題は主に物流面のものだ。街角の八百屋や市場や卸売業者からスーパーマーケットやオンラインへのシフトが見られる。中国の主要都市では人々が家にいることを選択し、レストランやバーが苦しんでいるが、それは果物や野菜にとっては別の機会を創出するものだ。」

アネコープ(スペイン産柑橘類の中国への主要サプライヤーの一つ) イグナシオ・ファレス氏の話

「中国への出荷量の約70%が物流上の問題と販売の減少のために影響を受けた。韓国への出荷も非常に深刻な打撃を受けているが、アジアの他の出荷先への影響ははるかに低く10%程度である。

次の数週間でイタリアへの輸出にも影響が出ると予想している。生鮮食品は取り扱いの余地が限られているため取引に深刻な影響を及ぼすだろう。船会社が責任を持っていないというので、受取人が可能な限り真剣にコミットすることを望んでいる。」

ガルシア・バレスター社(スペイン) ホルヘ・ガルシア・モンフォート氏の話

「この状況は輸出業者をより慎重にさせている。中国への輸出は始まったばかりなので、最初のコンテナが到着するまでにまだ3週間ある。しかし、我々は状況を心配しており、もっと情報が流れてきてリスクが軽減したと思えるまで、中国に出荷するコンテナの数を減らす。」

前出の**マーク・エブラード氏**はまた、「中国では、トラックが国内のさまざまな地域への通行許可を得ることが困難になっている。さらにリーファーコンテナと冷蔵用の電源が不足している。船会社も追加料金を取り始めた。特定の港では業務を停止せず、当初予定された宛先への転送に対して追加料金を請求している。」と付け加えた。

供給のシフト

中国の輸入需要の急激な減少の波及効果として、かなりの量の果物がヨーロッパや世界の他の地域に仕向け変更される可能性があるとの示唆がある。

LCLロジスティクス社(インド) 上級副社長兼最高戦略責任者 オレ・シャック・ピーターセン氏の話

「船会社がアジアへの輸送能力を減らしており、また農産物が到着した際に市場が開かれているかどうか誰にも分からないので、南半球の生産国は中国とアジアへの出荷を減らし、ヨーロッパとアメリカに大量に出荷するものと今のところ見ている。」

先週末には中国の需要が回復し始めている兆しが見られた。

「中国の輸入業者は再び倉庫とサプライチェーンを果実で埋めたいと考え始めているが、船便の輸送量が減っており、また料金も非常に高くなっているため、荷主は出荷できない状態にある。」

中国でのアフリカ豚インフルエンザ(原文のまま)の流行に伴ってこの1年で中国への豚肉輸入—特にヨーロッパ、ブラジル、北米からの輸入—がかなり増加していたが、これが減少に転じたことにより、ここ数週間でコンテナに余裕ができたと報告されており、南米や南アフリカからの果物輸出のコンテナ不足が緩和された。

「中国の港が閉鎖される前の12月から1月に出荷された中国向けの多くのコンテナが中国やアジアの他の場所で立ち往生しており、このこと(他で空いたコンテナを果実用に融通すること)は緊急に必要だ。」

ホルトグロ(南アフリカの輸出協会)高級果実及び核果類商品部長 ジャック・デュ・プレーズ氏の話

「コロナウイルス危機はまだ南アフリカからの輸出に大きな影響を与えていないが、極東をはじめとするアジアが南アフリカにとって2019年の最大の高級果実輸出市場であったことを考えると、今後数週間のうちに貿易に関して厄介な逆風があるだろう。核果類については出荷時期の終わりに近づいているし、アジア向けの出荷は少ない(ので問題ない)が、高級果実に関してはどのくらいの程度かは分からないが影響があると思う。

我々の懸念の一つは、世界貿易の混乱であり、東アジアに多くの果物を供給するチリやニュージーランドのような国々へ波及効果、すなわちアジアの需要が減った場合、彼らはEUや英国のような我々(南アフリカ)の昔からの市場への輸出に戦略を変えるだろうか、需要が低下し供給が変わらなければアジア市場での価格は低下するだろうか、ということである。」

156. コロナウイルス 中南米の輸出業者は困惑

EUROFRUIT 電子版(2020年3月3日)

コロナウイルスの世界的な広がり、中南米地域の果物と野菜の貿易に深刻な影響を及ぼす可能性がある。



チリのサクランボはひどく打撃を受けた

コロナウイルスの流行に巻き込まれたチリのサクランボ輸出業者は数百万ドルの損失に直面しており、このことは単一市場に過度に依存する危険性を残酷に露呈している。しかし、世界的な病気の蔓延から逃避することはラテンアメリカ全体に深刻な影響を与えるだろう。現在、米国およびヨーロッパ諸国の保健当局がこの病気の大幅な拡大に備える中、ペルー、チリ、コロンビアなど近年生産を急増させ、輸出に大きく依存している国々は、困難な道のりに備えている。

ペルー

これまでペルー政府はコロナウイルスの影響を抑えようとしてきた。公式声明は、果物の輸出が影響を受けたという兆候はないと主張している。中国への輸出が停止された時点でブドウの季節はすでに終わりかけていたので、アボカドとマンゴーが主な対象となるが、どちらの場合も中国はペルーの輸出量全体のごく一部を占めているに過ぎない。農業灌漑省は、中国の港湾のうち15カ所は開いており、ペルーを含む様々な国からの貨物を受け入れているので、中国へのマンゴーとアボカドの輸出はウイルスの問題に巻き込まれなかったとしている。

しかし、アンカシュ地方のカスマ地域農民協会のラファエル・サントラーラ・コーラル会長は、「マンゴーの中国への輸出が停止し、地域の生産者がかなりの損失を被った。」と記者団に語った。同会長によると、カスマ地域からは昨年と同量の空輸、海上輸送合わせて約1万トン中国に輸出する予定であった。輸出協会(Adex)のエリック・フィッシャー会長も、「中国情勢のためにマンゴーとブドウの出荷先がヨーロッパに変更されているが、この危機が貿易に与える真の影響は3月か4月まで分からない。」と述べた。同会長はまた、可能な代替市場を探すだけでなく、他国の市場に中国があけた穴を活用する機会を探るよう促している。

また、ブドウシーズンの最後に一部の出荷がキャンセルされたか、他の市場に転用されたとの情報を得ている。ペルーの生食用ブドウ輸出業者であるアグリコラ・ドン・リカルド社のアルトゥーロ・ホフマン氏は、「弊社の場合、今期の出荷はほぼ終了し、ブドウのほとんどは中国に到着したかすでに出荷されていたが、海上を輸送中の貨物の行先変更は物流的に非常に複雑であるため、中国の顧客とともに状況を詳細に分析した結果、中国への輸送を継続することとした。しかし今期最後の2週間は中国向けの出荷をキャンセルし、出荷先を米国などのより近い市場に変更した。」と語った。

チリ 価格が低下

チリで発表される最新の貿易統計によると、中国の旧正月以降の政府による市場閉鎖をきっかけにサクランボの価格が下落し、1月の果物輸出額は23%下落した。出荷量は、前年同期の28.1万トンとほぼ同じで安定している。

生鮮果実生産輸出協会(Asoex)は先月、コロナウイルス発生の結果として、今期の果実の輸出収益は1億米ドル減少する可能性があるとの見積もった。

コロンビア ヨーロッパに注目

2019年末にはじめて中国に出荷した最新のプレーヤーであるコロンビアのアボカド産業は、まだ中国国内に足跡を残しておらず、輸出業者は金銭的損失よりも機会喪失を注視している。

そのような中、彼らはコロナウイルスの世界的な蔓延の状況を熱心にフォローしている。コロンビアの新しいアボカド栽培輸出業者であるグリーンスーパーフード社のマウリシオ・ロペス氏は、「コロナウイルスのヨーロッパでの発生が輸出に影響を与えるならば、これはコロンビアの国民経済にかなりの打撃を与える。我々の生産の伸びと国内需要の低さを考慮に入れば危機が広がることはコロンビアにとって非常に深刻だ。業界は輸出のボトルネックに直面し、国内のすべての生産者と輸出業者に大きな影響を与えるだろう。」と語った。

エクアドル バナナ輸出は減少

エクアドルのバナナの対中輸出は、1月に前年同期と比較して6%減少した。アコルバネック社のリチャード・サラザール氏は、「コロナウイルスの流行の結果、中国の顧客からの支払いが遅れたため、生産者が一時的に出荷を停止したことも一因である。」と述べた。

バナナの一部は港湾閉鎖中、沖に停泊させられ荷揚げを待たされた何百隻もの船に積み込まれており、これはその後の需要の減少と相まって3月の売り上げに影響が出ること示唆している。

バナナ販売輸出協会(Acorbanec)によると、エクアドルは昨年、東アジア、トルコ、イラク、イタリアに約7,960万箱(43ポンド=約20キログラム/箱)のバナナを出荷し、そのうち中国向けには毎週600コンテナのバナナが出荷された。

157. 米国 コロナウイルスは輸出業者にボディブロー

The Packer 電子版(2020年3月5日)



コロナウイルス COVID-19 は、世界中の影響を受ける地域で消費需要を変化させ、米国産品のアジア市場への輸出を阻害している。

全米生鮮青果物協会(ユナイテッド・フレッシュ)は、6月16～19日にカリフォルニア州サンディエゴで開催予定の会議と展覧会が開催されることを保証するとしている。同社は3月3日の電子メールで「我々は、米国での旅行や会議を制限することを推奨しないという政府の助言に従っており、現時点では政府の保健当局の直接の勧告なしに会議をキャンセルすることを検討していない」としている。

しかし、カリフォルニア州アナハイムで3月3日～7日に予定されていた西部自然食品展覧会は無期限に延期された。ユナイテッド・フレッシュはコロナウイルスについて業界に情報を提供するための専用のウェブサイトを開設している。

心配の広がり

米国でコロナウイルスに感染したと診断された人は200人未満であるが、世界中ではこれまでに中国で8万人以上、韓国で6千人以上、イランとイタリアで3千人以上を含む9万6千人以上が感染した。

ワシントン州シアトルの輸出業者ジャスポ社 スズキ・コウジ社長の話

「米国からアジアへの輸出がコロナウイルス発生のために混乱している。毎日ボディブローを受けているようなもので、状況に応じて調整している。警戒しながら変化に対応しなければならない。」

機材の不足とスケジュールの変更が海上輸送料金を押し上げており、一部の運送業者はアジア向け冷蔵コンテナの料金を千ドルから2千ドル引き上げを求めている。混乱はしばらく続くかもしれない。現時点では、特に中国で需要が急減している。」

農産物輸送連合 ピーター・フリードマン事務局長の話

「中国でコロナウイルスが発生し、一部の地域で工業生産が劇的に減少して以来、船会社は中国からの船便を110件キャンセルした。つまり、これらの船を折り返しで中国への輸出に使うことができない。これは、我々の輸出貨物が港に留め置かれ、中国向けに運航を続けている希少な船便の貴重な空きスペースを待っていることを意味する。アジア向けの一部の料金は、コロナウイルス発生前の標準レートよりも高い1コンテナあたり3,200ドルとなっている。」

中国の工場が生産を再開し、米国への輸出を再開するにつれて貨物は動き始めるはずだが、同事務局長その時期の見通しを明らかにしなかった。

ある輸出業者は裏話として、一部の海運会社は一時期、上海や中国の他の目的地への予約を拒否したが、

今は再び予約を取り始めており、コンテナの利用可能性改善への期待を高めていると語った。

ホット スポット

米国のコロナウイルス発生ホットスポットであるシアトル市を擁するキング郡では、3月5日時点でコロナウイルス感染が32例、死亡が9例となっている。前出のスズキ社長は、「3月4日にシアトルからカリフォルニアへのフライトに搭乗した際、飛行機の空席の多さとシアトルの道路の交通量の少なさに気づいた。出荷する側にとって明るい話題のひとつは、コストコに買い物客が群がっているとの報告にあるように需要が高まる可能性があることだ。」と述べた。

いくつかの都市では、手の消毒剤やトイレトペーパーなどの主要な日用品と食料品が飛ぶように売れていると様々なメディアが伝えた。

カテゴリーパートナーズ社上級副社長 スティーブ・ルッツ氏の話

「コロナウイルスが一部の買い物客を買いだめに走らせていることは明らかだ。この買いだめは、主要な日用品と日持ちする食品に集中している。ジャガイモ、タマネギ、リンゴなどいくつかの品目を除いて果物や野菜は日持ちしないので、この買いだめの短期的な影響は限定的である可能性が高い。潜在的な恐れとして、コロナウイルスの流行が消費者がスーパーマーケットに定期的に行くことを妨げるほど深刻になった場合は、青果物の購入は影響を受けるだろう。その段階では、消費者は買い物に行く代わりに貯蔵庫を漁ることになるだろう。」

コーストライン・ファミリー・ファームズ(カリフォルニア州サリナス)の最高執行責任者兼総支配人 ロバート・パールプ氏の話

「一部の卸売業者からの報告では、ウイルスに関する報道の増加に伴ってアジア人街のレストランで客足が落ちているという。米国の一部の地域でウイルスに対する意識が高まり、一般的に外食に慎重になる人が増えたようだ。

顧客から聞いた話によると、人々が商店の棚の商品を買いだめし、自宅に蓄えるケースが出始めている。その結果、生鮮果物や野菜が苦戦しているが、アジア人が多い地域で今始まったことは、今後より広範囲に広がる。」

中国からの輸入品

アイ・ラブ・プロデュース社(ペンシルベニア州ウェスト・グローブ)のオーナー ジム・プロボスト氏の話

「中国のニンニク施設は1月下旬の旧正月のために休業し、その後の検疫措置のために閉鎖された後、操業を再開し始めているが、人員配置はまだ通常の約50%に過ぎない。全世界のニンニクの供給が混乱するというのは非常に珍しいことだ。」

中国は世界のニンニクの約80%を生産しており、皮をむいたニンニクが1ケースあたり50ドル近いという現在の価格は、旧正月以前の取引と比較して約50%高くなっている。

「需給が正常に戻るまでに数週間かかるかもしれない。当社のすべてのニンニクとショウガは、武漢のウイルス発生地から500マイル以上離れた山東省で生産されている。米国疾病予防管理センターは、コロナウイルスは水滴を介して人から人へ感染する(原文のまま)ので中国から出荷された製品でウイルスを拡散する危険性はないとしている。コロナウイルスは物体上では数日間しか活性を保てないが、当社の製品は中国から米国に到達するのに5週間かかる。

米国の需要の面では、業務用の取引がやや少なくなっていると感じるが、一方で小売の需要にやや増加が見られるので、つまり、人々はそれほど外食していないかもしれないが、結局はニンニクを買って食べているということだ。」

158. 南アフリカ政府 干ばつのため全土に災害事態宣言

FreshPlazaウェブサイト(2020年3月5日)

南アフリカ共和国の果樹地帯であるレツィテレ、ガムトゥース、クライン・カルーの水の状況は依然として不安定だが、同国東部の大部分では最近一定量の降雨があったため、昨日政府官報に掲載された共和国全土の災害事態宣言は農業関係者を驚かせた。農産業組合アグリSAはその声明の中で、「ほとんどの州である程度の降雨があり生産見通しも良いため、この全国災害事態宣言の背景は不明である」とした。他方、同組合は同国の9つの州のうち4つ(北ケープ州およびリンポポ、西ケープ、東ケープの各州の一部)で対策を要するほど干ばつが長期化していると指摘した。

アグリSAの災害リスクマネージャーであるアンドレア・カンファー氏は「地方政府が干ばつの影響を受けた生産者や地域社会を支援するために国の財源を使えるようになったことに感謝する。4つの州は実際援助を必要としている。なぜ全国すべての州を対象としたのかわからないが、干ばつの影響を受けた農業経営者や農場労働者を支援するため、すべての州に資金をどのように配分するのか明確にしたい。影響を受けた地域を支援するため政府と協力したい。」と語った。

イワン・マイヤー西ケープ州農業大臣は、ケープワインランドのウィッツェンベルク地域の北部と東部、中央地域とクライン・カルー地域の全域は依然として非常に乾燥しており、そのうち一部の地区は危機的な状況であり、この宣言を歓迎すると述べた。

この宣言は最近の洪水や干ばつの影響に対応するため、ティト・ムボニー財務大臣が5億南アフリカ・ランド(2,920万ユーロ)の暫定配分を発表したのと同じ2月26日に、ヌコサザナ・ドラミニ・ズマ共同統治・伝統担当大臣によって署名された。

レツィテレ、ガムトゥース地域の農家にとっては危うい状況

果樹産業にとって最も懸念される地域の1つは、同国の重要な柑橘類生産地域であるリンポポ州のレツィテレだ。すでに昨シーズン生産者は割当水量の30%しか給水されず、何百ヘクタールもの柑橘園が伐採されるか、生き残りに必要なわずかな水しか与えられていない。

集水域の最近の大雨によりツァニン・ダム(ツァニン)の貯水率が4%から18.55%に増加したことは、柑橘類や野菜の生産者にとって大きな喜びであったが、昨年と同じダムの水量で新しい「水年度」を迎えるためには、少なくとも29%に増加する必要がある。昨年末には空に近かったこの地域の農業ダムの現在の貯水量は満杯の50%~100%だが、ツァニン・ダムから農家への配水は昨年と同じく割当水量の30%と見込まれている。



レツィテレの柑橘園

ガムトゥース渓谷は緑が美しいが、ダムの水位は低い

東ケープ州ガムトゥース渓谷のコウガ・ダムの貯水率は昨年の半分以上の17.5%となっている。これは2年前の今頃(12%)よりは良いが、心配なことに昨年のこの時期(46.8%)よりはるかに低い。12月から2月中旬までに、この地域では2019年の年間降水量を上回る約150ミリの降雨があったが、集水域であるラングクルーフ地域であまり雨が降っていないことが懸念される。

訳注: 南アフリカは、日本のグレープフルーツ輸入先第1位、オレンジ輸入先第3位です。

159. 世界のグレープフルーツ市場

FreshPlazaウェブサイト(2020年3月6日)

グレープフルーツは、その苦味のためにヨーロッパの消費者にあまり人気がなく、消費は減少し続けているが、今ヨーロッパ市場ではフロリダ産のグレープフルーツが入荷量が昨年よりも多いにもかかわらず、価格が急激に上昇している。品質はよい。ヨーロッパではこの時期、トルコとスペインが2大供給国である。南アフリカでは、今期の見通しはすでに前期よりも良くなっている。中国では、コロナウイルス危機により売上げと供給が減少した。



オランダ：フロリダ産グレープフルーツの価格は高め

輸入業者によると、グレープフルーツ市場は安定している。フロリダ産の価格はやや高めの25～30ユーロの間で変動している。地中海地域ではトルコとスペインがグレープフルーツの主要産地であるが、価格は約50%低い。現在の天候はグレープフルーツの消費に向いているが、生食用ブドウや初夏の果物など、市場で他の果物の供給が増加すれば、消費者の関心はそちらにシフトするものと見られる。

ベルギー：スペインのグレープフルーツは有望

今期のフロリダ産グレープフルーツの入荷量は通常どおりだが、スペイン産の2.5倍など、他産地のものに比べて価格が非常に高い。他の産地のグレープフルーツの需要は平常～良だ。ベルギーの業者によると、トルコ産グレープフルーツが廉価品に分類されるのに対し、スペイン産は高級品に分類されるため潜在的に有望である。

ドイツ：消費は減少 スペイン産は積極的

グレープフルーツは、ドイツ市場であまり人気がない。スーパーフードやエキゾチックな食品が多数ある中で、グレープフルーツはこれら二つのカテゴリーの狭間に落ちてしまい、例えば間食としてちょっとつまむのに適していないなど、若いドイツ人のライフスタイルに合わない。

ドイツのグレープフルーツ消費は近年明らかに減少している。従来よりもかなり甘い品種もあるが、買っているのは主に高齢者だ。フロリダ産グレープフルーツはまだ最も人気があるが、品質が悪いこともあるため、小売業者はもはやこの品種にそれほど関心がない。しかし、小売では、グレープフルーツの外観と価格が重要であり、高級品はほとんど例外なくフロリダの品種で構成されている。

今の時期もっとも販売量が多いのはスペイン産である。通常、5月中旬に南アフリカ産に切り替わるが、今期初頭の産地の悪天候のためにスペイン産の出荷は早く終わると見込まれる。スペイン産が非常に積極的な競争相手であるため、トルコ産は価格が振るわず、近年は卸売市場でも小売りでもあまり見かけなくなっている。

フランス：消費は市場動向に大きく依存

スペインの産地ムルシアでは、今期の降水量が作物の生育に適しており、果実の肥大もよく、グレープフルーツシーズンは順調に進んでいる。収穫期は4月中旬頃に終了する。しかし、フランス人のグレープフルーツ消費は、市場動向に大きく依存している。夏休みに備えて人々がダイエットを始めると4月には消費が増加する可能性がある。

中国: コロナウイルスにより供給と消費が低下

現在、中国の市場にグレープフルーツはほとんど出ていない。通常でもこの時期の供給量は少ないが、現在はコロナウイルスCovid-19による危機のために、供給が遅れており入手が困難である。イスラエルとエジプトから依然として輸入されており、台湾産も販売されているが、市場はまだ回復中であり売り上げは振るわない。通常4月から5月頃には南アフリカ等多くの国から出荷されるため、中国市場への供給も多くなる。

フロリダ州: 安定した価格で入荷量が多い 引き続き病害が課題

輸出業者が今期のグレープフルーツの出荷を間もなく終了する。4月上旬まで出荷する業者が多いが、4月中旬までという業者もある。フロリダ州では、昨年のこの時期よりも15～20%出荷量が多く、果実も大きい。ただしこれは、品種、土壌、樹体の状況に強く依存しており生産者によって異なる。グレープフルーツの需要は依然として強い。他国への輸出が減少しており、多くは国内市場に向かっている。価格は安定している。フロリダの生産者にとって最大の課題はカンキツグリーンング病であり、販売業者によると、この病気は主に高品質な果実を生産する古木に影響を与えるという。

テキサス州: 安定した需要、価格、出荷量

テキサス州のグレープフルーツの出荷は12月初旬に始まり5月まで続くが、主にリオスター品種を栽培する生産者は「暑くなり過ぎれば4月まで、そうでなければ年間を通して出荷する」と言う。今期のテキサス産グレープフルーツは昨年以上に需要が強い。価格は昨年に匹敵する。販売業者は、「異常気象にならない限り、価格と需要の両方がこのまま安定するだろう。霜対策が必要かもしれないが、リスクは低いと思う」という。

カリフォルニア州: 出荷量は少ないが供給に切れ目なし

カリフォルニア州セントラルバレーの赤肉グレープフルーツの生産は通常よりも数週間早く終了した一方、十日ほど前にはリバーサイド地域の出荷が始まった。出荷は最盛期が4月中旬頃で、7月末か8月初めまで続くと思込まれる。

販売業者によると、現時点で出荷量は非常に少ないが、供給が途切れることはないという。不足が生じれば米国ではメキシコ産で補うことになるが、カナダは米国産のグレープフルーツしか輸入を認めていない。カリフォルニア州産の価格は、昨年よりも20%低い。上記の業者は、大玉は価格がよいが通常サイズは価格が安いという。現在の最高値は16ドルをつけているが、平均価格は11～12ドルである。

イスラエル: 生産に問題ないが、自国通貨高により輸出減

イスラエルの生産者にとって今年のグレープフルーツの量と品質は文句なしだが、2020年の初めにイスラエル通貨シェケルの価値がかなり上昇し、その結果国際市場におけるイスラエルの競争力が大きな打撃を受けている。イスラエルから中国や他の東アジア諸国への輸出は、コロナウイルスCovid-19の発生によって制限されている。イスラエル産グレープフルーツの現在の最大の買い手は国内のジュース産業だが、輸出の問題のため値を下げている。

南アフリカ: リンポポ州の降水不足は問題だが、生産者は今シーズンに期待

北部のグレープフルーツ生産地域では乾燥した天候が長引いているが、最近降雨があったので同地域の貯水池の状況はやや改善した。リンポポ州レツィテレ地方の生産者は、再び貯水池からの給水が70%制限(割り当て水量の70%まで給水される)になることを期待している(現在は、昨年同様30%制限)。

レツィテレ地域は、グレープフルーツの園地が国内で最も多いが、現在同国を襲っている非常に乾燥した天候のために来年に向けて最も不確実性が高い。このため多くの生産者がすでに果樹を伐採し、また「生命維持」、つまり枯死を免れるだけの水しか与えられていない園地もあり、結果として収量が低下する。

2019/20年の柑橘類の生産見通しがまもなく発表される。南部アフリカ地域(南アフリカ共和国、エスワティニ、ジンバブエ)のグレープフルーツ生産者は、前年よりも豊作になることを期待している。収穫は1ヶ月以内に始まる。南アフリカの栽培面積は7,600ヘクタールで安定している。

160. 柑橘類のフラボノイドが肥満をカット

EUROFRUIT電子版(2020年3月9日)

研究は、オレンジとマンダリンを食べることが体重を調節するのに役立つ可能性があることを示している。



カナダの科学者は、肥満を大幅に減らし、肥満から生じる悪影響を逆転するように見える柑橘類の成分を発見した。

オンタリオ州西部大学の研究者らは、高脂肪・高コレステロール食で育てたマウスのうち、オレンジやマンダリンに含まれるフラボノイドであるノビレチンを与えたものは、顕著に痩せていて、インスリン抵抗性と血中脂肪のレベルが低いと言う。脂質研究ジャーナルに掲載されたこの研究は、この有益な化合物はまた、動脈内のプラークの量を減少させることを発見した。

上級執筆者であるマレー・ハフ教授の話

我々は、ノビレチンを使って介入できること、すなわちすでに肥満による悪い症状がすべて出ているマウスでは、ノビレチンを使用してこれらの症状を逆転させ、動脈硬化症として知られる動脈のプラークの蓄積を減らし始めることができることを示した。

チームはまだノビレチンの仕組みを正確に特定できていない。一つの仮説は、分子が体内における脂肪の処理のされ方を調節する経路に作用することだ。AMP活性化プロテインキナーゼ(AMPK)と呼ばれるこの調節因子は、脂肪を燃焼してエネルギーを作り出す体内のメカニズムをオンにし、脂肪の生成を阻害する。

しかし、研究者が遺伝子組み換えによりAMPKを除去したマウスに対するノビレチンの影響を調べたところ、その効果は(AMPKを除去しない場合と)同じであった。この結果は、ノビレチンがAMPKに作用していないことを示している。体内での脂肪の使われ方に関するこの主要な調節因子を、ノビレチンは迂回している。残された疑問は、それではノビレチンはどのように作用しているのかということだ。

次のステップは、ノビレチンがヒトでも同じように肯定的な代謝効果を有するかどうかを判断するために、これらの研究をヒトで行うことだ。

161. ニュージーランドの5+ A Day キャンペーン 朝食をターゲットに

PRODUCE PLUS 電子版(2020年3月10日)

ニュージーランド人のほぼ半数は、朝食に新鮮な果物や野菜を摂っていない。



調査の結果、ニュージーランドでは新鮮な食材で一日を始めていない人が多いことが分かったので、毎日の果物や野菜の摂取量を増やす5+A Day キャンペーンの今年のターゲットは朝食になるだろう。

5+ A Day 慈善トラストのプロジェクトマネージャーであるカーメル・アイルランド氏の話

「ほとんどのニュージーランド人は、毎日少なくとも5サービングの新鮮な果物や野菜を食べることになっていることを知っています。しかし、朝食を食べる人の44%は果物や野菜を朝食に取り入れていません。」

1,000人を対象とした新たな全国調査によると、ニュージーランド人の82%が平日に朝食を摂っており、この率は週末には85%に上昇する。

興味深いことに、平日にいつも朝食を食べる60歳以上の人は、朝食時に新鮮な果物や野菜を消費する率(67%)が若い人に比べてはるかに高い。これは、若い人にとっては朝食が仕事や学校へ急いで出かける時間帯であることが大きく影響していると思われる。

「この研究に基づけば、食事中的新鮮な果物や野菜の量を増やす上で、朝食は絶好の機会である可能性があります。シリアルに一握りのベリーやスライスした果物を加えるのは本当に時間がかからないので、今年の5+ A Day は新鮮で簡単な朝食のヒントをたくさん提供することで、朝食時に5+ を始めることを奨励します。」

保健省は、毎日3サービング以上の野菜と果物2個を食べることを推奨しているが、2018/19年の同省のデータによると、推奨摂取量を摂っているニュージーランド人は野菜では53%であり、果物では51.5%である。

「朝食は、健康によい食べ物を摂って一日を順調に始めるのに最適な時間です。朝食時に果物や野菜を摂取すると、一日が非常に充実します - 精神的により鋭敏になり、身体的なエネルギーに満ち溢れ、特にアボカドのような健康によい脂肪を含む場合は、充実感がより強く、より長く感じられます。1サービングはおおよそ一握りなので、個人の体格によって異なり、子供の1サービングは大人より小さくなります。」

最高の価値と栄養を得るために旬のものを食べることをお勧めします。ニュージーランドでは、気候と土壌が果物や野菜の栽培に非常に適しているので、選ぶのに困るほど多様で新鮮な食材が一年中揃っています。朝食から始めると、1日の終わりまでに推奨されている5サービング以上の果物や野菜を簡単に摂ることができます。2020年にはより多くのニュージーランド人がそれぞれの朝食の習慣を見つめ、どこに改善の余地があるか見直してもらいたいと思っています。」

162. ニュージーランド産キウイフルーツの輸出シーズン始まる

ASIAFRUIT 電子版(2020年3月18日)

キウイフルーツの輸出者は、日本、韓国、ヨーロッパの港はうまく機能しており、労働力も確保できるとしている。



ニュージーランドのシングルデスクマーケター*であるゼスプリが初荷を出荷し、ニュージーランドの2020年のキウイフルーツ輸出シーズンが正式に始まった。

サンゴールド銘柄(黄色種)のキウイフルーツ百万トレイ以上を積み込んだチャーター船バルチック・パール号は、今週初めにタウランガ港を出発し、日本に向かった。同船はゼスプリが今シーズンにチャーターする予定の47隻のうちの1隻で、3月下旬に東京と神戸に到着する予定だ。

ゼスプリの世界市場担当最高責任者 ブレア・ハミル氏の話

引き続きコロナウイルス(Covid-19)に関連する課題があるものの、日本、韓国およびヨーロッパのすべての港がうまく機能しており、労働力も確保されている。我々は状況を注意深く監視し、急速に変化する環境を踏まえて危機管理計画を立てながら、慎重に事業を進めている。中国では消費者の状況の改善に関して明るい兆しが見られ、チャーターした冷蔵コンテナ船の航海が計画通りにいくことを期待している。

現在収穫作業が進行中であるが、暖かな天候と良好な受粉のおかげで果実は高品質になっており、これを顧客に提供するため関係者は懸命に働いている。

今シーズンは、約1億5,500万トレイ(約60万トン)のプレミアム・ゼスプリキウイフルーツを世界中の消費者に供給する予定だ。直近の推計では、今年は8千万トレイ以上のサンゴールドと、7千万トレイのグリーンキウイを供給する見込みだ。これは、初めてサンゴールドの供給がグリーンキウイを上回った昨年(サンゴールド約7千4百万トレイ、グリーン7千3百万トレイ)よりも多い。

ゼスプリは今シーズン、18,500コンテナ以上のキウイフルーツを出荷する予定だ。47隻のチャーター船のうち32隻がアジア向けで大部分を占め、残りは4隻が北ヨーロッパ、11隻が地中海地域へ向かう。

我々は引き続きCovid-19の状況を注意深く監視し、需要の変化や港湾の混乱が見られれば、それに応じて果物の割り当てを調整する。

(訳注)

1. シングルデスクマーケター：ゼスプリはニュージーランド産キウイフルーツの制度上の独占的輸出者である。
2. 日本の生鮮果実輸入を国別品目別に見ると、ニュージーランド産キウイフルーツは、輸入額ではフィリピン産バナナに次いで第2位、輸入量ではフィリピン産バナナ、パインアップルに次いで第3位である。

163. 世界の青果物市場 コロナウイルスの影響

FreshPlazaウェブサイト(2020年3月20日)

ここ数日、各国政府は矢継ぎ早に措置を打ち出している。今回は、これらの措置が世界の生鮮青果物取引に及ぼしている影響を概説する。

ほぼすべての国で、可能な限り自宅で働く、従業員の間のスペース確保のために倉庫をフル稼働させない、運送業者はトラックから降りない、会社内における間隔を制限する等の予防措置が講じられている。需要は小売に焦点を当てているが、一部の国では人々がすでに買いだめし終えたのでこのブームは峠を越えた。ビタミンC含有量が高い柑橘類の需要が増加している。スペインからは、果実が産地から市場に



直接出荷されるため在庫はほとんどないと報告がある。一方、アボカド、マンゴー、ベリー類の取引業者は、これらの品目の需要の減少を恐れている。物流に関しては、リーファーコンテナの不足と航空貨物の制限が影響を与える主要因だ。ヨーロッパの道路交通は、域内の国境管理によって妨げられている。また、生産者は労働力不足を懸念している。

オランダ: スーパーの売上が大幅に増加、ケータリング業者の売上は蒸発

先週末のスーパーマーケットは奇妙な状況を見せた。警告にもかかわらず、トイレトペーパー、ハンドソープやパスタだけでなく、果物や野菜の買いだめが見られた。一部の消費者が、毎日または毎週の通常の買い物よりもはるかに多くの量を購入したと報告されている。果物や野菜の取引への影響は様々だ。スーパーマーケットへの納入業者は、売上が大幅に増加した。一方、ケータリング業者の売上は消えて無くなった。ある青果物業者によると、先週末の販売量はイースターやクリスマスを上回った。一方、ケータリング施設は日曜日の夕方から閉鎖されており、状況はより難しい。輸入面では、3~4週間後に到着する商品の取引を決断するのは非常に困難であるため、遠方のサプライヤーにとって大きな懸念となっている。南アフリカは柑橘類の出荷シーズンを前にこの問題に直面しており、関係者は不確実なことが多いとしている。

ショウガやニンニクなど効果があると考えられる品目や、タマネギ、キャベツ、リンゴなど保存が利く品目が注目されている。市場関係者は、多くの公共市場が閉鎖されたためスーパーマーケットに比べて不利だと感じているが、オランダではまだ他の国のように完全閉鎖には至っていない。売り上げを逃した生産者は、ドライブインで生産物を販売するなど創造的な解決策を考え出している。また、果物や野菜の取引業界ではこれまでに多くの人々が在宅で働いている。一般論として、企業は政府が発表した支援策パッケージに支えられていると感じている。

ベルギー: 最も影響を受けるジャガイモ部門

ベルギーは確かにコロナウイルスの影響を受けているが、輸入への影響はまだそれほど悪くない。輸入青果物の供給は当分の間継続するが、状況はすぐに変わる可能性がある。航空便は次々とキャンセルされており、輸入業者は港が停止しないことを望んでいる。欧州青果物センター(European Center for Fruit and Vegetables)での販売は通常通り続いているが、通路での販売が行われなくなり、販売ブースも設置されなくなった。売り場に立ち入ることはできるが、センターは可能であれば電話や電子メールで注文を行うことを求めている。ジャガイモ部門では、加工業者やファーストフード店にジャガイモやチップを供給する企業が現在特に影響を受けている。加工野菜の受注に関しては、大規模なケータリング(学校、病院など)の需要が減少しているが、これは小売業者からの注文の増加によって相殺されている。

英国: 労働者不足が5月には最大の課題に

果物や野菜の需要は、食品サービス業からスーパーマーケットや病院にシフトしている。人々が買いだめしているため、スーパーマーケットの果物や野菜の棚はしばしば空になっている。需要の変化に伴い、各地のスーパーマーケットは卸売市場から大量の果物や野菜を直接仕入れ、そこに買い物に来る人が増えている。卸売市場自体も一般への直接販売のために開かれている。生産者の主な関心事は、主に東ヨーロッパからの労働者の差し迫った不足だ。この恐れはすでにブレグジットの際にもあったが、コロナウイルスにより状況は悪化するばかりだ。ある生産者は、ホテルやレストランの従業員はそうは思っていないだろうが、彼らは(仕事がないので)おそらく我々に手を貸すことができると示唆した。

ドイツ: 季節労働者・物流労働者の不足が差し迫る

ドイツでは、新鮮な果物や野菜の供給不足を心配する理由はまだない。しかし、農業部門の労働力に関して、業界団体DFHVは短期的に大きな問題が生じると予見している。同団体の関係者は「現在トラック運転手の不足は悪化するばかりだ。物流労働者が不必要に隔離されることがないように予防措置を緩和するべきだ。」と主張する。

季節労働者も同様の状況にある。現時点では、出始めのアスパラガスを収穫・販売するための労働者が緊急に必要な。業界関係者は、輸送も収穫さえもできないなら果物や野菜の栽培は無意味だとしている。

オーストリア: 落ち込んだ雰囲気

オーストリアでは、ウイルスのさらなる拡散を防ぐための厳しいセキュリティ対策が講じられている。5人以上の集会は認められず、移動の自由も限られている。以下は主にケータリング会社に卸している業者の報告だ。「通りは極めて静かで、雰囲気は非常に落ち込んでいる。スーパーマーケットは大規模な買いだめのためにこの1週間完全に混乱した。卸売市場はまだ全面的に稼働している。弊社の売り上げは約90%落ち込んだ。政府は補償制度に言及しているが、これが中小企業にも適用されるかどうかまだ分からない。人々は今の状況の中で何とかしようとしている。弊社は以前から個人向けにフルーツパックを販売してきたが、今後は可能な限りこの活動を拡大していく。多くの消費者は現在、小売店を含む公共スペースを避けており、食べ物を配達してもらいたがっている。」

スイス: スーパーマーケットの劇的な光景

この1週間以上、スイスの小売店では果物や野菜の棚が空になっているのが散見されている。1日の注文量は通常より約60%多く、物流プロセスに影響を与えている。時間内に配送するための努力がなされている。状況は慌ただしく、全体的に不確実だが、まだ管理可能だ。

フランス: 主に基本的な品目を買いだめ

フランスの社会生活はほとんど停止している。学校、レストランや宴会場、日用必需品以外を販売する店はすべて閉鎖されている。正当な理由なく路上にいと135ユーロの罰金を払う危険にさらされる。この状況は当然、果物や野菜市場に悪影響を与えている。

他の多くのヨーロッパ諸国と同様に、フランスでは多くの買いだめが起こった。スーパーマーケットでは棚が空になり売り上げが大幅に増加した。スーパーの店長や政治家は、品不足はなく、買いだめする必要がないことを繰り返し保証するが、消費者は気にしていないようだ。最も人気があるのは、ニンジン、ジャガイモ、柑橘類などの基本的な品目だ。一方、アスパラガスなどの高級品はそれほどでもない。通常、学校やケータリング施設に大量に販売している生産者は大きな打撃を受けており、他の販売チャネルを探す必要がある。

コロナ危機により、物流はより複雑になっている。例えば、フランス人の運送業者はイタリアに入って立ち往生する危険を冒したくないので、今ではイタリア人がフランス南部に集荷に来ている。また、国境管理が厳しくなった結果、遅延が生じている。

ランジス卸売市場(欧州最大の農産物市場)の花部門は今週閉鎖されたが、関係者は果物、野菜、その他の食品の取引は続いており、これは今後も続くとしている。

来シーズンに関しては、卸売業者は果物と野菜の取扱量がやや減少すると予想している。これは不作のためではなく、国境管理、厳格な衛生規制の遵守、収穫作業を含む労働者の病欠により様々な遅延が予想されるためだ。このことと需要の高さを考えると、物価は上昇すると予想され、いくつかの品目ではすでに現実と

なっている。

イタリア: 柑橘類は順調だが収穫の前に労働者が不足

国全体が封鎖されている。今のところ南部では状況が制御されているが、北部の状況は非常に悪い。イタリア人は4月3日まで、いくつかの例外を除いて家の中にとどまる必要がある。スーパーマーケットは開いているが、観光客は消え、学校は閉鎖されているため、消費が急減している。

過去3週間で、小売業では注文が30%増加し、一方ホテルやケータリング業界では80%減少したケースが報告されている。現在、輸入品が入手しにくいいため、供給者にはありがたいことに価格が高く、一部では売上が40%以上増加した例もある。

産地では、今後数ヶ月間を見越して作業の変更が加えられている。例えば、核果類の生産者は、収穫量が少なく大玉になるよう、木に残す果実を減らしている。柑橘類は現在好調だが、ブロッコリー、カリフラワー、ホウレンソウ、アーティチョークなどの野菜の需要は減少している。アーティチョークは、消費が少なく、市場やレストランが閉鎖されているため、平均価格が50%下落しており、もはや収穫されていない。イチゴの価格も40~50%下落している。このような中、加工用トマトの収穫が始まろうとしている。

物流に関しては、オーストリア、スロベニア、クロアチアとの国境で主に問題がある。当分の間、港湾には問題は生じないように思われる。卸売市場は開いているが、多くの予防措置がとられている。しかし、取引業者は売り上げが半減したと見ている。労働者の不足は依然として大きな問題である。農場労働者の多くは現在母国におり、収穫を手伝うためにイタリアに行くことができないか、行きたくないと思っている。

スペイン: 柑橘類の需要は増加、在庫は少ない

ここ数日でウイルス感染が急速に拡大したため、スペインはヨーロッパでイタリアに次いで最も影響を受けた国となっており、金曜日から封鎖されている。商品がどうにかして市場に到着する度にセリ値の記録が更新されている。

生産者はスーパーマーケットからの需要に追いつくためにできるだけ長く働き、できるだけ多く収穫しようとしている。業者は市場で取引しているが、販売先を得意客に限定している業者もいる。バナナとジャガイモの需要は特に高く、価格が上昇した。ここ数日、スペインの消費者がやや落ち着きそれほど買いだめしなくなったため、価格は再び下落している。これは、多くの品目で見られる「リバウンド」効果だ。柑橘類の需要は依然として高く、価格は上昇している。市場に直接出荷されるため在庫は少ない。景気後退が見込まれる中、業者はマンゴー、アボカド、ベリー類など贅沢品の需要が減退することを恐れている。

倉庫は現在、労働者に対する厳しい規制の下に営業しており、作業速度が遅くなっている。他のヨーロッパ諸国への輸出は、果物や野菜の需要増により増加している。需要の増加、生産面の問題、およびコストの上昇は、輸入業者と輸出業者の間に緊張をもたらした。また多くのトラックが空でスペインに戻っている。生鮮青果物に対するさらなる制限は、この業界により多くの問題をもたらす可能性がある。

モロッコ: ヨーロッパとの国境を封鎖

モロッコは、ヨーロッパとの国境を封鎖した。これにより、モロッコの労働者がスペインに行けないため、次の収穫期には問題となる。現在、労働力の35%しかスペイン国内にいないため、すべての生産物を収穫することはできない。

ポーランド: リンゴの需要が高まる一方国境は封鎖

ポーランド国境は封鎖され、輸送用機材とポーランド国民だけが通行できるが、ドイツ国境の渋滞は時に20キロメートル以上に及んでいる。一方、リンゴの需要は、買いだめにより急増している。企業は営業を続けることができるが、いくつかの安全規制を遵守する必要がある。学校が閉鎖され、販売チャネルが限られているため、日持ちしない果物や野菜の需要の減少を恐れている業者もいる。

ハンガリー: 深刻な人手不足が白菜の収穫に影響

ハンガリーでは収穫期が始まりつつある。南ハンガリーの業者は「白菜の収穫が来週から予定されているが、ルーマニアの季節労働者の多くが母国にいるため、どうすればよいかわからない。主要な輸出産品であるピーマン、トマト、サクランボ、プラムの収穫時期になればさらに問題になるだろう」と予測する。ハンガリーの

コロナ感染はほぼすべて首都ブダペストとその周辺で報告されている。それにもかかわらず、ケータリング業界の完全な閉鎖が発表された。小売業では、他のヨーロッパ諸国と同様に、買いだめ行動が見られた。特に、ジャガイモ、タマネギ、ニンジン、野菜缶詰など貯蔵が利く品目では、商品を棚に並べるのが間に合わない。

ギリシャ: 物流は最大の課題

現在ギリシャの企業に対してすべての納税義務が停止されている。つまり、企業の税金の支払いが遅れても罰則がない。他方、果物や野菜は必需品であるため、可能な限り販売されている。ある輸出業者は、最大の課題はEU域内の国境通過制限のために予定どおりに品物を配送できるかどうかだとしている。

トルコ: イラン、イラクとの国境を封鎖、価格は下落

ヨーロッパの柑橘類の需要は3倍になったが、トルコ東部ではイラクおよびイランとの国境が厳重に封鎖された。政治的な理由もあるが、シリアへの国境も封鎖された。このため、トルコ東部の果物や野菜は最大9割引で販売されている。

一部の倉庫は現在閉鎖され、10日間の休業を取っている。注文を受けていた品物は通常よりも低い価格ですべて出荷された。トルコの感染件数は増加しており、ヨーロッパの轍を踏むのではないかと懸念されている。輸送は、現時点で最大の問題の一つだ。運送業者は敢えてヨーロッパに入ろうとせず、ヨーロッパ域内の国境管理も輸送を難しくしている。

イスラエル: 境界封鎖のため労働者が不足

イスラエルのすべてが封鎖されている。スーパーマーケット、薬局、その他の生活必需品を売る店のみが営業している。人々は缶詰や乾燥食品だけでなく、果物や野菜を買いだめし始めている。食品業界の人々はまだ働くことが許されている。しかし、最大の問題は、西岸地区等との境界封鎖の影響で、多くの農場労働者が現場に出られないことだ。梱包施設でも問題がある。労働者は互いに2メートルの間隔をあける必要があり、全従業員の3分の1しか働けない。先週、イスラエルの港でイタリアの貨物船の乗組員が感染したのではないかと懸念があった。労働者に影響を与える問題は徐々に改善しているが、青果物部門のすべての活動が通常よりも遅くなっている。

インド: 物流が課題

直近のザクロシーズンは、少ない出荷量で終了した。しかし、6月に始まる次のシーズンでは、季節風のおかげで収穫量の増大(+30%)が期待されている。ザクロ(種子状の可食部)の主な販売先は西ヨーロッパだ。コロナウイルスのために、抗酸化物質が豊富なザクロ種子に対する需要の増大をインド人は期待している。しかし、航空貨物輸送はほとんど不可能であるため、物流が大きな課題になりつつある。これは、インドの物流チェーンに影響を与える可能性がある。

タイ: ポメロの輸出に大きな影響

今年のポメロは高品質で、300万個と出荷量も良好だが、コロナウイルスのために輸出が大幅に縮小すると予想されている。ポメロの輸出は、2020年初頭からコロナウイルスの影響を受けている。

ガーナ: ヨーロッパへの輸出は完全に停止

コロナウイルスはまだガーナに到達していないが、貿易は完全に停止している。欧州の輸入業者は注文を一斉に取り消した。パパイヤとパイナップルを輸出しているある業者は、現在ヨーロッパへの出荷を行っていないが、今年マンゴーの作付面積を拡大したので、出荷が始まる夏までにウイルスが消えることを望んでいる。一方、他の市場を探す必要があるが、中東などの選択肢もウイルスによって大きな打撃を受けている。

南アフリカ: 柑橘類業界は中国に滞留したリーファーコンテナの放出待ち

現時点で最も輸出されているリンゴやナシの需要は良好で、コロナウイルスの影響は最小限のようだ。3月9日の週の英国へのリンゴ輸出は117%、中東への輸出は56%増加し、東アジアへの輸出は34%減少した。(ただし、年初からの累積では、同週の終わりまでに東アジアへのリンゴの輸出は前年比42%増加した。)同じことがナシにも当てはまり、英国とロシアへの輸出が増加し、東アジアへの輸出は54%減少した。同週末までに、すべての地域への輸出は昨年と比べて増加した。

柑橘類の売り上げは現在好調で、ある生産者はこれは物流ラインを試す良い方法だと考えている。ヨーロッパのスーパーマーケットの棚に果実を届けることが課題となりうる。

5月から6月にかけて南アフリカ産柑橘類の最初の出荷ピークが来ることから、業界関係者は中国が港湾を開放し、滞っているリーファーコンテナが放出されることを期待している。

南アフリカも対策を講じている。輸送関係の書類はデジタルで作成され、多くの人々が自宅で作業しており、倉庫ではいくつかのルールを施行している。学校は閉鎖されている。今のところ、コロナウイルスは南アフリカではうまく抑制されている。

中国: ゆっくりと平常に回復

中国は、ウイルスを抑制するためにここ数ヶ月の間手を尽くしてきた。この2週間で、より多くの企業が生産に戻り、ウイルスは前よりうまく抑制されている。果物・野菜部門は活動停止の例外であり、スーパーマーケットに新鮮な青果物を供給するため、困難な時期にすでに生産を再開していた。現在、すべての活動が再開されており、輸出入も徐々に始まっている。

北米: 南米やヨーロッパからの航空貨物は規制

カナダと米国では、多くのパニック買いに対処してきたが、十分な果物や野菜の在庫があるため、品不足の脅威はない。端境期とカリフォルニアの水不足が課題だ。一部の果物や野菜の供給が減少する可能性がある。現在の市場の最大の問題は、特殊な食品の多くが航空貨物で到着するためニッチな品目の不足が迫っていることだ。例えば、カナダ市場ではブラジルからのゴールデンパイアとショウガの供給が減少している。米国とカナダの国境は封鎖されているが、食品は例外だ。輸出入業者は、メキシコと米国の国境の封鎖の可能性を警戒している。

チリ: 貿易に対する影響はまだ目に見えない

学校は閉鎖されイベントはキャンセルされたが、これらの措置はまだ果物や野菜の取引に影響を与えていない。チリは今リンゴの出荷時期であり、キウイフルーツがこれに続く。今のところ、チリ産品の需要の異常な増加は見られない。政府は、国民が病気にかかりやすい秋の訪れを注視している。ウイルスが広がれば、国内の生産者や梱包施設に大きな影響が出る可能性がある。大統領は、政府に強大な権限を与える90日間の「大惨事事態」を発令した。

コスタリカ: パイナップルの需要が増加、問題は主に物流

パイナップルの収穫は順調に進んでいるが、北米やヨーロッパからの需要が急激に増加しているようだ。主な課題のひとつは、輸出用のリーファーコンテナを見つけることだ。これは今後数週間で運賃を押し上げるかもしれないが、今のところは憶測に過ぎない。

メキシコ: 最大の恐れは米国の国境封鎖

感染者の報告はほとんどなく、政府も予防措置をほとんど講じていない。アボカド業界は、十分な出荷量で市場を安定させ、スケジュール通りの配達を維持しようとしている。冬野菜について、ほとんどの業者は通常のペースで活動を続けている。メキシコと米国の国境が封鎖されれば問題だと見ている輸出業者は多い。

オーストラリア: 人手不足の恐れ

コロナウイルスの大きな影響は、差し迫った労働者不足だ。オーストラリア生鮮食品同盟は、オーストラリアの消費者への果物や野菜の供給を保証するために、青果物部門のすべての労働者のビザを延長するように政府に働きかけている。また輸出業者にとっては、青果物を輸出するためのリーファーコンテナや航空貨物便を確保できるかどうかは課題だ。政府は、国内の食品物流チェーンがうまく機能しており、危険にさらされていないことを保証するとしている。

ニュージーランド: 他分野の人々を働かせる

オーストラリアと同様に、青果物業界の現時点で最大の課題は差し迫った人手不足だ。これに対処するため、業界関係者は果物や野菜の収穫に林業など他の分野の人々を雇用することを提案している。

164. 世界のオレンジ市場

FreshPlazaウェブサイト(2020年3月27日)

COVID-19の世界的大流行により、トイレtpーパー、フェイスマスク、消毒剤などの特定の製品の需要は前例のないレベルに上昇している。オレンジや他の柑橘類はビタミンCが豊富であるため、COVID-19の影響を受けている国で需要が増加している。



現在、ヨーロッパで市場ではスペイン、モロッコ、エジプト、ギリシャおよびトルコ産のオレンジが出回っている。米国では、カリフォルニア州、フロリダ州、メキシコからの供給がある。一方、中国は国内市場向けに生産を行っている。南アフリカでは輸出向けの早生ネーブルの収穫が始まっている。北ヨーロッパ市場では物流の問題のためにオレンジの価格が上昇している。欧州域内の国境管理は、輸送コストの増加につながっている。北米では、現在は需要を満たすのに十分な果物があるが、国内産が南米産の輸入品に切り替わる5月から6月頃に供給不足が懸念される。

オランダ: オレンジの販売は良好

COVID-19は果物や野菜の市場全体に大きな影響を与えたが、オレンジの販売はこの危機が始まって以来良好なようだ。多くの消費者が(珍しいものではなく)一般的で日持ちがよい品目を購入するようになったため、特にスーパーマーケットでのオレンジの販売は好調だ。多くの市場が閉鎖されているため、取引への影響は大きい。輸送の遅れと南ヨーロッパの封鎖はコストの増加をもたらしているが、取引は十分可能だ。

ベルギー: 輸送費増加のため価格も上昇

コロナウイルス危機の発生以来、ベルギーのオレンジの需要は大幅に増加している。ベルギーのスーパーマーケットによると、ビタミンCが多い品目は現在非常によく売れている。需要は2週間前の買いだめ騒動の最中にピークに達した。南ヨーロッパからの供給は途切れることなく続いているが、輸送費がさらに上昇し、またトラックの輸送距離が長くなっているため、価格はいくらか上昇している。

ドイツ: 価格は高いが需要は増大

ドイツでは現在、オレンジの価格が非常に高い。スペインとイタリアの悪天候を考慮すると、ここ数ヶ月の供給はまあまあだ。しかし、コロナウイルス危機により需要が急増した。ベルリンの業者は「消費者は今、健康的な食べ物を望んでおり、そのためオレンジの売上げが増えた。消費者は高い価格でも躊躇せず、それどころかどんな値段でもオレンジを買いだめしようとする。物流コストも上がっていることを考えると、これは我々業

者にとっては重要なことだ。イタリアに行ってもよいというトラック運転手が少なくなっている。さらに、トラックはしばしば空で戻っている。これらの追加コストは、何かの方法で最終価格に反映する必要がある。」と語っている。

フランス: オレンジの需要は強いが、スペインからの供給は困難

現在、市場の他の品目と比較してオレンジの需要は高い。オレンジは健康でビタミンCが豊富であるという評判があり、これはまさに人々が現在のような危機的な時期に求める傾向にぴったりだ。スペインでは十分な日照時間のおかげでオレンジは収穫量が多く品質も良いが、収穫労働者の不足によって出荷が難しくなっている。

スペイン: COVID-19のためオレンジ価格が上昇

晩生オレンジ品種(Navel Lanelate、Navel Navelate、Washington、Thompson Navel等)の収穫が進行中であり、7月末まで続く。今シーズンは25~30%程度数量が減少し、産地の出荷価格が上昇した。これまでのところ、今シーズンは生産者にとっては良好だが、業者にとってはそうでもない。産地の価格の上昇のほか嵐の影響で品質的に販売できない果実が多いため、小売の利幅は狭くなっている。

COVID-19がヨーロッパ各地に広がったためオレンジの需要が増大する一方、物流を始めとするコストの増加により価格は急激に上昇している。移動制限や作業現場の作業者が1.5メートル距離をあける等の衛生上の規制により、収穫、選別、包装が遅れている。これは、欧州市場で販売業者と買付け業者の間の緊張をもたらしている。3月9日の週にはオレンジの平均出荷価格は平均0.30ユーロ/kgで、前週に比べて20%上昇した。小売価格は平均0.67ユーロ/kgと前週に比べて3%上昇した。

COVID-19の発生により、春節後の中国向け輸出の再開は遅れ、場合によっては停止した。最初は輸出用のリーファーコンテナや船を見つけるのが難しく、最終的には港も閉鎖された。中国との貿易は再開されたが、多くの輸出業者が今年は欧州市場に全力を挙げることにした。結局のところ、価格はここ数日で急激に上昇しており、欧州市場はリスクが低く、スペインに近いということだ。

イタリア: コロナウイルスによる需要の増加

卸売業者の話: 国産オレンジの入荷量が減少している。需要が高いタロッコ品種の季節はほぼ終わりで、2.50ユーロ/kgの価格で販売されている。通常はどの品種でも小玉は加工用になるが、現在は非常に需要があり、約1.00ユーロ/kgで販売されている。国産オレンジの不足のため、市場はエジプト、ギリシャ、スペインからの輸入物が中心になっている。

物流業者の話: 今はオレンジを販売するのに絶好の時期だ。ここ数週間で需要は増加したが、供給量は少ない。多くの業者が数週間前に今期の出荷を終了した。現時点では、イタリア産に品質に近いエジプト、ギリシャ、マグレブ地域(アフリカ北西部のチュニジア、アルジェリア、モロッコ等)および特にスペインから入荷している。市場で最も一般的な品種は、レーンレイトとネーベルパウエルだ。卸売価格は、0.75ユーロ/kgに達することもある。

シチリア島南東部の柑橘類生産者の話: 現在、市場は非常に活気づいている。これは、一つには今シーズンの収量が少ないためであり、もうひとつにはCOVID-19のパンデミックが消費パターンに大きな影響を与えたためだ。

南アフリカ: 早生ネーブルを出荷、量が多く価格は低め

南アフリカの早生ネーブルの出荷が始まった。現地市場では、入荷量が多いため価格は平均0.26ユーロ/kgに抑えられているものと推計される。2020年産は、ネーブル2,650万箱(15キロ/箱。前年は2,420万箱)、バレンシア4,750万箱(同4,400万箱)の収穫が見込まれている。

中国: COVID-19のためオレンジの輸入が少ない

現在、中国市場では国内産のオレンジが多く供給されている。ここ数週間、生産と供給はCOVID-19の影響を受けている。ほとんどの地域では労働者が一定程度確保できているが、豊作のため人手が十分でなく、

その結果、収穫はほとんどの地域で遅れて始まった。また、労働者不足に加え、物流上の問題もあり、販売は順調に進まず開始が遅れた。

状況がかなり改善してきた結果、市場はゆっくりと勢いを取り戻している。中国は近隣諸国向けにオレンジを輸出している。今年は様々な問題があり、中国のオレンジ輸出量は減少した。他方、中国はエジプト、スペイン、パキスタン、米国からオレンジを輸入している。COVID-19により今年はすでに輸入量がやや少なくなっているが、現在は他の国にもウイルスが広がっているため、この傾向は続いている。

北米: オレンジの需要はピーク

北米のオレンジの需要は急激に増加しており、これは現在大陸全体に広がっているCOVID-19に関連しているとの見方が強い。カリフォルニア州のある卸売業者は、柑橘類の需要が供給を上回っていると言う。

東海岸のある販売業者は、「オレンジの需要がピークに達している。人々がビタミンCの摂取量を増やしたいと考えていることがオレンジの売り上げを押し上げている。15年前のSARS騒ぎでは、ビタミンCを多く摂取するようにとの通達が出され、当時の販売量は今以上であったため、業界関係者は消費者がオレンジを求めていることに驚いていない。インフルエンザが流行するたびに売上が伸びるが、今回は需要がいつまで続くのか不明だ。」と言う。果実は色、果汁含有量、栄養分、糖度の面で品質が高い。

現在、ほとんどのオレンジは東海岸のフロリダ州とメキシコから入荷している。西海岸のオレンジは、問題が多い。在庫への圧力は、ウイルスによる物流の問題だけではない。予期せぬ突然の降雨が収穫を妨げたため、在庫はすぐに底をついた。問題は、需要がいつまで高いまま続くかだ。卸売業者は「買いだめをした人々は、結局十分な量を確保したのか？」と疑問を投げかける。カリフォルニアの産地でも、需要が多いため5月か6月までと見込まれていた収穫が早く終わり、7月に入荷する輸入品との間に品切れが起きるのではないかと懸念している。フロリダ州では、オレンジの在庫が通常よりも速く減っている。東海岸の業者は、モロッコからのオレンジの輸入をできるだけ早く開始しようとしている。

オーストラリア: 加工業界は価格を懸念

2019年は、前年より10%多い20万8千トン以上、3億1,500万豪ドル(1億7,150万ユーロ)相当の輸出を記録した。現在は、今冬期のオレンジ収穫シーズンに備えつつある。2020年産の当初の見通しは、前年よりも量は少ないが大玉になるというものだ。生産者は、オレンジのビタミンC含有量も販売促進に利用している。これは冬の間、特に現在のCOVID-19の流行のさなかには重要だ。

業界団体であるシトラスオーストラリアは、2019/20年産バレンシアオレンジ(主に果汁用)が霜と干ばつにより受けた影響を考えると、スーパーマーケットが加工業界に支払った価格が適正でないとの懸念を表明した。今後数ヶ月で加工原料が不足するリスクがあるとする推計もある。果汁用オレンジの主産地であるリベリナ地方の生産量は45%減の6万トンと推定される。価格の低迷は生産者を離脱させるとの懸念もある。

165. オーストラリアの園芸作物 過去最高の生産額を記録

FreshPlazaウェブサイト(2020年3月30日)

ホートイノベーション社のオーストラリア園芸統計ハンドブックの最新版によると、オーストラリアの園芸部門は2018/19年度に過去最高の生産額を記録した。ハンドブックには、果物や野菜のほか、ナッツ類、苗、芝、切り花を含む70以上の園芸作物に関する2019年6月末までのデータが収録されている。

園芸部門は7年連続で成長し、直近では1年で11億豪ドル、8.4%増加して総額144億豪ドルに達しており、過去5年間は31%成長し、年平均成長率は5.6%であった。

果実全体の生産量の増加はわずか1%であったが、生産額は9%増加して55億豪ドルとなった。野菜全体も同様で、生産量の増加は1%未満であったが、生産額は9%上昇して47億豪ドルとなった。

オーストラリアの果実統計

年 度 (各年6月までの1年間)	2017	2018		2019	
	値	値	年増加率	値	年増加率
生産量 (t)	2,770,177	2,755,386	>-1%	2,793,432	+1%
生産額(百万豪ドル)	4,988.3	5,080.4	+2%	5,525.3	+9%
生鮮輸出量 (t)	388,694	444,224	+14%	478,274	+8%
生鮮輸出額(百万豪ドル)	949.1	1,085.1	+14%	1,332.0	+23%
生鮮輸入量 (t)	127,031	109,146	-14%	108,529	>-1%
生鮮輸入額(百万豪ドル)	424.0	374.1	-12%	392.2	+5%
生鮮供給量 (t)	1,840,863	1,812,147	-2%	1,771,712	-2%
生鮮卸売価格 (百万豪ドル)	5,063.0	4,999.0	-1%	5,208.3	+4%
一人当たり供給量 (kg)	75.10	72.68	-3%	70.29	-3%

出典: オーストラリア園芸統計ハンドブック2018/19

オーストラリアの野菜統計

年 度 (各年6月までの1年間)	2017	2018		2019	
	値	値	年増加率	値	年増加率
生産量 (t)	3,502,669	3,695,613	+6%	3,722,378	<1%
生産額(百万豪ドル)	4,296.9	4,345.5	+1%	4,722.1	+9%
栽培面積 (ha)	93,791	93,592	>-1%	-	-
生鮮輸出量 (t)	192,412	205,541	+7%	237,530	+16%
生鮮輸出額(百万豪ドル)	250.6	254.7	+2%	292.2	+15%
生鮮輸入量 (t)	35,626	32,839	-8%	32,964	<1%
生鮮輸入額(百万豪ドル)	125.2	100.9	-19%	118.9	+18%
生鮮供給量 (t)	2,125,792	2,214,007	+4%	2,220,245	<1%
生鮮卸売価格 (百万豪ドル)	4,590.0	4,620.8	<1%	5,010.0	+8%
一人当たり供給量 (kg)	86.73	88.80	+2%	88.09	>-1%

出典: オーストラリア園芸統計ハンドブック2018/19

品目別生産量では、ジャガイモが1,380,385トンで最も多く、次が柑橘類合計(744,374トン)で、そのうちオレンジが528,095トンを占めた。以下トマト469,199トン、ニンジン332,598トン、リンゴ310,875トンの順であった。

アボカドは11%増加して85,546トンであったが、生産額は18%減の4億4,400万豪ドルとなった。バナナは国内市場にのみ供給され、生産量は4%減少したものの生産額は25%増の6億400万豪ドルとなった。

サクランボは生産量と生産額の両方で大幅に跳ね上がり、生産量は29%増の20,148トン、生産額は27%増の1億8,930万豪ドルだった。一方、キウイフルーツは26%減の7,134トンおよび28%減の1900万豪ドルであった。ライチは生産量が4%増加し、生産額は43%増加した。パッションフルーツも生産量は1%未満の減少であったが、生産額は23%増加して2,060万豪ドルとなった。

ラズベリーとブラックベリーを合わせた生産額と生産量は、2018/19年度までの5年間で果実の中で最も高い成長を示し、生産額は2013/14年度以来1.5倍に増加し、生産量はほぼ3倍となった。

貿易面では、果実の輸出量は8%増の47万8千トンで、輸出額は23%増の13億豪ドルに跳ね上がった。輸入は1%未満減少した。野菜の輸出量は16%増の237,530トン、輸出額は15%増の2億9,200万豪ドルとなった。

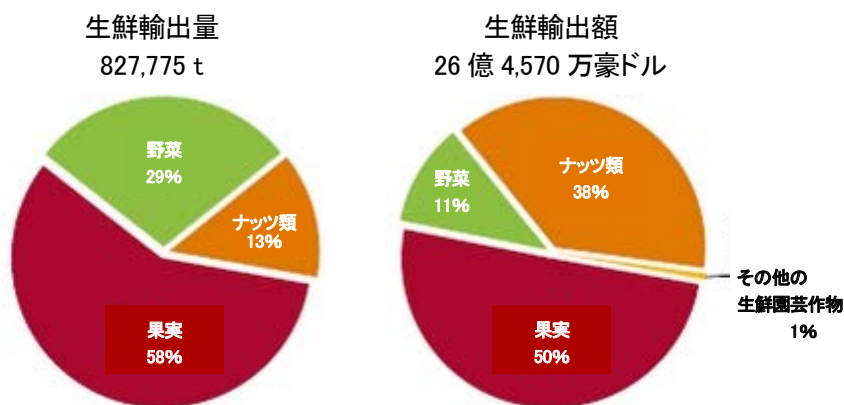
生食用ブドウの2018/19年度の輸出額は前年度比44.5%増加し、5億豪ドルを超える記録的な値に達し、柑橘類合計を超えた。アーモンドは園芸作物全体で最も輸出額が多く、過去最高の6億7,500万豪ドルに達した。アボカドの輸出量は79%増加し、輸出額は69%増加して1,970万豪ドルとなった。夏果実(アプリコット、モモ、ネクタリン、プラム)はすべての品目で輸出が増加し、合計の輸出量は30%増の23,045トン、輸出額は37%増の8,900万豪ドルとなった。

園芸作物全体



生鮮輸出

以下のグラフは、2019年6月までの1年間のオーストラリア産園芸作物の種類別輸出シェアを表す。



出典：オーストラリア園芸統計ハンドブック2018/19

訳注：野菜の品目別詳細等に関する記述は一部省略しました。

果実及び野菜の統計で、生鮮供給量と(生産量-生鮮輸出量+生鮮輸入量)の差は加工仕向け量です。

海外果樹農業情報 刊行物一覧

No.	調査報告書名	発行年月
86	日米におけるフードガイドの新たな動きについて（くだもの編）	05. 7
87	インドネシアにおける熱帯果実の生産・流通事情調査報告書	06. 1
88	海外の果実生産・貿易状況 2006 年版	06. 4
89	台湾における果実の生産・流通・消費事情等に関する調査報告書	06. 6
90	スペインにおけるカンキツ類の生産・流通事情調査報告書	06. 10
91	ベトナム・韓国・インドネシア・台湾における果実の生産・流通事情調査報告書（補遺版）	06. 10
92	チリにおける落葉果実等の生産・流通事情調査報告書	07. 2
93	台湾における果実の輸入関連制度に係る調査報告書（付 果実の生産・流通状況）	07. 5
94	アラブ首長国連邦・インド・タイにおける果実の生産・流通・消費事情調査報告書	07. 7
95	ニュージーランドにおける果実の生産・流通・消費事情等調査報告書	08. 3
96	台湾における日本産果実の流通・消費実態調査報告書	08. 6
97	韓国における主要果実の生産及び輸出入等に関する実態調査報告書	08. 7
98	ドイツ・オランダにおける果実・果実加工品の生産・流通状況調査報告書	09. 2
99	台湾における日本産果実の生産・流通・消費実態調査報告書	09. 6
100	世界の主要果実の生産・貿易概況 2009 年版	09. 11
101	中国におけるボンカンの生産・流通実態調査報告書－福建省及び浙江省を中心として－	09. 11
102	米国におけるリンゴの加工品等実態調査報告書	10. 2
103	ロシアにおける日本産果実の販売可能性及び同国の果樹農業・政策基礎調査報告書	10. 7
104	米国連邦行政組織による果実消費拡大に向けた取組みに係る調査報告書	10. 8
105	台湾における日本産果実の流通・消費実態調査報告書	10. 8
106	グローバリゼーション下の米国の果汁産業及び新たな生産流通システム実態調査報告書	10. 8
107	インドにおける日本産果実の販売可能性及びインド産ブドウの対日輸出可能性調査報告書	10. 10
108	カナダの果樹農業・政策実態調査報告書	11. 3
109	米国カリフォルニア州におけるオウトウの生産・流通事情調査報告書	11. 6
110	台湾における果実の生産・流通・消費等実態調査報告書	11. 6
111	中東における日本産果実の販売可能性調査	11. 8
112	ブラジルにおけるオレンジ及びオレンジ果汁を中心とした生産・流通事情調査報告書	11. 9
113	中国の主要都市における日本産果実の販売可能性及び中国のオウトウ産地調査報告書	11. 10
114	世界の主要果実の生産・貿易概況 2012 年版	12. 3
115	台湾における日本産果実の流通状況等実態調査報告書	12. 6
116	中国におけるブドウの生産・流通・消費調査報告書	12. 10
117	韓国の対米国 FTA 締結による韓国果樹産業への影響等調査報告書	12. 11
118	台湾における東日本大震災後の日本産果実等流通状況実態調査報告書	13. 3
119	中国におけるモモの生産・流通・消費調査報告書	13. 3
120	世界の主要果実の生産概況 2013 年版	13. 10
121	台湾における日本産果実の流通状況及び輸入に関連する規制等に係る調査報告書	14. 3
122	世界の主要果実の貿易概況 2013 年版	14. 3
123	世界の主要果実の生産概況 2014 年版	14. 10
124	世界の主要果実の生産概況 2015 年版	15. 3
125	台湾における日本産果実の流通及び輸入促進に向けた諸課題に係る調査	15. 3
126	ニュージーランドの果樹農業及び香港の日本食品・果実事情調査報告書	15. 8
127	海外の果樹産業ニュース 2015 年度版	16. 3
128	台湾における日本産食品の輸入規制強化にともなう日本産果実の流通への影響に係る調査報告書	16. 3
129	海外の果樹産業ニュース 2016 年度上期版	16. 10
130	世界の主要果実の生産概況 2016 年版	17. 2
131	海外の果樹産業ニュース 2016 年度下期版	17. 3
132	台湾における日本産果実の流通状況及び輸入促進に向けた諸課題に係る調査	17. 3
133	海外の果樹産業ニュース 2017 年度上期版	17. 9
134	世界の主要果実の生産概況 2017 年版	18. 2
135	世界の果樹産業ニュース 2017 年度下期版	18. 3
136	台湾における日本産果実の流通・消費の状況及び輸入促進に向けた諸課題に係る調査	18. 3
137	海外の果樹産業ニュース 2018 年度上期版	18. 10
138	世界の主要果実の生産概況 2018 年版	19. 2
139	海外の果樹産業ニュース 2018 年度下期版	19. 3
140	米国ワシントン州のりんご生産の現状と省力・機械化技術に関する調査報告書	19. 3
141	海外の果樹産業ニュース 2019 年度上期版	19. 10
142	欧州及びイタリアの果樹農業の現状とスマート農業に関する調査報告書	20. 3
143	海外の果樹産業ニュース 2019 年度下期版	20. 3
144	世界の主要果実の生産概況 2019 年版	20. 3

